



デスクトップクライアント 操作説明書

ArcSuite 4.0

はじめに

このたびは富士フィルムビジネスイノベーションのArcSuite[®]をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Microsoft、Active Directory、Excel、PowerPoint、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、およびReaderは、米国ならびにほかの国におけるAdobeの登録商標または商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcEPS、ArcSuite、DocuWide、DocuWorks、およびWorking Folderは、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

本書は富士ゼロックスブランドの商品を含みます。

富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている商品です。商品提供者は富士フィルムビジネスイノベーション株式会社です。

著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から表示できます。

補足 お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書 (本書)	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ (*1)	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

本書の使い方

本書は、ArcSuiteデスクトップクライアント（以降、「デスクトップクライアント」と表記します）の機能や操作方法について説明しています。

■ 本書の構成

本書は、次の部、章、付録から構成されています。

◆ [第1部 はじめにお読みください](#)

[1 操作の前に知っておきたいこと](#)

デスクトップクライアントを操作する前に知っておきたい事項について説明しています。

[2 起動と終了](#)

デスクトップクライアントの起動と終了の操作について説明しています。

[3 画面の構成と使い方](#)

デスクトップクライアントのメイン画面の構成、表示設定の変更、属性値の入力などについて説明しています。

[4 操作の流れ](#)

デスクトップクライアントの設定、ドキュメントの表示、ドキュメントの登録、および編集の流れについて説明しています。

◆ [第2部 基本機能](#)

[1 サーバーに接続する](#)

接続するサーバーの追加、変更、削除の操作、およびサーバーへのログイン、ログアウトの操作について説明しています。

[2 オブジェクトを表示、検索する](#)

オブジェクトを表示、検索する操作について説明しています。

[3 オブジェクトを操作する](#)

ダウンロードや登録などのオブジェクトの操作について説明しています。

[4 属性やアクセス権を表示、変更する](#)

オブジェクトの属性やアクセス権を表示、変更する操作について説明しています。

[5 サービスのドキュメントを編集、更新する](#)

サービスのドキュメントを編集、更新する操作について説明しています。

◆ [第3部 応用機能](#)

[1 ローカル管理でオブジェクトを操作する](#)

ローカルでオブジェクトを管理する操作について説明しています。

[2 版を管理する](#)

版管理の開始と終了、改版の操作について説明しています。

[3 スキャナソフトを起動する](#)

スキャナソフトを起動する操作について説明しています。

[4 ArcEPS を使用して印刷する](#)

ArcEPS[®]を使用して印刷する操作について説明しています。

[5 設定を変更、管理する](#)

デスクトップクライアントの設定を変更、管理する操作について説明しています。

[6 入力補助機能を使用する](#)

入力補助機能を使用して属性値を入力する操作について説明しています。

[7 ログを管理する](#)

ログを管理する操作について説明しています。

◆ [付録](#)

メイン画面の操作メニュー、ショートカットメニュー、サービスとローカルの機能比較、ドラッグ&ドロップの操作、入力補助機能の設定、エラーメッセージ一覧について説明しています。

■ [本書の表記](#)

・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』

{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例： [{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例： [システムとセキュリティ] > [管理ツール]
注記	一般的な注意事項を表します。
補足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参照	参照する事項があることを表します。
_____	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： [1 概要] (P.6)

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・ マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューを「ショートカットメニュー」と表記しています。
- ・ マウスの右ボタンを押したままドラッグ&ドロップすることを「右ドラッグ&ドロップ」と表記していません。
- ・ デスクトップクライアントの画面に表示される項目は、設定によって異なります。本書の説明で使用している画面は、1つの例です。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

第 1 部 はじめにお読みください

1 操作の前に知っておきたいこと

1.1	デスクトップクライアントとは	15
1.2	デスクトップクライアントでできること	16
1.3	ドキュメント管理サービスの基礎知識	18
1.3.1	操作対象のオブジェクト	18
1.3.2	属性とクラス	20
	属性	20
	クラス	21
1.3.3	ドキュメントのコンテンツ	21
1.3.4	リファレンスの種類	22
1.3.5	オブジェクトのアクセス制御	22
1.3.6	履歴管理と版管理	24
1.4	ドキュメントスペースとの機能比較	26

2 起動と終了

2.1	デスクトップクライアントを起動する	28
2.2	デスクトップクライアントを終了する	30

3 画面の構成と使い方

3.1	メイン画面の構成	32
3.1.1	ツリー表示エリア (サービス、ローカル)	34
3.1.2	ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果)	36
3.1.3	参照履歴表示エリア	38
3.1.4	リスト表示エリア	39
3.1.5	ステータスバー	42
3.1.6	プロセス管理表示エリア	42
3.2	メニューの表示項目を設定する	43
3.3	属性項目の表示を設定する	44
3.4	表示形式を切り替える	46
3.5	メイン画面のレイアウトを変更する	47
3.5.1	タブ形式からウィンドウ形式にする	49
3.5.2	タブ形式に戻す	50
3.5.3	ウィンドウをドッキングする	51
3.5.4	表示エリアを自動的に隠す状態にする	52
3.5.5	標準レイアウトに戻す	53
3.6	属性値を入力する	54
3.6.1	文字や数字を入力する	55
3.6.2	候補値から選択する	56
3.6.3	[入力] をクリックして入力する	56
	日付をカレンダーから入力する	56
	URL を入力する	57
	TRUE か FALSE かを選択する	57
	ユーザー、グループ、ユーザーロールを選択する	58
3.6.4	検索条件を入力する	60

オブジェクトの検索	60
検索条件を入力する場合（存在確認検索）	61
3.7 表示を最新に更新する	63
3.8 お気に入りを追加、整理する	64
3.8.1 お気に入りを追加する	64
3.8.2 お気に入りを整理する	65

4 操作の流れ

4.1 デスクトップクライアントを設定する	68
4.1.1 はじめてデスクトップクライアントを設定する場合	68
4.1.2 設定済みの情報を使用する場合	68
4.2 ドキュメントを表示する	69
4.3 ドキュメントを登録する	70
4.3.1 サービスに直接登録する	70
4.3.2 ローカル経由でサービスに登録する	71
4.4 ドキュメントを編集する	72
4.4.1 直接編集する（リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存）	73
4.4.2 ローカルに取り出して編集する（上書き）	74
4.4.3 編集後のファイルを指定してチェックインする（改訂）	75
4.4.4 ドラッグ&ドロップで改訂する	76
4.4.5 ドキュメントのコンテンツを差し替える	77

第2部 基本機能

1 サーバーに接続する

1.1 サーバーを管理する	79
1.1.1 サーバーを追加する	79
1.1.2 サーバーの設定を変更する	80
1.1.3 サーバーの接続を解除する	80
1.2 サーバーにログインする	82
1.3 サーバーからログアウトする	83

2 オブジェクトを表示、検索する

2.1 ドキュメントを表示する	85
2.2 ドキュメントの画像を表示する	87
2.2.1 ドキュメントの実体画像を表示する	87
2.2.2 ドキュメントのインデックス画像を表示する	89
2.3 オブジェクトを検索する	90
2.3.1 オブジェクトを検索する	90
2.3.2 再検索する	94
2.3.3 検索設定を管理する	94
2.3.4 検索結果の表示を設定する	97
2.4 オブジェクトがサービス内に存在するかを確認する	99
2.4.1 属性値を直接入力して検索する	99
2.4.2 CSV ファイルを使って検索する	102
2.5 Web ブラウザーで表示する	105
2.5.1 オブジェクトを表示する	105
2.5.2 ドキュメントのコンテンツを表示する	106

2.5.3	ドキュメントのインデックス画像を表示する	107
2.6	外部コマンドを実行する	108
2.7	公開 URL を使用する	109
2.7.1	選択オブジェクトの公開 URL を生成する	109
2.7.2	公開 URL からオブジェクトを表示する	109
2.8	オブジェクトの格納先のパスを表示する	110
2.9	ドキュメントの格納先を開く	111
2.10	リファレンスの参照先を開く	112
3	オブジェクトを操作する	
3.1	オブジェクトをダウンロードする	114
3.1.1	ドラッグ&ドロップでダウンロードする	114
3.1.2	ツールボタンやメニューでダウンロードする	115
3.2	サービスにフォルダーを作成する	116
3.3	ドキュメントを登録する	117
3.3.1	ドラッグ&ドロップで登録する	117
3.3.2	ツールボタンやメニューで登録する	118
3.3.3	属性を設定して登録する	119
3.4	オブジェクトのリファレンスを作成する	121
3.4.1	ドラッグ&ドロップでリファレンスを作成する	121
3.4.2	メニューでリファレンスを作成する	122
3.5	リファレンスを実体化する	123
3.6	オブジェクトの名前を変更する	124
3.7	オブジェクトをロックする	125
3.7.1	オブジェクトをロックする	125
3.7.2	オブジェクトのロックを解除する	126
3.8	オブジェクトを削除する	127
3.9	ごみ箱を操作する	128
3.10	オブジェクトを移動する	130
3.10.1	ドラッグ&ドロップでオブジェクトを移動する	130
3.10.2	メニューでオブジェクトを移動する	131
3.11	オブジェクトをコピーする	132
3.11.1	ドラッグ&ドロップでオブジェクトをコピーする	132
3.11.2	メニューでオブジェクトをコピーする	133
3.12	オブジェクトの状態を変更する	134
3.12.1	メニューで状態を変更する	134
3.12.2	セルに属性値を入力して状態を変更する	135
3.13	クラスを変更する	136
3.13.1	フォルダー、ドキュメントのクラスを変更する	136
3.13.2	キャビネットのクラスを表示する	137
3.14	スタンプを設定する	138
3.15	一括出図用 CSV ファイルを出力する	139
4	属性やアクセス権を表示、変更する	
4.1	プロパティで属性を表示、変更する	141
4.1.1	キャビネット、ドロワーの属性を表示する	141
4.1.2	フォルダー、ドキュメントの属性を表示、変更する	143

4.2	セル形式で属性値を直接入力する	145
4.2.1	値を直接入力する	145
4.2.2	クリップボードの値を貼り付ける	147
4.2.3	同様機能を使用する	148
4.3	リファレンスの属性を更新する	149
4.4	アクセス権設定を管理する	150
4.4.1	フォルダー、ドキュメントのアクセス権を設定する	150
4.4.2	フォルダーのデフォルトアクセス権を設定する	152
4.4.3	キャビネットのアクセス権マスクを表示する	153
4.5	属性を CSV ファイルに出力する	154

5 サービスのドキュメントを編集、更新する

5.1	ドキュメントを直接編集する	156
5.2	ドキュメントを改訂する	158
5.2.1	チェックアウトする	158
5.2.2	チェックアウトを取り消す	158
5.2.3	メニューでドキュメントを改訂する	159
5.2.4	ドラッグ&ドロップでドキュメントを改訂する	160
5.3	ドキュメントのコンテンツを差し替える	161
5.3.1	ドラッグ&ドロップでコンテンツを差し替える	161
5.3.2	ツールボタンやメニューでコンテンツを差し替える	162
5.4	ドキュメント情報を更新する	163
5.5	ドキュメントの履歴を管理する	164

第 3 部 応用機能

1 ローカル管理でオブジェクトを操作する

1.1	ローカルルートフォルダーを設定する	166
1.1.1	ローカルルートフォルダーを設定する	166
1.1.2	ローカルルートフォルダーの設定を解除する	167
1.2	ローカルにフォルダーを作成する	168
1.3	ローカルにドキュメントを作成する	169
1.3.1	ドラッグ&ドロップで登録する	169
1.3.2	ツールボタンやメニューで登録する	170
1.4	ローカルのオブジェクトをサービスに登録する	171
1.4.1	ドラッグ&ドロップで登録する	171
1.4.2	メニューで登録する	173
1.5	サービスからローカルに取り出して編集する	174
1.6	ローカルから Windows のエクスプローラーにコピーする	176
1.7	属性を一括で変更する	177
	属性を一括変更する前の設定	177
1.7.1	属性変更用 CSV ファイルを出力する	178
1.7.2	属性変更用 CSV ファイルに属性値を入力する	178
	ファイル名による関連付けで属性を一括変更する場合	179
	リスト順による関連付けで属性を一括変更する場合	179
1.7.3	属性変更用 CSV ファイルを使って属性を変更する	180
1.8	属性をマージする	181

1.8.1	ドラッグ&ドロップでマージする	181
1.8.2	メニューでマージする	182
2	版を管理する	
2.1	版管理を開始する	184
2.2	改版する	185
2.3	版管理を取り消す	186
3	スキャナソフトを起動する	
3.1	スキャナソフトの起動について	188
3.1.1	CSV ファイルの準備	188
3.1.2	スキャナソフトを起動する前の設定	188
3.2	スキャナソフトを起動する	189
3.2.1	CSV ファイルを使ってスキャナソフトを起動する	189
3.2.2	CSV ファイルを使用しないでスキャナソフトを起動する	190
4	ArcEPSを使用して印刷する	
4.1	ドキュメントを印刷する	192
4.2	印刷パターンを追加、変更、削除する	193
4.3	[印刷] ダイアログボックスの詳細	194
4.3.1	[用紙/ジョブ] タブ	194
4.3.2	[レイアウト] タブ	195
4.3.3	[フォーム] タブ	196
4.3.4	[スタンプ] タブ	196
4.3.5	[バナー] タブ	197
4.3.6	[デバイス] タブ	197
4.3.7	[BT スタンプ] タブ	198
4.3.8	[BT フォルダー] タブ	199
5	設定を変更、管理する	
5.1	アプリケーション設定を変更する	201
5.2	[設定] ダイアログボックスの詳細	202
5.2.1	[全般] タブ	202
5.2.2	[MimeType] タブ	208
5.2.3	[コンテンツ操作] タブ	209
5.2.4	[セカンダリ] タブ	211
5.2.5	[ビューア] タブ	213
5.2.6	[スキャナ連携] タブ	214
5.2.7	[名前 CSV] タブ	215
5.2.8	[スキャン CSV] タブ	216
5.2.9	[属性一括変更] タブ	217
5.2.10	[登録振舞] タブ	218
5.3	設定情報をエクスポートする	220
5.3.1	すべての設定情報をエクスポートする	220
5.3.2	特定のサーバーの設定情報をエクスポートする	220
5.4	設定情報をインポートする	221
5.4.1	すべての設定情報をインポートする	221
5.4.2	特定のサーバーの設定情報をインポートする	221
5.5	共有設定の操作をする	222

5.5.1	共有設定を適用する	222
5.5.2	適用した共有設定を削除する	223
5.5.3	共有設定ファイルを作成する	223

6 入力補助機能を使用する

6.1	入力補助機能について	225
6.2	ヒントメニューを使用する.....	226
6.3	属性値変換を使用する	227

7 ログを管理する

7.1	ログを収集する.....	229
-----	--------------	-----

付録

付録A	操作メニュー	231
付録B	ショートカットメニュー	240
付録 B.1	[サービスツリー] の階層のショートカットメニュー	240
付録 B.2	サービスのオブジェクトのショートカットメニュー	241
付録 B.3	[ローカルツリー] の階層のショートカットメニュー	247
付録 B.4	ローカルのオブジェクトのショートカットメニュー	248
付録 B.5	[お気に入りツリー] の階層のショートカットメニュー.....	251
付録 B.6	お気に入りのオブジェクトのショートカットメニュー	252
付録 B.7	[検索結果ツリー] の階層のショートカットメニュー	257
付録 B.8	検索結果のオブジェクトのショートカットメニュー	258
付録 B.9	[参照履歴] の階層のショートカットメニュー	263
付録C	サービスとローカルの機能比較.....	264
付録 C.1	操作メニュー	264
付録 C.2	ショートカットメニュー.....	266
付録D	ドラッグ&ドロップの操作.....	267
付録E	入力補助機能の設定.....	268
付録 E.1	入力補助機能設定ファイル	268
付録 E.2	ヒントメニュー定義ファイル.....	270
付録 E.3	属性値変換定義ファイル.....	272
付録F	エラーメッセージ一覧.....	274

第1部 はじめにお読みください

1 操作の前に知っておきたいこと

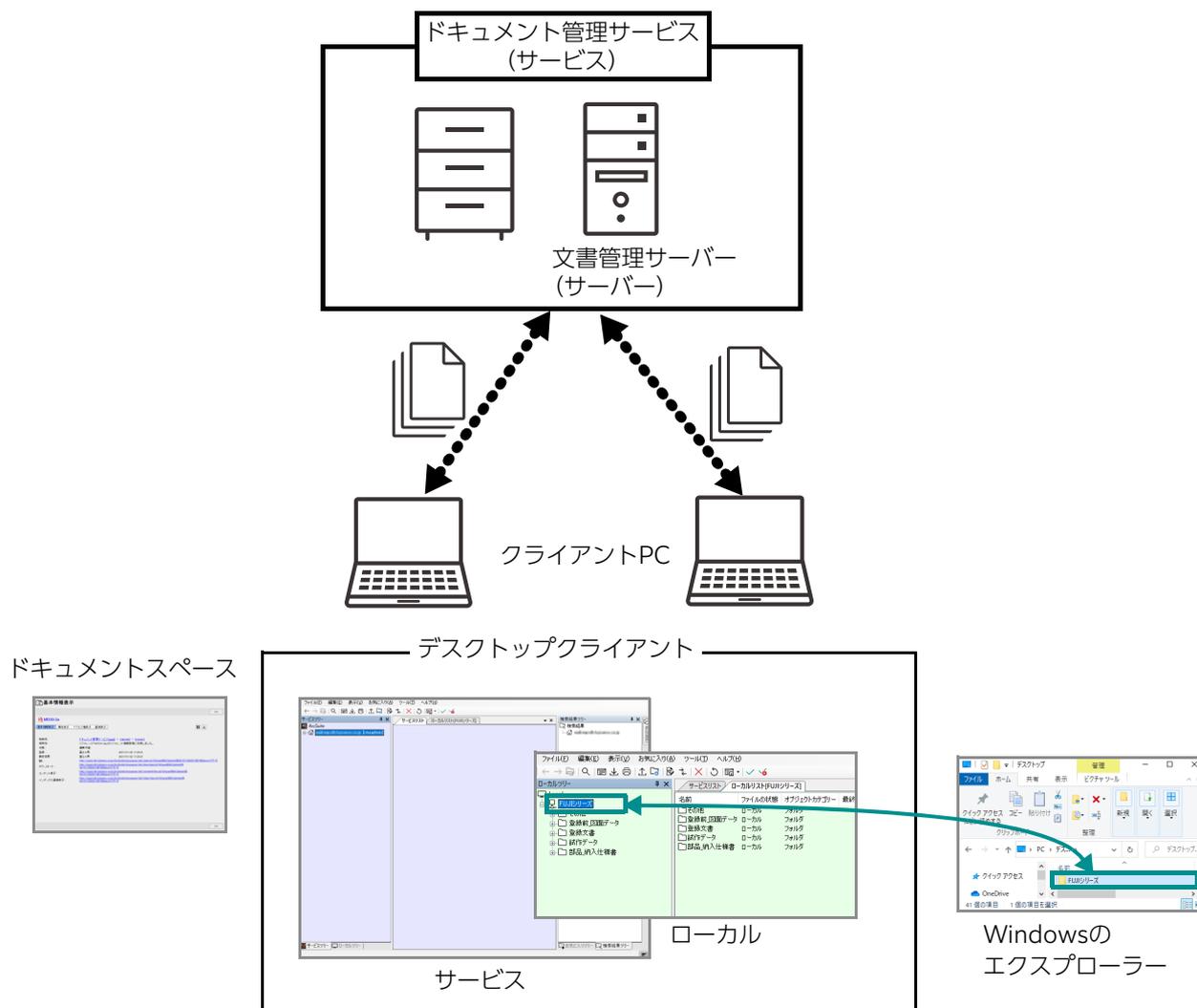
この章では、デスクトップクライアントを操作する前に知っておきたい事項について説明します。

1.1 デスクトップクライアントとは

デスクトップクライアントは、ArcSuiteに登録されているドキュメントなどを操作するためのツールです。クライアントPCにインストールして操作します。

Windowsのエクスプローラーにあるフォルダーを、デスクトップクライアントで管理することで、ドキュメント管理サービスのドキュメントなどを、取り出して編集したり、属性を一括で変更したりすることができます。また、スキャナソフトを起動してスキャンしたり、ArcEPSを使用して印刷したりすることができます。

デスクトップクライアントでは、ドキュメント管理サービス、およびドキュメント管理サービスに接続した状態で管理することを「サービス」、デスクトップクライアントで管理する、Windowsのエクスプローラーにあるフォルダーを「ローカル」、ドキュメント管理サービスの文書管理サーバーを「サーバー」と表記します。



補足 ドキュメントスペースは、サーバーに登録されているオブジェクト（キャビネット、ドロー、フォルダー、およびドキュメント）を、Web ブラウザーで表示する、ドキュメント管理サービスの表示用アプリケーションです。

参照

- ・デスクトップクライアントとドキュメントスペースとの違い ⇒ 第1部 [「1.4 ドキュメントスペースとの機能比較」](#) (P.26)
- ・デスクトップクライアントの動作環境 ⇒ 『デスクトップクライアント セットアップガイド』

1.2 デスクトップクライアントでできること

デスクトップクライアントでは、次のことができます。

■ サーバーへの接続

デスクトップクライアントでドキュメント管理サービスのサーバーを利用するには、接続先のサーバーのURL、およびログインするユーザーのユーザーIDとパスワードを設定します。接続するサーバーのURLは一度設定すると、次回からそのまま使えます。ログイン時にユーザーIDとパスワードを保存すると、次回からユーザーIDとパスワードを入力することなく、サーバーに接続できます。

参照 サーバーへの接続の操作 ⇒ 第2部 [「1 サーバーに接続する」\(P.78\)](#)

■ ドキュメントの表示、検索

登録されているドキュメントを、ファイル形式に対応するアプリケーションで表示できます。TIFF、PDF、DocuWorks™文書の場合は、専用のビューアーで実体画像やインデックス画像を表示できます。また、デスクトップクライアントからドキュメントスペースを起動して、オブジェクトを表示することもできます。オブジェクトの属性を条件に属性検索したり、キーワードを条件に全文検索したりすることもできます。

参照 ドキュメントの表示、検索の操作 ⇒ 第2部 [「2 オブジェクトを表示、検索する」\(P.84\)](#)

■ オブジェクトの登録、ダウンロード、移動、コピー、削除

オブジェクトの登録、ダウンロード、移動、コピー、および削除ができます。登録、ダウンロード、移動、およびコピーは、ドラッグ&ドロップでも操作できます。オブジェクトの削除では、ごみ箱を設定しておく、削除したオブジェクトをごみ箱に移動され、誤って削除したときに復元できます。

参照 オブジェクトの登録、ダウンロード、移動、コピー、削除の操作 ⇒ 第2部 [「3 オブジェクトを操作する」\(P.113\)](#)

■ オブジェクトの属性やアクセス権の変更

フォルダーやドキュメントのプロパティで属性やアクセス権を変更できます。また、メイン画面のセルに値を直接入力して属性を変更することもできます。

参照 オブジェクトの属性やアクセス権の変更の操作 ⇒ 第2部 [「4 属性やアクセス権を表示、変更する」\(P.140\)](#)

■ ドキュメントの編集、更新

サーバーにあるドキュメントを直接編集して、リビジョンアップ（改訂）、コンテンツ差し替え、または一時保存ができます。編集中は、ドキュメントに制限がかかり、ほかのユーザーは更新や削除ができません。また、ドキュメントをクライアントPCにダウンロードして編集して、リビジョンアップ、またはコンテンツ差し替えができます。

リビジョンアップをしたドキュメントは、履歴管理されるので、改訂履歴を表示したときに確認することもできます。

参照 ドキュメントの編集、更新の操作 ⇒ 第2部 [「5 サービスのドキュメントを編集、更新する」\(P.155\)](#)

■ オブジェクトのローカル管理

Windowsのエクスプローラーにあるファイルをドラッグ&ドロップして取り込み、ローカルで管理できます。ローカルのオブジェクトに属性を一括登録して、サーバーにアップロードできます。また、サーバーのドキュメントをローカルに取り出して編集できます。取り出したドキュメントにはロックがかかり、ほかのユーザーは編集や削除ができません。

注記 ローカル管理では、デスクトップクライアントで指定した文字コード以外の文字は、文字化けして表示されます。

補足 デスクトップクライアントで指定した文字コードとは、デスクトップクライアント 2.5 または 3.0.0 からバージョンアップした場合は「Shift-JIS」、それ以外の場合は「[エンコード設定] ダイアログボックスで設定した文字コードです。」

参照 オブジェクトのローカル管理の操作 ⇒ 第 3 部 [「1 ローカル管理でオブジェクトを操作する」 \(P.165\)](#)

■ 版管理

版管理をしている場合は、ある時点でのオブジェクトを版として保存できます。いつでも古い版を取り出せます。

参照 版管理の操作 ⇒ 第 3 部 [「2 版を管理する」 \(P.183\)](#)

■ スキャナソフトの起動

デスクトップクライアントから、スキャナを制御するスキャナソフトを呼び出せます。CSVファイルを使って、ファイル名を読み込んでスキャナソフトを起動することもできます。

参照 スキャナソフトの起動の操作 ⇒ 第 3 部 [「3 スキャナソフトを起動する」 \(P.187\)](#)

■ ArcEPS を使用した印刷

ArcEPSを使用して、ドキュメントを印刷できます。

参照 ArcEPS を使用した印刷の操作 ⇒ 第 3 部 [「4 ArcEPS を使用して印刷する」 \(P.191\)](#)

■ アプリケーション設定の変更

デスクトップクライアントをより便利に使うために、いくつかの設定を変更できます。通常は、設定を変更する必要はありません。

参照 アプリケーション設定の操作 ⇒ 第 3 部 [「5 設定を変更、管理する」 \(P.200\)](#)

■ 表示の設定

リストに表示する属性項目、リストの表示形式を設定できます。また、操作メニューやショートカットメニューに表示する項目を設定できます。

参照 表示設定の操作 ⇒ 第 1 部 [「3.2 メニューの表示項目を設定する」 \(P.43\)](#)、[「3.3 属性項目の表示を設定する」 \(P.44\)](#)、[「3.4 表示形式を切り替える」 \(P.46\)](#)

■ 設定の共有

Active Directory を使用している環境の場合、複数のデスクトップクライアントを同じ設定にすることができます。同じ設定にするには、デスクトップクライアントで作成した共有設定ファイルを、Active Directory の機能を使用して複数のデスクトップクライアントに配布する必要があります。配布された共有設定を適用することで、同じ設定にできます。

参照 ・共有設定の適用の操作 ⇒ 第 1 部 [「2.1 デスクトップクライアントを起動する」 \(P.28\)](#)
・共有設定ファイルの作成および配布の操作 ⇒ 『デスクトップクライアント セットアップガイド』

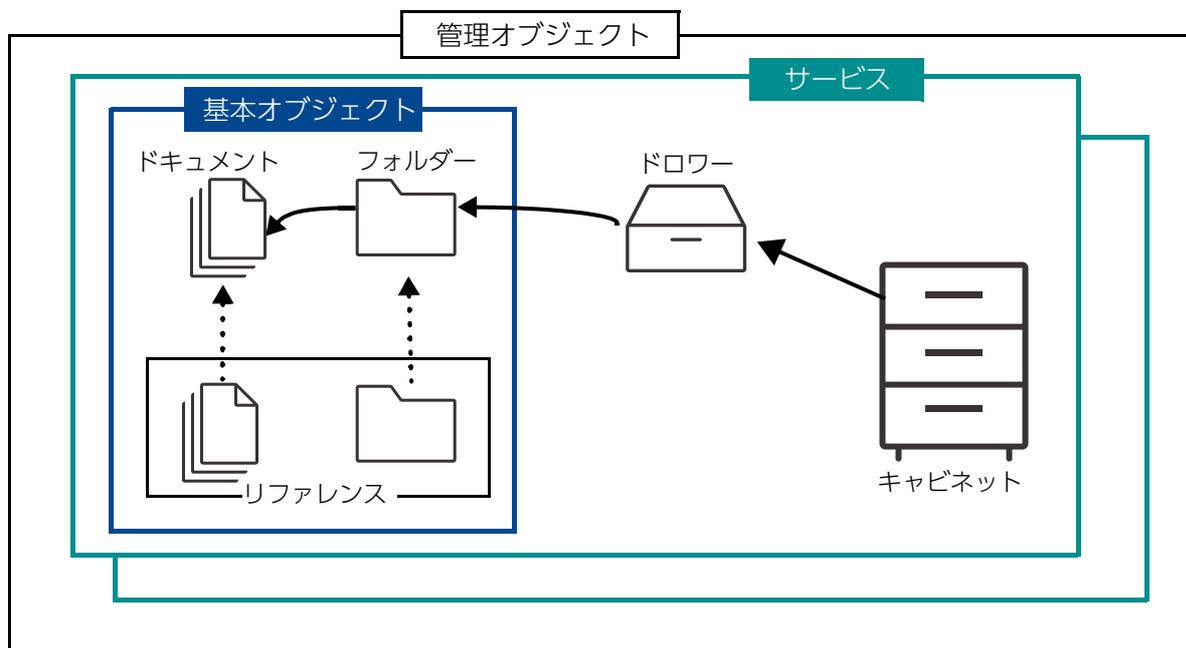
1.3 ドキュメント管理サービスの基礎知識

デスクトップクライアントの操作の理解に役立つ、ドキュメント管理サービスの基本的な概念を説明します。

1.3.1 操作対象のオブジェクト

管理対象のドキュメントや、ドキュメントの入れ物などの構成要素を「オブジェクト」といいます。サービス、キャビネット、およびドロワーを「管理オブジェクト」といいます。フォルダー、ドキュメント、リファレンスなど、ドロワー内に保存できるオブジェクトを「基本オブジェクト」といいます。これらのオブジェクトは仮想的な階層構造で管理されています。デスクトップクライアントでは、ドキュメントスペースと同じように、オブジェクトが階層形式で表示され、ドキュメントの作成や削除など、基本オブジェクトを管理できます。

補足 管理オブジェクトは、ドキュメント管理サービスの管理者が管理ツールを使用して管理します。



■ サービス

ドキュメントに対する操作の全体を管理する単位です。デスクトップクライアントは、複数のサービスに接続できます。

■ キャビネット

サービスの直下に位置する単位で、ドキュメント操作の基本的な管理単位です。使用可能な属性定義、クラス定義などはキャビネットごとに設定されています。

補足 ドキュメント管理サービスの管理者が、管理ツールを使用してキャビネットを作成し、キャビネット管理者を指定します。

■ ドロワー

キャビネットの直下に位置する単位で、引き出しという意味のオブジェクトです。ドロワーの中には、複数の基本オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を作成できます。

- 補足**
- ・キャビネット管理者が、管理ツールを使用してドロワーを作成します。
 - ・キャビネットにあるドロワーの数によって、オブジェクトの表示に次の制限があります。
 - 1つのキャビネットに、ドロワーが 100 以上ある場合
キャビネット内のオブジェクトを、デスクトップクライアントに表示するためには、ArcSuite リソース管理アプリケーションの [システムプロパティ編集] 画面で、設定パラメーター [com.fujifilm.fb.arcsuite.ws.maxItemCount] を追加し、キャビネットのドロワー数以上の値を設定する必要があります。
 - 1つのキャビネットに、ドロワーが 10,000 以上ある場合
デスクトップクライアントに、すべてのドロワーを表示できません。

■ フォルダー

ドロワーの中にあるドキュメントやリファレンスを、分類して整理するための入れ物に相当するオブジェクトです。

1つのドロワーの中に複数のフォルダーを作成できます。また、フォルダーの中にさらにフォルダーを作成できます。

- 参照** フォルダーを作成する操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.2 サービスにフォルダーを作成する\]](#) (P.116)

■ ドキュメント

管理対象となるテキストファイルや図面データファイル、DocuWorks文書やPDFなど、ドキュメントそのものを表すオブジェクトです。ドキュメントは、ドロワーやフォルダーの中に作成します。ファイルは、ドキュメントのコンテンツ（内容）として保持できます。

- 参照**
- ・コンテンツの詳細 ⇒ 第 1 部 [\[1.3.3 ドキュメントのコンテンツ\]](#) (P.21)
 - ・ドキュメントを登録する操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.3 ドキュメントを登録する\]](#) (P.117)

■ リファレンス

フォルダーやドキュメントを参照するオブジェクトです。参照先オブジェクトとは別に独自の属性を持てますが、ファイルの実体を持ちません。リファレンスは、ドロワーやフォルダーの中に作成します。たとえば、複数のフォルダーに同じドキュメントを登録したい場合に、リファレンスを使用します。

- 補足** リファレンスに実体が必要になった場合は、あとから参照関係を解除して、リファレンスを参照先オブジェクトのコピーに置き換えることができます（リファレンスの実体化）。

- 参照**
- ・リファレンスの参照関係 ⇒ 第 1 部 [\[1.3.4 リファレンスの種類\]](#) (P.22)
 - ・リファレンスを作成する操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.4 オブジェクトのリファレンスを作成する\]](#) (P.121)

■ 属性ドキュメント

属性だけ登録されたドキュメントです。CSVファイルを使って属性を一括変更するとき、CSVファイルの行数が対象のドキュメントよりも多い場合は、残りの行が属性ドキュメントとして登録されます。属性ドキュメントは、コンテンツ差し替えやチェックインの操作で、プライマリコンテンツを登録できます。また、コンテンツが登録されたドキュメントと統合できます。

- 参照**
- ・CSV ファイルを使って属性を一括変更する操作 ⇒ 第 3 部 [\[1.7 属性を一括で変更する\]](#) (P.177)
 - ・コンテンツ差し替えの操作 ⇒ 第 2 部 [\[5.3 ドキュメントのコンテンツを差し替える\]](#) (P.161)
 - ・チェックインの操作 ⇒ 第 2 部 [\[5.2 ドキュメントを改訂する\]](#) (P.158)
 - ・コンテンツが登録されたドキュメントと統合する操作 ⇒ 第 3 部 [\[1.8 属性をマージする\]](#) (P.181)

1.3.2 属性とクラス

オブジェクトの性質や設定に関する情報は、属性やクラスによって管理しています。

属性

属性は、大きく分けると、[オブジェクトID] や [状態] など、あらかじめシステムが持つ「システム属性」と、システム管理者が用途に合わせて設定した「ユーザー属性」があります。また、複数の値を持つことができる多値属性と、値が1つに限られた単値属性があります。

■ システム属性

システム属性は、内部で値が自動的に設定されます。属性によって、多値属性か単値属性かが決まっています。値を変更できるシステム属性は、[名前] だけです。

■ ユーザー属性

ユーザー属性は、ユーザーが値を設定できます。多値属性か単値属性かは、属性を作成するときに選択できます。ユーザー属性には、次のような種類があります。種類によって、検索条件の指定方法や属性値の入力方法が異なります。

種類	説明
数値型	数値を表します。多値属性と単値属性があります。
日時型	日時情報を表します。多値属性と単値属性があります。
文字列型	文字列を表します。多値属性と単値属性があります。文字列の最大サイズの初期値は300 MBです。
ブール型	trueまたはfalseの指定を、1または0として保存します。多値属性と単値属性があります。
プリンシパル型	ArcSuiteに設定されているユーザーの識別子（エントリー ID）を格納します。多値属性と単値属性があります。
ユーザーロール型	ArcSuiteに設定されているユーザーロールの識別子（エントリー ID）を格納します。多値属性と単値属性があります。
アトム型	ArcSuiteに設定されているアトムを値として格納します。属性によって、設定できる値の範囲が制限されます。システム属性の [状態] などで使用します。単値属性としてだけ設定できます。
URI 型	URI文字列とそのラベルを示す文字列を格納します。多値属性と単値属性があります。URI文字列の最大長は512バイト、ラベルの最大長は256バイトです。検索の対象にはなりません。

参照 属性値の入力のしかた ⇒ 第 1 部 [「3.6 属性値を入力する」 \(P.54\)](#)

■ 属性テンプレート

「属性テンプレート」には、登録する属性の種類や属性値を入力するときのヒント情報などが設定されています。「属性テンプレート」が設定されている場合は、検索や表示、またはオブジェクトを登録するときなどに、必要な属性だけを表示できます。

クラス

「クラス」は、オブジェクトの利用目的に応じて、属性やライフサイクル、保存期間などを定義したものです。クラスが設定されているキャビネット内では、基本オブジェクトにクラスを適用できます。クラスの定義には、次のようなものがあります。

種類	説明
属性	使用するユーザー属性と、その属性制約をセットで定義したものです。
ライフサイクル	状態と状態遷移を定義したものです。
保存期間	保存期間を定義したものです。
スタンプ	スタンプの画像や位置をルールとして定義したものです。

参照 クラスを変更する操作 ⇒ 第2部 [\[3.13 クラスを変更する\]](#) (P.136)

1.3.3 ドキュメントのコンテンツ

ドキュメントにファイルを指定すると、コンテンツ（内容）が設定されます。コンテンツには、「プライマリコンテンツ」と「セカンダリコンテンツ」の2種類があります。

■ プライマリコンテンツ

ドキュメントの登録時に設定されるコンテンツをプライマリコンテンツといいます。

プライマリコンテンツを登録すると、ドキュメントの [コンテンツタイプ] 属性に属性値が設定されます。デスクトップクライアントの [閲覧] や [ビュー] で、ドキュメントのコンテンツを表示するときは、通常、コンテンツのファイル形式に対応するアプリケーションで、プライマリコンテンツが表示されます。

補足 [閲覧] や [ビュー] で表示されるコンテンツの種類と起動されるアプリケーションは、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。通常、設定を変更する必要はありません。

■ セカンダリコンテンツ

ドキュメントは、プライマリコンテンツのほかに、インデックス画像用、部分画像用、サムネイル画像用というように、役割ごとにセカンダリコンテンツを持つことができます。セカンダリコンテンツは、設定に従って、プライマリコンテンツのファイルから変換して生成されます。

補足 セカンダリコンテンツの設定は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。通常、設定を変更する必要はありません。

■ コンテントタイプ

[コンテンツタイプ] 属性には、MimeTypeの設定に従い、登録したプライマリコンテンツの種類が属性値として設定されます。たとえば、Microsoft Word 2016で作成したファイル（拡張子が「docx」）の場合は、「application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document」という値が設定されます。

補足 MimeTypeの設定は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。通常、設定を変更する必要はありません。

1.3.4 リファレンスの種類

「リファレンス」は、別のドキュメントやフォルダーを参照するオブジェクトです。リファレンスには、「通常リファレンス」と「ハードリファレンス」の2種類があります。

■ 通常リファレンス

- ・ 参照先オブジェクトへの一方的な参照関係を持ちます。
- ・ 通常リファレンスが存在していても、参照先オブジェクトの移動や削除はできます。
- ・ 参照先オブジェクトが削除されて、無効になることもあります。
- ・ キャビネット、ドロワー、フォルダー、またはドキュメントを参照できます。
- ・ ほかのサービスのオブジェクトも参照できます。
- ・ 参照先オブジェクトが版管理されている場合は、通常リファレンスを作成するときに、最新の版を常に参照するか、特定の版を参照するかを選択できます。

■ ハードリファレンス

- ・ 参照先オブジェクトと双方向の参照関係を持ちます。参照先オブジェクトから参照元のハードリファレンスをたどれます。
- ・ ハードリファレンスが存在する間は、参照先オブジェクトは削除できません。
- ・ 同一キャビネット内でだけ参照できます。
- ・ フォルダーまたはドキュメントを参照できます。キャビネット、ドロワーは参照できません。
- ・ 特定の版を参照します。

参照 リファレンスを作成する操作 ⇒ 第2部 [「3.4 オブジェクトのリファレンスを作成する」](#) (P.121)

1.3.5 オブジェクトのアクセス制御

ドキュメント管理サービスには、操作中のユーザーとは別のユーザーが誤って操作しないように、アクセスを制御する機能がいくつかあります。ここでは、デスクトップクライアントで設定できる3つの機能を説明します。

■ ロック、アンロック

「ロック」は、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）に対するアクセス制御です。オブジェクトをロックすると、ロックしたユーザー以外によるオブジェクト操作が制限されます。ロックを解除する操作は「アンロック」といいます。

参照 ロック、アンロックの操作 ⇒ 第2部 [「3.7 オブジェクトをロックする」](#) (P.125)

■ チェックアウト、チェックイン

「チェックアウト」は、ドキュメントに対するアクセス制御です。ドキュメントをチェックアウトすると、ドキュメントを「チェックイン」するまで、チェックアウトしたユーザー以外によるオブジェクト操作が制限されます。チェックインすると、ドキュメントが改訂されます。

参照 チェックアウト、チェックインの操作 ⇒ 第2部 [「5.2 ドキュメントを改訂する」](#) (P.158)

■ アクセス権

オブジェクトに対して、どのユーザーにどの操作を許可するかを、「アクセス権」で管理しています。デスクトップクライアントでは、基本オブジェクトに対するアクセス権を設定できます。オブジェクト自体にアクセス権を設定しなくても、親オブジェクトのアクセス権が引き継がれます。親オブジェクトは、子オブジェクトに引き継ぐためのアクセス権を「デフォルトアクセス権」として管理します。デフォルトアクセス権は、フォルダーに対して設定できます。

- 補足**
- ・オブジェクトに対するアクセス権は、[プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。ログインユーザーが実際に持っているアクセス権（実効アクセス権）も確認できます。
 - ・キャビネット、ドロワーのデフォルトアクセス権は、キャビネット管理者が管理ツールを使用して設定します。
 - ・キャビネットのアクセス権マスクとは、オブジェクト自体に適用されているアクセス権で許可されている操作のうち、一部の操作だけを許可するようにキャビネット単位で加えられた制限です。
 - ・設定されているアクセス権のほかに、オブジェクトの状態や、キャビネットに設定されている「アクセス権マスク」などによって、ユーザーがオブジェクトにアクセスできるかが決められます。

参照 アクセス権を設定する操作 ⇒ 第2部 [「4.4 アクセス権設定を管理する」 \(P.150\)](#)

デスクトップクライアントでは、サーバーのドキュメントを編集する場合、次のようにアクセスが制御されます。

■ 編集時のアクセス制御

	編集方法	説明
サーバーのドキュメントを直接編集	直接編集 (リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存)	[直接編集] を実行すると、自動的にチェックアウトされます。編集終了後、保存方法によって、次のように動作が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [リビジョンアップ] チェックインされます。 ・ [コンテンツ差し替え] チェックアウトが解除されます。 ・ [一時保存] チェックアウトの状態が継続されます。
ローカルに取り出して編集	チェックアウト ↓ ダウンロード、編集 ↓ チェックイン (改訂)	ドキュメントをチェックアウトします。クライアントPCにダウンロードして編集します。チェックイン時に、編集後のファイルを指定すると、改訂されます。改訂時に、再びチェックアウトするかどうかを選択できます。
	チェックアウト ↓ ダウンロード、編集 ↓ ドキュメントにドラッグ&ドロップ (改訂)	ドキュメントをチェックアウトします。クライアントPCにダウンロードして編集します。編集したファイルを、ドキュメントにドラッグ&ドロップして改訂すると、チェックアウトが解除されます。
	編集取り出し ↓ 編集終了 (上書き)	[編集取り出し] を実行してローカルに取り出すと、自動的にロックされます。[編集終了 (元データに上書き)] を実行すると、ロックが解除されます。

参照 編集の流れ ⇒ 第1部 [「4.4 ドキュメントを編集する」 \(P.72\)](#)

1.3.6 履歴管理と版管理

オブジェクトに対する修正や変更の過程を管理するため、履歴管理と版管理の2つの機能があります。

補足 改訂履歴を「リビジョン」、版を「エディション」と表記することがあります。

■ ドキュメントの履歴管理

すべてのドキュメントについて、自動的に変更履歴を保存し、履歴（リビジョン）を管理できます。ドキュメントをチェックアウトして編集し、チェックインすることで、最新リビジョンが作成されます。また、最新リビジョンを作成せずにドキュメントのコンテンツだけを差し替えることもできます。

- 補足**
- ・改訂時に [改訂コメント] を設定できます。
 - ・改訂履歴の一覧は、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。
 - ・ [改訂種別] には、次のものがあります。
 - [校訂]：チェックイン前の作業中のドキュメント
 - [新訂]：最新リビジョン
 - [旧訂]：古いリビジョン
 - ・プロパティでは、ドキュメントの最新リビジョンを削除し、最新リビジョンの1つ前のドキュメントを改めて最新リビジョンにしたり（ロールバック）、古いリビジョンをすべて削除したりできます。

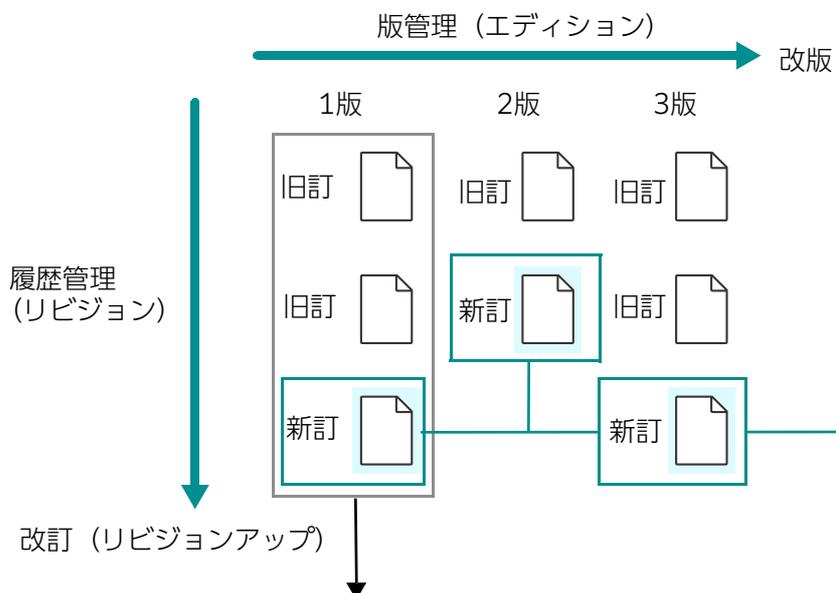
■ ドキュメントの版管理

版管理をするためのキー（エディションキー）がキャビネットに設定されている場合、エディションキーとして定義されているユーザー属性（版管理属性）によって、フォルダー、ドキュメント、およびリファレンスの版（エディション）を管理できます。たとえば、版管理属性が図面番号の場合、すでに登録されている図面番号と同じ図面番号のドキュメントを登録すると、最新版として登録されます。また、版管理属性値が設定されているドキュメントを改版すると、最新版がコピーされ、新しい版のドキュメントが作成されます。

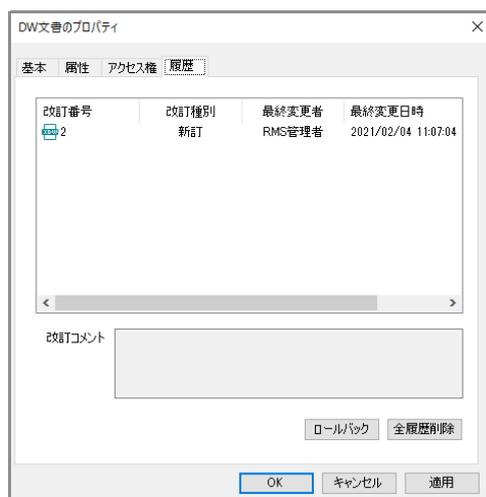
- 補足**
- ・どの属性が版管理属性かは、キャビネット管理者に確認してください。
 - ・版番号は、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

履歴管理と版管理の関係

デスクトップクライアントでは、次の図のように、ドキュメントを3回改版し、1版で3回改訂、2版で2回改訂、3版で3回改訂した場合、[サービスリスト] には、1版、2版、3版のそれぞれ新訂が表示されます。旧訂は、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。



■ [プロパティ] ダイアログボックス



■ [サービスリスト]

名前	版番号	オブジェクトカテゴリー	ロックタイプ
testXBD	3	system:document	
testXBD	1	system:document	
testXBD	2	system:document	

1.4 ドキュメントスペースとの機能比較

次の表は、デスクトップクライアントとドキュメントスペースで異なる主な機能です。

機能	デスクトップクライアント	ドキュメントスペース
操作対象 オブジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメント管理サービス内のオブジェクト ローカル管理内のオブジェクト 	ドキュメント管理サービス内のオブジェクト
リスト表示	<ul style="list-style-type: none"> 詳細形式 アイコン形式 一覧形式 セル形式 	<ul style="list-style-type: none"> 表形式 詳細形式 サムネイル形式 詳細+ハイライト形式
オブジェクトの 属性変更	<ul style="list-style-type: none"> ローカル管理では複数のオブジェクトに対して可能 [プロパティ] ダイアログボックス、およびセル形式のリスト表示エリアで実行 CSV ファイルとの関連付け、クリップボードからの貼り付けが可能 	<ul style="list-style-type: none"> 1 つのオブジェクトに対して可能 [プロパティ] ダイアログボックスで実行
コンテンツの 取り出しと編集	<ul style="list-style-type: none"> [編集取り出し] および [編集終了] の一連の操作。取り出すと、取り出し元オブジェクトは自動でロックされ、ほかのユーザーの操作は制限される。 編集終了時は、上書き保存* 1 	<ul style="list-style-type: none"> 取り出し（ダウンロード）と登録は別の操作 取り出ししても、取り出し元オブジェクトはロックされない
コンテンツの 直接編集	<ul style="list-style-type: none"> [直接編集] の操作。編集中は、自動的にチェックアウトされ、ほかのユーザーの操作は制限される。 編集終了時に、保存方法（リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存）のどれかを選択 	<ul style="list-style-type: none"> [リモート編集] の操作* 2 編集開始時に、履歴管理をするかどうか（改訂、上書き）を選択
検索	<ul style="list-style-type: none"> 属性検索、全文検索 存在確認検索 	<ul style="list-style-type: none"> 属性検索 全文検索 関連文書検索
ダウンロード	<ul style="list-style-type: none"> 常にファイル形式でのダウンロード フォルダーの場合は、階層を保持してのダウンロード 	<ul style="list-style-type: none"> 単数のドキュメントの場合は、ファイル形式でのダウンロード 複数のドキュメントの場合は、アーカイブ形式でのダウンロード
スキャナ起動	あり	なし
表示設定	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー単位、キャビネット単位、ごみ箱単位、ローカル単位 サーバー単位のデフォルト設定 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー単位、キャビネット単位 ユーザーテンプレート単位
操作カスタマイズ	ユーザー単位	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー単位 ユーザーテンプレート単位 キャビネット単位
分類ビュー	なし	あり
ワークスペース	なし	あり

* 1：上書きの動作は、アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従います。

* 2：リモート編集は、オペレーティングシステム（OS）と Microsoft Office の組み合わせによって使用できないことがあります。

2 起動と終了

この章では、デスクトップクライアントの起動と終了の操作について説明します。

2.1 デスクトップクライアントを起動する

デスクトップクライアントを起動する操作について説明します。

補足 ドキュメント管理サービスで次の設定を変更した場合、デスクトップクライアントに変更を反映させるためには、デスクトップクライアントを終了し、再び起動する必要があります。

- ・ユーザー属性
- ・ユーザーアトム
- ・ネームスペース
- ・キャビネット情報
- ・属性テンプレート

1. デスクトップの [ArcSuite デスクトップクライアント] アイコンをダブルクリックします。



- 補足**
- ・次のように操作しても、デスクトップクライアントを起動できます。
 - Windows 8.1 の場合
 1. Windows のスタート画面で、左下の [↓] ボタンをクリックします。
 2. [FUJIFILM] カテゴリの [ArcSuite デスクトップクライアント] をクリックします。
 - Windows 10 の場合

Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [ArcSuite デスクトップクライアント] > [ArcSuite デスクトップクライアント] を選択します。
 - ・ [エンコード設定] ダイアログボックスが表示された場合、次のラジオボタンを選択し、[OK] をクリックします。
 - [UTF-8] ラジオボタン

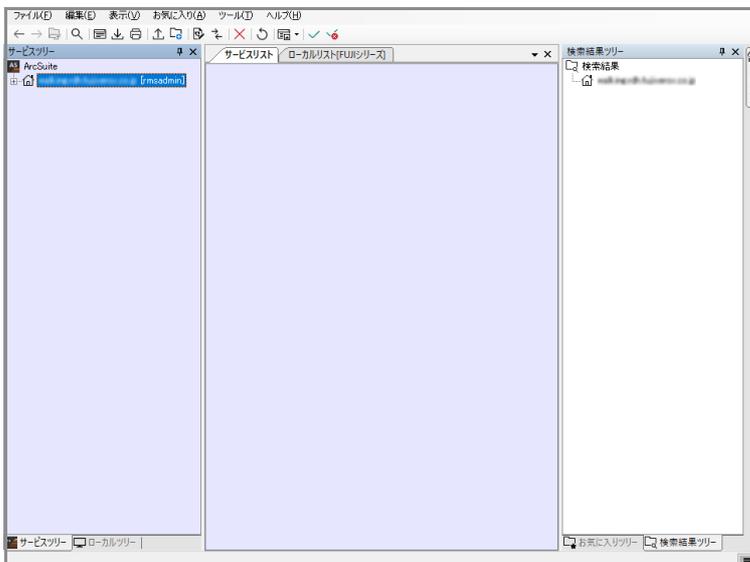
通常は [UTF-8] を選択します。初期値は [UTF-8] です。
 - [Shift-JIS] ラジオボタン

3.0.0 からバージョンアップした場合は、[Shift-JIS] を選択します。

デスクトップクライアントのメイン画面が表示されます。

Active Directory を使用している環境で、共有設定ファイルをクライアント PC に配布する運用の場合、新しい共有設定ファイルが配布されたときは、[共有設定適用確認] 画面が表示されます。

[共有設定適用確認] 画面が表示された場合は、手順 2 に進みます。



図：デスクトップクライアントのメイン画面

- 補足** アプリケーション設定によっては、前回終了時に表示されていた状態で、サービスツリー、サービスリスト、ローカルツリー、およびローカルリストが表示されます。

- 参照**
- ・サーバーにログインする操作 ⇒ 第2部 [「1.2 サーバーにログインする」](#) (P.82)
 - ・サーバーを追加する操作 ⇒ 第2部 [「1.1.1 サーバーを追加する」](#) (P.79)
 - ・ローカル管理でオブジェクトを管理する操作 ⇒ 第3部 [「1 ローカル管理でオブジェクトを操作する」](#) (P.165)

2. [共有設定適用確認] 画面で、次のように操作します。

- 補足** [共有設定適用確認] 画面は、操作メニューの [ファイル] から [共有設定] > [共有設定を適用] を選択しても表示されます。

(1) ラジオボタンを選択します。

項目	説明
[現在のバージョンの共有設定適用を90日間確認しない] ラジオボタン	共有設定を適用しません。 以降、90日間はデスクトップクライアントの起動時に [共有設定適用確認] 画面は表示されません。 補足 90日以内に新しい共有設定ファイルが配布された場合は、[共有設定適用確認] 画面が表示されます。
[現在のバージョンの共有設定適用をスキップする] ラジオボタン	共有設定を適用しません。 新しい共有設定ファイルが配布されるまで、デスクトップクライアントの起動時に [共有設定適用確認] 画面は表示されません。
[適用する] ラジオボタン	共有設定を適用します。 [表示設定]、[お気に入り設定]、[検索設定] の設定項目について、共有設定を適用するかどうかを選択します。

(2) [実行] をクリックします。

デスクトップクライアントのメイン画面が表示されます。

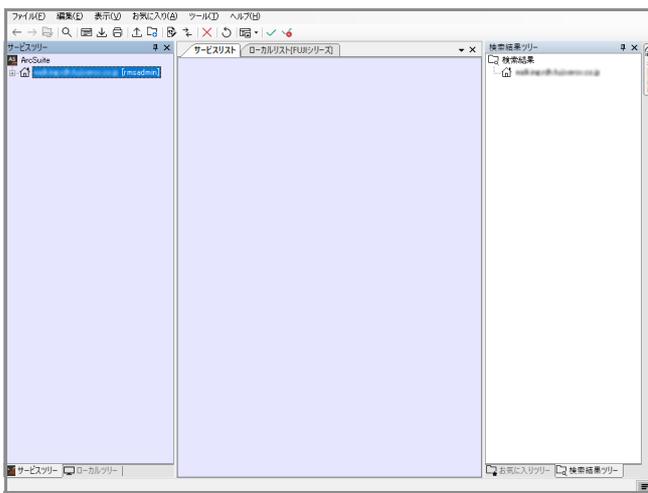
2.2 デスクトップクライアントを終了する

デスクトップクライアントを終了する操作について説明します。

補足 ドキュメント管理サービスで次の設定を変更した場合、デスクトップクライアントに変更を反映させるためには、デスクトップクライアントを終了し、再び起動する必要があります。

- ・ユーザー属性
- ・ユーザーアトム
- ・ネームスペース
- ・キャビネット情報
- ・属性テンプレート

1. [ファイル] メニューから [閉じる] を選択するか、メイン画面の右上にある [×] をクリックします。



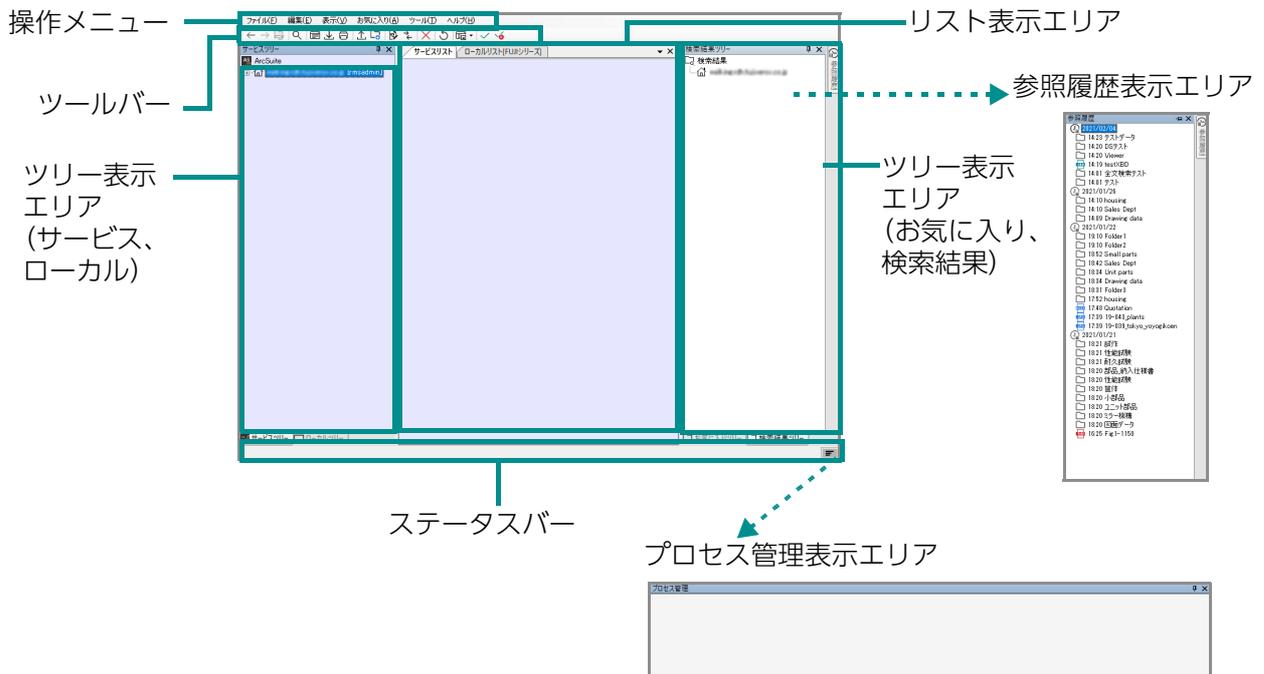
デスクトップクライアントが終了します。
デスクトップクライアントを終了すると、接続しているすべてのサーバーからログアウトされます。

3 画面の構成と使い方

この章では、デスクトップクライアントのメイン画面の構成、表示設定の変更、属性値の入力などについて説明します。

3.1 メイン画面の構成

標準の画面レイアウトを例に、メイン画面の構成を説明します。



■ 操作メニュー

操作を起動するメニューが表示される領域です。

参照 操作メニューの詳細 ⇒ [「付録 A 操作メニュー」 \(P.231\)](#)

■ ツールバー

操作メニューの中で、よく使う操作がツールボタンで表示される領域です。ツールボタンにマウスポインターを置くと処理内容が表示されます。

参照 ツールボタンの詳細 ⇒ [「付録 A 操作メニュー」 \(P.231\)](#)

■ ツリー表示エリア (サービス、ローカル)

キャビネット、ドロワー、フォルダーなどがツリー形式で表示される領域です。ツリー表示エリア (サービス、ローカル) で選択したオブジェクト内のオブジェクトがリスト表示エリアに表示されます。

参照 ツリー表示エリア (サービス、ローカル) の詳細 ⇒ 第1部 [「3.1.1 ツリー表示エリア \(サービス、ローカル\)」 \(P.34\)](#)

■ ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果)

フォルダー、検索結果などがツリー形式で表示される領域です。ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果) で選択したオブジェクト内のオブジェクトがリスト表示エリアに表示されます。

参照 ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果) の詳細 ⇒ 第1部 [「3.1.2 ツリー表示エリア \(お気に入り、検索結果\)」 \(P.36\)](#)

■ 参照履歴表示エリア

オブジェクトを参照した履歴がツリー形式で表示される領域です。
履歴ツリーで選択したオブジェクト内のオブジェクトがリスト表示エリアに表示されます。

参照 参照履歴表示エリアの詳細 ⇨ 第1部 [\[3.1.3 参照履歴表示エリア\] \(P.38\)](#)

■ リスト表示エリア

ツリー表示エリア（サービス、ローカル）、またはツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）で選択したオブジェクト内のオブジェクトがリストで表示される領域です。表示形式には、詳細形式、アイコン形式、一覧形式、セル形式があります。

参照 リスト表示エリアの詳細 ⇨ 第1部 [\[3.1.4 リスト表示エリア\] \(P.39\)](#)

■ ステータスバー

リスト表示エリアに表示されているオブジェクト数、またオブジェクト選択数が表示される領域です。

参照 ステータスバーの詳細 ⇨ 第1部 [\[3.1.5 ステータスバー\] \(P.42\)](#)

■ プロセス管理表示エリア

登録、リスト表示、スタンプ、ドキュメント情報更新、チェックアウト一覧、検索、またはダウンロードなどの処理状況が表示される領域です。ステータスバーで、 をクリックすると表示されます。

参照 プロセス管理表示エリアの詳細 ⇨ 第1部 [\[3.1.6 プロセス管理表示エリア\] \(P.42\)](#)

3.1.1 ツリー表示エリア（サービス、ローカル）

ツリー表示エリア（サービス、ローカル）には、[サービスツリー] と [ローカルツリー] が表示されます。初期設定では、タブ形式で表示されます。



- ・ [サービスツリー] タブをクリックすると、[サービスツリー] が表示されます。
- ・ [ローカルツリー] タブをクリックすると、[ローカルツリー] が表示されます。

- 補足**
- ・ 操作メニューの [表示] から [ツリービュー] > [サービスツリー] を選択しても、[サービスツリー] を表示できます。
 - ・ 操作メニューの [表示] から [ツリービュー] > [ローカルツリー] を選択しても、[ローカルツリー] を表示できます。
 - ・ [×] をクリックすると、ツリー表示エリア（サービス、ローカル）が閉じます。
 - ・ 初期設定では、[サービスツリー] の背景色が  (RGB : 230,230,255)、[ローカルツリー] の背景色が  (RGB : 230,255,230) です。どちらもアプリケーション設定で変更できます。
 - ・ 初期設定では、タブ形式で表示されます。ウィンドウ形式に変更できます。
 - ・  (開閉状態の切り替え) をクリックすると、ツリー表示エリア（サービス、ローカル）が、最小化されたタブだけを残して一時的に隠れます。

参照 [タブ形式をウィンドウ形式に変更する操作、!\[\]\(0d417cfc0d70f74bf5febdb4ffef61a7_img.jpg\) / !\[\]\(88000cd4cfac1329ca05233990dcea94_img.jpg\) \(開閉状態の切り替え\) の操作 ⇒ 第 1 部 \[「3.5 メイン画面のレイアウトを変更する」\\(P.47\\)\]\(#\)](#)

■ サービスツリー

[サービスツリー] には、デスクトップクライアントから接続されているドキュメント管理サービス内のキャビネットやドロワーなどが表示されます。

[サービスツリー] に表示されるアイコンは、次のとおりです。

アイコン	アイコン名	説明
	サービスルート	[サービスツリー] の最上位の階層です。
	サーバー	デスクトップクライアントから接続できるサーバーが表示されます。

アイコン	アイコン名	説明
	ドキュメント管理サービス	サーバーにログインすると表示されます。
	キャビネット	サーバー内に作成されたキャビネットです。
	ドロワー	サーバー内に作成されたドロワーです。
	フォルダー	サーバー内に作成されたフォルダーです。
	チェックアウト一覧	サーバー内でチェックアウトされているドキュメントが表示されます。
	ごみ箱	ごみ箱内のドキュメントを表示する階層です。

ローカルツリー

[ローカルツリー] には、デスクトップクライアントから設定されているローカルフォルダー内のフォルダーが表示されます。

[ローカルツリー] に表示されるアイコンは、次のとおりです。

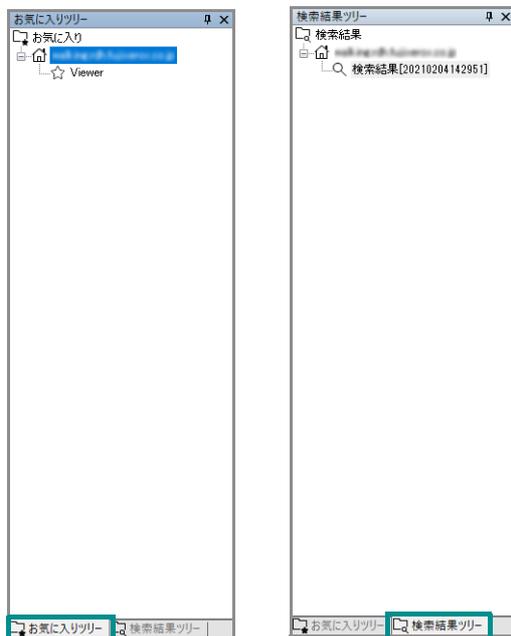
アイコン	アイコン名	説明
	ローカルルート	[ローカルツリー] の最上位の階層です。
	ローカルルートフォルダー	デスクトップクライアントから設定されたローカルルートフォルダーが表示されます。
	フォルダー	ローカルフォルダー内のフォルダーが表示されます。
	ごみ箱	ごみ箱内のドキュメントを表示する階層です。

補足 初期設定では、ローカルにごみ箱が設定されていません。

参照 ローカルにごみ箱を設定する操作 ⇒ 第3部 [\[5.1 アプリケーション設定を変更する\] \(P.201\)](#)、[\[5.2.1 \[全般\] タブ\] \(P.202\)](#)

3.1.2 ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）

ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）には、[お気に入りツリー] と [検索結果ツリー] が表示されま
す。



- ・ [お気に入りツリー] タブをクリックすると、[お気に入りツリー] が表示されます。
- ・ [検索結果ツリー] タブをクリックすると、[検索結果ツリー] が表示されます。

- 補足**
- ・ 操作メニューの [表示] から [ツリービュー] > [お気に入りツリー] を選択しても、[お気に入りツリー] を表示できます。
 - ・ 操作メニューの [表示] から [ツリービュー] > [検索結果ツリー] を選択しても、[検索結果ツリー] を表示できます。
 - ・ [×] をクリックすると、ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）が閉じます。
 - ・ 背景色は□ (RGB : 255,255,255) です。[検索結果ツリー] の背景色は、アプリケーション設定で変更できます。
 - ・ 初期設定では、タブ形式で表示されます。ウィンドウ形式に変更できます。
 - ・  (開閉状態の切り替え) をクリックすると、ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）が、最小化されたタブだけを残して一時的に隠れます。

- 参照** タブ形式をウィンドウ形式に変更する操作、 /  (開閉状態の切り替え) の操作 ⇒ 第 1 部 [\[3.5 メイン画面のレイアウトを変更する\]](#) (P.47)

■ お気に入りツリー

[お気に入りツリー] には、お気に入りに追加されたオブジェクトや検索条件などが表示されます。

[お気に入りツリー] に表示されるアイコンは、次のとおりです。

アイコン	アイコン名	説明
	お気に入りルート	[お気に入りツリー] の最上位の階層です。
	サーバー	デスクトップクライアントで接続しているサーバーが表示されます。
	フォルダー	お気に入りを管理するために作成されたフォルダーです。
	お気に入りのオブジェクト	お気に入りに追加されたサービス、またはオブジェクトが表示されます。
	お気に入りの検索条件	お気に入りに追加された検索条件が表示されます。
	[共有]	共有設定として設定されたお気に入りが表示されます。
	共有のお気に入りのオブジェクト	共有設定として設定されたお気に入りのオブジェクトが表示されます。
	共有のお気に入りの検索条件	共有設定として設定されたお気に入りの検索条件が表示されます。

■ 検索結果ツリー

[検索結果ツリー] には、検索結果などが表示されます。

[検索結果ツリー] に表示されるアイコンは、次のとおりです。

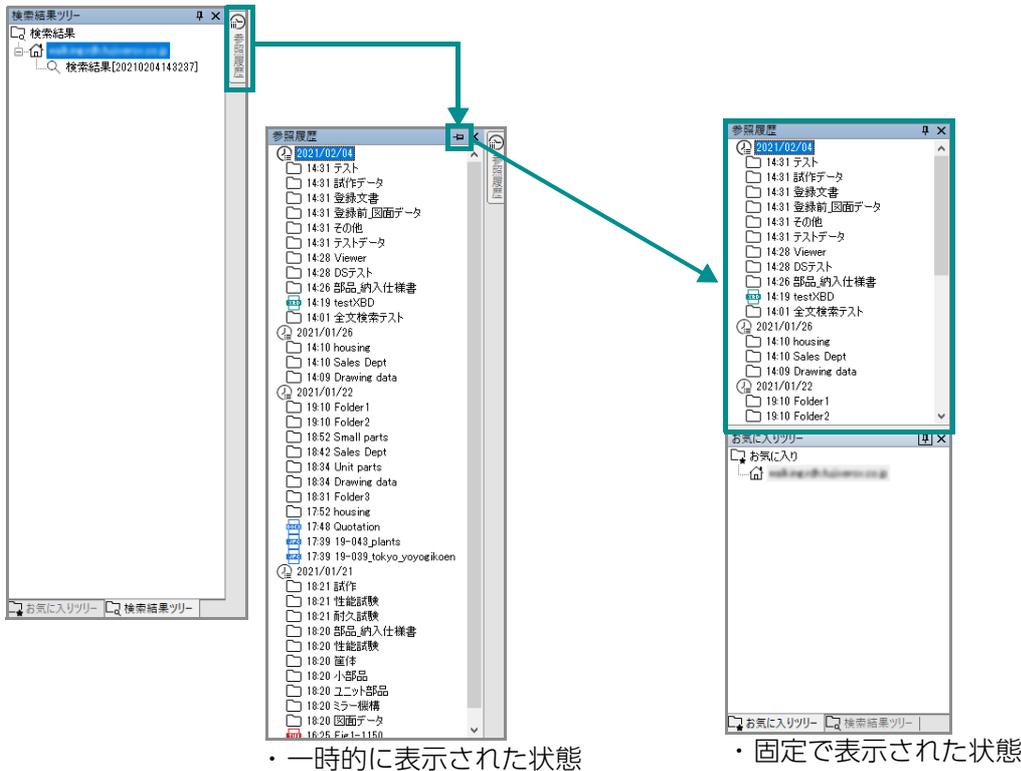
アイコン	アイコン名	説明
	検索結果ルート	[検索結果ツリー] の最上位の階層です。
	サーバー	デスクトップクライアントで接続しているサーバーが表示されます。
	検索結果	検索した結果が表示されます。
	フォルダー	検索した結果に含まれるフォルダーが表示されます。

補足 [お気に入りの検索条件] で検索した結果は表示されません。

3.1.3 参照履歴表示エリア

最小化された [参照履歴] にマウスポインターを合わせると、ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果) の前面に参照履歴表示エリアが一時的に表示されます。

- 補足** ・ 最小化された [参照履歴] が表示されていない場合は、操作メニューの [表示] から [ツリービュー] > [履歴ツリー] を選択すると、メイン画面の右側に表示されます。
- ・  (開閉状態の切り替え) をクリックすると、ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果) の下に、参照履歴表示エリアが固定で表示されます。



- 補足** ・ [×] をクリックすると、参照履歴表示エリアが閉じます。
- ・ 背景色は  (RGB : 255,255,255) です。
- ・ 固定で表示された状態で  (開閉状態の切り替え) をクリックすると、最小化された [参照履歴] の状態に切り替わります。

履歴ツリー

参照履歴表示エリアには、履歴ツリーが表示されます。履歴ツリーには、参照したオブジェクトの履歴が表示されます。

履歴ツリーに表示されるアイコンは、次のとおりです。

アイコン	アイコン名	説明
	日付	履歴ツリーの最上位の階層です。
	キャビネット	履歴に含まれるキャビネットが表示されます。キャビネット名の先頭に、アクセスした時間がhh:mm（時間:分）形式で表示されます。
	ドロワー	履歴に含まれるドロワーが表示されます。ドロワー名の先頭に、アクセスした時間がhh:mm（時間:分）形式で表示されます。
	フォルダー	履歴に含まれるフォルダーが表示されます。フォルダー名の先頭に、アクセスした時間がhh:mm（時間:分）形式で表示されます。
 (JPG形式の例)	ドキュメント	履歴に含まれるドキュメントが表示されます。ファイル形式に対応したアイコンが表示されます。ドキュメント名の先頭に、アクセスした時間がhh:mm（時間:分）形式で表示されます。

- 補足**
- ・アプリケーション設定の [全般] タブの [参照履歴の記録] の設定に従って履歴が記録されます。
 - [最大記録数] が 0 件の場合は、履歴は記録されません。
 - [記録するオブジェクトタイプ] で指定されていないオブジェクトは記録されません。
 - ・履歴ツリーでは、ショートカットメニューから [履歴を全て削除する] を選択すると、表示されている履歴をすべて削除できます。

3.1.4 リスト表示エリア

リスト表示エリアには、ツリーの操作に応じて、[サービスリスト]、[ローカルリスト]、[チェックアウト一覧]、ごみ箱リスト、[お気に入りリスト]、検索結果リストが表示されます。

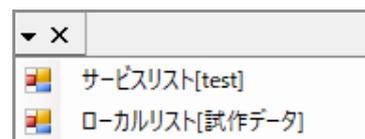
検索結果リストは、[検索結果 [検索した日時YYYYMMDDhhmmss]] で表示されます。

初期設定では、タブ形式で表示されます。

タブをクリックすると、リストの表示が切り替わります。



 (リスト切り替え) をクリックして、リストの表示を切り替えることができます。



- 補足**
- ・ [サービスツリー]、[ローカルツリー]、または [検索結果ツリー] でオブジェクトを選択し、操作メニューの [ファイル] から [新規タブで開く] をクリックするか、ショートカットメニューの [開く] から [新規タブで開く] を選択すると、リストを追加できます。
 - ・ [お気に入りツリー] で [お気に入りのオブジェクト] を選択し、操作メニューの [ファイル] から [新規タブで開く] をクリックするか、ショートカットメニューの [開く] を選択すると、リストを追加できます。

- ・ ツールバーの ← (戻る) をクリックするか、操作メニューの [表示] から [移動] > [戻る] を選択すると、1 つ前に表示していたオブジェクトの一覧が表示されます。
- ・ ツールバーの → (進む) をクリックするか、操作メニューの [表示] から [移動] > [進む] を選択すると、1 つ先に表示していたオブジェクトの一覧が表示されます。
- ・ ツールバーの ☐ (上へ) をクリックするか、操作メニューの [表示] から [移動] > [上へ] を選択すると、現在のオブジェクトの 1 つ上の階層のオブジェクトの一覧が表示されます。
- ・ ツールバーの ✓ (全選択) をクリックするか、操作メニューの [編集] から [すべて選択] を選択すると、リスト内のすべてのオブジェクトが選択されます。
- ・ ツールバーの ✖ (全解除) をクリックするか、操作メニューの [編集] から [選択解除] を選択すると、リスト内のすべてのオブジェクトの選択が解除されます。
- ・ 操作メニューの [編集] から [選択の切り替え] を選択すると、リスト内のすべてのオブジェクトの選択と解除が切り替わります。
- ・ 属性項目名をクリックすると、指定した列の内容を基準に、昇順 (▲) または降順 (▼) でソートできます。列の境界線をドラッグすると、表示幅を変更できます。また、属性項目名を、移動したい位置にドラッグ&ドロップすると、属性項目の表示順を変更できます。これらの変更は、ショートカットメニューから [表示設定を保存] を選択すると、表示設定として保存できます。
- ・ [×] をクリックすると、選択されているリストが閉じます。
- ・ タブ形式からウィンドウ形式に変更すると、☐ (開閉状態の切り替え) が表示されます。

参照 タブ形式をウィンドウ形式に変更する操作、☐ / ☐ (開閉状態の切り替え) の操作 ⇒ 第 1 部 [「3.5 メイン画面のレイアウトを変更する」](#) (P.47)

■ サービスリスト

[サービスツリー] で、[ドキュメント管理サービス] 以下のオブジェクトをダブルクリックするか、[+] をクリックして展開したときに、その直下のオブジェクトのアイコンと属性が表示されます。表示される属性項目は、設定によって異なります。

[サービスリスト] に表示されるアイコンは、次のとおりです。

アイコン	項目	説明
	キャビネット	ドキュメント管理サービスに作成されたキャビネットの、アイコンとキャビネット名が表示されます。
	ドロワー	キャビネットに作成されたドロワーの、アイコンとドロワー名が表示されます。
	フォルダー	ドロワーまたはフォルダーの直下に作成されたフォルダーの、アイコンとフォルダー名が表示されます。
	リファレンスフォルダー	フォルダーのリファレンスです。
 (JPG形式の例)	ドキュメント	ドキュメントの、ファイル形式に対応するアイコンとドキュメント名が表示されます。
 (JPG形式の例)	リファレンスドキュメント	ドキュメントのリファレンスです。

参照 属性項目の表示を設定する操作 ⇒ 第 1 部 [「3.3 属性項目の表示を設定する」](#) (P.44)

ローカルリスト

[ローカルツリー] で、ローカルフォルダー以下のオブジェクトを選択したときに、その直下のオブジェクトのアイコンと属性が表示されます。表示される属性項目は、設定によって異なります。

[ローカルリスト] に表示されるアイコンは、次のとおりです。

アイコン	項目	説明
	フォルダー	[ローカルツリー] でローカルフォルダーが選択されたとき、その直下に作成されたフォルダーの、アイコンとフォルダー名が表示されます。
 (JPG形式の例)	ドキュメント	[ローカルツリー] でフォルダーが選択されたとき、その直下に作成されたドキュメントの、ファイル形式に対応するアイコンとドキュメント名が表示されます。
	属性ドキュメント	CSVファイルを使って属性を一括変更したときに、属性だけ登録されたドキュメントです。

参照 属性項目の表示を設定する操作 ⇒ 第 1 部 [「3.3 属性項目の表示を設定する」\(P.44\)](#)

チェックアウト一覧リスト

[サービスツリー] で [チェックアウト一覧] を選択したときに、チェックアウトされているオブジェクトが表示されます。

ごみ箱リスト

[サービスツリー] または [ローカルツリー] で [ごみ箱] を選択したときに、ごみ箱内のオブジェクトが表示されます。

お気に入りリスト

[お気に入りツリー] で、[お気に入りのオブジェクト] (フォルダー) をダブルクリックしたときは、その直下のオブジェクトのアイコンと属性が表示されます。[お気に入りのオブジェクト] (ドキュメント) をダブルクリックしたときは、ドキュメントが選択された状態で表示されます。

表示される属性項目は、設定によって異なります。

補足 [お気に入りリスト] に表示されるアイコンは、[サービスリスト] に表示されるアイコンと同じです。

参照 ・ サービスリストに表示されるアイコン ⇒ 第 1 部 [「サービスリスト」\(P.40\)](#)
・ 属性項目の表示を設定する操作 ⇒ 第 1 部 [「3.3 属性項目の表示を設定する」\(P.44\)](#)

検索結果リスト

[サービスツリー] または [サービスリスト] でオブジェクトを検索したとき、その検索結果のオブジェクトが表示されます。また、[検索結果ツリー] で [検索結果] をダブルクリックしたときや、[お気に入りツリー] で [お気に入りの検索条件] をダブルクリックしたときにも、その検索結果のオブジェクトが表示されます。

補足 [サービスツリー]、[サービスリスト]、または [検索結果ツリー] から [検索結果リスト] を表示したときは、[検索結果ツリー] に [検索結果] が表示されます。[検索結果リスト] を閉じると、[検索結果ツリー] で、その [検索結果] も表示されなくなります。

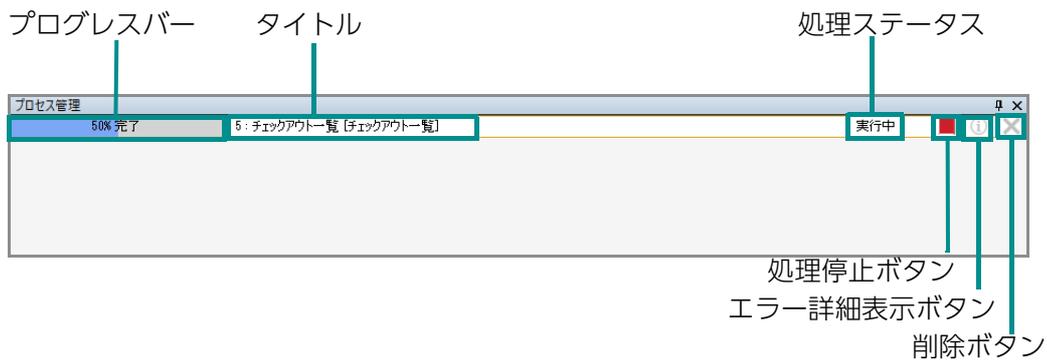
3.1.5 ステータスバー

リスト表示エリアに表示されているオブジェクト数またはオブジェクト選択数が表示されます。操作メニューの [表示] から [ステータスバー] を選択すると、ステータスバーの表示、非表示を切り替えることができます。

 (プロセス管理表示エリア) をクリックすると、プロセス管理表示エリアが表示されます。

3.1.6 プロセス管理表示エリア

登録、リスト表示、スタンプ、ドキュメント情報更新、チェックアウト一覧、検索、またはダウンロードなどの処理状況が表示されます。



項目	説明
プログレスバー	処理状況の進捗率がプログレスバーと数値 (%) で表示されます。
タイトル	処理のタイトルが表示されます。
処理ステータス	処理のステータス (実行中、キャンセル、失敗) が表示されます。
 (処理停止)	処理を停止します。 次の処理は停止できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リスト表示の初期表示 ・ 単数オブジェクトの登録 ・ 検索の初期表示 ・ 単数オブジェクトのダウンロード ・ オブジェクト情報更新 ・ スタンプの設定 <p>補足 リスト表示の処理中に、ツリー表示エリア (サービス、ローカル) でほかのオブジェクトをクリックすると、リスト表示の処理は停止されます。</p>
 (エラー詳細表示)	処理のエラー内容を別ウィンドウに表示します。
 (削除)	処理を削除します。[処理ステータス] が [キャンセル] または [失敗] の処理だけ削除できます。

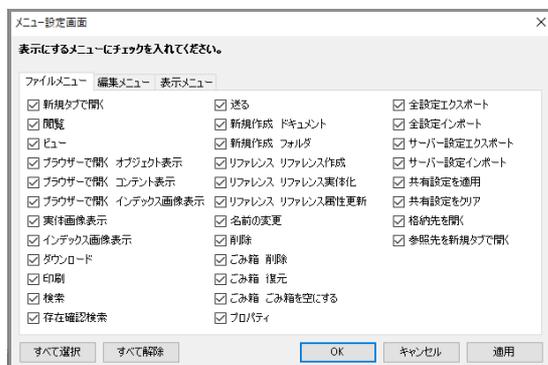
- 補足**
- ・  (開閉状態の切り替え) をクリックすると、プロセス管理表示エリアが、最小化されたタブだけを残して一時的に隠れます。
 - ・ [x] をクリックすると、プロセス管理表示エリアが閉じます。

参照  /  (開閉状態の切り替え) の操作 ⇒ 第 1 部 [「3.5 メイン画面のレイアウトを変更する」 \(P.47\)](#)

3.2 メニューの表示項目を設定する

操作メニュー（[ファイル]、[編集]、[表示]）やショートカットメニューから選択できる項目を表示、または非表示に設定できます。

1. 操作メニューの [ファイル] から [メニュー設定] を選択します。
[メニュー設定画面] ダイアログボックスが表示されます。



2. 設定を変更したいタブ（[ファイルメニュー]、[編集メニュー]、または [表示メニュー]）をクリックします。
3. メニューに表示させたい項目のチェックボックスに、チェックマークを付けます。

- 補足**
- ・ [すべて選択] をクリックすると、すべての項目にチェックマークが付きます。
 - ・ [すべて解除] をクリックすると、すべての項目からチェックマークが外れます。

4. [OK] または [適用] をクリックします。

◆ [OK] をクリックした場合

設定が変更され、[メニュー設定画面] ダイアログボックスが閉じます。

◆ [適用] をクリックした場合

[メニュー設定画面] ダイアログボックスが表示された状態で、設定が変更されます。

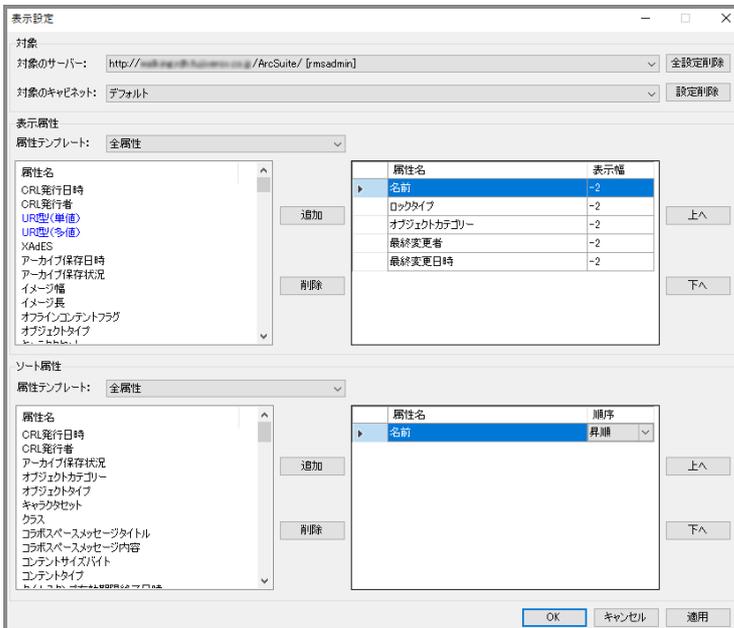
◆ [キャンセル] をクリックした場合

設定は変更されず、[メニュー設定画面] ダイアログボックスが閉じます。

3.3 属性項目の表示を設定する

リスト表示エリアに表示される属性項目や、オブジェクトの並び替えができます。

1. リスト表示エリアで、オブジェクトをクリックします。
2. 操作メニューの [表示] から [表示設定] を選択します。
[表示設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. [対象のサーバー] で、表示設定を変更するサーバーを選択します。
4. [対象のキャビネット] で、表示設定を変更するキャビネット、サービスのごみ箱、ローカルのごみ箱、またはローカルのフォルダーを選択します。
5. 表示属性を変更する場合は、[表示属性] で次のように操作します。

◆ 表示される属性項目を追加するとき

- (1) [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。
- (2) 左側の属性名一覧で、追加する属性名を選択します。
- (3) [追加] をクリックします。

◆ 表示されている属性項目を削除するとき

- (1) 右側の属性名一覧で、削除する属性名を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。

補足 [名前] は、削除できません。ローカルの表示設定では [ファイルの状態] も削除できません。

◆ 属性項目の並び順を変更するとき

- (1) 右側の属性名一覧で、属性名を選択します。
- (2) [上へ] または [下へ] をクリックします。

補足 ・ [表示属性] の右側の属性名一覧の並び順は、リスト表示エリア内の属性項目の並び順に対応します。
 ・ [名前] の並び順は、変更できません。
 ・ リスト表示エリアで、属性項目名をドラッグ&ドロップして属性項目の表示順を変更したあと、ショートカットメニューから [表示設定を保存] を選択しても、表示設定として保存できません。

◆ 属性項目の表示幅を変更するとき

(1) 右側の属性名一覧で、[表示幅] の数値を変更します。

補足 リスト表示エリアで、列の境界線をドラッグして表示幅を変更したあと、ショートカットメニューから [表示設定を保存] を選択しても、表示設定として保存できます。

6. オブジェクトの並び順を変更する場合は、[ソート属性] で次のように操作します。

◆ 並べ替えの基準となる属性項目を追加するとき

(1) [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。

(2) 左側の属性名一覧で、追加する属性名を選択します。

(3) [追加] をクリックします。

(4) [順序] で、[昇順] または [降順] を選択します。

(5) 並べ替えの基準となる属性項目を追加する場合は、手順 1 ~ 4 を繰り返します。

(6) 並べ替えの基準の優先順位を変更する場合は、[上へ] または [下へ] をクリックして属性名一覧の並び順を変更します。

補足 ・ [ソート属性] の右側の属性名一覧の並び順は、オブジェクトの並べ替えの基準となる属性項目の優先順位に対応します。

・ リスト表示エリアで、属性項目名をクリックして昇順 (▲) または降順 (▼) でソートしたあと、ショートカットメニューから [表示設定を保存] を選択しても、表示設定として保存できます。

◆ 並べ替えの基準となる属性の表示を削除するとき

(1) 右側の属性名一覧で、削除する属性名を選択します。

(2) [削除] をクリックします。

7. [OK] または [適用] をクリックします。

◆ [OK] をクリックした場合

設定が変更され、[表示設定] ダイアログボックスが閉じます。

◆ [適用] をクリックした場合

[表示設定] ダイアログボックスが表示された状態で、設定が変更されます。

◆ [キャンセル] をクリックした場合

設定は変更されず、[表示設定] ダイアログボックスが閉じます。

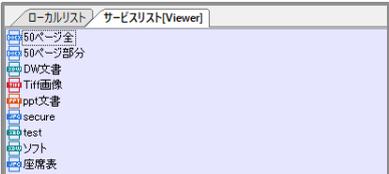
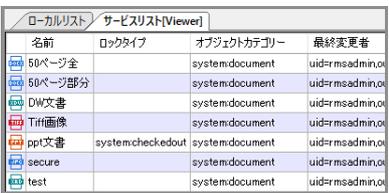
3.4 表示形式を切り替える

リスト表示エリアの表示形式を切り替えることができます。

1. (表示形式) をクリックし、[詳細]、[アイコン]、[一覧]、[セル] のどれかを選択します。

リスト表示エリアの表示形式が切り替わります。

- 補足**
- ・操作メニューの [表示] から [表示形式] > [詳細]、[アイコン]、[一覧]、[セル] のどれかを選択しても、表示形式が切り替わります。
 - ・リスト表示エリアで右クリックし、ショートカットメニューの [表示形式] から [詳細]、[アイコン]、[一覧]、[セル] のどれかを選択しても、表示形式が切り替わります。

表示形式	説明
詳細	<p>オブジェクトの属性がリスト形式で表示されます。</p> 
アイコン	<p>オブジェクトが大きいアイコンと名前で、次のように表示されます。</p> 
一覧	<p>オブジェクトが小さいアイコンと名前で、次のように表示されます。</p> 
セル	<p>オブジェクトの属性がセル形式で表示されます。 セルに直接、属性値を入力できます。</p>  <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セル形式では、行の背景色が交互に表示されます。 ・アプリケーション設定によっては、すべての行が同じ背景色で表示されます。 <p>参照 セル内を編集する操作⇒第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」(P.145)</p>

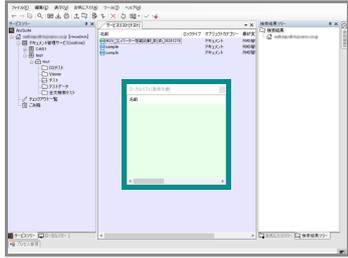
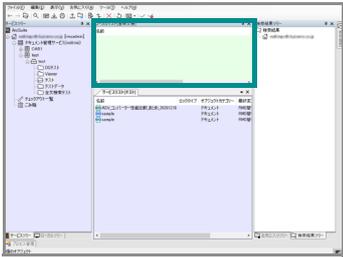
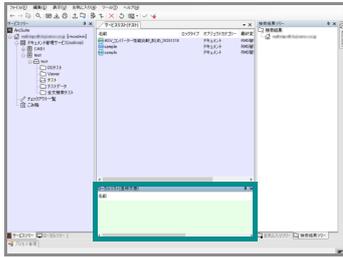
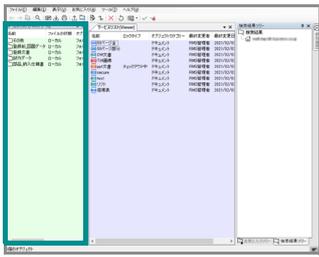
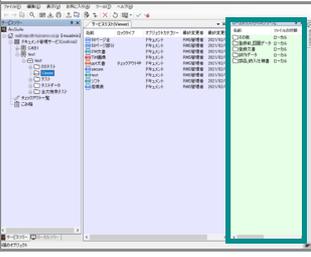
3.5 メイン画面のレイアウトを変更する

メイン画面は、各表示エリアをウィンドウ形式にして移動したり、非表示にしたりすることで、レイアウトを変更できます。

レイアウトを変更した状態でログアウトした場合、次にデスクトップクライアントを起動したり、ログインし直したりしたときは、変更後のレイアウトで表示されます。

ここでは、リスト表示を例に説明します。

■ ウィンドウ形式の種類

種類	説明
フローティング	<p>ウィンドウが浮いた状態になり、個別に移動できる表示形態です。</p> 
ドッキング	<p>ウィンドウをメイン画面に連結する表示形態です。 メイン画面の上側、下側、左側、または右側にドッキングできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上側にドッキングした例 ・ 下側にドッキングした例 ・ 左側にドッキングした例 ・ 右側にドッキングした例     <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツリー表示エリア（サービス、ローカル）が閉じている場合に、メイン画面の左側にドッキングできます。 ・ ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）が閉じている場合に、メイン画面の右側にドッキングできます。

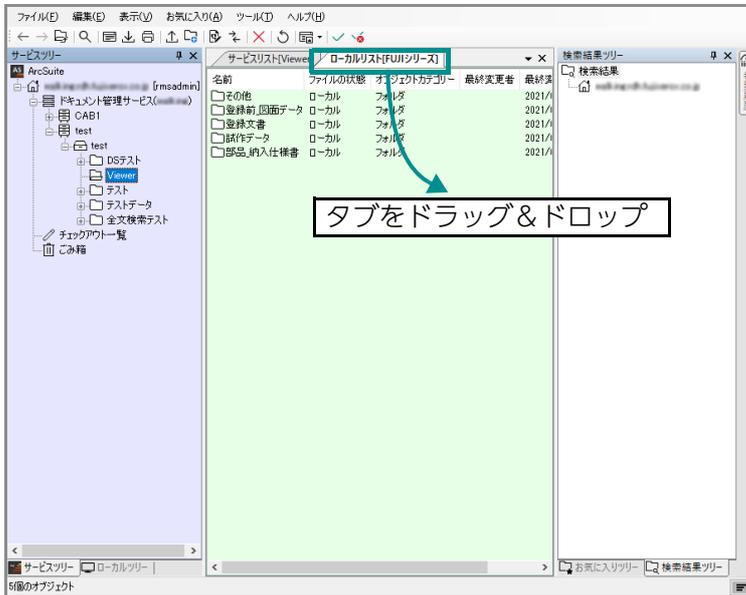
■ 開閉状態の切り替え

種類	説明
<p> /  (開閉状態の切り替え)</p>	<p>ウィンドウ右上にある、開閉状態の切り替えアイコンが  の場合は、ウィンドウは常に表示されます。</p> <p> をクリックすると、ウィンドウの位置で、最小化されたタブだけを残してウィンドウが隠れます。最小化されたタブにマウスポインターを合わせるとウィンドウが一時的に表示されます。このときの開閉状態の切り替えアイコンは  です。</p> <p>メイン画面の上側にドッキングしたウィンドウの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィンドウを隠した状態の例 ・ウィンドウを表示した例 <p>メイン画面の下側にドッキングしたウィンドウの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィンドウを隠した状態の例 ・ウィンドウを表示した例 <p>メイン画面の左側にドッキングしたウィンドウの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィンドウを隠した状態の例 ・ウィンドウを表示した例 <p>メイン画面の右側にドッキングしたウィンドウの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィンドウを隠した状態の例 ・ウィンドウを表示した例

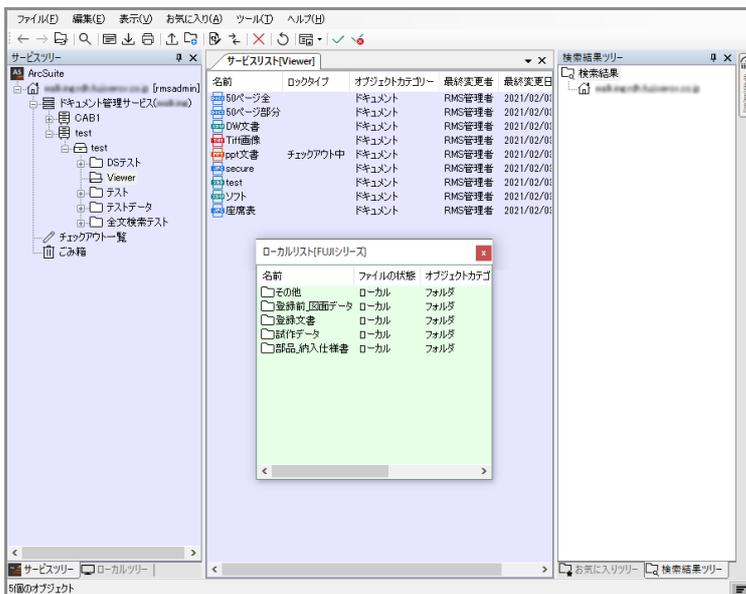
3.5.1 タブ形式からウィンドウ形式にする

リスト表示エリアとツリー表示エリアでは、タブ形式からウィンドウ形式に変更できます。リスト表示を例に説明します。

1. タブを、表示したい場所にドラッグ&ドロップします。



フローティング状態のウィンドウで表示されます。

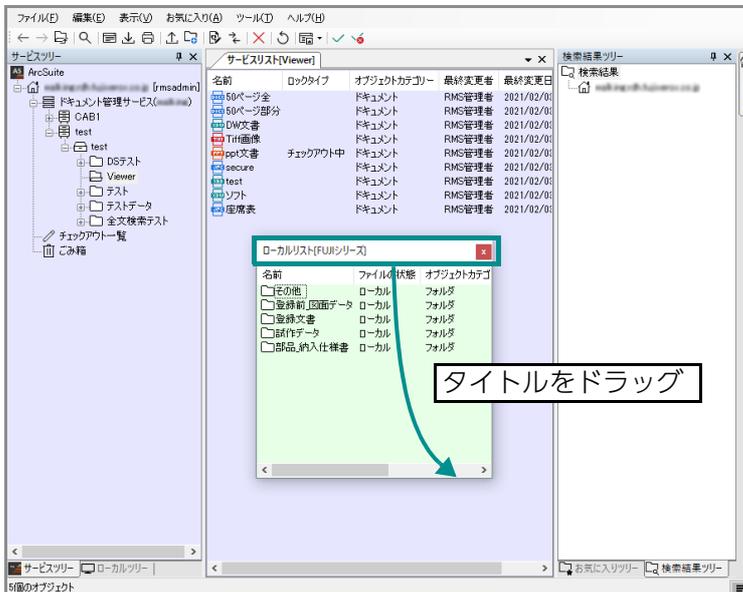


補足 タブをダブルクリックしても、フローティング状態のウィンドウで表示されます。

3.5.2 タブ形式に戻す

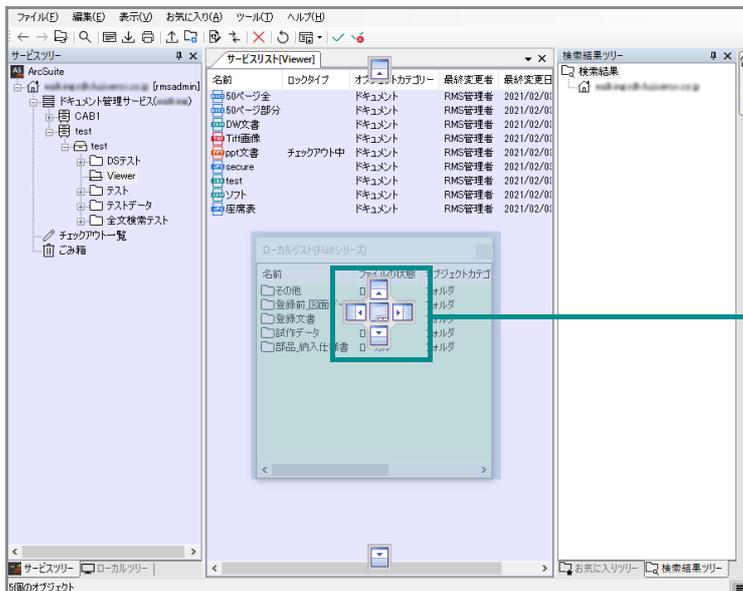
フローティング状態のウィンドウからタブ形式に戻すことができます。

1. フローティング状態のウィンドウのタイトルを、ドラッグします。



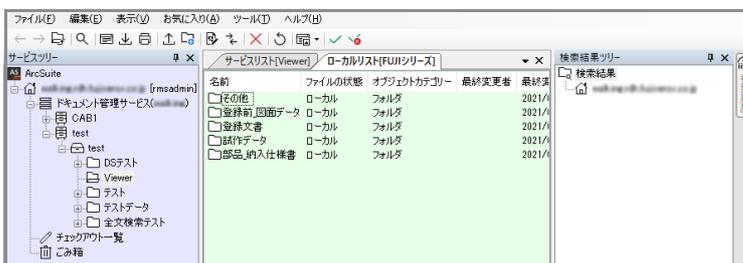
ドッキングのためのアイコンが表示されます。

2. タブ形式で表示したい場所のアイコンの上にドロップします。



補足 初期設定のタブ形式で表示したい場合は、の上にドロップします。

タブ形式に戻ります。

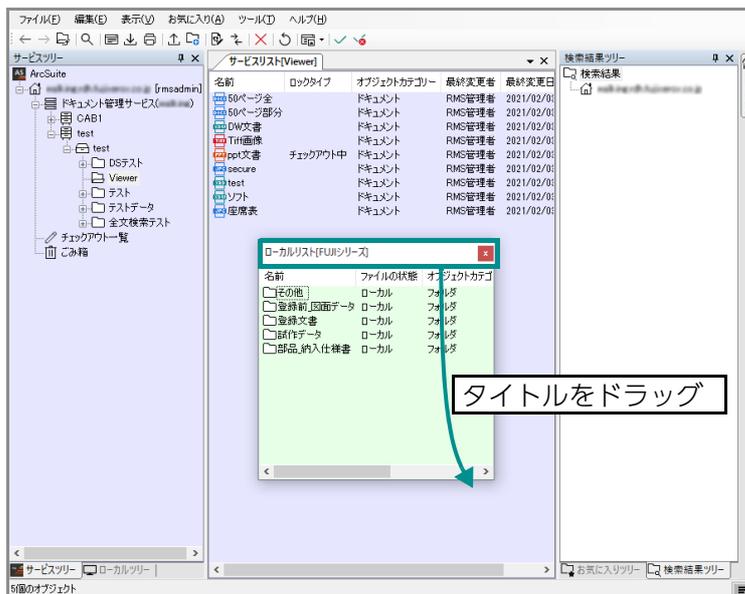


補足 フローティング状態のウィンドウのタイトルをダブルクリックすると、ウィンドウは、メイン画面内でフローティング状態にする前の表示位置に戻ります。たとえば、タブ形式からフローティング状態のウィンドウにした場合は、ウィンドウのタイトルをダブルクリックすると、タブ形式に戻ります。

3.5.3 ウィンドウをドッキングする

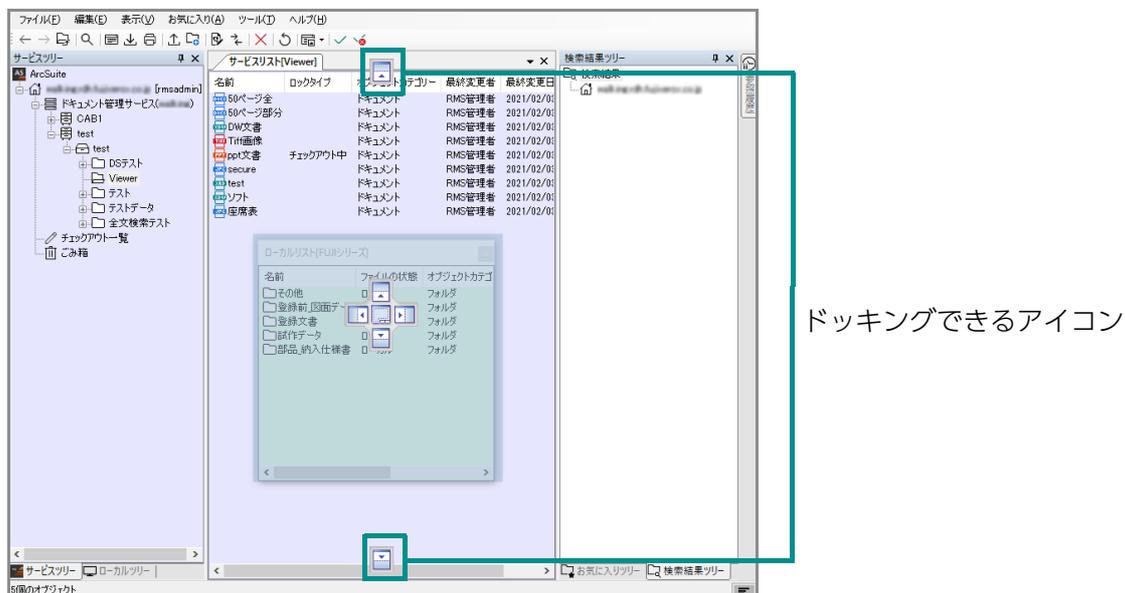
フローティング状態のウィンドウをメイン画面に連結できます。

1. フローティング状態のウィンドウのタイトルを、リスト表示エリアのドッキングしたい場所にドラッグします。



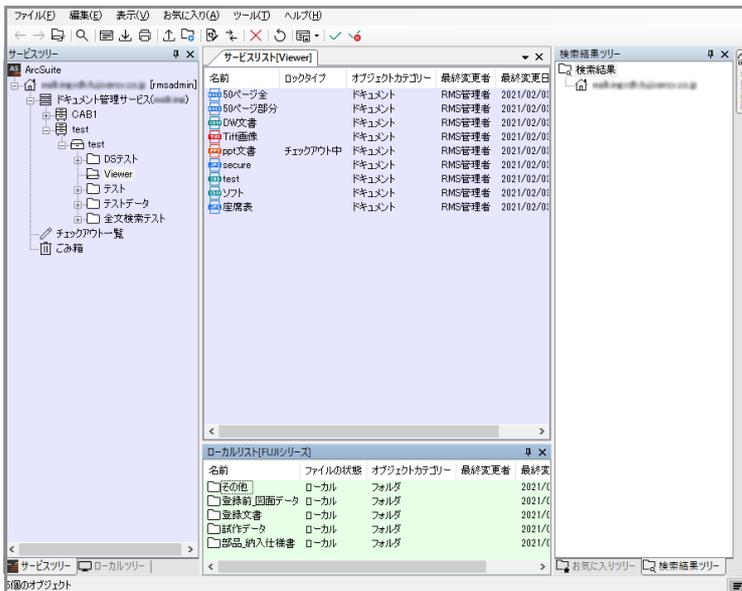
ドッキングのためのアイコンが表示されます。

2. ドッキングしたい場所のアイコンの上にドロップします。



補足 ツリー表示エリア（サービス、ローカル）が閉じている場合は左側に 、ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）と参照履歴表示エリアが閉じている場合は右側に  も表示されます。

メイン画面にドッキングされます。

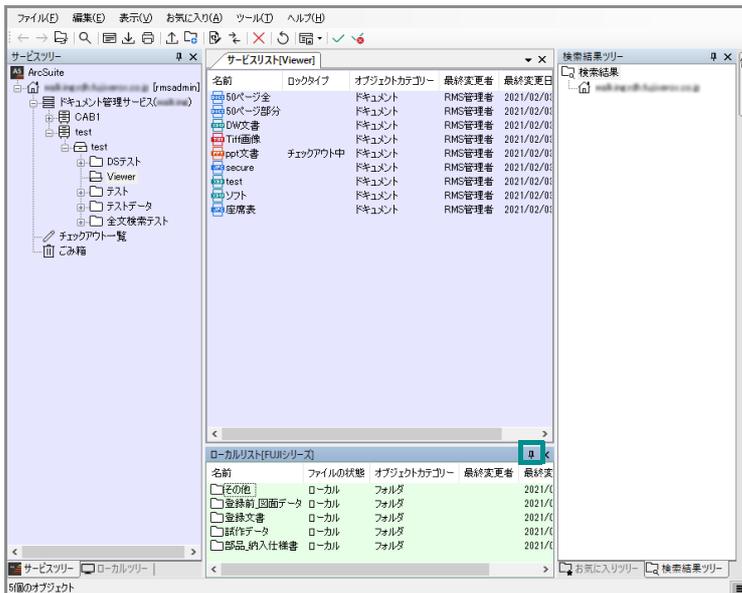


補足 上の画面は、メイン画面の下側にウィンドウをドッキングした例です。

3.5.4 表示エリアを自動的に隠す状態にする

各表示エリアを自動的に隠す状態にできます。リスト表示エリアを例に説明します。

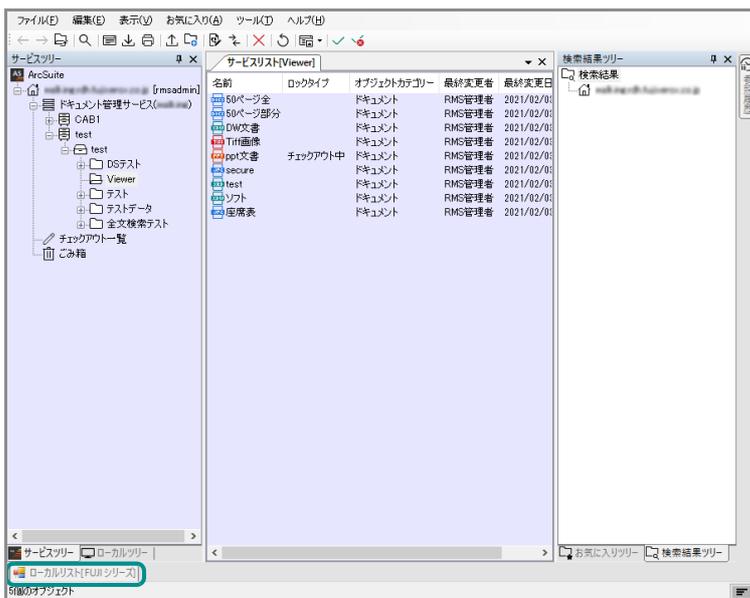
1. リスト表示エリアで、 (開閉状態の切り替え) をクリックします。



補足 上の画面は、メイン画面の下側にローカルリストをドッキングしている場合の例です。

最小化されたタブだけを残して、リストが自動的に隠れた状態になります。

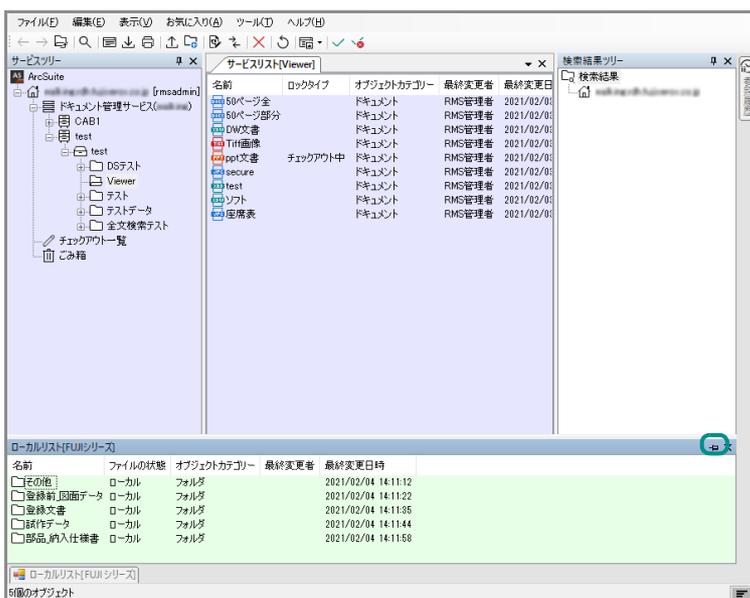
2. リストを表示する場合は、最小化されたタブにマウスポインターを移動します。



補足 上の画面は、メイン画面の下側にドッキングしていたウィンドウを隠す状態にした場合の例です。

マウスポインターを合わせたタブのウィンドウが一時的に表示されます。

3. リストを常に表示する場合は、 (開閉状態の切り替え) をクリックします。



補足 上の画面は、メイン画面の下側に隠れていたローカルリストを表示した場合の例です。

リストが常に表示されます。

3.5.5 標準レイアウトに戻す

メイン画面のレイアウトを標準レイアウトに戻すことができます。

1. 操作メニューの [表示] から [標準レイアウトに戻す] を選択します。

メイン画面のレイアウトが標準レイアウトに戻ります。

3.6 属性値を入力する

[検索画面]、[版管理開始]、[プロパティ] ダイアログボックスや、セル形式で表示されているリストでは、属性値を入力できます。

[検索画面]、[版管理開始]、[プロパティ] ダイアログボックスを例に、属性値を入力する操作について説明します。属性の種類によって、属性値の入力方法が異なります。

入力補助機能（ヒントメニュー、属性値変換）を設定している場合は、入力補助機能を使用して、属性を入力することもできます。

- 参照
 - ・セル形式で表示されているリストで属性値を入力する操作 ⇒ 第 2 部 [\[4.2 セル形式で属性値を直接入力する\]](#) (P.145)
 - ・入力補助機能を使用して属性値を入力する操作 ⇒ 第 3 部 [\[6 入力補助機能を使用する\]](#) (P.224)

◆ [検索画面] ダイアログボックス

- ・オブジェクトを検索するとき

The screenshot shows the '検索画面' (Search Screen) dialog box. It features a search criteria table with columns for '名前' (Name), '演算子' (Operator), and '属性内容' (Attribute Content). The '属性内容' column has an '入力' (Input) button next to it. A red box highlights this input field, with a callout line pointing to the text '属性値入力欄' (Attribute Value Input Field). Another callout line points to a dropdown arrow in the '属性内容' column, with text explaining that it appears for candidate value input fields. A third callout line points to the '入力' button, with text explaining that it appears for date, URI, principal, and user role type attributes.

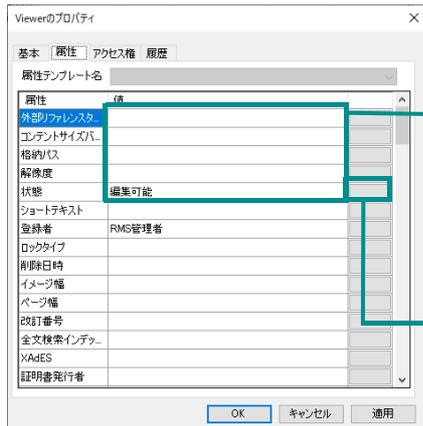
- ・オブジェクトの存在を確認するとき

The screenshot shows the '検索画面' (Search Screen) dialog box with the search criteria table. The '属性内容' column has an '入力' (Input) button next to it. A red box highlights this input field, with a callout line pointing to the text '属性値入力欄' (Attribute Value Input Field).

◆ [版管理開始] ダイアログボックス

The screenshot shows the '版管理開始' (Start Version Management) dialog box. It features a table with columns for '属性' (Attribute) and '値' (Value). The '値' column has an '入力' (Input) button next to it. A red box highlights this input field, with a callout line pointing to the text '属性値入力欄' (Attribute Value Input Field). Another callout line points to the '入力' button, with text explaining that it appears for date type attributes (single value).

◆ [プロパティ] ダイアログボックス



属性値入力欄

- ・ 黒文字の属性名は、システム属性です。[名前] だけ変更できません。
- ・ 青文字の属性名は、ユーザー属性です。すべて変更できます。

[入力]

日時型、URI型、ブール型、プリンシパル型、またはユーザーロール型属性の場合に表示されます。

3.6.1 文字や数字を入力する

文字や数字を入力する操作について説明します。

1. 文字や数字を入力する属性値入力欄をクリックします。

名前

クリックした属性値入力欄が青色で表示されます。

2. もう一度クリックします。

名前

属性値入力欄が入力可能な状態になります。

- 補足**
- ・ <F2> キーを押しても、属性値入力欄が入力可能な状態になります。
 - ・ [検索画面] ダイアログボックスでは、一度のクリックで属性値入力欄が入力可能な状態になります。

3. 文字や数字を入力します。

名前

3.6.2 候補値から選択する

候補値が設定されている属性では、[▼] が表示されます。

1. [▼] をクリックします。



2. 候補値から属性値を選択します。

3.6.3 [入力] をクリックして入力する

[入力] をクリックして、属性値を入力する操作を説明します。

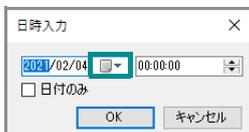
日付をカレンダーから入力する

日時型属性（単値・多値）で、日付をカレンダーから入力する操作を説明します。

- 補足**
- ・直接、属性値入力欄に「YYYY/MM/DD HH:MM:SS」形式で年月日時分秒を入力することもできます。
 - ・時分秒を省略し、「YYYY/MM/DD」だけ入力した場合は、時分秒には「00:00:00」が設定されます。
 - ・オブジェクトの存在を確認する場合の「検索画面」ダイアログボックスでは、カレンダーから日付を入力できません。

1. [入力] をクリックします。
[日時入力] ダイアログボックスが表示されます。
2. 📅 (カレンダー) をクリックします。

◆ 単値属性の場合



カレンダーが表示されます。

3. 日付をクリックします。



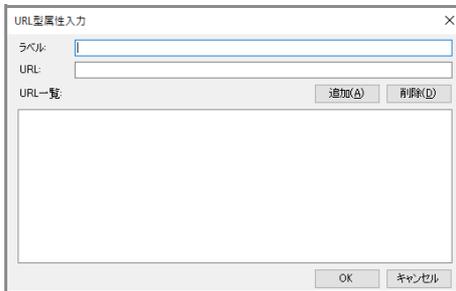
日付が設定され、[日時入力] ダイアログボックスに戻ります。

4. [日付のみ] が表示されている [日時入力] ダイアログボックスで時間を指定したくない場合は、[日付のみ] にチェックマークを付けます。
5. [OK] をクリックします。

URL を入力する

URI型属性（多値）で、URLとそのラベルを入力する操作について説明します。

1. [入力] をクリックします。
[URL 型属性入力] ダイアログボックスが表示されます。

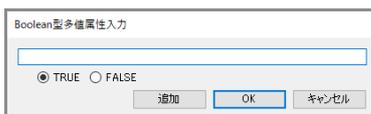


2. [ラベル] を入力します。
3. [URL] を入力します。
4. [追加] をクリックします。
[URL 一覧] に URL が追加されます。
補足 [URL 一覧] で URL を選択して [削除] をクリックすると、選択した URL が削除されます。
5. 手順 2 ~ 4 を繰り返します。
6. [OK] をクリックします。

TRUE か FALSE かを選択する

ブール型属性（多値）で、TRUE（真）かFALSE（偽）かを選択する操作について説明します。

1. [入力] をクリックします。
[Boolean 型多値属性入力] ダイアログボックスが表示されます。



2. 判定に使用する値を入力します。
3. [TRUE] か [FALSE] かを選択します。
4. [追加] をクリックします。
5. 手順 2 ~ 4 を繰り返します。
6. [OK] をクリックします。

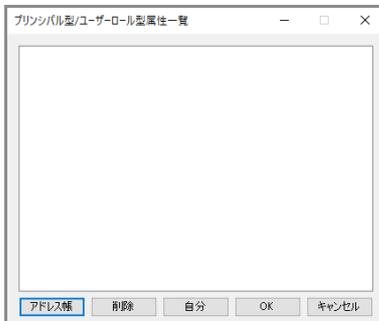
ユーザー、グループ、ユーザーロールを選択する

プリンシパル型属性（単値・多値）やユーザーロール型属性（単値・多値）で、ユーザー、グループ、ユーザーロールを選択する操作について説明します。

アドレス帳を使用できます。

1. [入力] をクリックします。

[プリンシパル型 / ユーザーロール型属性一覧] ダイアログボックスが表示されます。

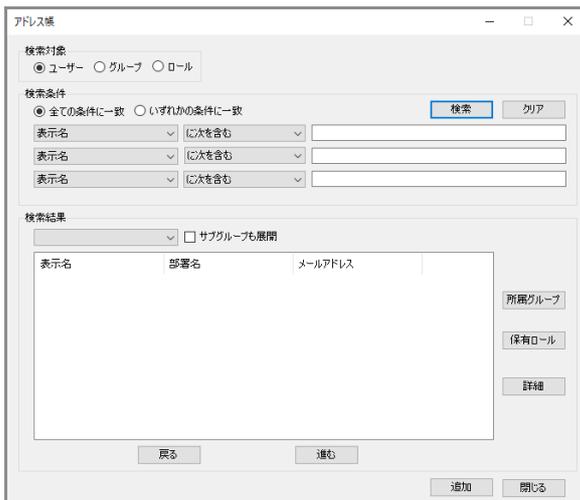


補足 [自分] をクリックすると、現在ログインしているユーザー名が追加されます。

2. [アドレス帳] をクリックします。

[アドレス帳] ダイアログボックスが表示されます。

3. [検索対象] で、[ユーザー]、[グループ]、[ロール] のどれかを選択します。



4. [検索条件] を設定します。

(1) 検索条件を複数設定する場合は、[全ての条件に一致] または [いずれかの条件に一致] を選択します。

補足 検索条件は、3 つまで設定できます。

(2) [表示名] で、検索の基準となる項目を選択します。

(3) [に次を含む] で、[に次を含む]、[が次と等しい]、[が次から始まる]、[が次で終わる] のどれかを選択します。

(4) 検索条件入力欄に検索条件を入力します。

5. [検索] をクリックします。

検索されたユーザー、グループ、またはユーザーロールが [検索結果] に表示されます。



- 補足**
- ・ 検索結果で、ユーザーまたはグループを選択して [所属グループ] をクリックすると、ユーザーまたはグループの所属グループが表示されます。
 - ・ 検索結果で、ユーザーまたはグループを選択して [保有ロール] をクリックすると、ユーザーまたはグループの保有ロールが表示されます。
 - ・ 検索結果で、ユーザーを選択して [詳細] をクリックすると、ユーザーの詳細情報が表示されます。
 - ・ [サブグループも展開] をクリックすると、選択されているグループに所属するか、ユーザーロールを保持するグループまたはユーザーが表示されます (グループ / ユーザー展開)。
 - ・ [サブグループも展開] にチェックマークを付けると、グループのサブグループも表示されます。
 - ・ グループ / ユーザー展開された場合、[戻る] をクリックすると、グループ / ユーザー展開される直前の内容が表示されます。
 - ・ グループ / ユーザー展開された場合、[進む] をクリックすると、グループ / ユーザー展開された直後の内容が表示されます。

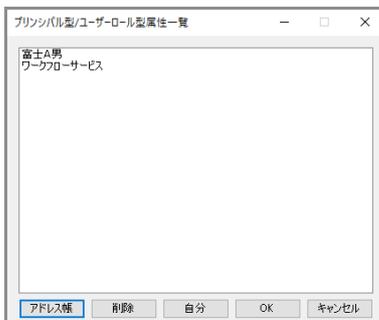
6. [検索結果] で属性値に設定するユーザー、グループ、またはユーザーロールを選択します。

- 補足** 複数のユーザー、グループ、ユーザーロールを選択できます。

7. [追加] をクリックします。

[プリンシパル型 / ユーザーロール型属性一覧] ダイアログボックスの一覧に、ユーザー、グループ、またはユーザーロールが追加されます。

8. 属性値に設定するユーザー、グループ、ユーザーロールを選択します。



- 補足** ユーザー、グループ、またはユーザーロールを選択して [削除] をクリックすると、選択したユーザー、グループ、またはユーザーロールが削除されます。

9. [OK] をクリックします。

属性値が設定されます。

- 補足** 複数の属性値を設定した場合は、「|」（半角パイプ文字）で区切られて表示されます。

3.6.4 検索条件を入力する

オブジェクトの検索やオブジェクトの存在を確認するための検索で、検索条件を入力するときに使用できる特殊文字などについて説明します。

オブジェクトの検索

オブジェクトを検索する場合、[検索画面] ダイアログボックスで検索条件を入力するときの、文字列型属性に使用できる特殊文字、複数の属性値の入力方法は、次のとおりです。

参照 オブジェクトを検索する操作 ⇒ 第2部 [「2.3 オブジェクトを検索する」\(P.90\)](#)

■ 文字列型属性に使用できる特殊文字

項目	説明
* (半角、全角)	0文字以上の任意の文字列を指定します。
? (半角、全角)	任意の1文字を指定します。
¥ (半角のみ)	特殊文字または区切り文字 (半角スペース、全角スペース) の前に置くことで、特殊文字または区切り文字を文字列として認識します。

■ 複数の属性値の入力方法

項目	説明
[名前] などの単値属性に複数の条件を指定する場合	半角スペースまたは全角スペースで区切って入力します。 例: 「A B C」 <ul style="list-style-type: none"> ・ [演算子] で [いずれか] を指定している場合、名前が A、B、または C のオブジェクトが検索されます。 ・ [演算子] で [いずれかを含む] を指定している場合、名前に A、B、C のどれかを含むオブジェクトが検索されます。 ・ [演算子] で [全て含む] を指定している場合、名前に A、B、C のすべてを含むオブジェクトが検索されます。
[契約者] などの多値属性に複数の条件を指定する場合	「 」 (半角パイプ文字) で区切って入力します。 例: 「A B C」 <ul style="list-style-type: none"> ・ [演算子] で [いずれか] を指定している場合、契約者名が A、B、または C であるオブジェクトが検索されます。 ・ [演算子] で [いずれかを含む] を指定している場合、契約者名に A、B、C のどれかを含むオブジェクトが検索されます。 ・ [演算子] で [全て含む] を指定している場合、契約者名に A、B、C のすべてを含むオブジェクトが検索されます。
数値の範囲を指定する場合	半角スペースで区切って入力します。 例: 1以上10以下を指定する場合 「1 10」
期間を指定する場合	開始日時と終了日時を「~ (チルダ)」で連結します。 例: 2021/01/01 00:00:00~2022/01/01 00:00:00

検索条件を入力する場合（存在確認検索）

オブジェクトの存在を確認する場合、[検索画面] ダイアログボックスで検索条件を入力するときの、文字列型属性に使用できる特殊文字、および単値属性と多値属性に使用できる特殊文字は、次のとおりです。

参照 オブジェクトの存在を確認する操作 ⇒ 第2部 [「2.4 オブジェクトがサービス内に存在するかを確認する」](#) (P.99)

■ 文字列型属性に使用できる特殊文字

項目	説明
* (半角、全角)	0文字以上の任意の文字列を指定します。
? (半角、全角)	任意の1文字を指定します。
¥ (半角のみ)	特殊文字または区切り文字（半角スペース、全角スペース）の前に置くことで、特殊文字または区切り文字を文字列として認識します。
,	OR検索され、いずれかの検索条件を満たすオブジェクトが検索されます。
&	AND検索され、すべての条件を満たすオブジェクトが検索されます。
!	演算子の右側に記述された条件以外の条件を満たすオブジェクトが検索されます。 「NULL」と「ISNULL」以外の演算子に対しては使用できません。 例：ABC以外の値を指定する場合「!ABC」 値を持つものを指定する場合「!NULL」、「!ISNULL」
<	検索条件よりも小さい属性値を持つオブジェクトが検索されます。 例：1111よりも小さい値を指定する場合「<1111」
>	検索条件よりも大きい属性値を持つオブジェクトが検索されます。 例：1111よりも大きい値を指定する場合「>1111」
<=	検索条件以下の属性値を持つオブジェクトが検索されます。 例：1111以下の値を指定する場合「<=1111」
>=	検索条件以上の属性値を持つオブジェクトが検索されます。 例：1111以上の値を指定する場合「>=1111」
NULL	属性値に値を持たないオブジェクトが検索されます。
ISNULL	属性値に値を持たないオブジェクトが検索されます。

■ 単値属性と多値属性に使用できる特殊文字

項目		使用できる特殊文字
単値属性	文字列型	「*」、「?」、「,」、「&」、「!」、「<」、「>」、「<=」、「>=」、「NULL」、「ISNULL」 補足 「,」 と 「&」 は、同時に使用できません。たとえば、「A&B&C」や「A,B,C」のように指定できますが、「A&B,C」のように指定できません。
	数値型、日時型	「,」、「&」、「!」、「<」、「>」、「<=」、「>=」、「NULL」、「ISNULL」 補足 「,」 と 「&」 は、同時に使用できません。たとえば、「1&2&3」や「1,2,3」のように指定できますが、「1&2,3」のように指定できません。

項目		使用できる特殊文字
単値属性	アトム型	「,」、[NULL]、[ISNULL] 補足 複数指定できます。
	ブール型、ユーザーロール型、プリンシパル型	[NULL]、[ISNULL] 補足 複数指定できません。
多値属性	文字列型	「*」、「?」、「,」、[NULL]、[ISNULL]
	数値型、日時型、アトム型、ブール型	「,」、[NULL]、[ISNULL] 補足 複数指定できます。
	ユーザーロール型、プリンシパル型	[NULL]、[ISNULL] 補足 複数指定できません。

3.7 表示を最新に更新する

メイン画面の表示を最新の情報に更新できます。

補足 次の場合は、自動的に最新の情報に更新されます。

- ・ リスト表示エリアのオブジェクトが削除された場合
- ・ セル形式のリスト表示エリアで、オブジェクトの属性が変更された場合
- ・ リスト表示エリアにオブジェクトが追加された場合
- ・ 表示設定が変更された場合

1. ツリー表示エリア（サービス、ローカル）、ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果、参照履歴）、またはリスト表示エリアで、オブジェクト（ドキュメント管理サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）をクリックします。

2. （最新の情報に更新）をクリックします。

メイン画面の情報が最新の情報に更新されます。

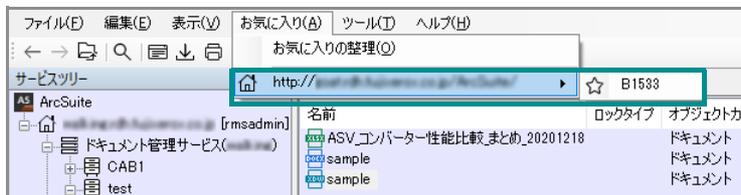
補足 ・ 操作メニューの [表示] から [最新の情報に更新]、またはショートカットメニューの [最新の情報に更新] を選択しても、最新の情報に更新できます。
・ <F5> キーを押しても、最新の情報に更新できます。

3.8 お気に入りを追加、整理する

よく使うサービスのオブジェクトをお気に入りに追加できます。

追加したお気に入りは、[お気に入りツリー]、および操作メニューの [お気に入り] のサブメニューに表示されます。

・操作メニューの [お気に入り] のサブメニュー



補足 お気に入りにには、検索条件や、配布された共有設定のお気に入りにも追加できます。

参照 ・検索条件をお気に入りに追加する操作 ⇒ 第2部 [「2.3.3 検索設定を管理する」](#) (P.94)
 ・配布された共有設定のお気に入りに追加する操作 ⇒ [「2 起動と終了」](#) (P.27)

3.8.1 お気に入りを追加する

よく使うオブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）をお気に入りに追加できます。

1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、お気に入りに追加するオブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を選択します。

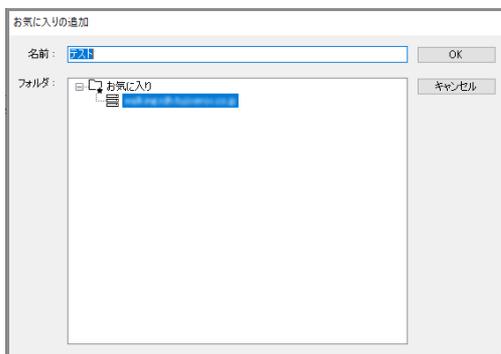
補足 [検索結果ツリー] で、[検索結果 [YYYYMMDDhhmmss 形式の日時]] も選択できます。

2. 操作メニューの [お気に入り] から [お気に入りに追加] を選択します。

[お気に入りに追加] ダイアログボックスが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [お気に入り追加] を選択しても、お気に入りに追加できます。

3. 必要に応じて、[名前] を入力します。



補足 [名前] には、選択したオブジェクトの名前が表示されています。

4. [フォルダ] で、格納先のオブジェクト（ドキュメント管理サービスまたはフォルダー）を選択します。

補足 [お気に入りルート] は選択できません。

5. [OK] をクリックします。

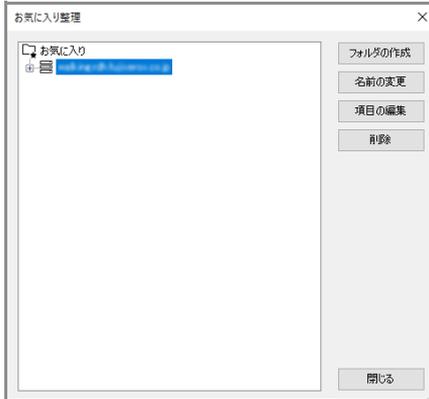
選択したオブジェクトが、お気に入りに追加されます。

3.8.2 お気に入りを整理する

フォルダーの作成、お気に入りの名前の変更、お気に入りの削除などができます。

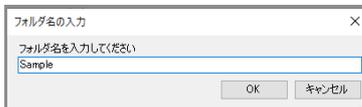
補足 [共有] および [共有] 以下にあるお気に入りに対しては、[お気に入り整理] ダイアログボックスでの操作はできません。

1. 操作メニューの [お気に入り] から [お気に入りの整理] を選択します。
[お気に入り整理] ダイアログボックスが表示されます。



2. フォルダーを作成する場合は、次のように操作します。

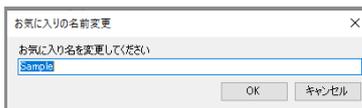
- (1) ツリーから、フォルダーを作成するオブジェクト（ドキュメント管理サービスまたはフォルダー）を選択します。
- (2) [フォルダの作成] をクリックします。
[フォルダ名の入力] ダイアログボックスが表示されます。
- (3) フォルダーの名前を入力します。



- (4) [OK] をクリックします。
フォルダーが作成され、[お気に入り整理] ダイアログボックスに戻ります。

3. お気に入りの名前を変更する場合は、次のように操作します。

- (1) ツリーから、[お気に入りのオブジェクト] または [お気に入りの検索条件] を選択します。
- (2) [名前の変更] をクリックします。
[お気に入りの名前変更] ダイアログボックスが表示されます。
- (3) 変更後の名前を入力します。



- (4) [OK] をクリックします。
お気に入りの名前が変更され、[お気に入り整理] ダイアログボックスに戻ります。

4. お気に入りの属性項目の表示を変更する場合は、次のように操作します。

- (1) ツリーから、[お気に入りのオブジェクト] を選択します。
- (2) [項目の編集] をクリックします。
[表示設定] ダイアログボックスが表示されます。

(3) 属性項目の表示設定を変更します。

補足 [対象] の [対象のサーバー] および [対象のキャビネット] は変更できません。

参照 属性項目の表示を変更する操作 ⇒ 第2部 [\[2.3.4 検索結果の表示を設定する\]](#) (P.97)

(4) [OK] をクリックします。

設定が変更され、[お気に入り整理] ダイアログボックスに戻ります。

5. お気に入りに追加した検索条件を変更する場合は、次のように操作します。

(1) ツリーから、[お気に入りの検索条件] を選択します。

(2) [項目の編集] をクリックします。

[検索画面] ダイアログボックスが表示されます。

(3) 検索条件を変更します。

補足 [検索] タブの [検索設定] は変更できません。

参照 検索条件を変更する操作 ⇒ 第2部 [\[2.3.4 検索結果の表示を設定する\]](#) (P.97)

(4) [OK] をクリックします。

検索条件が変更され、[お気に入り整理] ダイアログボックスに戻ります。

6. お気に入りの格納先を変更する場合は、次のように操作します。

(1) ツリーから、[お気に入りのオブジェクト] または [お気に入りの検索条件] を選択します。

(2) 変更したい格納先のオブジェクト（ドキュメント管理サービスまたはフォルダー）に、ドラッグ&ドロップします。

補足 異なるドキュメント管理サービスには変更できません。

7. お気に入りの並び順を変更する場合は、次のように操作します。

(1) ツリーから、[お気に入りのオブジェクト] または [お気に入りの検索条件] を選択します。

(2) 並び順を変更したい位置に、ドラッグ&ドロップします。

8. お気に入りを削除する場合は、次のように操作します。

(1) ツリーから、[お気に入りのオブジェクト] または [お気に入りの検索条件] を選択します。

(2) [削除] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

(3) [OK] をクリックします。

お気に入りの削除が完了し、[お気に入り整理] ダイアログボックスに戻ります。

9. お気に入りの整理が終了したら、[閉じる] をクリックします。

4 操作の流れ

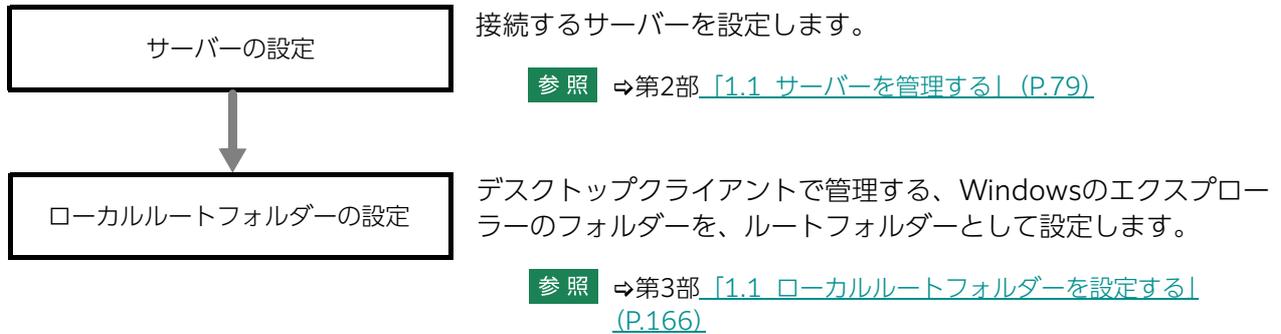
この章では、デスクトップクライアントの設定、ドキュメントの表示、ドキュメントの登録、および編集の流れについて説明します。

4.1 デスクトップクライアントを設定する

はじめてデスクトップクライアントを使用する場合は、接続するサーバー、およびローカルルートフォルダーを設定する必要があります。

4.1.1 はじめてデスクトップクライアントを設定する場合

はじめてデスクトップクライアントを使用する場合の設定の流れは、次のとおりです。



補足 Active Directory を使用して共有設定ファイルを配布する運用の場合、接続するサーバーが設定されている共有設定を適用したときは、サーバーの設定の操作は必要ありません。

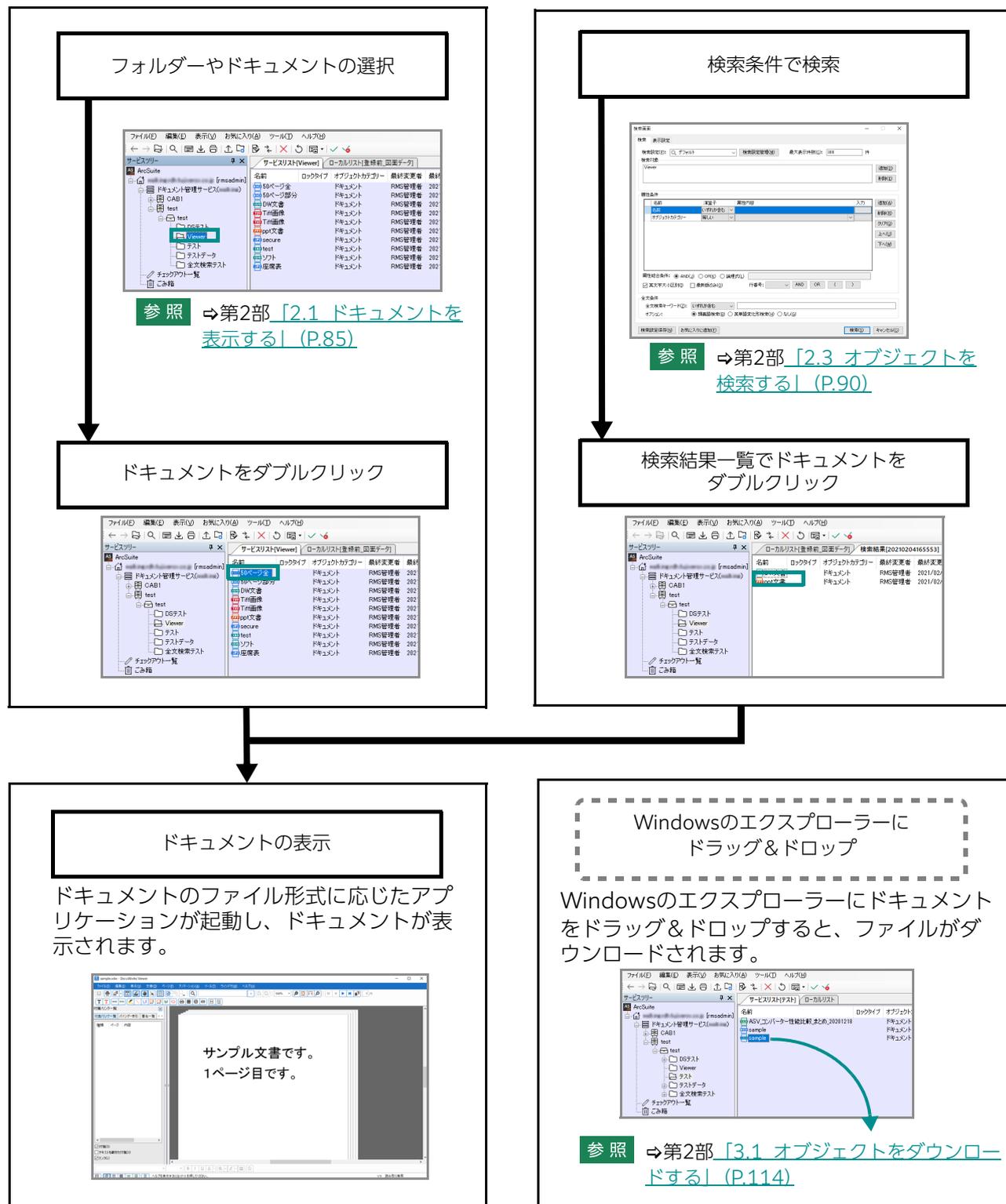
4.1.2 設定済みの情報を使用する場合

設定済みの情報を使用する場合の設定の流れは、次のとおりです。



4.2 ドキュメントを表示する

ドキュメントを表示する流れは、次のとおりです。



4.3 ドキュメントを登録する

サービスにドキュメントを新規に登録する方法には、次の方法があります。

■ 直接登録する

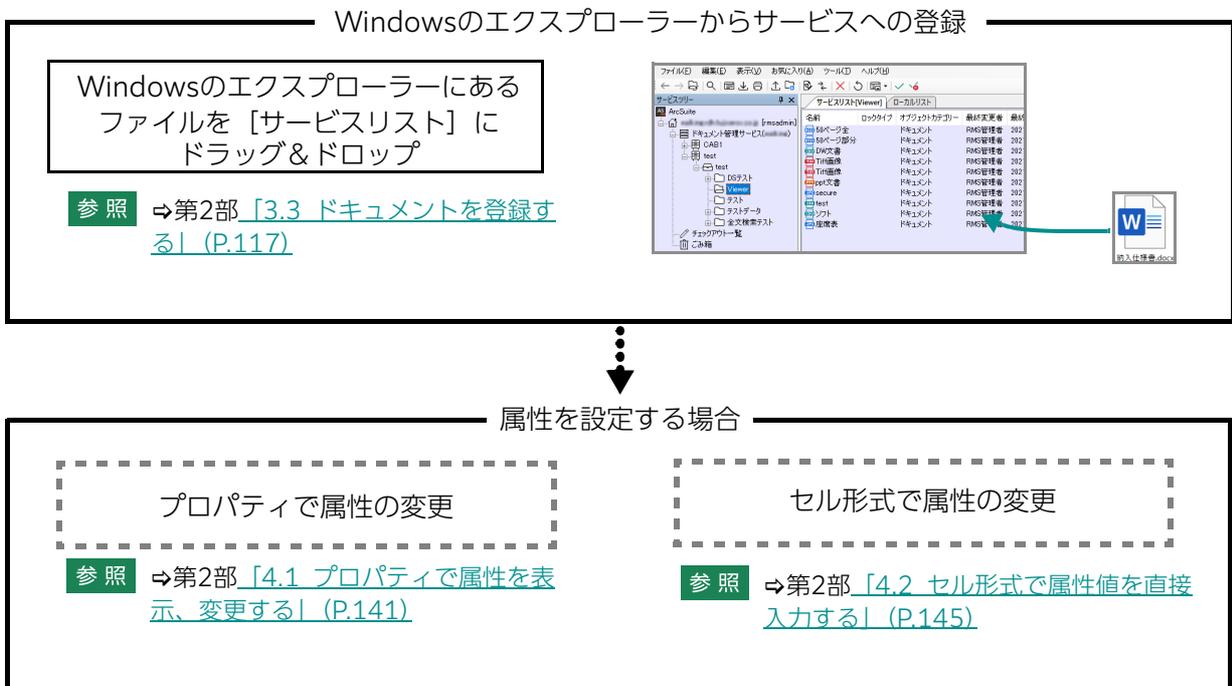
Windowsのエクスプローラーにあるファイルを直接サービスに登録します。必要に応じて、プロパティやセルに直接入力して属性を設定します。

■ ローカル経由で登録する

Windowsのエクスプローラーにあるファイルをいったんローカルに登録し、必要に応じて属性を設定した上で、サービスに登録します。CSVファイルを使うと、複数のドキュメントの属性を一括で登録することもできます。

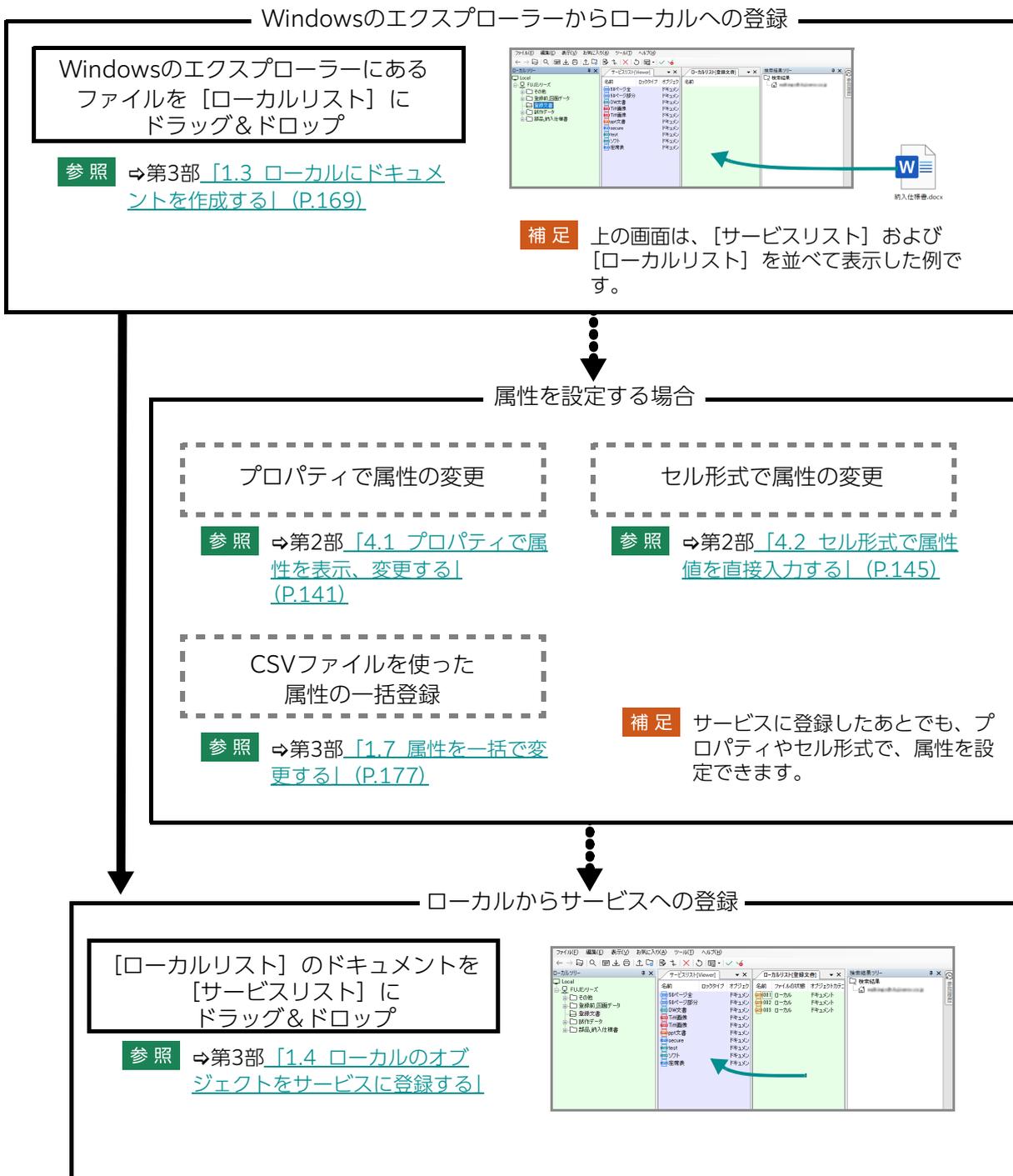
4.3.1 サービスに直接登録する

ドキュメントを直接登録する流れは、次のとおりです。



4.3.2 ローカル経由でサービスに登録する

ドキュメントをローカル経由でサービスに登録する流れは、次のとおりです。



4.4 ドキュメントを編集する

サービスのドキュメントを編集する方法には、次の方法があります。

■ サービスのドキュメントを直接編集する（リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存）

[サービスリスト] からアプリケーションを起動して、ドキュメントを編集します。編集中は、チェックアウトされるので、ほかのユーザーは更新や削除ができません。編集終了後は、リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存から保存方法を選択できます。

参照 直接編集する操作の流れ ⇒ 第1部 [\[4.4.1 直接編集する（リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存）\]](#) (P.73)

■ ローカルで編集する

- ・ローカルに取り出して編集する（上書き）
ドキュメントを [ローカルリスト] に取り出したあと、[ローカルリスト] からアプリケーションを起動して、編集します。編集中は、ロックされるので、ほかのユーザーは更新や削除ができません。複数のドキュメントの属性を、CSV ファイルを使って一括で更新することもできます。編集終了後は、アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従って、サービスのドキュメントが更新されます。

参照 ・ローカルに取り出して編集する操作の流れ ⇒ 第1部 [\[4.4.2 ローカルに取り出して編集する（上書き）\]](#) (P.74)

・上書き登録モード ⇒ 第3部 [\[5.2.10 「登録振舞」タブ\]](#) (P.218)

- ・編集後のファイルを指定してチェックインする（改訂）
クライアント PC にダウンロードして編集したファイルを、チェックイン時のファイルに指定します。チェックイン時にセカンダリコンテンツ（インデックス画像、部分画像、プリント画像）を指定できます。

参照 編集後のファイルを指定してチェックインする操作の流れ ⇒ 第1部 [\[4.4.3 編集後のファイルを指定してチェックインする（改訂）\]](#) (P.75)

- ・ドラッグ&ドロップで改訂する
クライアント PC にダウンロードして編集したファイルを、サービスのドキュメントにドラッグ&ドロップしてリビジョンアップします。

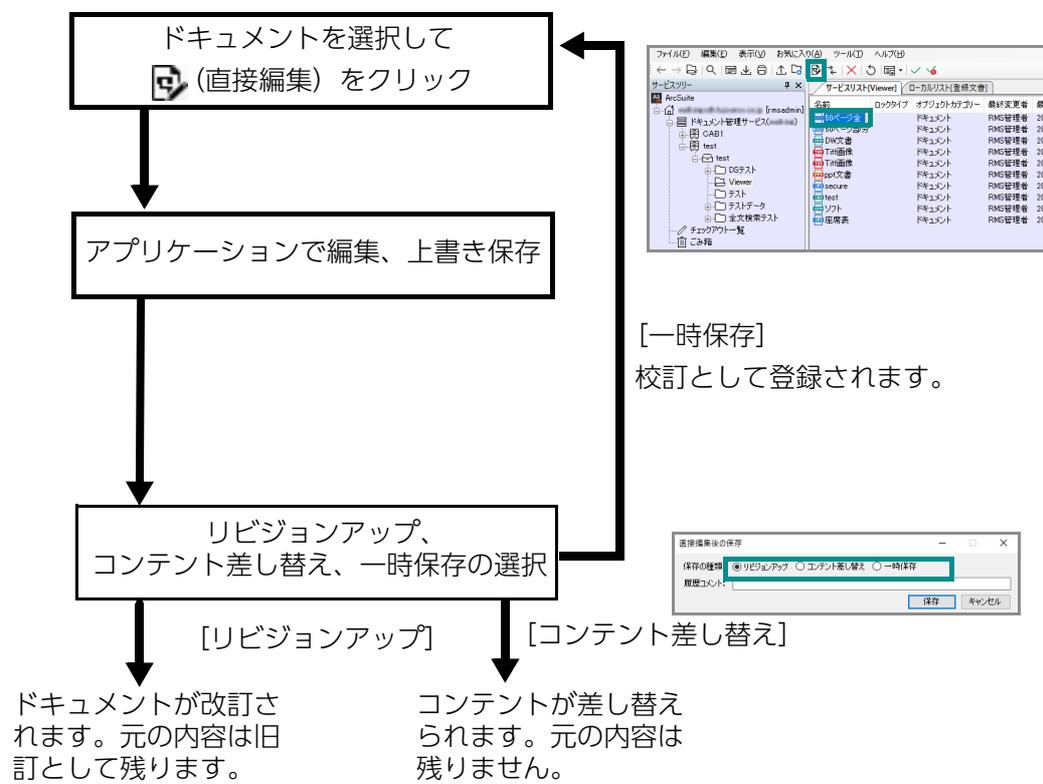
参照 編集後のファイルをドラッグ&ドロップして改訂する操作の流れ ⇒ 第1部 [\[4.4.4 ドラッグ&ドロップで改訂する\]](#) (P.76)

- ・コンテンツを差し替える
ドキュメントのコンテンツをクライアント PC のファイルと差し替えます。元のコンテンツを編集したものに差し替えたい場合は、サービスのドキュメントをクライアント PC にダウンロードし、編集したファイルを元のコンテンツと差し替えます。

参照 コンテンツを差し替える操作の流れ ⇒ 第1部 [\[4.4.5 ドキュメントのコンテンツを差し替える\]](#) (P.77)

4.4.1 直接編集する（リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、一時保存）

サービスのドキュメントを直接編集する流れは、次のとおりです。

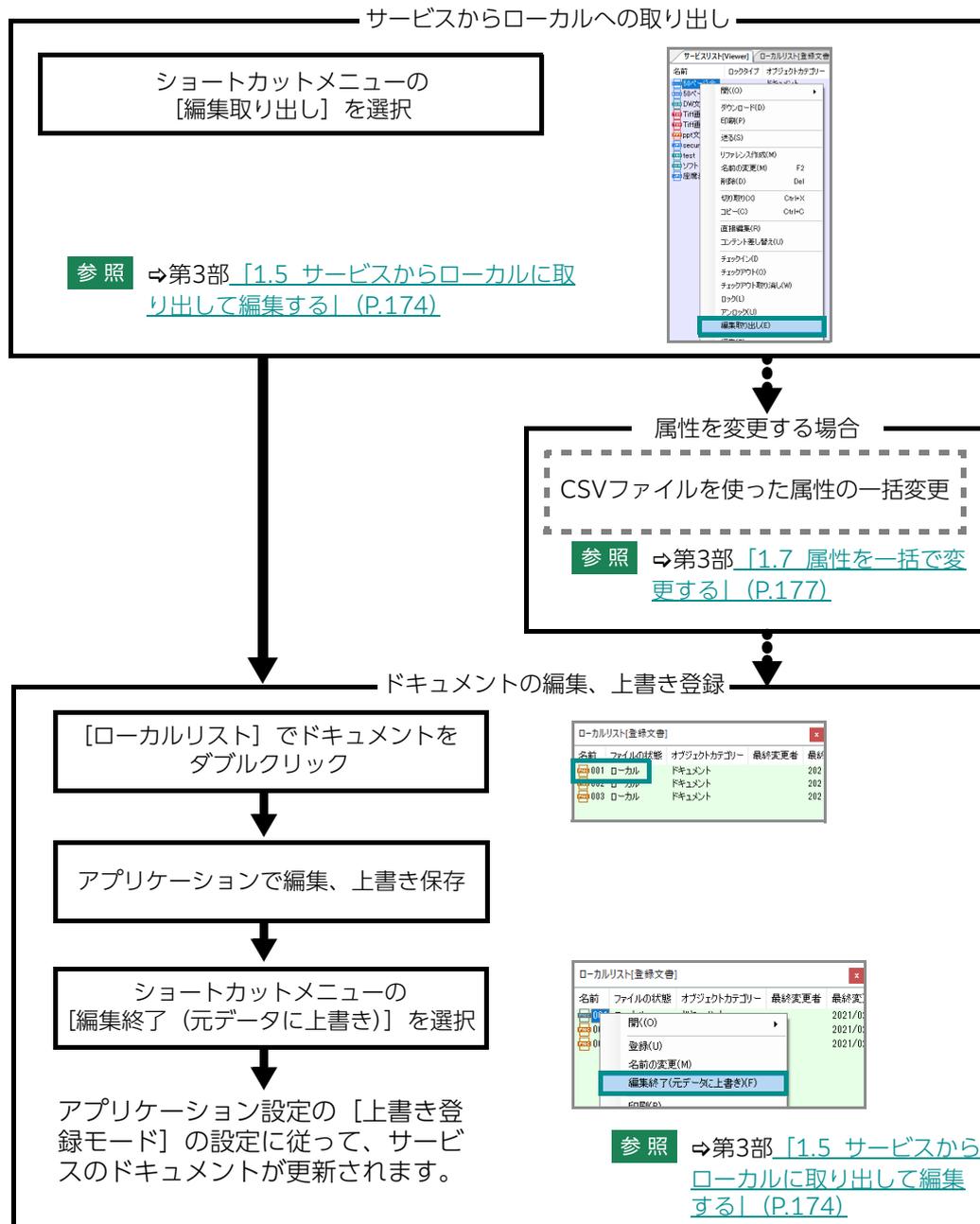


参照 ⇒ 第2部 [「5.1 ドキュメントを直接編集する」](#) (P.156)

4.4.2 ローカルに取り出して編集する（上書き）

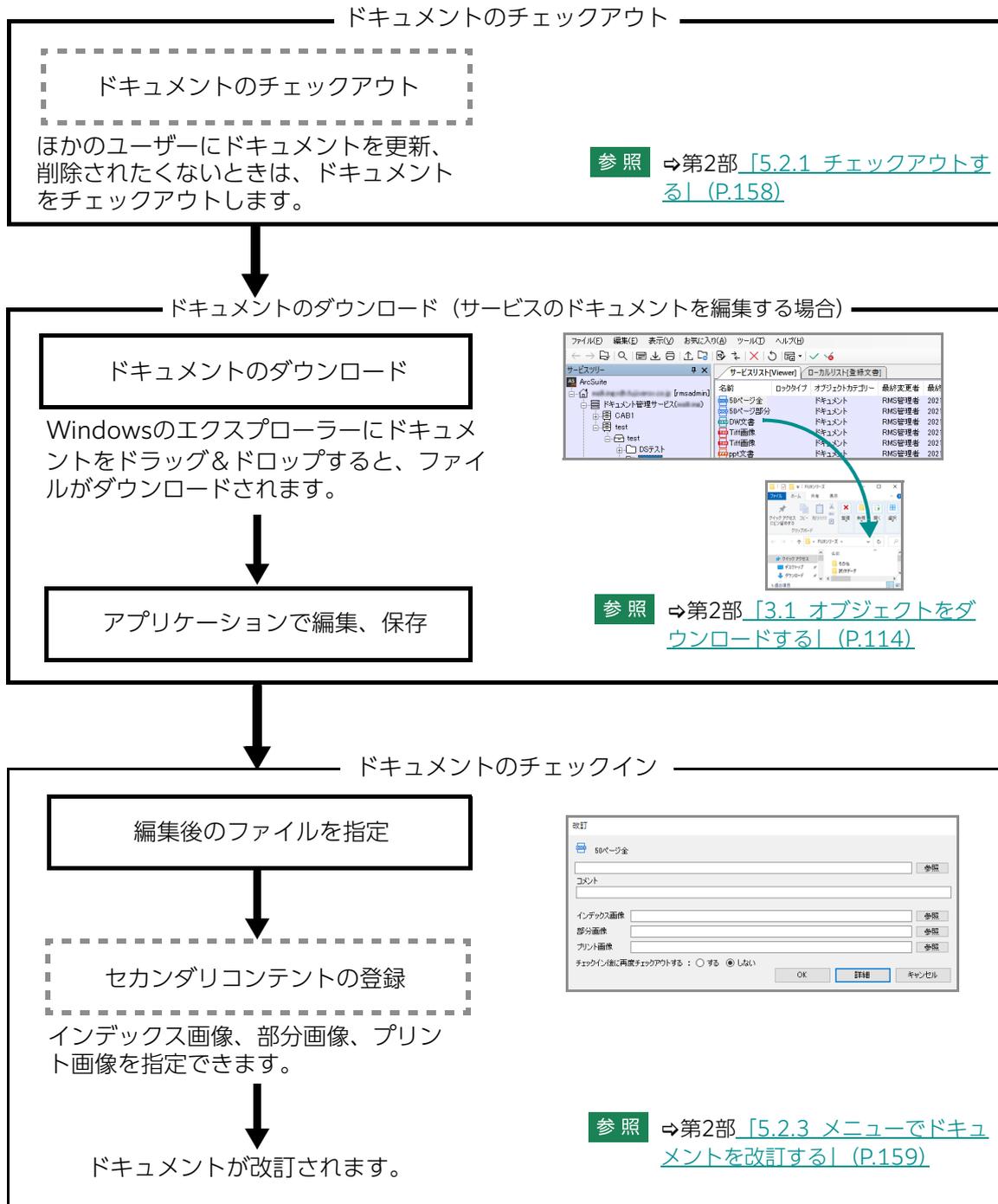
ドキュメントをローカルに取り出して編集する操作の流れは、次のとおりです。この操作では、アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従って、ドキュメントが更新されます。

補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は、[編集取り出し] は選択できません。



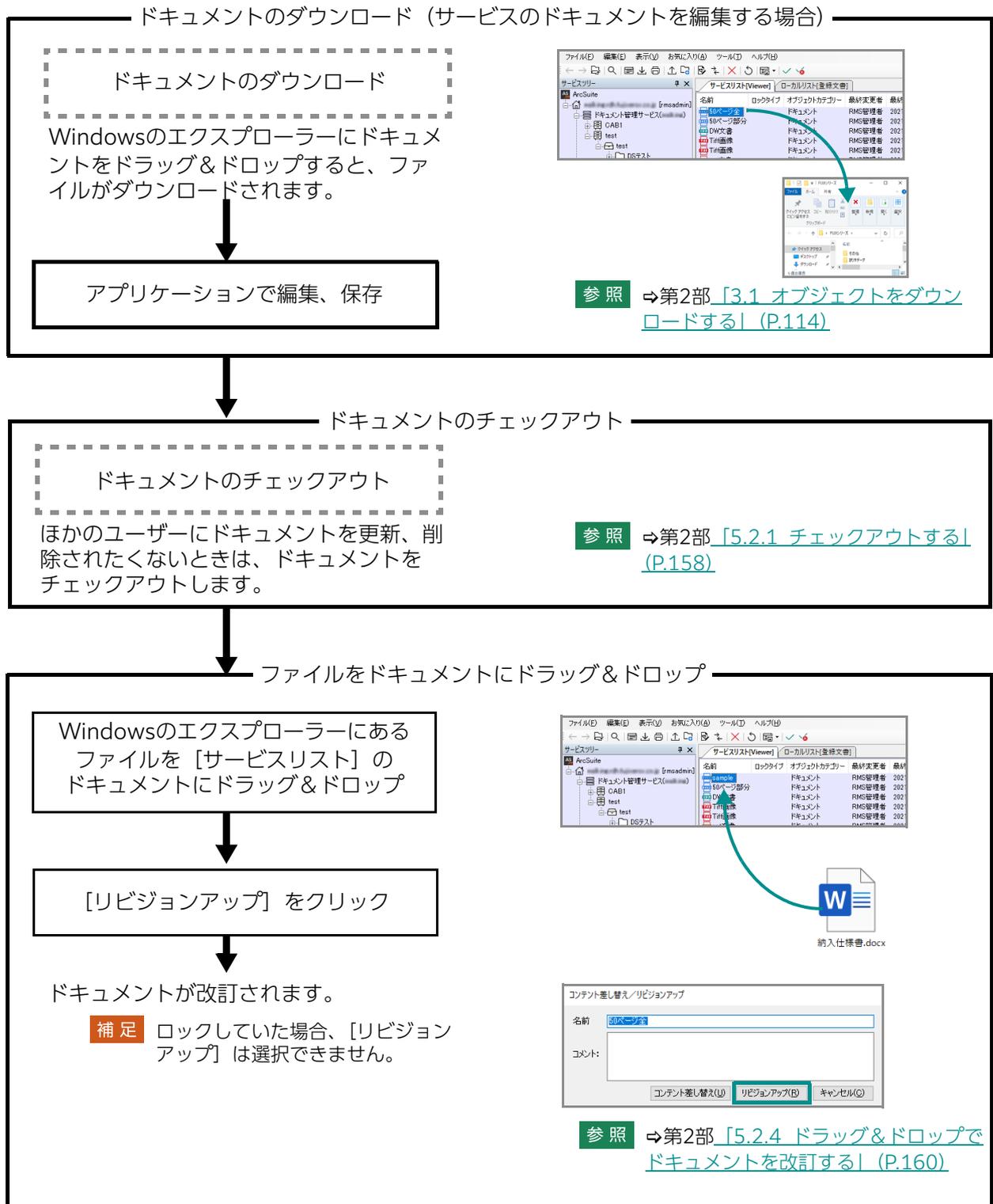
4.4.3 編集後のファイルを指定してチェックインする (改訂)

編集後のファイルを指定してチェックインする操作の流れは、次のとおりです。



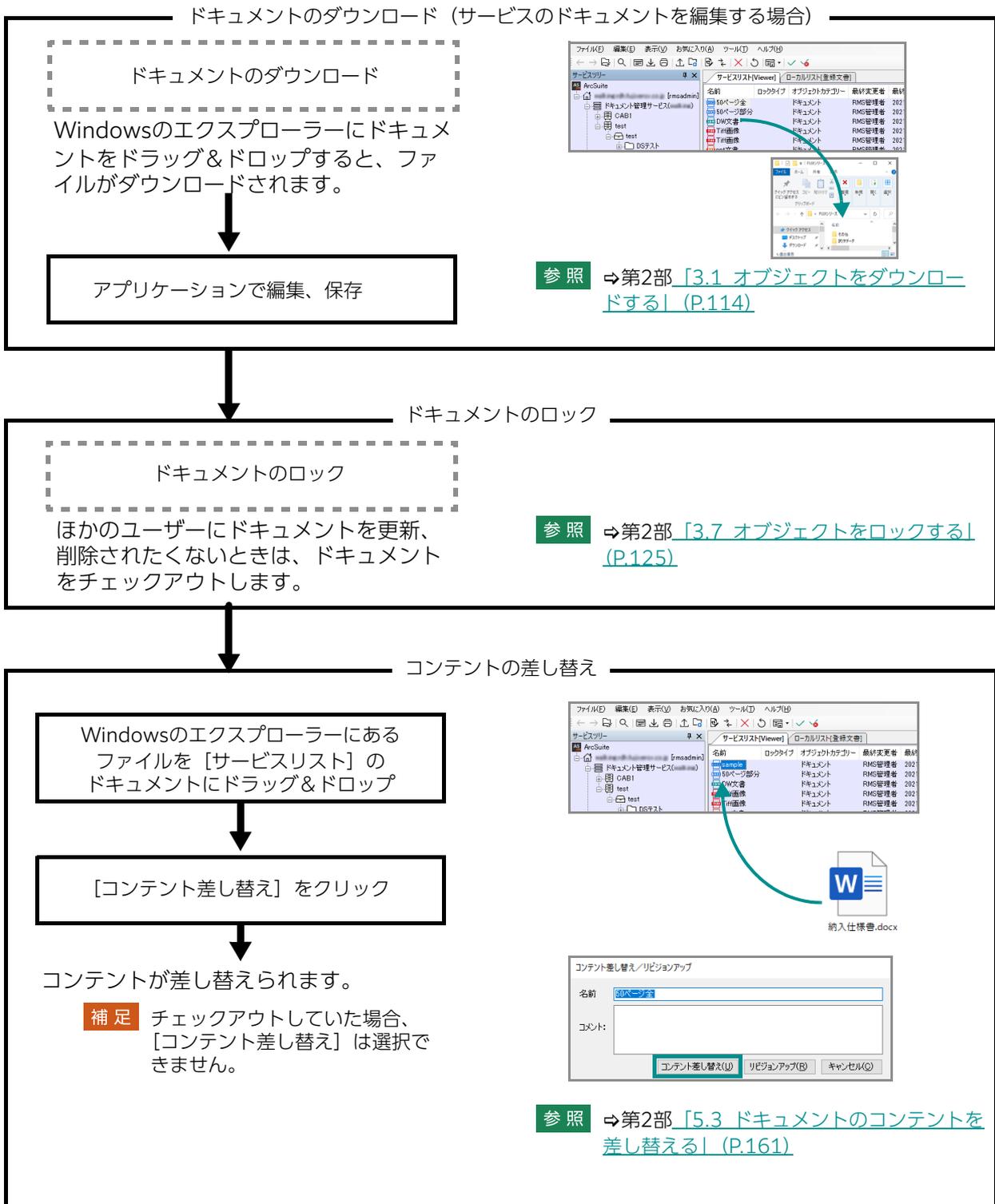
4.4.4 ドラッグ&ドロップで改訂する

ドラッグ&ドロップで、ドキュメントを改訂（リビジョンアップ）する操作の流れは、次のとおりです。



4.4.5 ドキュメントのコンテンツを差し替える

ドキュメントのコンテンツを差し替える操作の流れは、次のとおりです。



第2部 基本機能

1 サーバーに接続する

この章では、接続するサーバーの追加、変更、削除の操作、およびサーバーへのログイン、ログアウトの操作について説明します。

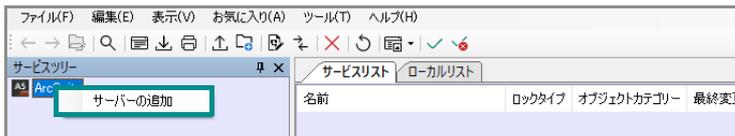
1.1 サーバーを管理する

デスクトップクライアントから接続するサーバーを追加、変更、削除できます。

1.1.1 サーバーを追加する

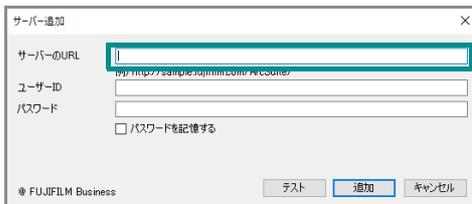
デスクトップクライアントから接続するサーバーを追加できます。

1. [サービスツリー] で [ArcSuite] を選択します。
2. ショートカットメニューの [サーバーの追加] を選択します。



[サーバー追加] ダイアログボックスが表示されます。

3. [サーバーの URL] に、接続先として設定するサーバーの URL [http:// {サーバー名} /ArcSuite/] を入力します。



4. [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
5. 次回から同じユーザー ID とパスワードでサーバーに接続する場合は、[パスワードを記憶する] チェックボックスにチェックマークを付けます。

- 補足**
- ・チェックマークを付けると、次回からユーザー ID とパスワードを入力することなく、サーバーに接続できます。
 - ・パスワードを記憶できないように設定されている場合、チェックボックスは操作できません。

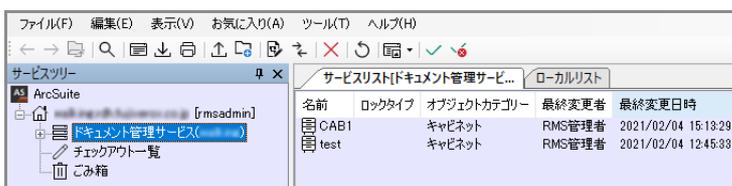
6. サーバーに接続できるかどうかを確認する場合は、次の操作をします。

- (1) [テスト] をクリックします。
サーバーに接続できたかどうかの確認メッセージが表示されます。

- (2) [OK] をクリックします。
[サーバー追加] ダイアログボックスに戻ります。

- 補足** サーバーに接続できなかった場合は、再度手順 3 ~ 4 の操作で、正しい URL とユーザー ID、パスワードを入力して、手順 6 の操作をしてください。

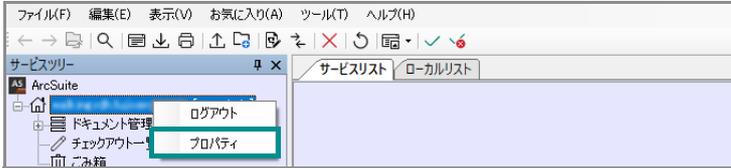
7. [サーバー追加] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。
[サービスツリー] に、追加したサーバーが表示されます。



1.1.2 サーバーの設定を変更する

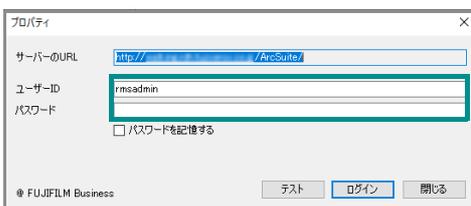
ログインするユーザーのユーザー IDとパスワードを変更できます。

1. [サービスツリー] で、設定を変更するサーバー名を選択します。
2. ショートカットメニューの [プロパティ] を選択します。



[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. ログインするユーザーを変更する場合は、[ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。



4. 次回から同じユーザー ID とパスワードでサーバーに接続する場合は、[パスワードを記憶する] チェックボックスにチェックマークを付けます。

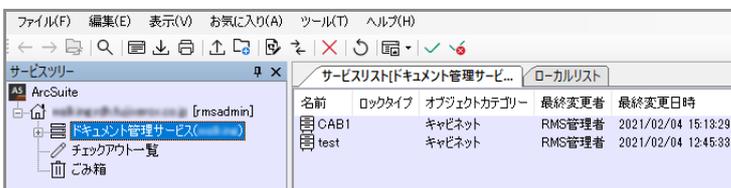
- 補足**
- ・チェックマークを付けると、次回からユーザー ID とパスワードを入力することなく、サーバーに接続できます。
 - ・パスワードを記憶できないように設定されている場合、チェックボックスは操作できません。

5. サーバーに接続できるかどうかを確認する場合は、次の操作をします。

- (1) [テスト] をクリックします。
サーバーに接続できたかどうかの確認メッセージが表示されます。
- (2) [OK] をクリックします。
[プロパティ] ダイアログボックスに戻ります。

- 補足** サーバーに接続できなかった場合は、再度、手順 3 の操作で正しいユーザー ID とパスワードを入力して、手順 5 の操作をしてください。

6. [プロパティ] ダイアログボックスで、[ログイン] をクリックします。
ユーザー ID とパスワードが変更され、[サービスツリー] に、サーバーが表示されます。



1.1.3 サーバーの接続を解除する

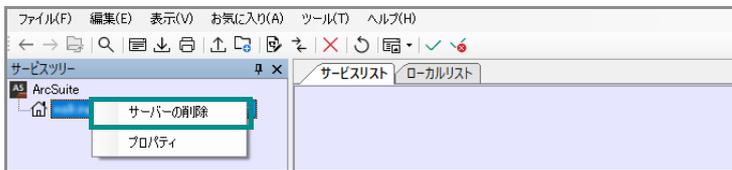
サーバーの接続を解除できます。

- 補足** ログインしているサーバーの接続は、解除できません。ログアウトしてから、サーバーの接続を解除してください。

1. 接続を解除するサーバーにログインしている場合は、次の操作をします。

- (1) [サービスツリー] で、ログインしているサーバーを選択します。

- (2) ショートカットメニューの [ログアウト] を選択します。
サーバーからログアウトされます。
2. [サービスツリー] で、接続を解除するサーバーを選択します。
3. ショートカットメニューの [サーバーの削除] を選択します。



確認メッセージが表示されます。

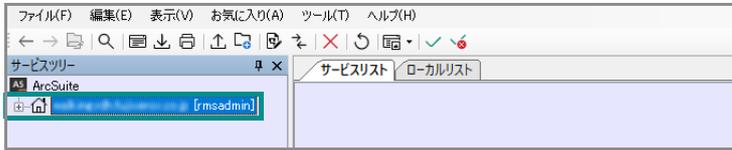
4. [はい] をクリックします。
[サービスツリー] にサーバーが表示されなくなります。

1.2 サーバーにログインする

サーバーにログインする操作について説明します。

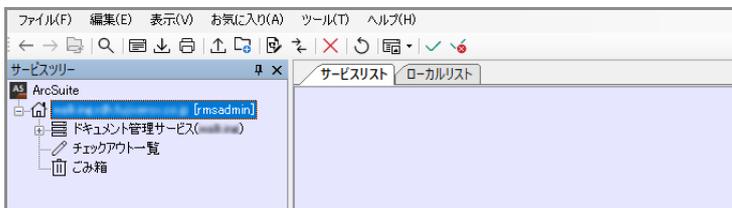
補足 ArcSuite にあらかじめ登録されているユーザーのユーザー ID とパスワードで、ログインできます。

1. [サービスツリー] で、ログインするサーバーを選択します。



◆ ユーザー ID とパスワードが保存されている場合

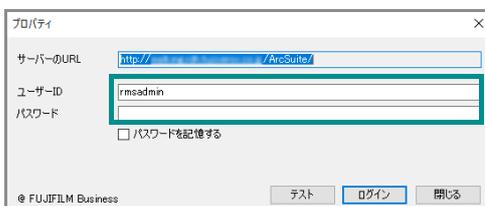
サーバーの接続が開始され、接続されると [サービスツリー] に、[ドキュメント管理サービス]、[チェックアウト一覧]、[ごみ箱] が表示されます。



◆ ユーザー ID とパスワードが保存されていない場合

[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。手順 2 に進んでください。

2. [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。



補足 [ユーザー ID] には、前回ログインしたユーザーのユーザー ID が表示されます。

3. 次回から同じユーザー ID とパスワードでサーバーに接続する場合は、[パスワードを記憶する] チェックボックスにチェックマークを付けます。

補足

- ・ チェックマークを付けると、次回からユーザー ID とパスワードを入力することなく、サーバーに接続できます。
- ・ パスワードを記憶できないように設定されている場合、チェックボックスは操作できません。

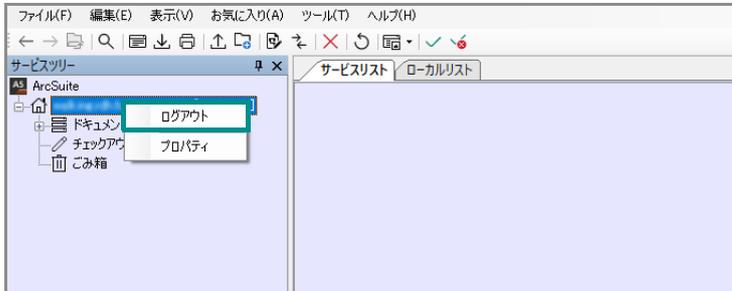
4. [ログイン] をクリックします。

サーバーに接続されます。

1.3 サーバーからログアウトする

サーバーからログアウトする操作について説明します。

1. [サービスツリー] で、ログアウトするサーバーを選択します。
2. ショートカットメニューの [ログアウト] を選択します。



サーバーからログアウトします。

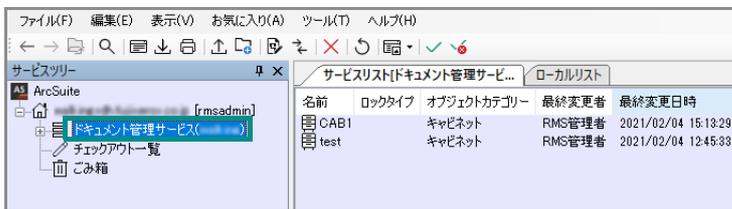
2 オブジェクトを表示、検索する

この章では、オブジェクトを表示、検索する操作について説明します。

2.1 ドキュメントを表示する

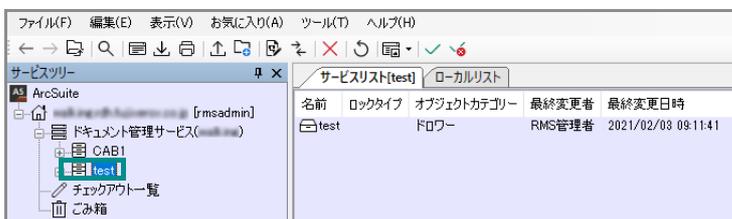
[サービスツリー] でキャビネットやドロワーを選択して、ドキュメントを表示できます。

1. [サービスツリー] で、[ドキュメント管理サービス] を選択します。



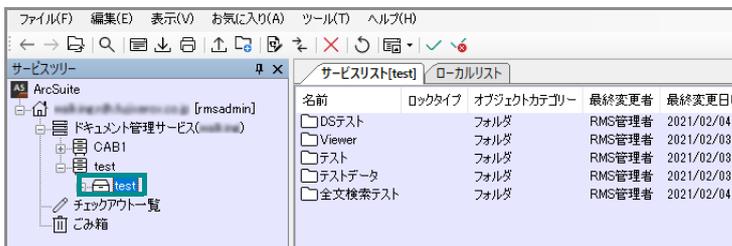
[サービスツリー] および [サービスリスト] に、ドキュメント管理サービス内のキャビネットが表示されます。

2. キャビネットを選択します。



[サービスツリー] および [サービスリスト] に、キャビネット内のドロワーが表示されます。

3. ドロワーを選択します。



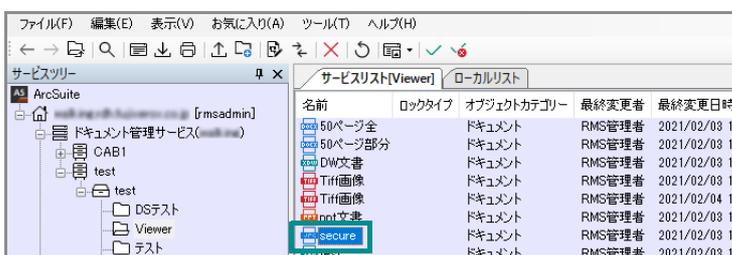
ドロワー内のフォルダーが表示されます。

4. フォルダーを選択します。



フォルダー内のドキュメントが表示されます。

5. リスト表示エリアで、ドキュメントをダブルクリックします。



ドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションが起動し、ドキュメントが表示されます。

- 補足**
- ・ドキュメントを選択し、操作メニューの [ファイル] から [閲覧]、またはショートカットメニューの [開く] から [閲覧] を選択しても、ドキュメントをダブルクリックしたときと同じようにドキュメントを表示できます。
 - ・ドキュメントを選択し、操作メニューの [ファイル] から [ビュー]、またはショートカットメニューの [開く] から [ビュー] を選択しても、ドキュメントを表示できます。
 - ・起動するアプリケーションと表示されるコンテンツ (プライマリコンテンツまたはセカンダリコンテンツ) は、設定によって異なることがあります。設定は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。通常、設定を変更する必要はありません。
 - ・リファレンスの場合は、参照先のドキュメントが表示されます。
 - ・ドキュメントをダブルクリックして表示したドキュメントのファイル名は、[設定] ダイアログボックスの [全般] タブで設定できます。

参照 [設定] ダイアログボックスの [全般] タブの詳細 ⇒ 第 3 部 [\[5.2.1 \[全般\] タブ\] \(P.202\)](#)

2.2 ドキュメントの画像を表示する

ドキュメントが次のファイル形式の場合、デスクトップクライアントの専用ビューアーである [実体画像表示] 画面および [インデックス画像表示] 画面に、実体画像やインデックス画像を表示できます。

- ・ TIFF
- ・ PDF
- ・ DocuWorks (DocuWorks バインダー含む)

- 補足**
- ・ 複数のページがある TIFF (以降、「マルチページ TIFF」と表記します) も、[実体画像表示] 画面および [インデックス画像表示] 画面に、実体画像やインデックス画像を表示できます。
 - ・ DocuWorks 文書の実体画像やインデックス画像を、[実体画像表示] 画面および [インデックス画像表示] 画面に表示するためには、お使いの PC に次のどれかのソフトウェアがインストールされている必要があります。
 - DocuWorks Viewer Light 9 日本語版 /English
 - DocuWorks Viewer Light 9.1 日本語版 /English
 - DocuWorks 9 日本語版 /English
 - DocuWorks 9.1 日本語版 /English
 - ・ PDF ファイルの実体画像やインデックス画像を、[実体画像表示] 画面および [インデックス画像表示] 画面に表示するためには、お使いの PC に Adobe® Reader® がインストールされている必要があります。

2.2.1 ドキュメントの実体画像を表示する

[実体画像表示] 画面に、ドキュメントの実体画像を表示できます。

TIFFファイルの場合、ページ操作ボタンを使って、ページの切り替え、回転、表題欄の拡大表示などができます。表示、回転できる TIFF ファイルの形式は、次のとおりです。

無圧縮、CCITT-1D、G3-MR、G3-MH、G4、PACKBITS、JPEG

- 補足**
- ・ JBIG は、表示できません。
 - ・ マルチページ TIFF は、表示できる形式のページだけ表示できます。また、回転したあとに、ほかのページを表示した場合、回転の表示状態は引き継がれません。

1. リスト表示エリアで、実体画像を表示するドキュメントを選択します。

2. 操作メニューの [ファイル] から [実体画像表示] を選択します。

[実体画像表示] 画面にドキュメントの実体画像が表示されます。

- 補足**
- ・ ショートカットメニューの [開く] から [実体画像表示] を選択しても、実体画像が表示されます。
 - ・ 実体画像がないドキュメントの場合は、[実体画像表示] 画面は表示されますが、画像は表示されず、「実体画像が登録されていません」というメッセージが表示されます。
 - ・ 選択したドキュメントに対してコンテンツ取得権やコンテンツ表示権がない場合は、[実体画像表示] 画面は表示されますが、画像は表示されず、「実体画像が取得できませんでした」というメッセージが表示されます。
 - ・ <F7> キーを押しても、ドキュメントの実体画像が表示されます。

3. TIFF ファイルの場合、画像の回転や拡大などをするときには、次のように操作します。

- 補足**
- ・ 上の画面は、TIFF ファイルの [実体画像表示] 画面の例です。
 - ・ PDF または DocuWorks 文書の場合、ページ操作ボタンは使用できません。Adobe Reader または DocuWorks のツールボタンやショートカットメニューで操作してください。

◆ ページ操作ボタンの操作

(1) 次のページ操作ボタンを使ってページの切り替え、回転、表題欄拡大表示をします。

ページ操作ボタン	説明
 (最初のページへ)	マルチページTIFFの場合、先頭ページが表示されます。
 (前のページへ)	マルチページTIFFの場合、前のページが表示されます。
 (次のページへ)	マルチページTIFFの場合、次のページが表示されます。
 (最後のページへ)	マルチページTIFFの場合、最終ページが表示されます。
 (指定ページ)	マルチページTIFFの場合、[ページ指定] ダイアログボックスが表示され、ページ番号を入力すると、指定したページが表示されます。
 (右へ90度回転)	右に90度回転して表示されます。回転できないファイル形式の場合は、使用できません。ローカルの場合は、表示状態が保存されます。
 (左へ90度回転)	左に90度回転して表示されます。回転できないファイル形式の場合は、使用できません。ローカルの場合は、表示状態が保存されます。
 (180度回転)	180度回転して表示されます。回転できないファイル形式の場合は、使用できません。ローカルの場合は、表示状態が保存されます。
 (表題)	表題欄が拡大表示されます。操作メニューの[ファイル]から[アプリケーション設定]を選択すると、表題欄の位置やサイズを設定できます。[インデックス画像表示]画面では、操作できません。
 (全体)	画像の全体が表示されます。

◆ 表題表示と全体表示の切り替え

- (1) 表題表示にする場合は、全体表示されている状態で、[実体画像表示]画面をクリックします。表題欄が拡大表示されます。
- (2) 全体表示に戻す場合は、表題表示されている状態で、[実体画像表示]画面をクリックします。全体表示に戻ります。

◆ 領域指定による拡大

- (1) 拡大したい領域をマウスで矩形選択します。指定した部分が拡大表示されます。
- (2) 全体表示に戻す場合は、拡大表示されている状態で、[実体画像表示]画面をクリックします。元の縮尺に戻ります。

4. 次の実体画像を表示する場合は、リスト表示エリアで次のドキュメントをクリックします。
[実体画像表示]画面の表示が、次のドキュメントの実体画像に切り替わります。

補足 リスト表示エリアでキーボードの矢印キーを押しても、次のドキュメントの実体画像に切り替わりません。

2.2.2 ドキュメントのインデックス画像を表示する

[インデックス画像表示] 画面に、ドキュメントのインデックス画像を表示できます。

1. リスト表示エリアで、インデックス画像を表示するドキュメントを選択します。

2. 操作メニューの [ファイル] から [インデックス画像表示] を選択します。

[インデックス画像表示] 画面にドキュメントのインデックス画像が表示されます。

- 補足**
- ・ショートカットメニューの [開く] から [インデックス画像表示] を選択しても、インデックス画像が表示されます。
 - ・インデックス画像がないドキュメントの場合は、[インデックス画像表示] 画面は表示されますが、画像は表示されず、「インデックス画像が登録されていません」というメッセージが表示されます。
 - ・選択したドキュメントに対してコンテンツ取得権やコンテンツ表示権がない場合は、[インデックス画像表示] 画面は表示されますが、画像は表示されず、「インデックス画像が取得できませんでした」というメッセージが表示されます。
 - ・<F8> キーを押しても、ドキュメントのインデックス画像が表示されます。

3. 必要に応じて、ページ操作ボタンでページの切り替えや画像の回転をしたり、マウスで領域を指定して拡大したりします。

参照 ページ操作ボタンの詳細、拡大の操作 ⇒ 第 2 部 [\[2.2.1 ドキュメントの実体画像を表示する\]](#) (P.87)

4. 次のインデックス画像を表示する場合は、リスト表示エリアで次のドキュメントをクリックします。

[インデックス画像表示] 画面の表示が、次のドキュメントのインデックス画像に切り替わります。

補足 リスト表示エリアでキーボードの矢印キーを押しても、次のドキュメントのインデックス画像に切り替わります。

2.3 オブジェクトを検索する

ファイル名やコンテンツタイプなどの属性に、検索条件を指定してオブジェクトを検索できます（属性検索）。コンテンツ内の文字列を検索する全文検索もできます。よく使う検索条件は、保存したり、お気に入りに追加したりしておく、再び使用するとき便利です。

また、検索結果リストに表示する属性項目やオブジェクトの並び順を設定したり、検索結果から、さらに検索条件を変更して再検索したりすることもできます。

2.3.1 オブジェクトを検索する

属性検索や全文検索でオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を検索できます。

補足 属性検索と全文検索の両方を指定した場合は、どちらの条件も満たすオブジェクトが検索されます。

■ [属性内容]、[属性結合条件] 設定例

たとえば、1週間以内に登録されたドキュメントの中で、[名前] に「ABC」か「DEF」を含むものを検索する場合は、次のように設定します。

- ・ [属性内容] に1つだけ属性値を入力する例
[属性結合条件] の [論理式] を選択し、[論理式] に結合条件を入力します。

名前	演算子	属性内容	入力	追加(A)
名前	いずれか含む	ABC		
名前	いずれか	DEF		削除(R)
オブジェクトカテゴリ	等しい	ドキュメント		クリア(Q)
登録日時	指定	1	入力	上へ(U)
				下へ(W)

属性結合条件: AND(J) OR(K) 論理式(L) 12

英文字大小区別(O) 最新版のみ(O) 行番号: [] AND OR ()

- ・ [属性内容] に複数の属性値を入力する例
属性値の間にスペースを入れて、入力します。

名前	演算子	属性内容	入力	追加(A)
名前	いずれか含む	ABC DEF		
名前	いずれか	DEF		削除(R)
オブジェクトカテゴリ	等しい	ドキュメント		クリア(Q)
登録日時	指定	1	入力	上へ(U)
				下へ(W)

属性結合条件: AND(J) OR(K) 論理式(L) 12

英文字大小区別(O) 最新版のみ(O) 行番号: [] AND OR ()

1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、検索の対象となるオブジェクト（ドキュメント管理サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー）を選択します。

2. 🔍 (検索) をクリックします。

[検索画面] ダイアログボックスが表示されます。

補足 操作メニューの [ファイル] から [検索]、またはショートカットメニューの [検索] を選択しても、[検索画面] ダイアログボックスが表示されます。

3. 保存されている検索条件の中から選択する場合は、[検索設定] で検索条件を選択します。



4. 必要に応じて、[最大表示件数] で、検索結果として表示する最大の件数を変更します。



5. 検索対象を追加する場合は、次のように操作します。

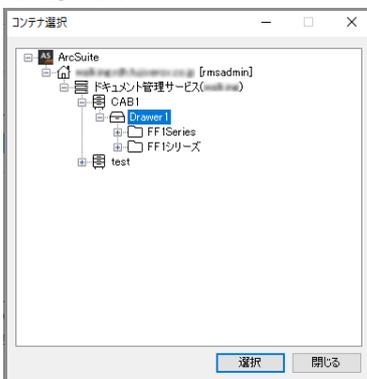
(1) [検索対象] の [追加] をクリックします。



[コンテナ選択] ダイアログボックスが表示されます。

補足 [サービスツリー] で選択したオブジェクトが検索対象に選択されています。

(2) 検索対象に追加するオブジェクト（ドキュメント管理サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー）を選択します。



(3) [選択] をクリックします。

検索対象のオブジェクトが追加され、[検索対象] に表示されます。

補足 検索対象を削除するときは、[検索対象] で検索対象から外すオブジェクトを選択し、[削除] をクリックします。

6. 属性検索をする場合は、次のように操作します。

(1) [属性条件] の [追加] をクリックします。



[属性追加] ダイアログボックスが表示されます。

(2) [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。



(3) [属性名] で検索条件として指定する属性名を選択し、[追加] をクリックします。

[属性条件] の一覧に追加した属性が表示されます。

- 補足**
- ・ 入力欄に文字列を入力して [絞り込み] をクリックすると、属性名の一覧から入力した文字列を含む属性名だけが表示されます。
 - ・ 複数の属性名を選択できます。
 - ・ 追加した属性名は、[属性条件] の一覧に行単位で表示されます。複数の属性名を追加した場合は、行の下に追加して表示されます。

(4) [閉じる] をクリックします。

[属性追加] ダイアログボックスが閉じます。

(5) [演算子] を選択します。

- 補足** 属性によって、選択できる [演算子] が異なります。

(6) [属性内容] に、検索条件にする属性値を入力します。

- 補足** [属性内容] に入力した属性値を削除する場合は、[属性条件] で行を選択し、[クリア] をクリックします。

- 参照** 属性値の入力のしかた ⇒ 第 1 部 [\[3.6 属性値を入力する\]](#) (P.54)

(7) 属性条件を追加する場合は、手順 1 ~ 6 を繰り返します。

(8) 属性条件の順番を変更する場合は、[属性条件] で変更する行を選択し、[上へ] または [下へ] をクリックします。

(9) 属性条件を削除する場合は、[属性条件] で削除する行を選択し、[削除] をクリックします。

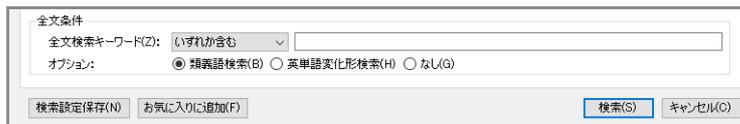
(10) [属性結合条件] を選択します。

項目	説明
AND	指定したすべての属性条件を満たすオブジェクトが検索されます (AND検索)。
OR	指定した属性条件のうち、いずれかを満たすオブジェクトが検索されます (OR検索)。

項目	説明
論理式	AND検索、OR検索を組み合わせる場合は、[論理式] を選択します。 [行番号]、[AND]、[OR]、[(、)] をクリックして論理式を作成するか、または直接論理式を入力します。 

- (11) 英字の大文字と小文字を区別しないで検索する場合は、[英文字大小区別] のチェックマークを外します。
- (12) 最新版だけ検索する場合は、[最新版のみ] にチェックマークを付けます。

7. 全文検索をする場合は、次のように操作します。



- (1) [検索画面] ダイアログボックスの [全文検索キーワード] で、[全て含む] または [いずれか含む] を選択します。

項目	説明
全て含む	入力した文字列と完全に一致する文字列が検索されます。
いずれか含む	入力した文字列を含む文字列が検索されます。

- (2) [全文検索キーワード] に検索する文字を入力します。
- (3) [オプション] で、[類義語検索]、[英単語変化形検索]、[なし] のどれかを選択します。

項目	説明
類義語検索	入力した文字列の類義語も検索されます。
英単語変化形検索	入力した文字列が英単語の場合、変化形も検索されます。
なし	入力した文字列だけ検索されます。

8. 必要に応じて、検索条件を保存します。

参照 検索条件を保存する操作 ⇒ 第 2 部 [「2.3.3 検索設定を管理する」](#) (P.94)

9. 必要に応じて、検索結果の表示を設定します。

参照 検索結果の表示を設定する操作 ⇒ 第 2 部 [「2.3.4 検索結果の表示を設定する」](#) (P.97)

10. [検索] をクリックします。

[検索結果ツリー] の [ドキュメント管理サービス] の下に [検索結果 [{YYYYMMDDhhmmss 形式の日時}]] が作成され、検索結果リストが表示されます。



補足 ・ 検索で使った検索設定をお気に入りに追加する場合は、[検索結果ツリー] で [検索結果 [{YYYYMMDDhhmmss 形式の日時}]] を選択し、ショートカットメニューの [お気に入りに追加] をクリックします。

- ・ 検索結果を削除する場合は、[検索結果ツリー] で [検索結果 [{YYYYMMDDhhmmss 形式の日時}]] を選択し、ショートカットメニューの [閉じる] をクリックします。
- ・ 実行したすべての検索結果を削除する場合は、[検索結果ツリー] で [ドキュメント管理サービス] を選択し、ショートカットメニューの [全て閉じる] をクリックします。
- ・ 検索結果リストに表示されているオブジェクトのパスを表示したり、オブジェクトの格納先を開いたりすることができます。

- 参照**
- ・ オブジェクトのパスを表示する操作 ⇒ 第2部 [「2.8 オブジェクトの格納先のパスを表示する」 \(P.110\)](#)
 - ・ オブジェクトの格納先を開く操作 ⇒ 第2部 [「2.9 ドキュメントの格納先を開く」 \(P.111\)](#)

2.3.2 再検索する

検索結果から再度検索条件を指定して、オブジェクトを検索できます。

1. [検索結果ツリー] の [ドキュメント管理サービス] の下にある [検索結果 [{YYYYMMDDhhmmss 形式の日時}]] を選択します。
2. ショートカットメニューの [再検索] を選択します。



[検索画面] ダイアログボックスが表示されます。

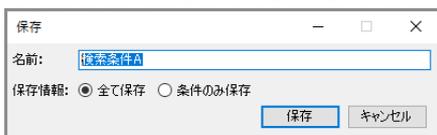
補足 [検索画面] ダイアログボックスには、検索を実行したときに設定した検索条件が表示されます。

3. 検索条件を変更する場合は、[「2.3.1 オブジェクトを検索する」 \(P.90\)](#) の手順 3 以降の操作をします。
4. [検索] をクリックします。
検索結果が表示されます。

2.3.3 検索設定を管理する

検索設定を保存したり、お気に入りに追加したりできます。

1. [「2.3.1 オブジェクトを検索する」 \(P.90\)](#) の手順 1 ~ 7 の操作で、検索条件を設定します。
2. 設定した検索設定を保存する場合は、次のように操作します。
 - (1) [検索画面] ダイアログボックスで、[検索設定保存] をクリックします。
[保存] ダイアログボックスが表示されます。
 - (2) [名前] に検索設定名を入力します。



補足

- ・ [保存情報] で [全て保存] を選択すると、次の設定が保存されます。
 - ・ 属性条件
 - ・ 全文条件
 - ・ 最大表示件数
 - ・ 検索対象

- ・表示設定
- ・[保存情報] で [条件のみ保存] を選択すると、次の設定が保存されます。
- ・属性条件
- ・全文条件
- ・最大表示件数

(3) [保存] をクリックします。

検索設定が保存されます。

補足 保存された検索設定は、[検索画面] ダイアログボックスの [検索設定] で選択できるようになります。

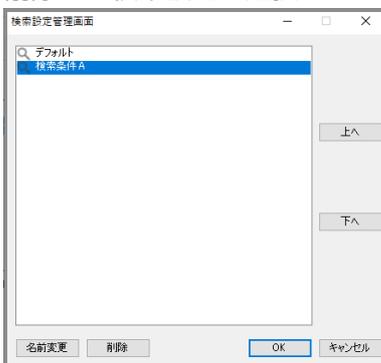
3. 検索設定の表示順の変更や検索設定の削除をする場合は、次のように操作します。

◆ 検索設定を削除する場合

(1) [検索画面] ダイアログボックスで、[検索設定管理] をクリックします。

[検索設定管理画面] ダイアログボックスが表示されます。

(2) 削除する検索設定を選択します。



補足 [デフォルト] は、削除できません。

(3) [削除] をクリックします。

検索設定が削除されます。

(4) [OK] をクリックします。

[検索画面] ダイアログボックスに戻ります。

◆ 検索設定の名前を変更する場合

(1) [検索画面] ダイアログボックスで、[検索設定管理] をクリックします。

[検索設定管理画面] ダイアログボックスが表示されます。

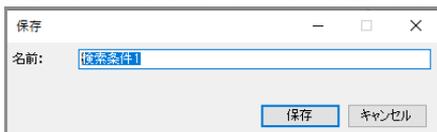
(2) 名前を変更する検索設定を選択します。

補足 [デフォルト] は、名前の変更ができません。

(3) [名前変更] をクリックします。

[名前] ダイアログボックスが表示されます。

(4) [名前] に変更後の検索設定名を入力します。



(5) [保存] をクリックします。

[検索設定管理画面] ダイアログボックスに、変更後の検索設定名が表示されます。

(6) [OK] をクリックします。

[検索画面] ダイアログボックスに戻ります。

◆ 検索設定の表示順を変更する場合

(1) [検索画面] ダイアログボックスで、[検索設定管理] をクリックします。

[検索設定管理画面] ダイアログボックスが表示されます。

(2) 表示順を変更する検索設定を選択します。

(3) [上へ] または [下へ] をクリックします。
検索設定の表示順が変わります。

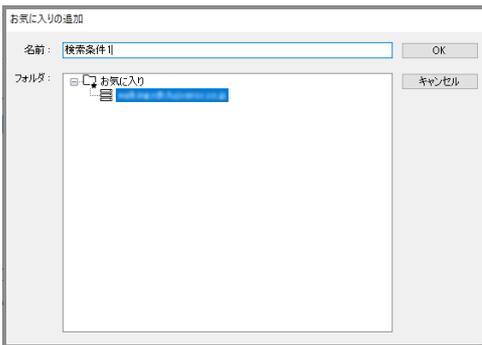
(4) [OK] をクリックします。

[検索画面] ダイアログボックスに戻ります。

4. 設定した検索条件をお気に入り追加する場合は、次のように操作します。

(1) [検索画面] ダイアログボックスで、[お気に入り追加] をクリックします。
[お気に入り追加] ダイアログボックスが表示されます。

(2) [名前] を変更します。



(3) [フォルダ] で、お気に入りの格納先を選択します。

(4) [OK] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

(5) [OK] をクリックします。

表示されている検索条件が、お気に入り追加されます。

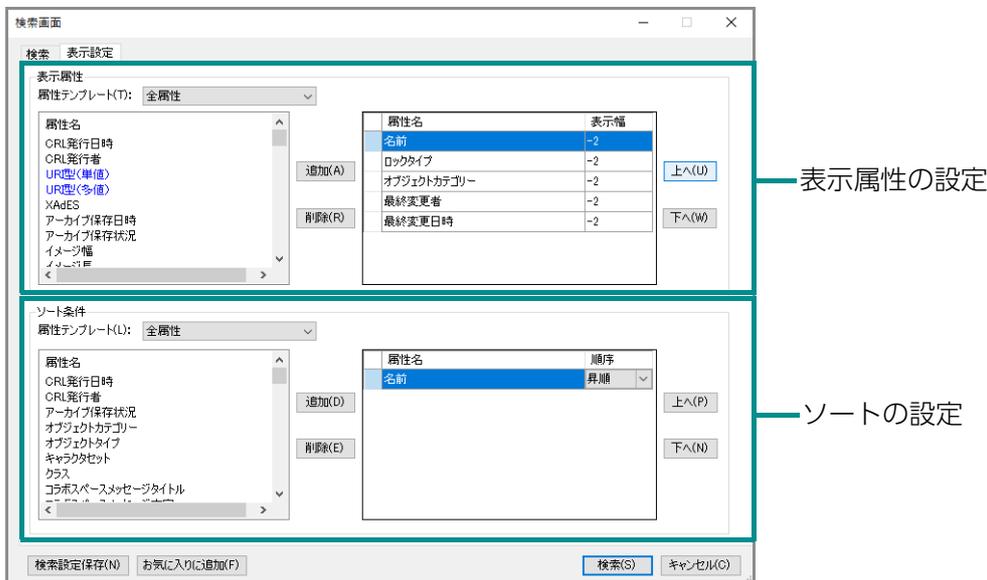


補足 お気に入り追加した検索条件は、操作メニューの [お気に入り] のサブメニューに表示されます。

2.3.4 検索結果の表示を設定する

[検索画面] ダイアログボックスで、検索結果に表示される属性項目とオブジェクトの並び順を設定できます。

1. [\[2.3.1 オブジェクトを検索する\] \(P.90\)](#) の手順 1 ~ 7 の操作で、検索条件を設定します。
2. [検索画面] ダイアログボックスで、[表示設定] タブをクリックします。
[表示設定] タブが表示されます。



3. 検索結果一覧に表示する属性項目を変更する場合は、次のように操作します。

◆ 属性項目を追加するとき

- (1) [表示属性] 内の [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。
- (2) [表示属性] 内の左側の属性欄で、追加する属性項目を選択します。
- (3) [追加] をクリックします。
選択した属性項目が右側の属性欄に移動します。

◆ 属性項目を削除するとき

- (1) [表示属性] 内の右側の属性欄で、削除する属性項目を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。
選択した属性項目が左側の属性欄に移動します。

補足 [名前] は、削除できません。

◆ 属性項目の表示順を変更するとき

- (1) [表示属性] 内の右側の属性欄で、移動する属性項目を選択します。
- (2) [上へ] または [下へ] をクリックします。
選択した属性項目の表示順が変更されます。

補足 [名前] の並び順は、変更できません。

◆ 属性項目の表示幅を変更するとき

- (1) [表示属性] 内の右側の属性欄で、表示幅を変更する属性の [表示幅] に表示幅を入力します。
属性項目の表示幅が変更されます。

4. 並び順を変更する場合は、次のように操作します。

◆ 並べ替えの基準となる属性項目を追加するとき

- (1) [ソート条件] 内の [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。

- (2) [ソート条件] 内の左側の属性欄で、追加する属性項目を選択します。
- (3) [追加] をクリックします。
選択した属性項目が右側の属性欄に移動します。
- (4) [順序] で、[昇順] または [降順] を選択します。

◆ 並べ替えの基準となる属性項目を削除するとき

- (1) [ソート条件] 内の右側の属性欄で、削除する属性項目を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。
選択した属性項目が左側の属性欄に移動します。

◆ 並べ替えの基準となる属性項目の優先度を変更するとき

- (1) [ソート条件] 内の右側の属性欄で、優先度を変更する属性項目を選択します。
- (2) [上へ] または [下へ] をクリックします。
選択した属性項目の並べ替えの優先度を変更されます。

- 5. [検索] をクリックします。
設定した内容に従って、検索結果が表示されます。

2.4 オブジェクトがサービス内に存在するかを確認する

指定した属性のオブジェクトが、サービス内に1つだけ存在するかどうかを確認できます。

同じ属性値を持つオブジェクトが複数存在しないようにしたい場合は、この検索を使って確認できます。オブジェクトの存在を確認する方法には、属性値を直接入力して検索条件を指定する方法と検索条件が入力されたCSVファイルを読み込んで検索条件を指定する方法があります。

- 補足** 次の場合は、エラーメッセージが表示されます。
- ・ 指定した属性のオブジェクトが存在しない場合
 - ・ 指定した属性のオブジェクトが複数存在している場合

2.4.1 属性値を直接入力して検索する

[検索画面] ダイアログボックスで、属性値を直接入力してドキュメントの存在を確認できます。

■ [確認条件] 設定例

たとえば、[名前]、[図面番号] が「ABC001」のドキュメント、および [名前]、[図面番号] が「ABC002」のドキュメントが、それぞれ1つだけ存在しているかどうかを検索する場合は、次の画面のように2つの確認条件を設定します。

名前	図面番号
ABC001	ABC001
ABC002	ABC002

- 補足** 1つのオブジェクトにつき1行の確認条件欄を使用します。たとえば2つのオブジェクトの存在を確認する場合は、2行の確認条件欄を設定します。

1. [サービスツリー] で、オブジェクト（ドキュメント管理サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー）を選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [存在確認検索] を選択します。
[検索画面] ダイアログボックスが表示されます。
3. 保存されている検索条件の中から選択する場合は、[検索設定] で検索条件を選択します。

4. 必要に応じて、[最大表示件数] で、検索結果として表示する最大の件数を変更します。

5. 検索対象を追加する場合は、次のように操作します。

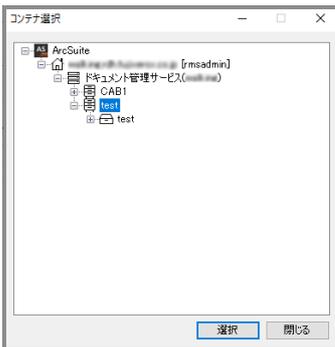
(1) [検索対象] の [追加] をクリックします。



[コンテナ選択] ダイアログボックスが表示されます。

補足 [サービスツリー] で選択したオブジェクトが検索対象に選択されています。

(2) 検索対象に追加するオブジェクト (ドキュメント管理サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー) を選択します。



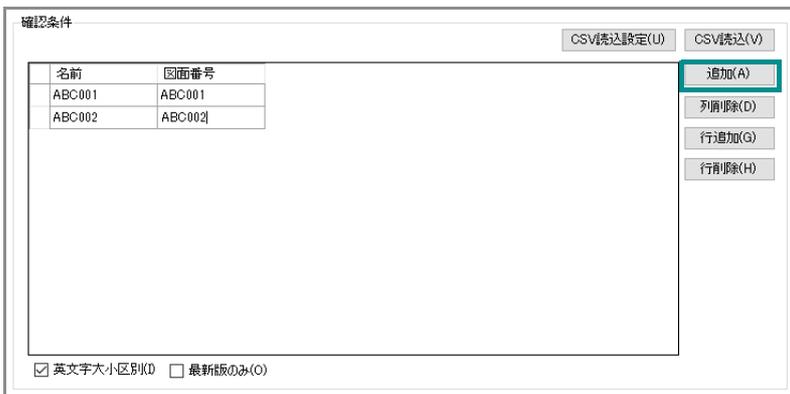
(3) [選択] をクリックします。

検索対象のオブジェクトが追加され、[検索対象] に表示されます。

補足 検索対象を削除するときは、[検索対象] で検索対象から外すオブジェクトを選択し、[削除] をクリックします。

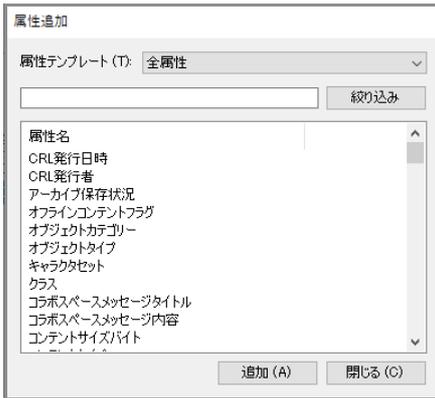
6. [確認条件] を次のように設定します。

(1) [確認条件] の [追加] をクリックします。



[属性追加] ダイアログボックスが表示されます。

(2) [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。



(3) [属性名] で検索条件として指定する属性名を選択し、[追加] をクリックします。

[確認条件] の一覧に追加した属性が表示されます。

- 補足**
- ・ 入力欄に文字列を入力し [絞り込み] をクリックすると、属性名の一覧から入力した文字列を含む属性名だけが表示されます。
 - ・ 複数の属性名を選択できます。
 - ・ 追加した属性名は、[確認条件] の一覧に列単位で表示されます。複数の属性名を追加した場合は、列の右に追加して表示されます。

(4) [閉じる] をクリックします。

[属性追加] ダイアログボックスが閉じます。

(5) 確認条件となる属性値を追加する場合は、[行追加] をクリックします。

行が追加されます。

- 補足**
- ・ 行を削除する場合は、削除する行を選択して [行削除] をクリックします。
 - ・ 列を削除する場合は、削除する列を選択して [列削除] をクリックします。

(6) [確認条件] の各属性に、確認条件となる属性値を入力します。

参照 属性値の入力のしかた ⇒ 第 1 部 [\[3.6 属性値を入力する\]](#) (P.54)

(7) 英字の大文字と小文字を区別しないで検索する場合は、[英文字大小区別] のチェックマークを外します。

(8) 最新版だけ検索する場合は、[最新版のみ] にチェックマークを付けます。

7. 必要に応じて、検索条件を保存します。

参照 検索条件を保存する操作 ⇒ 第 2 部 [\[2.3.3 検索設定を管理する\]](#) (P.94)

8. 必要に応じて、検索結果の表示を設定します。

参照 検索結果の表示を設定する操作 ⇒ 第 2 部 [\[2.3.4 検索結果の表示を設定する\]](#) (P.97)

9. [検索] をクリックします。

◆ 指定した属性のオブジェクトが 1 つだけ存在している場合

検索結果リストに、オブジェクト名が表示されます。

◆ 指定した属性のオブジェクトが存在しない場合

オブジェクトが存在しないことを示すエラーメッセージが表示されます。

◆ 指定した属性のオブジェクトが複数存在している場合

検索結果リストに、オブジェクト名と対象オブジェクトが複数存在していることを示すエラーメッセージが表示されます。

2.4.2 CSV ファイルを使って検索する

[検索画面] ダイアログボックスで、CSVファイルを使ってドキュメントの存在を確認できます。

■ CSV ファイル例

たとえば、[名前] が「ABC001」～「ABC008」で、[図面番号] も [名前] と同じ値のドキュメントが1つだけ存在しているかどうかを検索する場合は、次のようなCSVファイルを用意します。

	A	B
1	名前	図面番号
2	ABC001	ABC001
3	ABC002	ABC002
4	ABC003	ABC003
5	ABC004	ABC004
6	ABC005	ABC005
7	ABC006	ABC006
8	ABC007	ABC007
9	ABC008	ABC008

■ [確認条件] 設定例

上のCSVファイルを読み込む場合、[確認条件] は次のように設定します。

■ [CSV 読込設定] ダイアログボックス設定例

上のCSVファイルを読み込む場合、[CSV列] は次のように設定します。

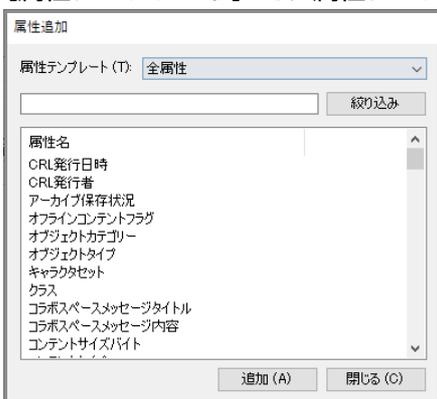
1. [\[2.4.1 属性値を直接入力して検索する\] \(P.99\)](#) の手順 1～5 の操作をします。
2. [確認条件] を次のように設定します。

- (1) [確認条件] の [追加] をクリックします。



[属性追加] ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [属性テンプレート] で、属性テンプレートを選択します。



- (3) [属性名] で CSV で読み込む属性名を選択し、[追加] をクリックします。

[確認条件] の一覧に追加した属性が表示されます。

補足

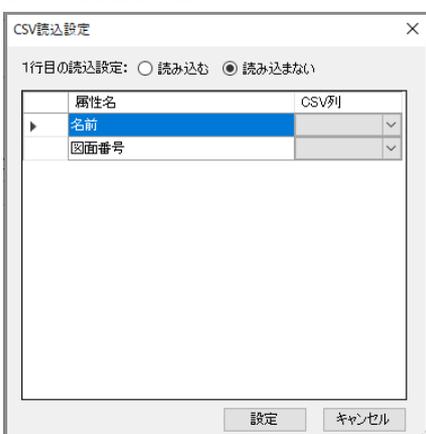
- ・ 入力欄に文字列を入力し [絞り込み] をクリックすると、属性名の一覧から入力した文字列を含む属性名だけが表示されます。
- ・ 複数の属性名を選択できます。
- ・ 追加した属性名は、[確認条件] の一覧に列単位で表示されます。複数の属性名を追加した場合は、列の右に追加して表示されます。

- (4) [閉じる] をクリックします。

[属性追加] ダイアログボックスが閉じます。

- (5) [CSV 読み込設定] をクリックします。

[CSV 読み込設定] ダイアログボックスが表示されます。



(6) [1行目の読込設定] で、[読み込む] または [読み込まない] を選択します。

項目	説明
読み込む	CSVファイルの1行めから読み込まれます。
読み込まない	CSVファイルの2行めから読み込まれます。

(7) [CSV列] で、対応する CSV ファイルの列番号を選択します。

(8) [設定] をクリックします。

CSV ファイルの読み込み方法が設定されます。

(9) [CSV 読込] をクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

(10) CSV ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

CSV ファイルが読み込まれ、[確認条件] の各属性に値が表示されます。

(11) 英字の大文字と小文字を区別しないで検索する場合は、[英文字大小区別] のチェックマークを外します。

(12) 最新版だけ検索する場合は、[最新版のみ] にチェックマークを付けます。

3. 必要に応じて、検索条件を保存します。

参照 検索条件を保存する操作 ⇒ 第2部 [\[2.3.3 検索設定を管理する\]](#) (P.94)

4. 必要に応じて、検索結果の表示を設定します。

参照 検索結果の表示を設定する操作 ⇒ 第2部 [\[2.3.4 検索結果の表示を設定する\]](#) (P.97)

5. [検索] をクリックします。

◆ 指定した属性のオブジェクトが1つだけ存在している場合

検索結果リストに、オブジェクト名が表示されます。

◆ 指定した属性のオブジェクトが存在しない場合

オブジェクトが存在しないことを示すエラーメッセージが表示されます。

◆ 指定した属性のオブジェクトが複数存在している場合

検索結果リストに、オブジェクト名と対象オブジェクトが複数存在していることを示すエラーメッセージが表示されます。

2.5 Web ブラウザーで表示する

オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を、ドキュメントスペースで表示できません。

2.5.1 オブジェクトを表示する

オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を、ドキュメントスペースで表示できません。

ドキュメントを選択した場合は、ドキュメントスペースの [基本情報表示] 画面が表示されます。

1. [サービスリスト] で、オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [ブラウザーで開く] > [オブジェクト表示] を選択します。オブジェクトがドキュメントスペースで表示されます。

- 補足**
- ・ ArcSuite で全体の認証を管理しています。デスクトップクライアントは独自のログインをしています。ArcSuite の認証の設定によっては、[ログイン] 画面が表示されることがあります。
 - ・ ドキュメントの場合、ショートカットメニューの [開く] から [ブラウザーで開く (オブジェクト表示)] を選択しても、ドキュメントスペースの [基本情報表示] 画面が表示されます。

ドキュメントを選択した場合は、[基本情報表示] 画面が表示されます。



参照 ドキュメントスペースの操作 ⇨ 『ドキュメントスペースのヘルプ』

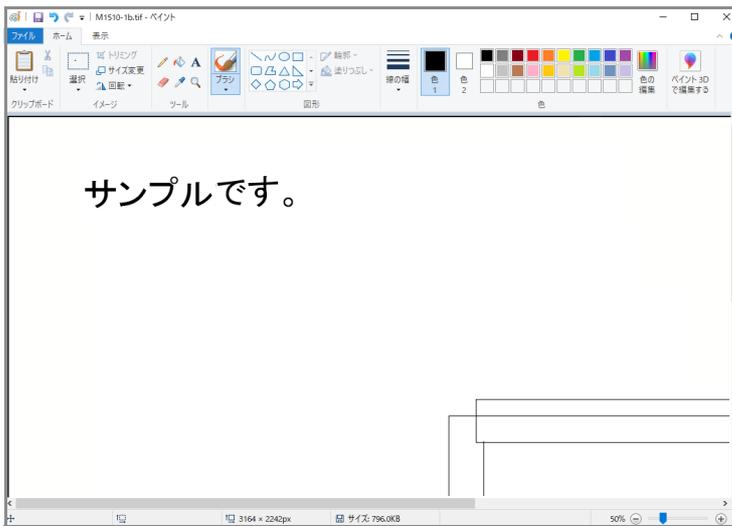
2.5.2 ドキュメントのコンテンツを表示する

ドキュメントのコンテンツをドキュメントスペースで表示できます。

1. [サービスリスト] で、ドキュメントを選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [ブラウザーで開く] > [コンテンツ表示] を選択します。
ドキュメントを開くか保存するかを確認するメッセージが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [開く] から [ブラウザーで開く (コンテンツ表示)] を選択しても、ファイルを開くか保存するかを確認するメッセージが表示されます。

3. [ファイルを開く] をクリックします。
選択したドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションが起動し、コンテンツが表示されます。



補足

- ・上の画面は、TIFF 形式のドキュメントを開くアプリケーションに、ペイントが設定されている場合の例です。
- ・ArcSuite で全体の認証を管理しています。デスクトップクライアントは、独自のログインをしています。ArcSuite の認証の設定によっては、[ログイン] 画面が表示されることがあります。

2.5.3 ドキュメントのインデックス画像を表示する

ドキュメントのインデックス画像をドキュメントスペースで表示できます。

1. [サービスリスト] で、ドキュメントを選択します。

補足 複数のドキュメントを選択できます。

2. 操作メニューの [ファイル] から [ブラウザーで開く] > [インデックス画像表示] を選択します。

注記 複数のドキュメントを選択してショートカットメニューの [開く] から [ブラウザーで開く (インデックス画像表示)] を選択した場合、すべてのドキュメントが表示されないことがあります。その場合は、選択するドキュメントの数を減らしてください。環境によっては、15 個程度のドキュメントを選択したときでも表示されないことがあります。

補足

- ・ ArcSuite で全体の認証を管理しています。デスクトップクライアントは、独自のログインをしています。ArcSuite の認証の設定によっては、[ログイン] 画面が表示されることがあります。
- ・ ショートカットメニューの [開く] から [ブラウザーで開く (インデックス画像表示)] を選択しても、[インデックス画像表示] 画面が表示されます。

ドキュメントスペースの [インデックス画像表示] 画面が表示されます。

2.6 外部コマンドを実行する

運用に合わせてコマンドを用意し、デスクトップクライアントの操作で呼び出すものを「外部コマンド」と呼んでいます。デスクトップクライアントに外部コマンドが設定されている場合は、外部コマンドを実行できます。デスクトップクライアントのオブジェクトの情報を、外部コマンドに渡すことができるので、属性の値をほかのシステムに渡すというような運用ができます。

補足 外部コマンドは、サービスとローカルで別々に設定できます。

1. リスト表示エリアで、外部コマンドを実行するオブジェクトを選択します。
2. ショートカットメニューの [送る] から [外部コマンド定義名] を選択します。
選択した外部コマンドが実行されます。

補足

- ・ {外部コマンド定義名} には、あらかじめ設定された外部コマンドの名称が表示されます。
- ・ 外部コマンドが設定されている場合だけ、ショートカットメニューの [送る] を選択したときに、[外部コマンド定義名] が表示されます。

2.7 公開 URL を使用する

オブジェクトの公開URLを生成し、クライアントPCのクリップボードにコピーできます。

クリップボードにコピーした公開URLは、メールの本文に貼り付けたり、ほかのアプリケーションで作成した文書に貼り付けたりできます。

公開URLをクリックすると、ドキュメントスペースが起動して、対象のオブジェクトが表示されます。また、デスクトップクライアントで公開URLを指定すると、対応するオブジェクトを [サービスツリー] および [サービスリスト] に表示できます。

2.7.1 選択オブジェクトの公開 URL を生成する

[サービスリスト] で選択したオブジェクトの公開URL（基本情報URLまたはリモート編集URL）を生成し、クリップボードにコピーできます。

補足 基本情報 URL の場合は、[基本情報表示] 画面が表示されます。リモート編集 URL の場合は、ドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションでコンテンツが表示されます。

1. [サービスリスト] で、オブジェクトを選択します。

補足 基本情報 URL を生成する場合は、キャビネット、ドロワー、フォルダー、またはドキュメントを選択できます。リモート編集 URL を生成する場合は、ドキュメントだけ選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [公開 URL] > [基本情報 URL をコピー] または [リモート編集 URL をコピー] を選択します。

選択したオブジェクトの公開 URL がクリップボードにコピーされます。

補足 Web ブラウザーのアドレスバーに、<Ctrl> キーを押したまま <V> キーを押して公開 URL を貼り付けると、ドキュメントスペースが表示されます。

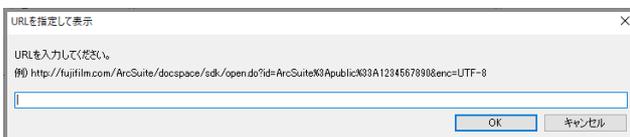
2.7.2 公開 URL からオブジェクトを表示する

クリップボードにコピーされた、ドキュメントスペースやデスクトップクライアントの公開URLから、対応するオブジェクトを [サービスツリー] と [サービスリスト] に表示できます。

1. 操作メニューの [ツール] から [URL を指定して表示] を選択します。

[URL を指定して表示] ダイアログボックスが表示されます。

2. 入力欄に、ドキュメントスペースやデスクトップクライアントの公開 URL を入力します。



補足 ドキュメントスペースやデスクトップクライアントの公開 URL がクリップボードにコピーされている場合は、<Ctrl> キーを押したまま <V> キーを押しても入力できます。

3. [OK] をクリックします。

[サービスツリー] および [サービスリスト] に、対応するオブジェクトが表示されます。

補足 [サービスツリー] にはオブジェクトが格納されているドロワーまたはフォルダーだけが表示されません。

2.8 オブジェクトの格納先のパスを表示する

[チェックアウト一覧]、[お気に入りリスト]、または検索結果リストに表示されたオブジェクトの格納先のパスを表示できます。

1. [チェックアウト一覧]、[お気に入りリスト]、または検索結果リストで、格納先を表示するオブジェクトを選択します。

補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの [ツール] から [格納先の表示] を選択します。
[格納先の表示] ダイアログボックスが表示されます。

3. オブジェクトの格納先を確認したら、[閉じる] をクリックします。



メイン画面に戻ります。

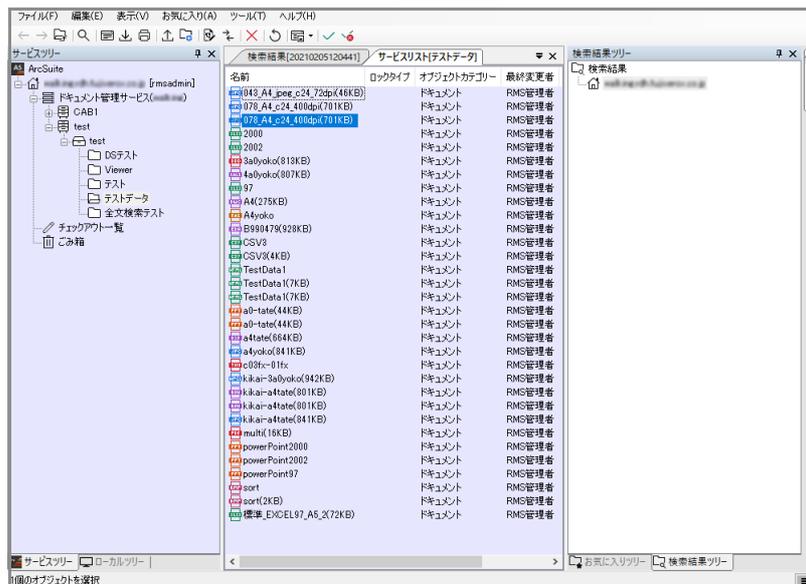
2.9 ドキュメントの格納先を開く

[チェックアウト一覧] または検索結果リストのドキュメントが格納されている、ドロワーまたはフォルダーを [サービスリスト] に表示します。

1. [チェックアウト一覧] または検索結果リストで、格納先を表示するドキュメントを選択します。

2. 操作メニューの [ファイル] から [格納先を開く] を選択します。

リスト表示エリアに、選択したドキュメントが格納されているドロワーまたはフォルダーの [サービスリスト] が表示されます。

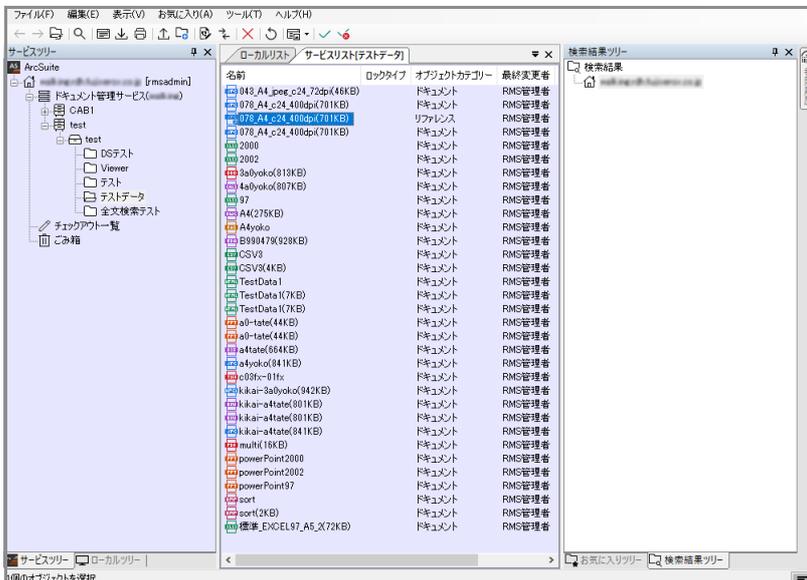


補足 [サービスツリー] にはオブジェクトが格納されているドロワーまたはフォルダーだけが表示されません。

2.10 リファレンスの参照先を開く

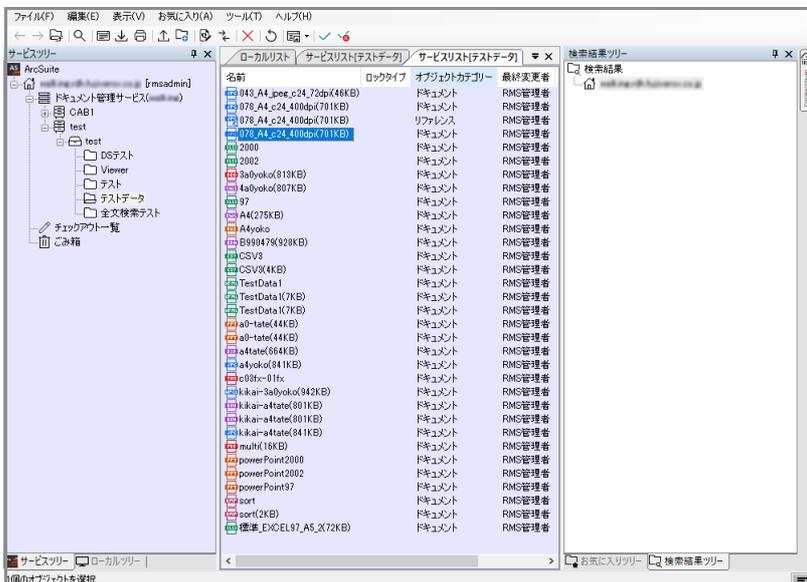
リファレンスの参照先オブジェクトが格納されているキャビネット、ドロワー、またはフォルダーを表示できます。

1. リスト表示エリアで、参照先を表示するリファレンスを選択します。



2. 操作メニューの [ファイル] から [リファレンス] > [参照先を新規タブで開く] を選択します。

リスト表示エリアに、選択したリファレンスの参照先オブジェクトが格納されているキャビネット、ドロワー、またはフォルダーの [サービスリスト] が表示されます。



補足 [サービスツリー] にはオブジェクトが格納されているドロワーまたはフォルダーだけが表示されません。

3 オブジェクトを操作する

この章では、ダウンロードや登録などのオブジェクトの操作について説明します。

3.1 オブジェクトをダウンロードする

サービスのオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を、クライアントPCにダウンロードできます。ダウンロードの操作には、オブジェクトをWindowsのエクスプローラーにドラッグ&ドロップする方法とツールボタンやメニューを使う方法があります。

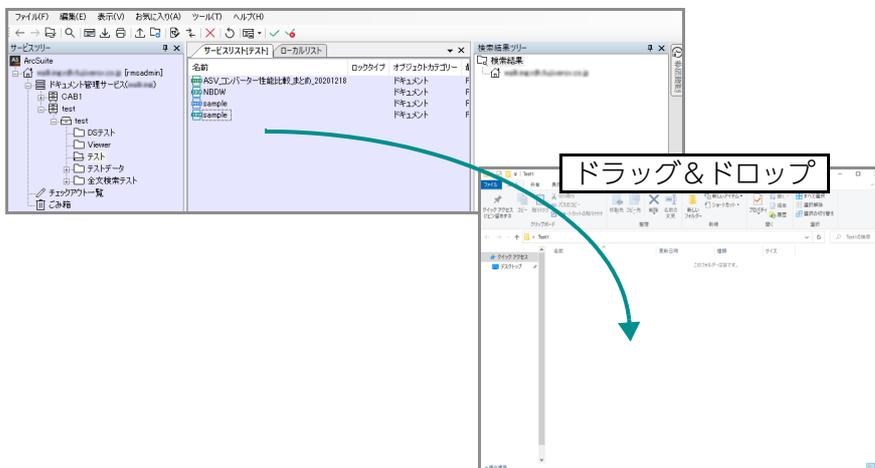
- 補足**
- ・フォルダーをダウンロードした場合は、フォルダーとフォルダー内のすべてのドキュメントがダウンロードされます。
 - ・リファレンスをダウンロードした場合は、参照先のドキュメントがダウンロードされます。
 - ・ダウンロードできるファイルのサイズ制限は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。
 - ・ドキュメントをダウンロードする場合、ArcSuite の Web サービスのコントロールダウンロードの設定が有効、および選択したドキュメントに対してコンテンツ印刷権がないときは、印刷などの操作が制限された DocuWorks 文書または PDF ファイルとしてダウンロードされます。

3.1.1 ドラッグ&ドロップでダウンロードする

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を、Windowsのエクスプローラーにドラッグ&ドロップすることでダウンロードできます。

- 補足** デスクトップクライアントのオブジェクトを、Windowsのエクスプローラーにドラッグ&ドロップしたとき、エラーになった場合は、[設定] ダイアログボックスの [全般] タブにある、[一時ファイル格納先] を確認し、一時ファイル格納先にあるオブジェクトのパス（{一時ファイル格納先} ¥ {対象オブジェクト名}）の長さが 260 文字を超えてないかを確認してください。260 文字を超えている場合は、[一時ファイル格納先] を変更してください。

1. [サービスリスト] で、ダウンロードするオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を、Windowsのエクスプローラーにドラッグ&ドロップします。



オブジェクトがダウンロードされます。

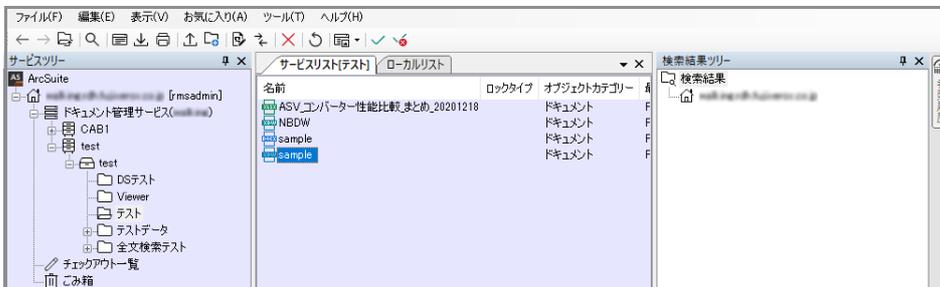
- 補足**
- ・複数のオブジェクトをドラッグ&ドロップできます。
 - ・右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [ここにコピー] を選択しても、オブジェクトをコピーできます。
 - ・ダウンロードしたファイルのファイル名は、[設定] ダイアログボックスの [全般] タブで設定できます。

参照 [設定] ダイアログボックスの [全般] タブの詳細 ⇒ 第3部 [\[5.2.1 \[全般\] タブ\]](#) (P.202)

3.1.2 ツールボタンやメニューでダウンロードする

ツールボタン、操作メニュー、またはショートカットメニューで、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）をWindowsのエクスプローラーにダウンロードできます。

1. [サービスリスト] で、ダウンロードするオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. ↓ (ダウンロード) をクリックします。

オブジェクトの保存先を指定するダイアログボックスが表示されます。

補足 操作メニューの [ファイル] から [ダウンロード]、またはショートカットメニューの [ダウンロード] を選択しても、ダウンロードできます。

3. 保存先を指定します。

オブジェクトがダウンロードされます。

3.2 サービスにフォルダーを作成する

サービスのドロワー内に、フォルダーを作成できます。

補足 キャビネット内に作成できるフォルダーの階層数は、キャビネット管理者に確認してください。

参照 ローカルにフォルダーを作成する操作 ⇒ 第3部「[1.2 ローカルにフォルダーを作成する](#)」(P.168)

1. [サービスツリー] で、フォルダーの作成先を選択します。

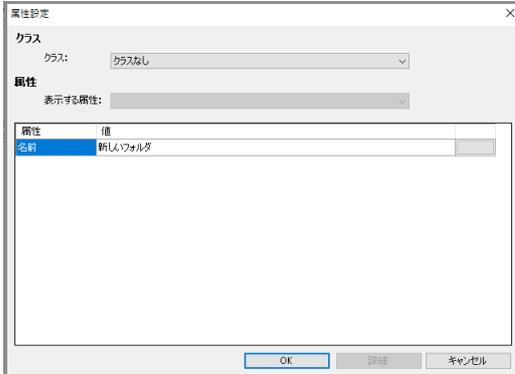


2. (フォルダ作成) をクリックします。

[属性設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足**
- 操作メニューの [ファイル] から [新規作成] > [フォルダ]、またはショートカットメニューの [新規作成] から [フォルダ] を選択しても、[属性設定] ダイアログボックスを表示できます。
 - Windows のエクスプローラーから、空のフォルダーを [サービスリスト] にドラッグ&ドロップするか、右ドラッグ&ドロップして表示されたメニューから [登録] を選択しても、フォルダーを作成できます。この場合、[属性設定] ダイアログボックスは表示されません。

3. 必要に応じて、クラスを選択します。



4. [名前] の [値] にフォルダー名を入力します。

5. その他の属性を設定する場合は、その他の [属性] の [値] に入力します。

参照 属性の入力のしかた ⇒ 第1部「[3.6 属性値を入力する](#)」(P.54)

6. [OK] をクリックします。

フォルダーが作成されます。

3.3 ドキュメントを登録する

Windowsのエクスプローラーにあるファイルを、デスクトップクライアント経由でサービスに登録できます。登録方法には、Windowsのエクスプローラーから [サービスリスト] にファイルをドラッグ&ドロップする方法と、デスクトップクライアントのツールボタンやメニューを使う方法があります。

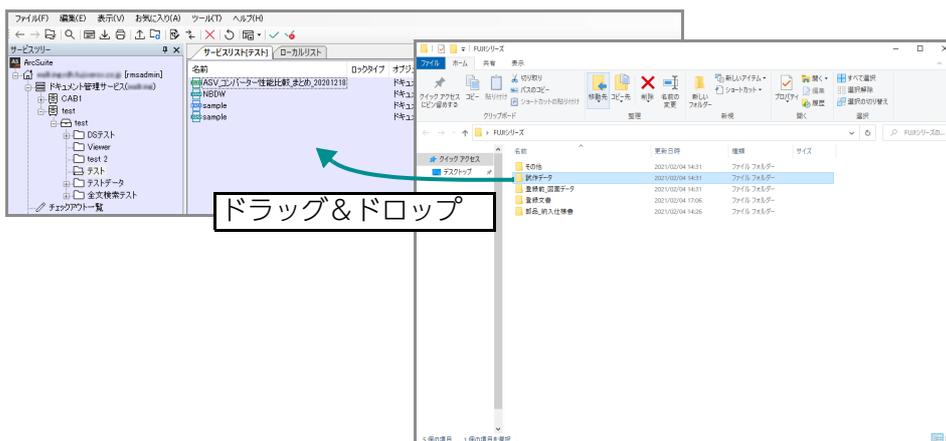
- 補足**
- 登録できるファイルのサイズ制限は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。フォルダーを登録する場合、フォルダー内の各ファイルがサイズ制限内であるときは、登録できます。
 - アプリケーション設定を変更すると、属性やセカンダリコンテンツを設定して登録することもできます。

3.3.1 ドラッグ&ドロップで登録する

ファイルを、Windowsのエクスプローラーから [サービスリスト] にドラッグ&ドロップすることで、サービスにドキュメントを登録できます。

- 補足** フォルダーを登録すると、フォルダーとフォルダー内のすべてのファイルが登録されます。

- [サービスツリー] で、登録先のオブジェクト（ドロワー、フォルダー）を選択します。
- 登録するフォルダーまたはファイルを、Windowsのエクスプローラーから [サービスリスト] にドラッグ&ドロップします。

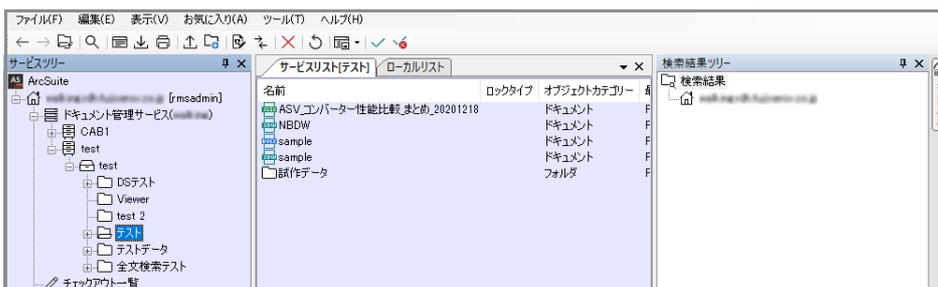


[登録確認] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足**
- 複数のフォルダーやファイルをドラッグ&ドロップできます。
 - パスを含むファイル名が 255 バイトを超える場合は、ドラッグ&ドロップで登録できません。
 - アプリケーション設定によっては、[登録確認] ダイアログボックスは表示されません。
 - 右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [登録] を選択しても、ファイルを登録できます。

- [OK] をクリックします。

[サービスリスト] にオブジェクトが表示されます。



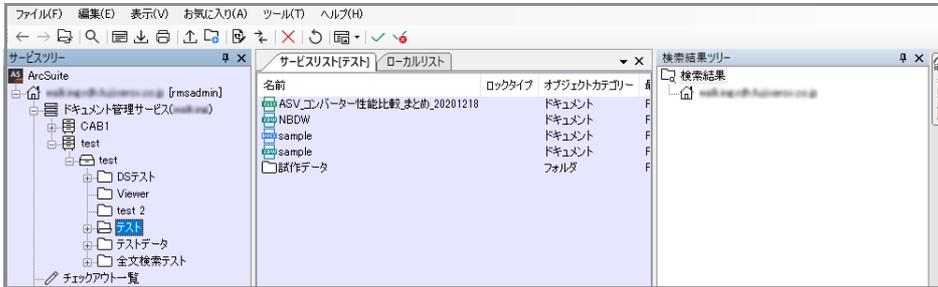
- 補足** [登録確認] ダイアログボックスで、ドキュメントに属性を設定して登録することもできます。

参照 [登録確認] ダイアログボックスの操作 ⇒ 第 2 部 [「3.3.3 属性を設定して登録する」](#) (P.119)

3.3.2 ツールボタンやメニューで登録する

ツールボタン、操作メニュー、またはショートカットメニューで、Windowsのエクスプローラーにあるファイルをサービスに登録できます。

1. [サービスツリー] で、ファイルの登録先を選択します。



2. ⬆ (ドキュメント作成) をクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

補足 操作メニューの [ファイル] から [新規作成] > [ドキュメント]、またはショートカットメニューの [新規作成] から [ドキュメント] を選択しても、ファイルに登録できます。

3. ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

[サービスリスト] にドキュメントが表示されます。

補足 アプリケーション設定によっては、[登録確認] ダイアログボックスが表示されます。

参照 [登録確認] ダイアログボックスの操作 ⇒ 第2部 [\[3.3.3 属性を設定して登録する\]](#) (P.119)

3.3.3 属性を設定して登録する

アプリケーション設定で、[デスクトップからデスクトップクライアントへのドロップ時に登録ダイアログを表示する] が [はい] になっている場合は、属性やセカンダリコンテンツを設定して、ドキュメントを登録できます。

参照 アプリケーション設定を変更する操作 ⇒ 第3部 [「5.1 アプリケーション設定を変更する」 \(P.201\)](#)

1. [「3.3.1 ドラッグ&ドロップで登録する」 \(P.117\)](#) の手順 1 ~ 2、または [「3.3.2 ツールボタンやメニューで登録する」 \(P.118\)](#) の手順 1 ~ 3 の操作をします。

[登録確認] ダイアログボックスが表示されます。

2. [属性を指定して登録する] にチェックマークを付けます。

3. [OK] をクリックします。

[属性設定] ダイアログボックスが表示されます。

4. 必要に応じて、クラスを選択します。

属性	値
名前	試作データ
試作番号	
所属グループ	
種名	
設計者	入力
部品コード	
契約日	入力
承認日	入力
承認者	入力
図面番号	

5. 属性を設定する場合は、設定する属性の [値] に属性値を入力します。

補足 [名前] には、選択したフォルダー名またはファイル名が表示されています。必要に応じて変更できません。

参照 属性の入力のしかた ⇒ 第1部 [「3.6 属性値を入力する」 \(P.54\)](#)

6. セカンダリコンテンツ（インデックス画像、部分画像、プリント画像）を登録する場合は、次のように操作します。

(1) [詳細] をクリックします。

[インデックス画像]、[部分画像]、[プリント画像] 設定欄が表示されます。

属性	値	
名前	試作データ	
試作番号		
所属グループ		
顧客名		
設計者		入力
部品コード		
契約日		入力
承認日		入力
承認者		入力
図面番号		

(2) 登録する画像の [参照] をクリックし、画像のファイルを選択して [開く] をクリックします。

[属性設定] ダイアログボックスに、選択したファイルのパスが表示されます。

7. [OK] をクリックします。

フォルダーやファイルが登録され、[サービスリスト] にフォルダーやドキュメントが表示されます。

3.4 オブジェクトのリファレンスを作成する

オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）のリファレンスを作成できます。作成方法には、参照先のフォルダーやドキュメントを、リファレンスの作成先にドラッグ&ドロップする方法と、メニューを使う方法があります。

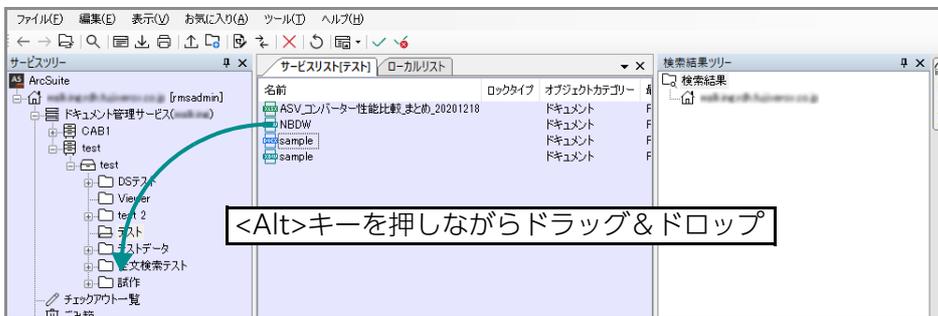
参照 リファレンスの詳細 ⇒ 第1部 [「1.3.4 リファレンスの種類」](#) (P.22)

3.4.1 ドラッグ&ドロップでリファレンスを作成する

参照先となるオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、リファレンスの作成先にドラッグ&ドロップすることで、リファレンスを作成できます。

補足 ドラッグ&ドロップの操作では、キャビネットおよびドロワーのリファレンスを作成できません。

1. [サービスリスト] で、参照先となるオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、リファレンスの作成先（ドロワー、フォルダー）に、<Alt> キーを押しながらドラッグ&ドロップします。



[リファレンス作成] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足**
- ・ 複数のオブジェクトを選択できます。
 - ・ 右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [リファレンス作成] を選択しても、リファレンスを作成できます。
 - ・ [お気に入りリスト] または検索結果リストのオブジェクトも、リファレンスを作成できます。

2. [種別] で、[通常リファレンス]、[通常リファレンス（常に最新版を参照）]、または [ハードリファレンス] を選択します。



補足 [登録先] には、リファレンスの作成先（ドロワー、フォルダー）の名称が表示されます。

3. [OK] をクリックします。
リファレンスが作成されます。

3.4.2 メニューでリファレンスを作成する

操作メニューやショートカットメニューで、オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）のリファレンスを作成できます。

1. [サービスリスト] で、リファレンスの参照先となるオブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を選択します。

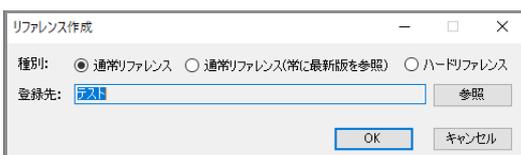


- 補足**
- ・複数のオブジェクトを選択できます。
 - ・[お気に入りリスト] または検索結果リストのオブジェクトも、リファレンスを作成できます。

2. 操作メニューの [ファイル] から [リファレンス] > [リファレンス作成] を選択します。
[リファレンス作成] ダイアログボックスが表示されます。

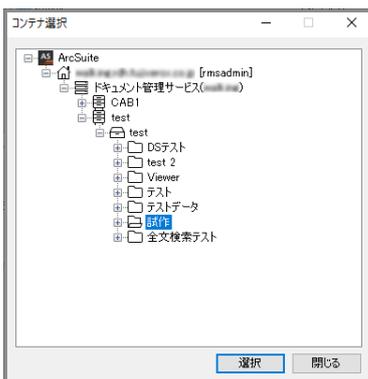
- 補足** リファレンスの参照先となるオブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を選択して、操作メニューの [編集] から [コピー] を選択し、リファレンスの作成先となるオブジェクト（ドロワー、フォルダー）を選択して、ショートカットメニューの [リファレンスの貼り付け] を選択しても、[リファレンス作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. [種別] で、[通常リファレンス]、[通常リファレンス（常に最新版を参照）]、または [ハードリファレンス] を選択します。



4. [参照] をクリックします。
[コンテナ選択] ダイアログボックスが表示されます。

5. リファレンスの作成先（ドロワー、フォルダー）を選択します。



6. [選択] をクリックします。
[リファレンス作成] ダイアログボックスに戻ります。

7. [OK] をクリックします。
リファレンスが作成されます。

3.5 リファレンスを実体化する

リファレンスを実体化できます。実体化すると、リファレンスは、参照先のフォルダーまたはドキュメントのコピーと置き換えられます。このとき、参照先のフォルダーまたはドキュメントのすべての属性値が、置き換えられたオブジェクトに設定されます。

参照 リファレンスの詳細 ⇒ 第1部 [「1.3.4 リファレンスの種類」](#) (P.22)

1. [サービスリスト] で、リファレンスを選択します。



補足 複数のリファレンスを選択できます。

2. 操作メニューの [ファイル] から [リファレンス] > [リファレンス実体化] を選択します。

◆ 版管理属性値が設定されていないドキュメントの場合

リファレンスが実体化されます。

◆ 版管理属性値が設定されているドキュメントの場合

版管理属性値を引き継ぐかどうかを確認するメッセージが表示されます。手順 [3](#) に進んでください。

補足 ショートカットメニューの [リファレンス実体化] を選択しても、リファレンスを実体化できます。

3. 版管理属性値を引き継ぐ場合は [はい] を、引き継がない場合は [いいえ] をクリックします。

リファレンスが実体化されます。



3.6 オブジェクトの名前を変更する

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）の名前を変更できます。

補足 名前を変更できるオブジェクトは、別のユーザーによって、ロックまたはチェックアウトされていないオブジェクトです。

1. リスト表示エリアで、名前を変更するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



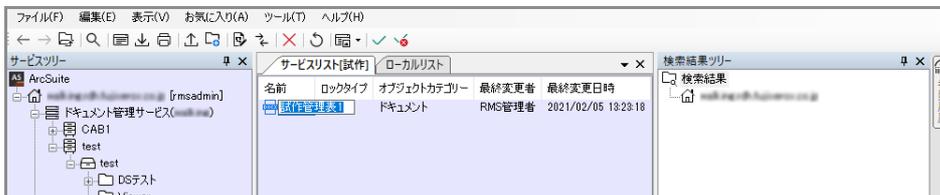
2. 操作メニューの [ファイル] から [名前の変更] を選択します。
選択したオブジェクトの [名前] を変更できるようになります。

補足

- ・ショートカットメニューの [名前の変更] を選択しても、オブジェクトの [名前] を変更できるようになります。
- ・<F2> キーを押しても、オブジェクトの [名前] を変更できるようになります。
- ・オブジェクトの [プロパティ] ダイアログボックスでも [名前] を変更できます。

参照 [プロパティ] ダイアログボックスの操作 ⇒ 第2部 [「4.1.2 フォルダー、ドキュメントの属性を表示、変更する」](#) (P.143)

3. [名前] を変更します。



オブジェクトの名前が変更されます。

3.7 オブジェクトをロックする

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）をロックすると、ロックしたユーザーだけが、ロックしたオブジェクトの更新や削除ができます。

補足 通常リファレンスもハードリファレンスも、ロックできます。

参照 ロックの詳細 ⇒ 第1部 [「1.3.5 オブジェクトのアクセス制御」](#) (P.22)

3.7.1 オブジェクトをロックする

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）をロックします。フォルダーをロックする場合、フォルダー内のオブジェクトも同時にロックできます。

1. [サービスリスト] で、ロックするオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [ロック] を選択します。
[ロックコメント] ダイアログボックスが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [ロック] を選択しても、[ロックコメント] ダイアログボックスが表示されます。

3. 必要に応じて、[コメント] にコメントを入力します。



補足 コメントは、属性の [ロックコメント] で確認できます。

4. フォルダーをロックする場合、フォルダー内のオブジェクトもロックするときは、[本フォルダ以下のオブジェクトも含む] にチェックマークを付けます。

補足 ドキュメントをロックする場合は、[本フォルダ以下のオブジェクトも含む] は表示されません。

5. [OK] をクリックします。

オブジェクトがロックされ、[ロックタイプ] が [ロック中] になります。



3.7.2 オブジェクトのロックを解除する

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）のロックを解除できます。
フォルダーのロックを解除する場合、フォルダー内のオブジェクトも同時にロックを解除できます。

1. [サービスリスト] で、ロックを解除するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [アンロック] を選択します。

◆ ドキュメントを選択した場合

ロックが解除されます。

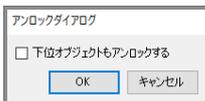


◆ フォルダーを選択した場合

[アンロックダイアログ] ダイアログボックスが表示されます。手順 3 に進んでください。

補足 ショートカットメニューの [アンロック] を選択しても、オブジェクトのロックを解除できます。

3. フォルダー内のオブジェクトもロックを解除する場合は、[下位オブジェクトもアンロックする] にチェックマークを付けます。



4. [OK] をクリックします。
フォルダーのロックが解除されます。

3.8 オブジェクトを削除する

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を削除します。

- 補足**
- ・フォルダーを削除した場合、フォルダー内のオブジェクトも削除されます。
 - ・ロックまたはチェックアウトされたオブジェクトは、削除できません。
 - ・ハードリファレンスは、削除できません。
 - ・ハードリファレンスが登録されているフォルダーは、削除できません。
 - ・ごみ箱は、キャビネットごとに設定します。ごみ箱が設定されているキャビネット内のオブジェクトを削除した場合、削除したオブジェクトは、キャビネットのごみ箱に移動されます。
 - ・ローカルにごみ箱が設定されている場合、削除したローカルのオブジェクトは、ローカルのごみ箱に移動されます。
 - ・初期値では、ローカルにごみ箱が設定されていません。操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると、ローカルにごみ箱を設定できます。
- 参照**
- ・ごみ箱の操作 ⇒ 第 3 部 [「3.9 ごみ箱を操作する」 \(P.128\)](#)
 - ・ローカルにごみ箱を設定する操作 ⇒ 第 3 部 [「5.2.1 \[全般\] タブ」 \(P.202\)](#)

1. リスト表示エリアで、削除するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



2. **X (削除)** をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

- 補足**
- ・操作メニューの [ファイル] から [削除]、またはショートカットメニューの [削除] を選択しても、オブジェクトを削除できます。
 - ・ <Delete> キーを押しても、オブジェクトを削除できます。

3. [OK] をクリックします。

選択したオブジェクトが削除されます。ごみ箱が設定されている場合は、ごみ箱に移動されます。

3.9 ごみ箱を操作する

サービスとローカルのそれぞれのごみ箱では、ごみ箱内のオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）の確認、復元、および削除ができます。

注記 ごみ箱から削除したオブジェクトを元に戻すことはできません。

補足

- ・ サービスのごみ箱を使用する場合は、キャビネットにごみ箱が設定されている必要があります。キャビネット管理者に確認してください。
- ・ 初期値では、ローカルにごみ箱が設定されていません。

参照 ローカルにごみ箱を設定する操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.1 \[全般\] タブ\] \(P.202\)](#)

1. ツリー表示エリア（サービス、ローカル）で、**[ごみ箱]** をクリックします。ごみ箱リストに、ごみ箱に保存されているオブジェクトが表示されます。



2. オブジェクトを復元する場合は、次のように操作します。

- (1) 復元するオブジェクトを選択します。

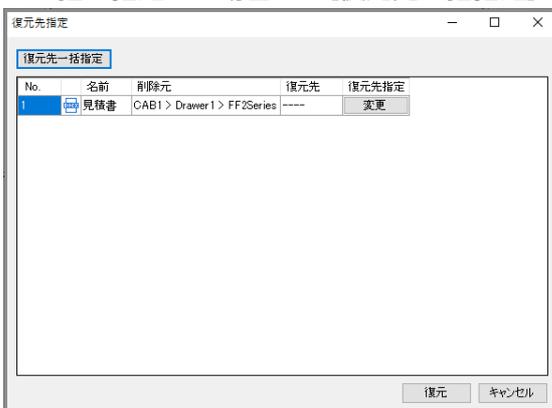
補足 複数のオブジェクトを選択できます。

- (2) 操作メニューの **[ファイル]** から **[ごみ箱]** > **[復元]** を選択します。

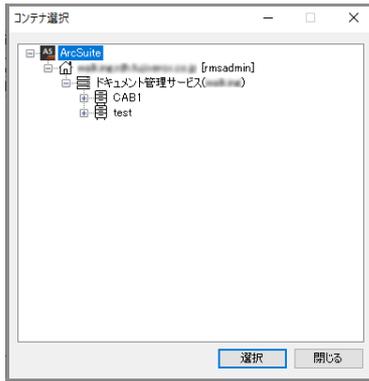
- ・ 復元先が存在する場合
元の登録場所に復元されます。
- ・ 復元先が存在しない場合
[復元先指定] ダイアログボックスが表示されます。手順 [3](#) に進んでください。

補足 ショートカットメニューの **[復元]** を選択しても、オブジェクトを復元できます。

- (3) 復元先を個別に指定する場合は、復元するオブジェクトの **[変更]** を、すべてのオブジェクトの復元先を一括で指定する場合は、**[復元先一括指定]** をクリックします。



[コンテナ選択] ダイアログボックスが表示されます。

(4) 復元先を選択します。**(5) [選択] をクリックします。**

[復元先指定] ダイアログボックスに戻ります。

(6) [復元] をクリックします。

選択したオブジェクトが復元先に復元されます。

3. ごみ箱内のオブジェクトを削除する場合は、次のように操作します。**(1) 削除するオブジェクトを選択します。**

補足 複数のオブジェクトを選択できます。

(2) 操作メニューの [ファイル] から [ごみ箱] > [削除] を選択します。

確認メッセージが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [削除] を選択しても、確認メッセージが表示されます。

(3) [はい] をクリックします。

選択したオブジェクトが完全に削除されます。

4. ごみ箱内のオブジェクトをすべて削除する場合は、次のように操作します。**(1) ツリー表示エリア (サービス、ローカル) で、ごみ箱をクリックします。****(2) 操作メニューの [ファイル] から [ごみ箱] > [ごみ箱を空にする] を選択します。**

ごみ箱内のすべてのオブジェクトが完全に削除されます。

3.10 オブジェクトを移動する

サービス内またはローカル内で、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を移動できます。オブジェクトを移動する方法には、ドラッグ&ドロップで移動する方法とメニューで移動する方法があります。

- 補足**
- ・ サービスのオブジェクトは、サービスをまたいで移動できます。
 - ・ サービスからローカルへ、およびローカルからサービスへの移動はできません。
 - ・ 移動先のオブジェクトは、移動元のアクセス権を引き継ぎます。
 - ・ フォルダーを移動する場合、フォルダー内のオブジェクトもすべて移動されます。フォルダー内にアクセス権がないオブジェクトがある場合は、移動できません。
 - ・ 一部のシステム属性を除き、移動元と同じ属性で移動されます。ただし、移動先のキャビネットに存在しないユーザー属性は、移動されません。
 - ・ オブジェクトを削除するアクセス権を持たないユーザーが、キャビネットをまたいでオブジェクトを移動した場合、オブジェクトは移動先のキャビネットにコピーされます。

参照 ローカルのオブジェクトを Windows のエクスプローラーに移動する操作 ⇒ 第3部 [「1.6 ローカルから Windows のエクスプローラーにコピーする」 \(P.176\)](#)

3.10.1 ドラッグ&ドロップでオブジェクトを移動する

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、移動先にドラッグ&ドロップすることで、移動できます。

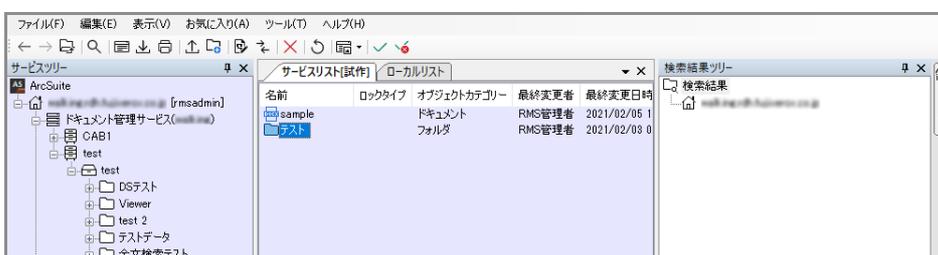
1. リスト表示エリアで、移動元となるオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、移動先のリスト表示エリアのオブジェクトにドラッグ&ドロップします。



確認メッセージが表示されます。

- 補足**
- ・ 複数のオブジェクトを選択できます。
 - ・ サービスのオブジェクトは、キャビネット、ドロワー、またはフォルダーに移動できます。
 - ・ ローカルのオブジェクトは、同じローカルルートフォルダー内のフォルダーに移動できます。別のローカルルートフォルダーには移動できません。
 - ・ [サービスリスト] または [ローカルリスト] を複数表示している場合は、[サービスリスト] 同士または [ローカルリスト] 同士で、ドラッグ&ドロップしても移動できます。
 - ・ アプリケーション設定によっては、<Shift> キーを押しながらドラッグ&ドロップすると移動できます。
 - ・ アプリケーション設定によっては、確認メッセージは表示されません。
 - ・ 右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [移動] を選択しても、オブジェクトを移動できます。

2. [OK] をクリックします。
オブジェクトが移動します。



3.10.2 メニューでオブジェクトを移動する

操作メニューまたはショートカットメニューで、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を移動できません。

1. リスト表示エリアで、移動するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を選択します。



補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの【編集】から【切り取り】を選択します。

- 補足**
- ・ショートカットメニューの【切り取り】を選択しても、移動元のオブジェクトを指定できます。
 - ・操作メニューの【編集】から【指定先へ移動】>【指定先へ移動】を選択し、【コンテナ選択】ダイアログボックスで移動先を指定しても、オブジェクトを移動できます。
 - ・ローカルのオブジェクトの場合は、ショートカットメニューの【移動】を選択し、【コンテナ選択】ダイアログボックスで移動先を指定しても、オブジェクトを移動できます。

3. 移動先のオブジェクトを選択します。

- 補足**
- ・サービスのオブジェクトは、キャビネット、ドロワー、またはフォルダーに移動できます。
 - ・ローカルのオブジェクトは、同じローカルルートフォルダー内のフォルダーに移動できます。別のローカルルートフォルダーには移動できません。

4. 操作メニューの【編集】から【貼り付け】を選択します。

オブジェクトが移動します。

- 補足**
- ・ショートカットメニューの【貼り付け】を選択しても、オブジェクトを移動できます。
 - ・<Ctrl> キーを押したまま <V> キーを押しても、オブジェクトを移動できます。

3.11 オブジェクトをコピーする

サービス内またはローカル内で、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）をコピーできます。オブジェクトをコピーする方法には、ドラッグ&ドロップでコピーする方法とメニューでコピーする方法があります。

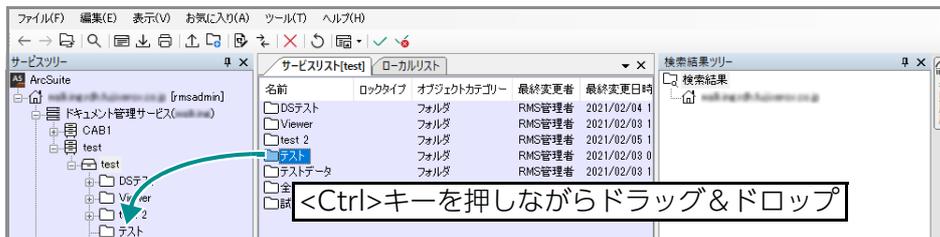
- 補足**
- ・サービスのオブジェクトは、サービスをまたいでコピーできます。
 - ・サービスからローカルへ、およびローカルからサービスへはコピーできません。
 - ・ドキュメントをコピーする場合は、最新のバージョンだけがコピーされます。
 - ・コピー元のオブジェクトがロックされていても、コピー後のオブジェクトはロックされません。
 - ・コピー先のオブジェクトは、コピー元のアクセス権を引き継ぎます。
 - ・フォルダーをコピーする場合、フォルダー内のオブジェクトもすべてコピーされます。フォルダー内にアクセス権がないオブジェクトがある場合は、コピーできません。
 - ・一部のシステム属性を除き、コピー元と同じ属性でコピーされます。ただし、コピー先のキャビネットに存在しないユーザー属性は、コピーされません。

参照 ローカルのオブジェクトを Windows のエクスプローラーにコピーする操作 ⇒ 第3部 [「1.6 ローカルから Windows のエクスプローラーにコピーする」\(P.176\)](#)

3.11.1 ドラッグ&ドロップでオブジェクトをコピーする

オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）をコピー先にドラッグ&ドロップすることで、コピーできます。

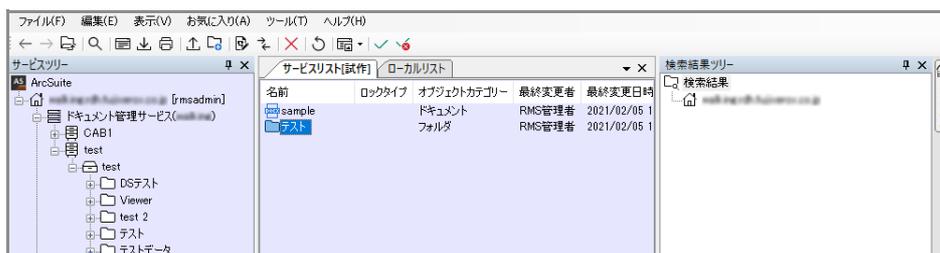
1. リスト表示エリアで、コピー元となるオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、コピー先のツリー表示エリア（サービス、ローカル）のオブジェクトに、<Ctrl> キーを押しながらドラッグ&ドロップします。



確認メッセージが表示されます。

- 補足**
- ・複数のオブジェクトを選択できます。
 - ・サービスのオブジェクトは、ドローまたはフォルダーにコピーできます。
 - ・ローカルのオブジェクトは、フォルダーにコピーできます。
 - ・[サービスリスト] または [ローカルリスト] を複数表示している場合は、[サービスリスト] 同士または [ローカルリスト] 同士へ、ドラッグ&ドロップしてもコピーできます。
 - ・アプリケーション設定によっては、<Ctrl> キーを押さずにドラッグ&ドロップしてもコピーできます。
 - ・アプリケーション設定によっては、確認メッセージは表示されません。
 - ・右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [コピー] を選択しても、オブジェクトをコピーできます。

2. [OK] をクリックします。
オブジェクトがコピーされます。



3.11.2 メニューでオブジェクトをコピーする

操作メニューまたはショートカットメニューで、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）をコピーできます。

1. リスト表示エリアで、コピーするオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を選択します。



補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの【編集】から【コピー】を選択します。

補足

- ・ショートカットメニューの【コピー】を選択しても、コピー元のオブジェクトを指定できます。
- ・セル形式の場合に同じフォルダー内にコピーするときは、ショートカットメニューの【複製】を選択しても、コピー元のオブジェクトを指定できます。
- ・操作メニューの【編集】から【指定先へ移動】>【指定先へコピー】を選択し、【コンテナ選択】ダイアログボックスでコピー先を指定しても、オブジェクトをコピーできます。

3. コピー先のオブジェクトを選択します。

補足

- ・サービスのオブジェクトは、ドローまたはフォルダーにコピーできます。
- ・ローカルのオブジェクトは、フォルダーにコピーできます。

4. 操作メニューの【編集】から【貼り付け】を選択します。

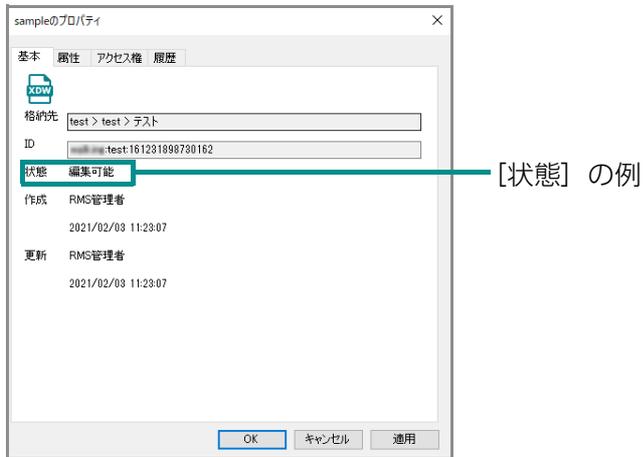
オブジェクトがコピーされます。

補足

- ・ショートカットメニューの【貼り付け】を選択しても、オブジェクトをコピーできます。
- ・<Ctrl> キーを押したまま <V> キーを押しても、オブジェクトをコピーできます。

3.12 オブジェクトの状態を変更する

アプリケーション設定で、属性の【状態】の変更が許可されている場合は、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）の【状態】の属性値を変更できます。



補足 【状態】を変更できるかどうかは、操作メニューの【ファイル】から【アプリケーション設定】を選択すると確認できます。初期値では、【状態】を変更できる設定になっています。

3.12.1 メニューで状態を変更する

操作メニューまたはショートカットメニューで、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント）の【状態】の属性値を変更できます。

1. リスト表示エリアで、【状態】の属性値を変更するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を選択します。



2. 操作メニューの【編集】から【状態変更】を選択します。
【状態変更】ダイアログボックスが表示されます。

補足 ショートカットメニューの【編集】から【状態変更】を選択しても、オブジェクトの【状態】の属性値を変更できます。

3. 【新しい状態に変更】で、属性値を選択します。



4. 【OK】をクリックします。
オブジェクトの【状態】の属性値が変更されます。

3.12.2 セルに属性値を入力して状態を変更する

セル形式のときは、セルに属性値を入力して、[状態] の属性値を変更できます。

1. セル形式のリスト表示エリアで、変更する [状態] の属性値をダブルクリックします。

ローカルリスト		サービスリスト(テスト)	
名前	ロックタイプ	状態	オブジェクトカテゴリ
ASV_コンバーター性能比較まとめ_20201218		systemeditable	systemdocument
NBDW		systemeditable	systemdocument
sample		systemeditable	systemdocument
sample		systemeditable	systemdocument

属性値のセルが入力できる状態になります。

2. 変更後の属性値を ID で入力します。

ローカルリスト		サービスリスト(テスト)	
名前	ロックタイプ	状態	オブジェクトカテゴリ
ASV_コンバーター性能比較まとめ_20201218		systemeditable	systemdocument
NBDW		systemeditable	systemdocument
sample		systemeditable	systemdocument
sample		systemeditable	systemdocument

3. <Enter> キーを押します。

◆ [サービスリスト] のオブジェクトの場合

属性値を変更したセルが緑色で表示され、次の行に移動します。手順 4 に進んでください。

ローカルリスト		サービスリスト(テスト)	
名前	ロックタイプ	状態	オブジェクトカテゴリ
ASV_コンバーター性能比較まとめ_20201218		systemeditable	systemdocument
NBDW		systemeditable	systemdocument
sample		systemfixed	systemdocument
sample		systemeditable	systemdocument

◆ [ローカルリスト] のオブジェクトの場合

そのまま属性値が登録され、次の行に移動します。

4. ショートカットメニューの [属性反映] を選択します。
変更後の属性が登録されます。

3.13 クラスを変更する

サービスのオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）のクラスを変更できます。キャビネットに設定されているクラスは、[プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

3.13.1 フォルダー、ドキュメントのクラスを変更する

サービスのオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）のクラスを変更できます。

1. [サービスリスト] で、クラスを変更するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を選択します。



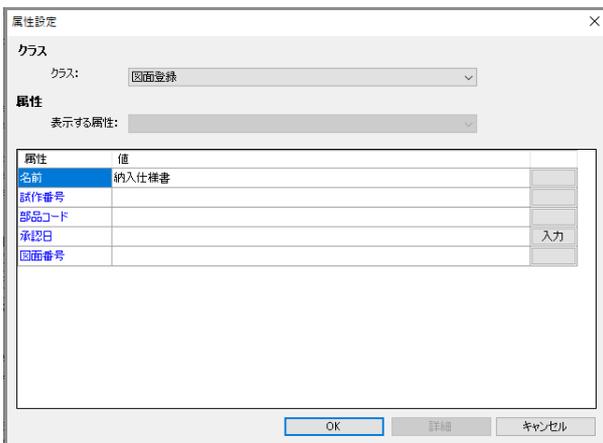
補足 同じキャビネット内のオブジェクトは複数選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [クラス変更] を選択します。

[属性設定] ダイアログボックスが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [編集] から [クラス変更] を選択しても、[属性設定] ダイアログボックスが表示されます。

3. [クラス] で、変更するクラスを選択します。



4. 必要に応じて、[属性] の [値] を変更します。

参照 属性値の入力のしかた ⇒ 第1部 [\[3.6 属性値を入力する\]](#) (P.54)

5. [OK] をクリックします。

オブジェクトのクラスが変更されます。

3.13.2 キャビネットのクラスを表示する

キャビネットに設定されているクラスを表示できます。

補足 キャビネットのクラスは、キャビネット管理者が設定します。

1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、キャビネットを選択します。

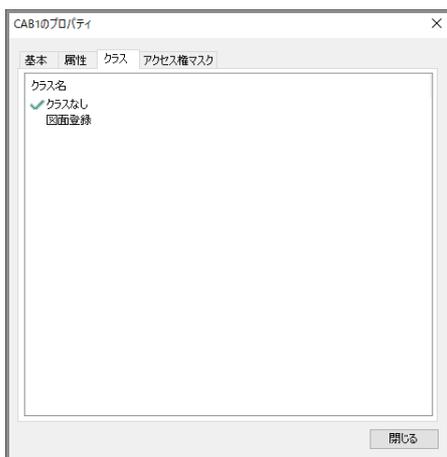
2. 操作メニューの [ファイル] から [プロパティ] を選択します。

[プロパティ] ダイアログボックスの [基本] タブが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [プロパティ] を選択しても、[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [クラス] タブをクリックします。

[クラス] タブが表示されます。



補足 キャビネットに設定されているクラスが表示されます。初期値のクラスには、チェックマークが付いて表示されます。

3.14 スタンプを設定する

サービスのドキュメントにスタンプを設定できます。

- 補足**
- ・スタンプは、ドキュメント管理サービスの管理者が作成します。
 - ・スタンプを設定すると、ドキュメントは改訂されます。

1. [サービスリスト] で、スタンプを設定するドキュメントを選択します。



- 補足** 同じキャビネット内のオブジェクトは複数選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [スタンプ] を選択します。

[スタンプ] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足** ショートカットメニューの [編集] から [スタンプ] を選択しても、スタンプを設定できます。

3. [スタンプ] で、設定するスタンプの種類を選択します。

4. 必要に応じて、[コメント] に改訂コメントを入力します。

- 補足** コメントは、属性の [改訂コメント] で確認できます。

5. [OK] をクリックします。

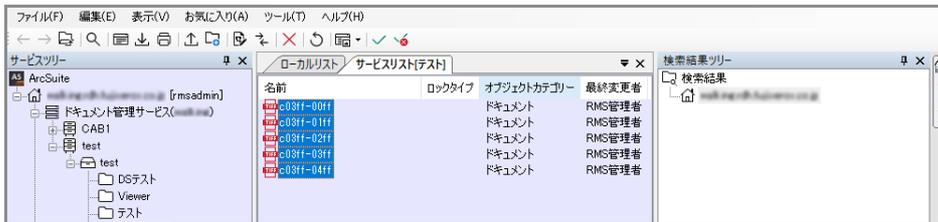
ドキュメントにスタンプが設定されます。

3.15 一括出図用 CSV ファイルを出力する

サービスのドキュメントを、ArcEPSプリントサービスなどで一括出力するための、一括出図用CSVファイルを出力できます。対象のドキュメントがダウンロードされ、ダウンロードしたファイルのパスが記録されたCSVファイルが生成されます。

補足 リファレンスの場合、一括出図用 CSV ファイルは出力できません。

1. [サービスリスト] で、ドキュメントを選択します。



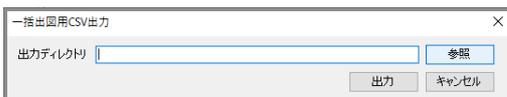
補足

- ・複数のドキュメントを選択できます。
- ・[お気に入りリスト] または検索結果リストのドキュメントも、一括出図用 CSV ファイルを出力できます。

2. 操作メニューの [ツール] から [一括出図用 CSV 出力] を選択します。

[一括出図用 CSV 出力] ダイアログボックスが表示されます。

3. [参照] をクリックします。



[フォルダーの参照] ダイアログボックスが表示されます。

4. 一括出図用 CSV ファイルを出力するフォルダーを選択し、[OK] をクリックします。

[一括出図用 CSV 出力] ダイアログボックスに戻ります。[出力ディレクトリ] に選択したフォルダーのパスが表示されます。

5. [出力] をクリックします。

選択した出力先フォルダーに、手順 1 で選択したドキュメントがダウンロードされ、一括出図用 CSV ファイルが出力されます。

補足 出力された一括出図用 CSV ファイルのファイル名は「printlist.csv」です。

4 属性やアクセス権を表示、変更する

この章では、オブジェクトの属性やアクセス権を表示、変更する操作について説明します。

4.1 プロパティで属性を表示、変更する

オブジェクトの [プロパティ] ダイアログボックスで属性を表示し、変更できます。

4.1.1 キャビネット、ドロワーの属性を表示する

キャビネットまたはドロワーの属性を表示できます。

補足 キャビネット、ドロワーの属性は変更できません。

1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、キャビネットまたはドロワーを選択します。

2. 操作メニューの [ファイル] から [プロパティ] を選択します。

[{オブジェクト名} のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

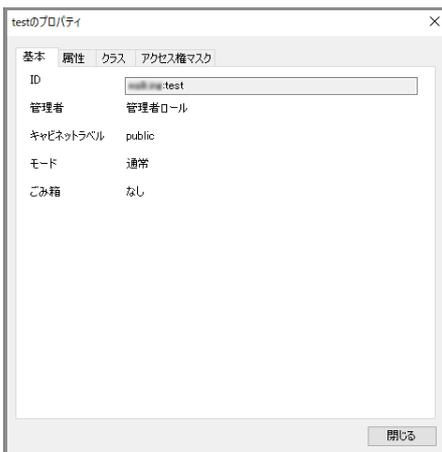
補足 ショートカットメニューの [プロパティ] を選択しても、[{オブジェクト名} のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

参照

- ・キャビネットの [クラス] タブの操作 ⇒ 第2部 [\[3.13.2 キャビネットのクラスを表示する\]](#) (P.137)
- ・キャビネットの [アクセス権マスク] タブの操作 ⇒ 第2部 [\[4.4 アクセス権設定を管理する\]](#) (P.150)

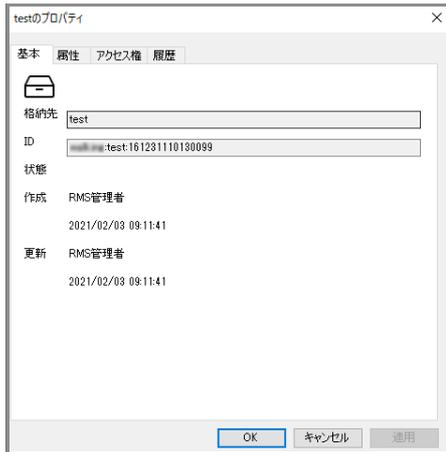
◆ [基本] タブ

・キャビネットの場合



項目	説明
ID	キャビネットのIDが表示されます。
管理者	キャビネットの管理者が表示されます。
キャビネットラベル	キャビネットラベルが表示されます。
モード	キャビネットのモードが表示されます。
ごみ箱	キャビネットのごみ箱の有無が表示されます。

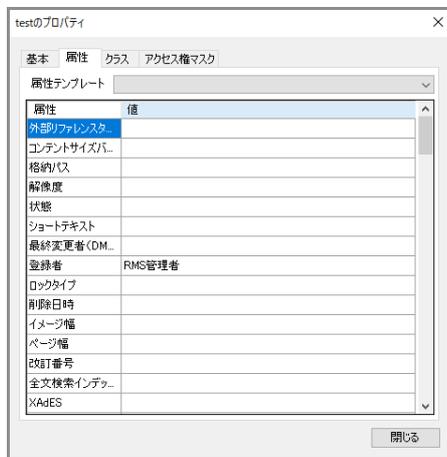
・ドロワーの場合



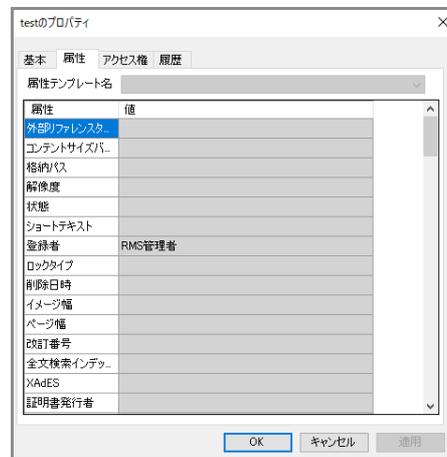
項目	説明
格納先	ドロワーの格納先が表示されます。
ID	ドロワーのIDが表示されます。
状態	ドロワーの状態が表示されます。
作成	ドロワーの作成者と作成日時が表示されます。
更新	ドロワーの更新者と更新日時が表示されます。

◆ [属性] タブ

・キャビネットの場合



・ドロワーの場合



項目	説明
属性テンプレート	キャビネットに設定されている属性テンプレートを選択できます。選択した属性テンプレートの属性が一覧表として表示されます。
属性	[属性テンプレート] で選択した属性テンプレートの属性名が表示されます。
値	設定されている属性の値が表示されます。

4.1.2 フォルダー、ドキュメントの属性を表示、変更する

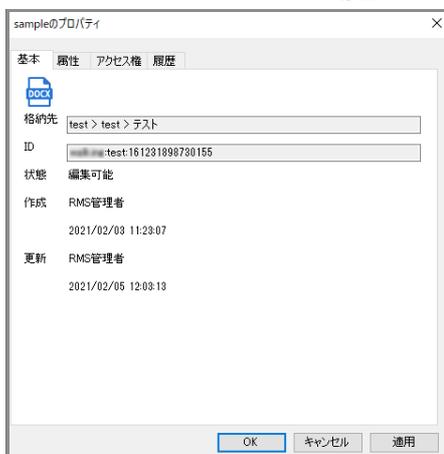
フォルダーまたはドキュメントの属性を表示し、変更できます。
ここでは、サービスのドキュメントを例に説明します。

- ツリー表示エリア（サービス、ローカル）またはリスト表示エリアで、フォルダーまたはドキュメントを選択します。
- 操作メニューの【ファイル】から【プロパティ】を選択します。
【プロパティ】ダイアログボックスが表示されます。

補足 ショートカットメニューの【プロパティ】を選択しても、【プロパティ】ダイアログボックスが表示されます。
- 必要に応じて、属性を変更します。

◆【基本】タブ

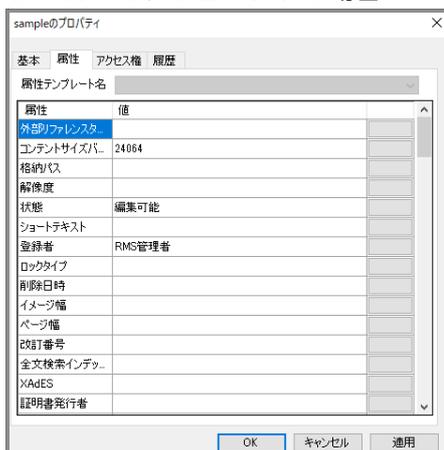
- サービスのドキュメントの場合



項目	説明
格納先	フォルダーまたはドキュメントの、格納先が表示されます。
ID	フォルダーまたはドキュメントの、IDが表示されます。
状態	フォルダーまたはドキュメントの、状態が表示されます。
作成	フォルダーまたはドキュメントの、作成者と作成日時が表示されます。
更新	フォルダーまたはドキュメントの、更新者と更新日時が表示されます。

◆【属性】タブ

- サービスのドキュメントの場合



項目	説明
属性テンプレート名	キャビネットに設定されている属性テンプレートを選択します。 選択した属性テンプレートの属性が一覧として表示されます。
属性	[属性テンプレート名] で選択した属性テンプレートの属性名が表示されます。黒字はシステム属性、青字はユーザー属性です。システム属性は、[名前] の値だけ変更できます。ユーザー属性は、版管理属性以外のすべての値を変更できます。
値	設定されている属性の値が表示されます。 参照 属性値の入力のしかた⇒第1部 [3.6 属性値を入力する] (P.54)

- 参照** ・ [アクセス権] タブの操作 ⇒ 第2部 [\[4.4 アクセス権設定を管理する\]](#) (P.150)
 ・ ドキュメントの [履歴] タブの操作 ⇒ 第2部 [\[5.5 ドキュメントの履歴を管理する\]](#) (P.164)

4. [OK] または [適用] をクリックします。

◆ [OK] をクリックした場合

属性が変更され、[プロパティ] ダイアログボックスが閉じます。

◆ [適用] をクリックした場合

[プロパティ] ダイアログボックスが表示された状態で、属性が変更されます。

4.2 セル形式で属性値を直接入力する

リスト表示エリアの表示形式がセル形式の場合、セルに直接、値を入力して、属性値を変更できます。Microsoft Excelなどのアプリケーションから、クリップボードにコピーした値をセルに貼り付けても、属性値を変更できます。

また、同じ列にある複数のセルに、先頭行と同じ値をまとめて入力できます。

- 参照**
- ・表示形式をセル形式に変更する操作 ⇒ 第1部 [「3.4 表示形式を切り替える」](#) (P.46)
 - ・属性項目の表示を変更する操作 ⇒ 第1部 [「3.3 属性項目の表示を設定する」](#) (P.44)

4.2.1 値を直接入力する

リスト表示エリアのセルに、値を入力して、属性値を変更できます。

1. セル形式のリスト表示エリアで、属性値を入力するセルをダブルクリックします。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終実更者
納入仕様書			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A001			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A002			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A003			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B201			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B203			systemdocument	uid-r msadm

属性値のセルが入力できる状態になります。

- 補足**
- ・ <Tab> キーを押すと、右のセルに移動します。行末の場合は、次の行の一番左のセルに移動します。
 - ・ <Shift> キーを押したまま <Tab> キーを押すと、左のセルに移動します。
 - ・ <←>, <→>, <↑>, <↓> キーを押すと、左、右、上、下のセルに移動します。
 - ・ セルを選択して、ショートカットメニューの [セル表示の固定] から [セルで固定] を選択すると、セルの移動時にセルが固定されてスクロールされます。
 - ・ 列を選択して、ショートカットメニューの [セル表示の固定] から [列で固定] を選択すると、セルの移動時に列が固定されてスクロールされます。
 - ・ 行を選択して、ショートカットメニューの [セル表示の固定] から [行で固定] を選択すると、セルの移動時に行が固定されてスクロールされます。
 - ・ ショートカットメニューの [セル表示の固定] から [固定の解除] を選択すると、セル表示の固定が解除されます。

2. 属性値を入力します。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終実更者
納入仕様書	1		systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A001			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A002			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A003			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B201			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B203			systemdocument	uid-r msadm

3. <Enter> キーを押します。

◆ [サービスリスト] の場合

属性値を変更したセルが緑色で表示され、次の行に移動します。手順 4 に進んでください。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終実更者
納入仕様書	2		systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A001	2		systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A002	1		systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書A003			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B201			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid-r msadm
納入仕様書_B203			systemdocument	uid-r msadm

変更前の値と同じ値に戻したセルは、元の色で表示されます。

◆ [ローカルリスト] の場合

そのまま属性値が登録され、次の行に移動します。

4. 属性値を確定させる行を選択します。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリー	最終変更者
納入仕様書	2		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A001	2		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A002	1		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A003			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B201			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B202			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B203			system:document	uid:rmsadmin

補足 複数の行を選択できます。

5. ショートカットメニューの [属性反映] を選択します。

変更後の属性値が登録されます。

注記 設定されている属性値を削除する場合は、対象のセルをダブルクリックして、次のようにセルの値を選択状態にしてから <Delete> キーを押してください。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリー	最終変更者
納入仕様書	2		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A001	2		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A002	1		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A003			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B201			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B202			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B203			system:document	uid:rmsadmin

次の状態で <Delete> キーを押すと、1行すべて削除されます。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリー	最終変更者
納入仕様書	2		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A001	2		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A002	1		system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書A003			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B201			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B202			system:document	uid:rmsadmin
納入仕様書_B203			system:document	uid:rmsadmin

補足 ・属性値の変更に失敗したものは、エラーメッセージが表示されます。セルは緑色の状態のままです。

・ローカルの場合は、属性の [名前] を変更すると、属性の [ファイル名] も連動して変更されます。ただし、変更後の [名前] の値が 232 バイトを超える場合は、[ファイル名] は変更されません。たとえば、[名前] が [AAA]、[ファイル名] が [AAA.pdf] のデータの、[名前] を変更する場合は次のようになります。

- [名前] を [BBB] に変更した場合
[名前] : [BBB]、[ファイル名] : [BBB.pdf]
- [名前] を [CC ~ XX] (255 バイト以上) に変更した場合
[名前] : [CC ~ XX]、[ファイル名] : [AAA.pdf]

・入力補助機能を設定している場合は、ヒントメニューから属性値を選択したり、属性値に対応する表示名を入力したりすることでも属性値を設定できます。

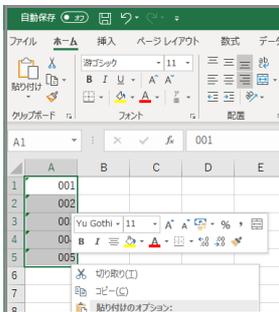
・多値属性 (複数の値を設定できる属性) に複数の値を設定する場合は、[|] (半角パイプ文字) で区切って入力します。例: AAA|BBB|CCC
デスクトップクライアントでは、[|] で区切られて表示されます。ドキュメントスペースでは、[,] で区切られて表示されます。

参照 入力補助機能 ⇒ 第3部 [「6 入力補助機能を使用する」](#) (P.224)

4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける

Excelなどのアプリケーションからクリップボードにコピーした値を、セルに貼り付けて属性値を変更できません。

1. Excel などのアプリケーションで、属性値を入力する範囲をコピーします。



補足 Excel のセル内に、値が複数行ある場合は、リスト表示エリアで 1 行の値として貼り付けられます。

2. セル形式のリスト表示エリアの、貼り付ける範囲の左上隅のセルで、ショートカットメニューの [クリップボードから貼り付け] を選択します。

◆ [サービスリスト] の場合
手順 3 に進んでください。

◆ [ローカルリスト] の場合
そのまま属性値が登録されます。

補足

- セルをダブルクリックして、属性値を入力できる状態にした場合は、<Ctrl> キーを押したまま <V> キーを押しても、クリップボードの値を貼り付けることができます。
- コピー範囲に対応しない貼り付け範囲がある場合は、操作を続けるかどうかのメッセージが表示されます。[実行する] をクリックすると、貼り付け範囲だけ属性値が変更されます。[キャンセル] をクリックすると、属性値の変更が中止されます。
- 貼り付け範囲にすでに属性が入力されている場合は、上書きするか既存データを優先するかどうかのメッセージが表示されます。[上書き] をクリックすると、新しい属性値に変更されます。[既存データ優先] をクリックすると、元のデータのまま変更されません。[キャンセル] をクリックすると、属性値の変更が中止されます。

3. 属性値を確定させる行を選択します。

サービスリスト(部品_納入仕様書)		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終変更者
納入仕様書	2		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...
納入仕様書A001	2		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...
納入仕様書A002	001		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...
納入仕様書A003	002		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...
納入仕様書_B201	003		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...
納入仕様書_B202	004		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...
納入仕様書_B203	005		system:document	uid=msadmin,ou=users,dc=...

補足 複数の行を選択できます。

4. ショートカットメニューの [属性反映] を選択します。 変更後の属性値が登録されます。

4.2.3 同様機能を使用する

リスト表示エリアで、同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。

1. セル形式のリスト表示エリアで、属性値を変更するオブジェクトの行を選択します。

サービスリスト[部品_納入仕様書]		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終変更者
納入仕様書	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A001			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A002			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A003			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B201			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid=rsadm

補足 複数の行を選択できます。

参照 表示形式をセル形式に切り替える操作 ⇒ 第1部 [「3.4 表示形式を切り替える」](#) (P.46)

2. ほかのオブジェクトの属性値に入力させたい属性値のセルで、ショートカットメニューの [同様] を選択します。

サービスリスト[部品_納入仕様書]		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終変更者
納入仕様書	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A001			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A002			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A003			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B201			systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid=rsadm

ショートカットメニューの [同様] を選択したセルの属性値が、すべての範囲のセルに入力されます。

◆ [サービスリスト] の場合

手順 3 に進んでください。

◆ [ローカルリスト] の場合

そのまま属性値が登録されます。

3. 属性値を確定させる行を選択します。

サービスリスト[部品_納入仕様書]		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終変更者
納入仕様書	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A001	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A002	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A003	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B201	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid=rsadm

補足 複数の行を選択できます。

4. ショートカットメニューの [属性反映] を選択します。

変更後の属性値が登録されます。

サービスリスト[部品_納入仕様書]		ローカルリスト		
名前	部品コード	ロックタイプ	オブジェクトカテゴリ	最終変更者
納入仕様書	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A001	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A002	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書A003	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B201	K001		systemdocument	uid=rsadm
納入仕様書_B202			systemdocument	uid=rsadm

4.3 リファレンスの属性を更新する

リファレンスの属性を更新できます。

リファレンスの参照先の属性が変更された場合、この操作で、最新の属性を取得できます。

補足 リファレンスの更新で取得する属性は、ドキュメントスペースの管理者が、管理ツールを使用して設定します。

1. [サービスリスト] で、属性を変更するリファレンスを選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [リファレンス] > [リファレンス属性更新] を選択します。
リファレンスの属性が更新されます。

4.4 アクセス権設定を管理する

フォルダーまたはドキュメントのアクセス権を変更できます。

補足 キャビネットの [プロパティ] ダイアログボックスを表示すると、キャビネット単位に加えられているアクセス制限 (アクセス権マスク) を確認できます。

参照 アクセス権マスク、アクセス権の詳細 ⇨ 第1部 [「1.3.5 オブジェクトのアクセス制御」 \(P.22\)](#)

4.4.1 フォルダー、ドキュメントのアクセス権を設定する

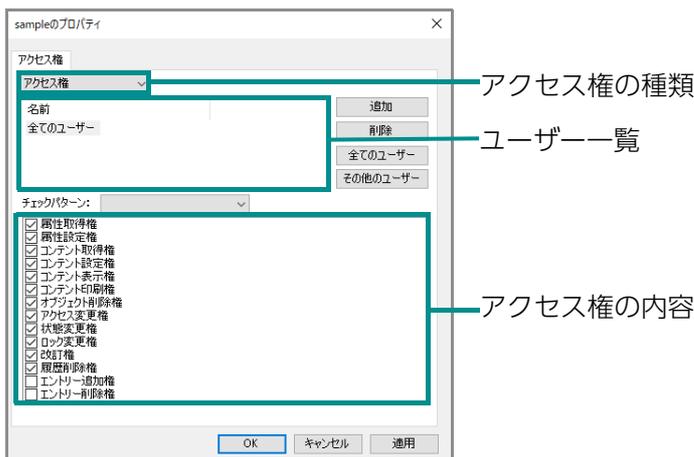
フォルダーまたはドキュメントのアクセス権を設定できます。

1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、オブジェクト (フォルダー、ドキュメント) を選択します。

補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [アクセス権変更] を選択します。
[プロパティ] ダイアログボックスの [アクセス権] タブだけが表示されます。

3. アクセス権の種類に [アクセス権] が選択された状態で、設定を変更します。



項目	説明
アクセス権の種類	<p>アクセス権の種類を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス権 選択しているオブジェクトのアクセス権を設定します。 ・実効アクセス権 ログインユーザーに実際に使用できるアクセス権が表示されます。 ・デフォルトアクセス権 選択しているオブジェクトがフォルダーの場合は、子オブジェクトに引き継ぐためのアクセス権を設定します。
ユーザー一覧	<p>オブジェクトを1つだけ選択している場合は、アクセス権に設定されているユーザーが表示されます。</p> <p>複数のオブジェクトを選択している場合は、何も表示されません。</p>
追加	<p>[アドレス帳] ダイアログボックスが表示され、アクセス権を設定するユーザーを追加できます。</p> <p>参照 アドレス帳の操作⇨第1部 「ユーザー、グループ、ユーザーロールを選択する」 (P.58)</p>

項目	説明
削除	ユーザー一覧で選択しているユーザーのアクセス権を解除できます。
全てのユーザー	すべてのユーザーにアクセス権を設定できます。
その他のユーザー	その他のユーザーにアクセス権を設定できます。
チェックパターン	アクセス権のパターンを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全て許可 すべてのアクセス権にチェックマークが付きます。 ・ 全て拒絶 すべてのアクセス権からチェックマークが解除されます。 ・ 表示 表示用のアクセス権（属性取得権、コンテンツ取得権、コンテンツ表示権、コンテンツ印刷権）にチェックマークが付きます。 ・ 編集 編集用のアクセス権（属性取得権、属性設定権、コンテンツ取得権、コンテンツ設定権、コンテンツ表示権、コンテンツ印刷権、ロック変更権、改訂権、エントリー追加権）にチェックマークが付きます。
アクセス権の内容	アクセス権の内容が表示されます。 オブジェクトを1つだけ選択している場合は、オブジェクトに設定されているアクセス権に、チェックマークが付いて表示されます。 複数のオブジェクトを選択している場合は、すべてにチェックマークが付いていません。
本フォルダのみ	フォルダーの [プロパティ] ダイアログボックスのときだけ表示されます。 選択しているフォルダーだけにアクセス権が設定されます。
本フォルダ以下のオブジェクトも含む	フォルダーの [プロパティ] ダイアログボックスのときだけ表示されます。 選択しているフォルダー内のすべてのオブジェクトにアクセス権が設定されます。

補足 操作メニューの [ファイル] から [プロパティ]、またはショートカットメニューの [プロパティ] を選択し、[プロパティ] ダイアログボックスで [アクセス権] タブをクリックしても、アクセス権の内容が表示されます。

4. [OK] または [適用] をクリックします。

◆ [OK] をクリックした場合

アクセス権が設定されて [プロパティ] ダイアログボックスが閉じます。

◆ [適用] をクリックした場合

[プロパティ] ダイアログボックスは表示された状態で、アクセス権が設定されます。

4.4.2 フォルダのデフォルトアクセス権を設定する

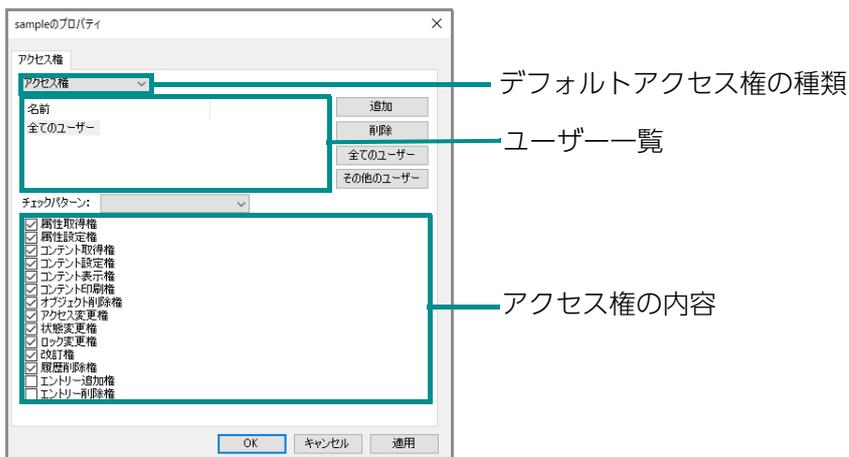
サービス内のフォルダーは、フォルダー内のオブジェクトに引き継ぐためのデフォルトアクセス権を設定できません。

1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、フォルダーを選択します。

補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [デフォルトアクセス権変更] を選択します。
[プロパティ] ダイアログボックスの [アクセス権] タブだけが表示されます。

3. アクセス権の種類に [デフォルトアクセス権] が選択された状態で、設定を変更します。



補足 操作メニューの [ファイル] から [プロパティ]、またはショートカットメニューの [プロパティ] を選択すると、[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。[アクセス権] タブをクリックし、[アクセス権] の種類で、[デフォルトアクセス権] を選択しても、デフォルトアクセス権を設定できません。

参照 デフォルトアクセス権設定の操作 ⇒ 第2部 [\[4.4.1 フォルダ、ドキュメントのアクセス権を設定する\]](#) (P.150)

4. [OK] または [適用] をクリックします。

◆ [OK] をクリックした場合

アクセス権が設定されて [プロパティ] ダイアログボックスが閉じます。

◆ [適用] をクリックした場合

[プロパティ] ダイアログボックスは表示された状態で、アクセス権が設定されます。

4.4.3 キャビネットのアクセス権マスクを表示する

キャビネットのアクセス権マスクを表示して、キャビネット単位で加えられたアクセス制限を確認できます。

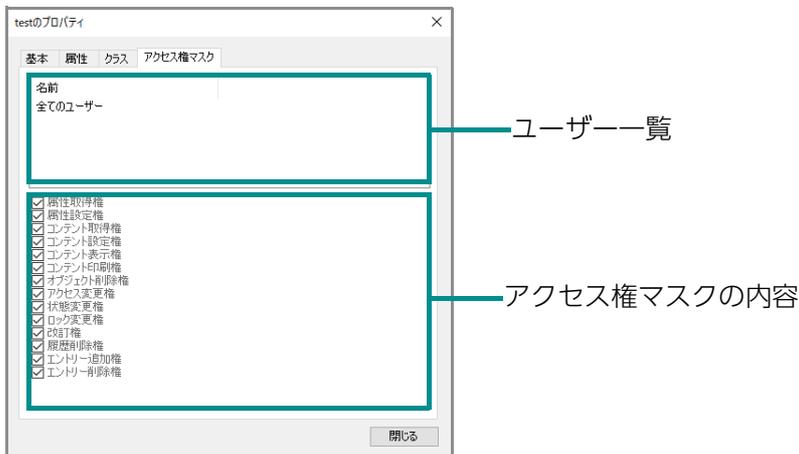
1. [サービスツリー] または [サービスリスト] で、キャビネットを選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] ダイアログボックスの [基本] タブが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [プロパティ] を選択しても、[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [アクセス権マスク] タブをクリックします。



[アクセス権マスク] タブが表示されます。

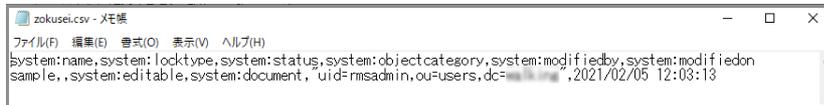


項目	説明
ユーザー一覧	アクセス権が設定されているユーザーが表示されます。
アクセス権マスクの内容	アクセス権マスクの初期値が表示されます。アクセス権マスクが設定されている場合は、チェックマークが付いて表示されます。

4.5 属性を CSV ファイルに出力する

オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）の属性を、CSVファイルに出力できます。

■ CSV ファイル例（メモ帳で表示した例）



1. リスト表示エリアで、オブジェクト（キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント）を選択します。
2. 操作メニューの [ツール] から [CSV 出力] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
3. 保存先を指定します。
4. ファイル名を入力します。
5. [保存] をクリックします。
属性が CSV ファイルに出力されます。

5 サービスのドキュメントを編集、更新する

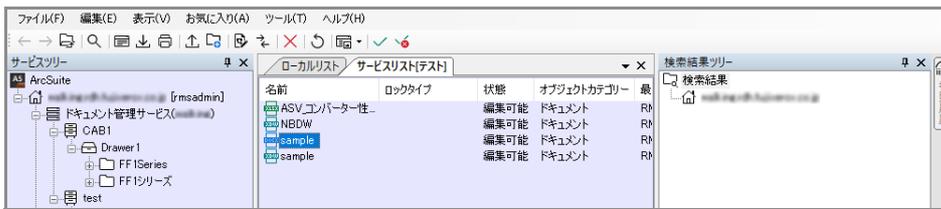
この章では、サービスのドキュメントを編集、更新する操作について説明します。

5.1 ドキュメントを直接編集する

サーバーにあるドキュメントを直接編集できます。編集中は、チェックアウトされるので、ほかのユーザーは編集や削除ができません。

- 補足**
 - ・ サポートするアプリケーションは、次のとおりです。
 - Microsoft Word for Office 365、Microsoft Word 2016、2019（拡張子：doc、rtf、docx、docm）
 - Microsoft Excel for Office 365、Microsoft Excel 2016、2019（拡張子：xls、xlsx、xlsm）
 - Microsoft PowerPoint for Office 365、Microsoft PowerPoint 2016、2019（拡張子：ppt、pptx、pptm）
 - DocuWorks 9、9.1（拡張子：xdw）
 - Microsoft ペイント（拡張子：bmp、gif、jpg）
 - メモ帳（拡張子：txt）
 - ・ ドキュメントに対してコンテンツ印刷権がないときは、直接編集できません。
- 参照**
 - ・ クライアント PC にダウンロードして、ドキュメントを編集する操作 ⇒ 第2部 [「5.2 ドキュメントを改訂する」\(P.158\)](#)、[「5.3 ドキュメントのコンテンツを差し替える」\(P.161\)](#)
 - ・ ローカルに取り出してドキュメントを編集する操作 ⇒ 第3部 [「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」\(P.174\)](#)

1. [サービスリスト] で、編集するドキュメントを選択します。



2. (直接編集) をクリックします。

選択したドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションが起動します。

- 補足**
 - ・ 操作メニューの [編集] から [直接編集]、またはショートカットメニューの [直接編集] を選択しても、ドキュメントを編集できます。
 - ・ 直接編集で開くドキュメントのファイル名は、[設定] ダイアログボックスの [全般] タブで設定できます。

参照 [設定] ダイアログボックスの [全般] タブの詳細 ⇒ 第3部 [「5.2.1 \[全般\] タブ」\(P.202\)](#)

3. ドキュメントを編集し、上書き保存します。

[直接編集後の保存] ダイアログボックスが表示されます。

4. [リビジョンアップ]、[コンテンツ差し替え]、[一時保存] のどれかを選択します。



項目	説明
リビジョンアップ	チェックインされ、編集後の内容が新訂として登録されます。元の内容は、旧訂として残ります。
コンテンツ差し替え	チェックアウトが取り消され、編集後の内容にコンテンツが差し替えられます。元の内容は残りません。
一時保存	編集後の内容が、校訂として一時保存されます。元の内容は、現在のバージョンのまま、チェックアウトされた状態で残ります。

5. [リビジョンアップ] を選択した場合は、必要に応じて [履歴コメント] にコメントを入力します。

補足 履歴コメントは、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

6. [保存] をクリックします。

ドキュメントが保存されます。

補足

- ・一時保存のドキュメントの編集を再開する場合は、 (直接編集) をクリックします。変更後の内容が表示されます。
- ・一時保存の内容でドキュメントを確定する場合は、操作メニューの [編集] から [チェックイン]、またはショートカットメニューの [チェックイン] を選択します。
- ・一時保存の状態を破棄する場合は、操作メニューの [編集] から [チェックアウト取り消し]、または、ショートカットメニューの [チェックアウト取り消し] を選択します。

5.2 ドキュメントを改訂する

サービスのドキュメントを編集する場合は、ドキュメントをチェックアウトしておく、ほかのユーザーが更新、削除できなくなります。チェックアウトしたドキュメントは、クライアントPCにダウンロードしたあと、編集できます。

編集後のファイルをサービスにアップする方法には、ファイルをサービスのドキュメントにドラッグ&ドロップする方法とメニューを使う方法があります。

参照 チェックアウト、チェックインの詳細 ⇒ 第1部 [「1.3.5 オブジェクトのアクセス制御」\(P.22\)](#)

5.2.1 チェックアウトする

サービスのドキュメントをチェックアウトできます。

1. [サービスリスト] で、チェックアウトするドキュメントを選択します。

補足 複数のドキュメントを選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [チェックアウト] を選択します。

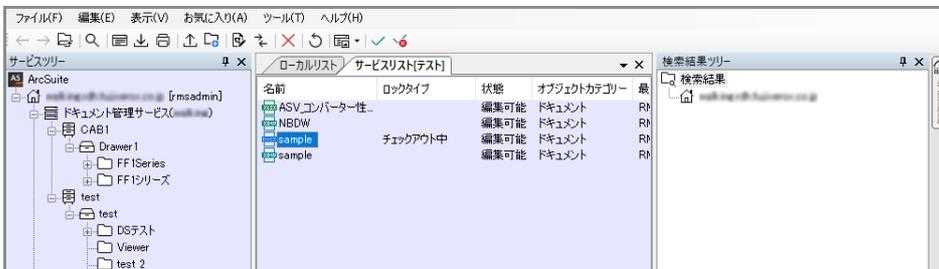
ドキュメントがチェックアウトされます。

補足 ショートカットメニューの [チェックアウト] を選択しても、ドキュメントがチェックアウトされません。

5.2.2 チェックアウトを取り消す

チェックアウトしたユーザーだけ、チェックアウトを取り消すことができます。

1. [サービスリスト] で、チェックアウトを取り消すドキュメントを選択します。



補足 複数のドキュメントを選択できます。

2. 操作メニューの [編集] から [チェックアウト取り消し] を選択します。

ドキュメントのチェックアウトが取り消されて、チェックアウト前の状態に戻ります。

補足 ショートカットメニューの [チェックアウト取り消し] を選択しても、チェックアウトが取り消されません。

5.2.3 メニューでドキュメントを改訂する

ドキュメントをチェックインすると、改訂（リビジョンアップ）されます。
 チェックアウトされたドキュメントをチェックインする場合は、チェックアウトしたユーザーだけがチェックインできます。チェックイン時に、セカンダリコンテンツ（インデックス画像、部分画像、プリント画像）を登録できます。チェックアウトされたドキュメントをチェックインすると、ほかのユーザーが、チェックアウト、更新、削除できるようになります。
 ロックされているドキュメントは、改訂できません。

補足 チェックアウトをしなくても、チェックインできます。対象ドキュメントがほかのユーザーによって変更されないことがわかっている場合に、簡易操作として活用できます。ほかのユーザーによって変更される可能性がある場合は、必ずチェックアウトし、ダウンロードしてから編集してください。

1. [サービスリスト] で、チェックインするドキュメントを選択します。
2. 操作メニューの [編集] から [チェックイン] を選択します。
 [チェックイン] ダイアログボックスが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [チェックイン] を選択しても、[チェックイン] ダイアログボックスが表示されます。

3. [参照] をクリックして、編集後のファイルを選択し、[開く] をクリックします。
4. 必要に応じて、[コメント] にコメントを入力します。

補足 コメントは、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

5. インデックス画像、部分画像、プリント画像を登録する場合は、次のように操作します。

- (1) [詳細] をクリックします。
 [インデックス画像]、[部分画像]、[プリント画像] 設定欄が表示されます。
- (2) 登録したい画像の [参照] をクリックして、画像として登録するファイルを選択し、[開く] をクリックします。

選択したファイルのパスが、[チェックイン] ダイアログボックスの設定欄に表示されます。

6. チェックイン後に再度チェックアウトする場合は、[チェックイン後に再度チェックアウトする] で [する] を選択します。
7. [OK] をクリックします。

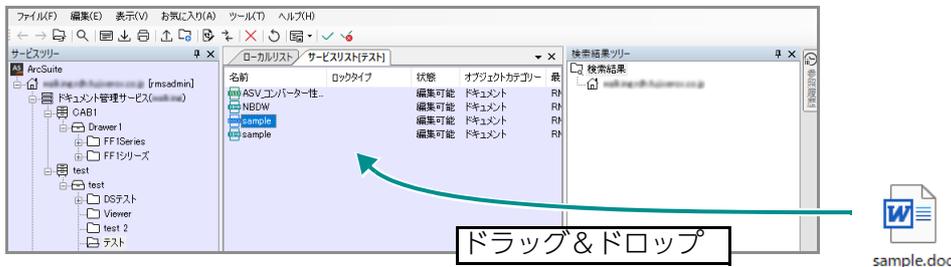
ドキュメントが改訂されます。[チェックイン後に再度チェックアウトする] で [する] を選択した場合は、再度チェックアウトされます。

5.2.4 ドラッグ&ドロップでドキュメントを改訂する

Windowsのエクスプローラーにあるファイルを、サービスのドキュメントにドラッグ&ドロップして、ドキュメントを改訂（リビジョンアップ）できます。

補足 ロックされているドキュメントは、改訂できません。

1. Windowsのエクスプローラーにあるファイルを、改訂する【サービスリスト】のドキュメントにドラッグ&ドロップします。



【コンテンツ差し替え/リビジョンアップ】ダイアログボックスが表示されます。

補足 右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから【更新】を選択しても、ドキュメントを改訂できません。

2. 必要に応じて、【名前】を変更します。



3. 必要に応じて、【コメント】を入力します。

補足 コメントは、ドキュメントの【プロパティ】ダイアログボックスで確認できます。

4. 【リビジョンアップ】をクリックします。

チェックインされ、ドキュメントが改訂されます。

補足 ドキュメントをロックしていた場合、【リビジョンアップ】は選択できません。

5.3 ドキュメントのコンテンツを差し替える

ドキュメントのコンテンツを、クライアントPCのファイルと差し替えます。

ドキュメントのコンテンツを差し替える方法には、クライアントPCのファイルを、サービスのドキュメントにドラッグ&ドロップする方法と、ツールボタンやメニューを使う方法があります。

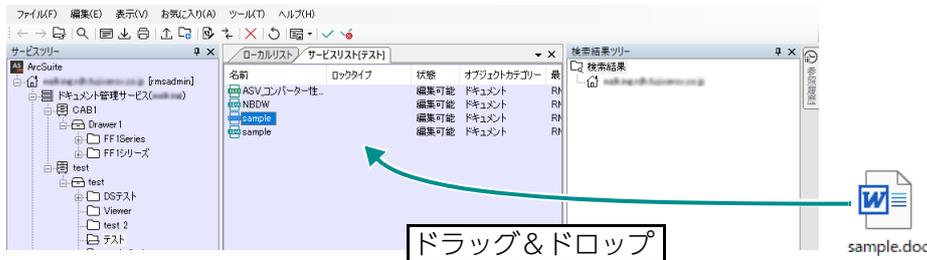
- 補足**
- ・チェックアウトされたドキュメントのコンテンツは、差し替えることができません。
 - ・ロックされたドキュメントは、コンテンツの差し替え後、ロックされたまま状態は変わりません。
 - ・差し替えたコンテンツからセカンダリコンテンツを生成したい場合は、ドキュメント情報を更新します。

参照 ドキュメント情報を更新する操作 ⇒ 第2部 [「5.4 ドキュメント情報を更新する」\(P.163\)](#)

5.3.1 ドラッグ&ドロップでコンテンツを差し替える

クライアントPCのファイルを、サービスのドキュメントにドラッグ&ドロップして、ドキュメントのコンテンツを差し替えます。

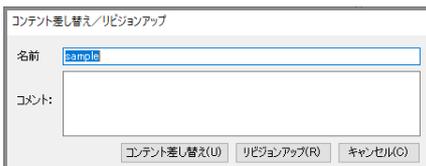
1. Windows のエクスプローラーにあるファイルを、コンテンツを差し替える [サービスリスト] のドキュメントにドラッグ&ドロップします。



[コンテンツ差し替え/リビジョンアップ] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足** 右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [更新] を選択しても、ドキュメントのコンテンツを差し替えられます。

2. 必要に応じて、ドキュメントの [名前] を変更します。



3. 必要に応じて、[コメント] を入力します。

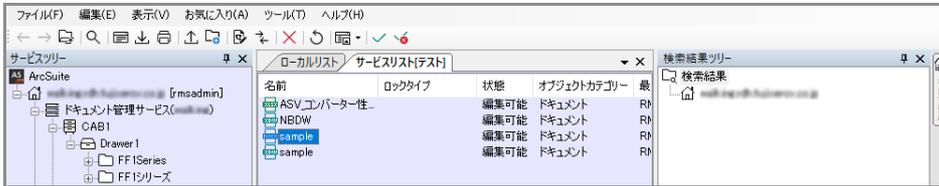
- 補足** コメントは、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

4. [コンテンツ差し替え] をクリックします。
ドキュメントのコンテンツが差し替えられます。

5.3.2 ツールボタンやメニューでコンテンツを差し替える

ツールボタン、操作メニュー、またはショートカットメニューで、ドキュメントのコンテンツを差し替えます。

1. [サービスリスト] で、コンテンツを差し替えるドキュメントを選択します。
2.  (コンテンツ差し替え) をクリックします。



[コンテンツ差し替え] ダイアログボックスが表示されます。

補足 操作メニューの [編集] から [コンテンツ差し替え]、またはショートカットメニューの [コンテンツ差し替え] を選択しても、コンテンツを差し替えることができます。

3. [参照] をクリックします。



ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。

4. 登録するファイルを選択し、[開く] をクリックします。
[コンテンツ差し替え] ダイアログボックスに、選択したファイルのパスが表示されます。
5. [OK] をクリックします。
ドキュメントのコンテンツが差し替えられます。

5.4 ドキュメント情報を更新する

ドキュメント情報の更新によって、内容依存情報の更新を実行できます。ドキュメントのプライマリコンテンツが変換されて、セカンダリコンテンツが自動生成されます。また、プライマリコンテンツに設定されているシステム属性が更新されます。

- 補足**
- ・セカンダリコンテンツを生成する場合は、ドキュメントの最終変更日時が更新されます。
 - ・プライマリコンテンツの内容に依存する属性だけを更新する場合、オブジェクトの最終変更日時は更新されません。
 - ・プライマリコンテンツの最終変更日時は、プライマリコンテンツの内容に依存する属性だけを更新した場合も、更新されます。
 - ・ドキュメント情報の更新によって、どのような変換が行われて、どの属性値が設定されるかについては、ドキュメントスペース管理アプリケーションを使って、ドキュメントスペースの管理者がキャビネットごとに定義します。
 - ・セカンダリコンテンツの設定は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。通常、設定を変更する必要はありません。

1. [サービスリスト] で、ドキュメント情報を更新するドキュメントを選択します。

2. 操作メニューの [編集] から [ドキュメント情報更新] を選択します。

ドキュメント情報が更新されます。

- 補足** ショートカットメニューの [編集] から [ドキュメント情報更新] を選択しても、ドキュメント情報を更新できます。

5.5 ドキュメントの履歴を管理する

誰がいつドキュメントを更新したかわかるように、ドキュメントの履歴を保存できます。

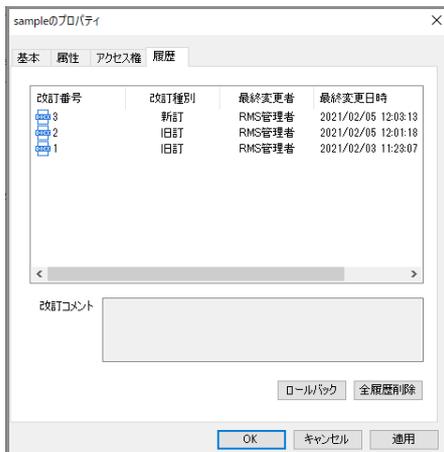
参照 履歴管理の詳細 ⇒ 第1部「[1.3.6 履歴管理と版管理](#)」(P.24)

1. [サービスリスト] で、履歴を表示するドキュメントを選択します。

2. 操作メニューの [ファイル] から [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] ダイアログボックスの [基本] タブが表示されます。

補足 ショートカットメニューの [プロパティ] を選択しても、[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [履歴] タブをクリックします。
ドキュメントの履歴の一覧が表示されます。



項目	説明
改訂番号	ドキュメントのアイコンと改訂番号が表示されます。 クリックすると、ドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションで、内容が表示されます。
改訂種別	改訂種別（新訂、旧訂、校訂）が表示されます。 補足 校訂は、作成したユーザーだけに表示されます。
最終変更者	ドキュメントの最終変更者が表示されます。
最終変更日時	ドキュメントの最終変更日時が表示されます。
改訂コメント	履歴を選択すると、その履歴に設定されている改訂コメントが表示されます。
ロールバック	新訂が削除され、1つ前の履歴が新訂になります。
全履歴削除	新訂以外のすべての履歴が削除されます。

注記 ロールバックと全履歴削除の操作は、[プロパティ] ダイアログボックスで [適用] または [OK] をクリックしなくても、実行した時点で反映されます。また、[キャンセル] をクリックしても取り消されません。

4. 履歴の表示を終了する場合は、[キャンセル] をクリックします。
[プロパティ] ダイアログボックスが閉じます。

第3部 応用機能

1 ローカル管理でオブジェクトを操作する

この章では、ローカルでオブジェクトを管理する操作について説明します。

1.1 ローカルルートフォルダーを設定する

ローカルでオブジェクトを操作する場合は、はじめにローカルルートフォルダーを設定します。

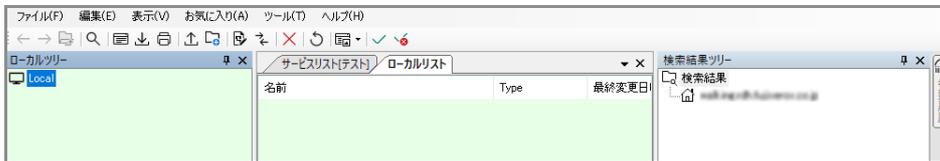
1.1.1 ローカルルートフォルダーを設定する

ローカルルートフォルダーを設定します。

1つのサービスにつき、最大30個までローカルルートフォルダーを設定できます。

- 補足**
- ローカルルートフォルダー内のファイルまたはフォルダーのパスの長さは、最大で 232 文字です。
 - 複数のローカルルートフォルダーを設定した場合、ローカルルートフォルダーごとにごみ箱を設定できません。
 - ローカルルートフォルダーごとに表示設定を変更できます。

1. [ローカルツリー] で、[Local] を選択します。



2. ショートカットメニューの [フォルダをマップに追加] を選択します。

[ローカルルートフォルダ追加] ダイアログボックスが表示されます。



3. [参照] をクリックします。

[フォルダーの参照] ダイアログボックスが表示されます。

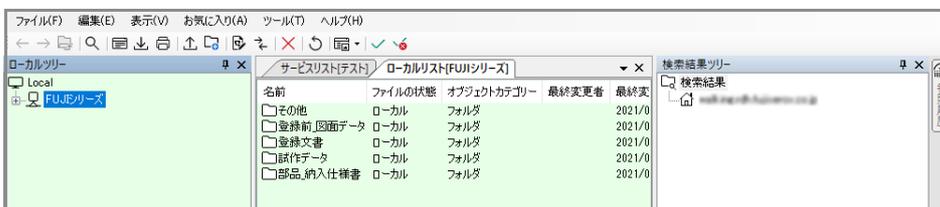
4. ローカルルートフォルダーにマッピングするフォルダーを選択し、[OK] をクリックします。

[ローカルルートフォルダ追加] ダイアログボックスに戻り、[ローカルルートフォルダ] に選択したフォルダーのパスが表示されます。

5. [登録サーバー URL] で、ドキュメント管理サービスのサーバーを選択します。

6. [OK] をクリックします。

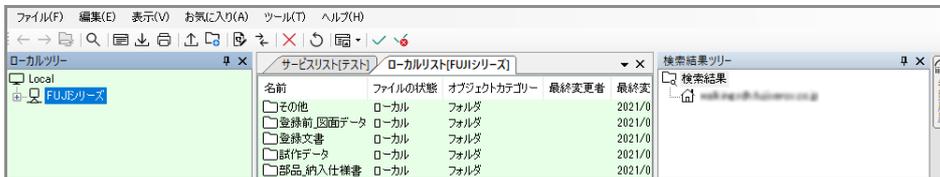
[ローカルツリー] にローカルルートフォルダーが表示されます。



1.1.2 ローカルルートフォルダーの設定を解除する

ローカルルートフォルダーの設定を解除すると、デスクトップクライアントからローカルルートフォルダーが表示されなくなります。

1. [ローカルツリー] で、設定を解除する [ローカルルートフォルダー名] を選択します。

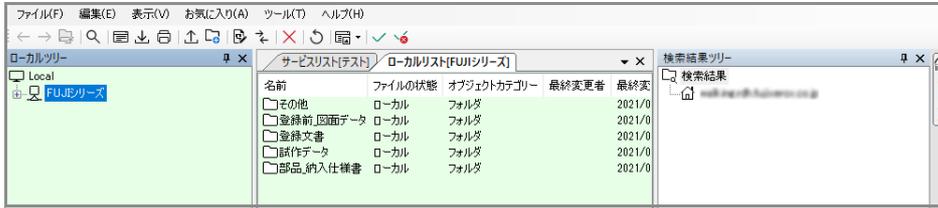


2. ショートカットメニューの [フォルダをマッピングから削除] を選択します。
ローカルルートフォルダーの設定が解除されます。

1.2 ローカルにフォルダーを作成する

ローカルにフォルダーを作成できます。

1. [ローカルツリー] または [ローカルリスト] で、フォルダーの作成先を選択します。

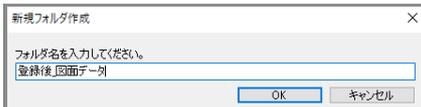


2.  (フォルダ作成) をクリックします。

[新規フォルダ作成] ダイアログボックスが表示されます。

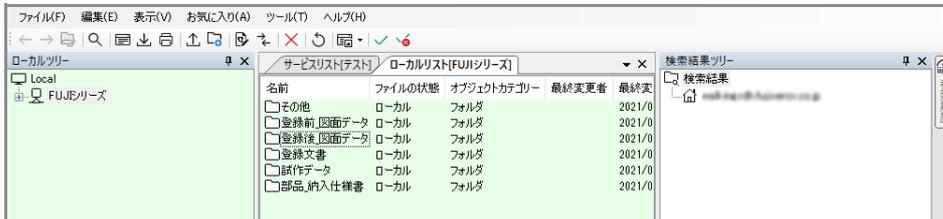
補足 操作メニューの [ファイル] から [新規作成] > [フォルダ]、またはショートカットメニューの [新規作成] から [フォルダ] を選択しても、[新規フォルダ作成] ダイアログボックスを表示できます。

3. フォルダ名を入力します。



4. [OK] をクリックします。

フォルダーが作成されます。



1.3 ローカルにドキュメントを作成する

Windowsのエクスプローラーにあるファイルを、ローカルに登録できます。

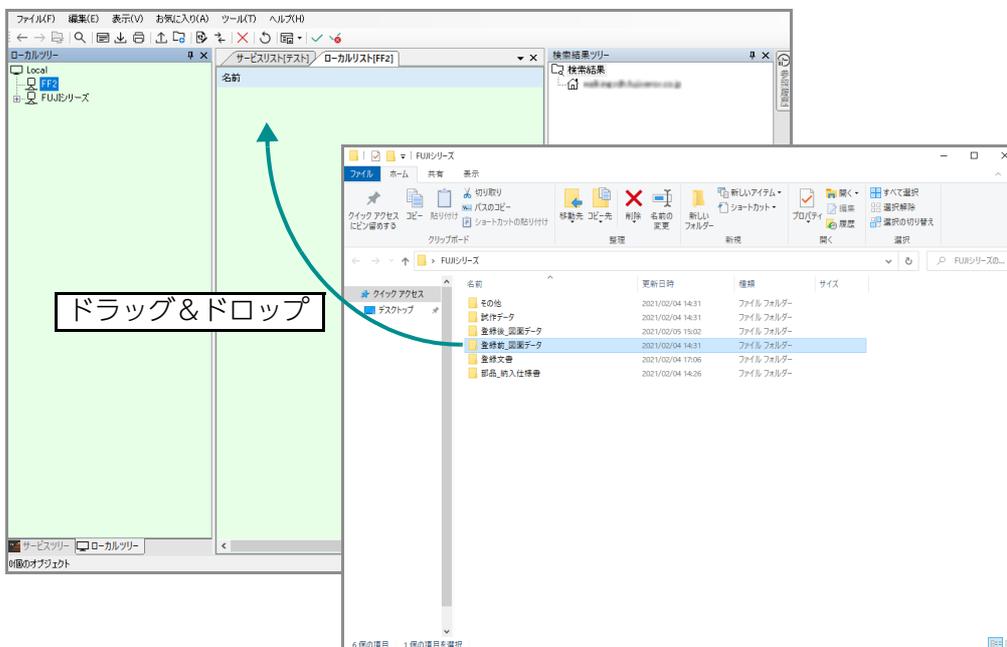
登録方法には、フォルダーやファイルを、Windowsのエクスプローラーから [ローカルリスト] にドラッグ&ドロップする方法と、デスクトップクライアントのツールボタンやメニューを使う方法があります。

1.3.1 ドラッグ&ドロップで登録する

フォルダーやファイルを、Windowsのエクスプローラーから [ローカルリスト] にドラッグ&ドロップして、ローカルに登録できます。

補足 フォルダーをドラッグ&ドロップすると、フォルダー内のすべてのフォルダーとファイルが登録されます。

1. [ローカルツリー] で、登録先（ローカルルートフォルダー、フォルダー）を選択します。
2. 登録するフォルダーまたはファイルを、Windowsのエクスプローラーから [ローカルリスト] にドラッグ&ドロップします。

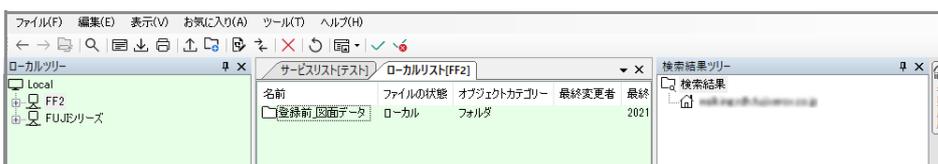


確認メッセージが表示されます。

- 補足**
- ・複数のフォルダーやファイルをドラッグ&ドロップできます。
 - ・パスを含むファイル名が 255 バイトを超える場合は、ドラッグ&ドロップで登録できません。
 - ・アプリケーション設定によっては、確認メッセージは表示されません。
 - ・右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [登録] を選択しても、フォルダーやファイルを登録できます。

3. [OK] をクリックします。

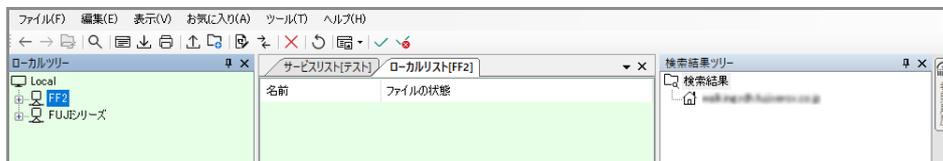
[ローカルリスト] に、登録したフォルダーまたはドキュメントが表示されます。



1.3.2 ツールボタンやメニューで登録する

ツールボタン、操作メニュー、またはショートカットメニューで、Windowsのエクスプローラーにあるファイルをローカルに登録できます。

1. [ローカルツリー] で、ファイルの登録先（ローカルルートフォルダー、フォルダー）を選択します。



2. [ローカルリスト] をクリックします。

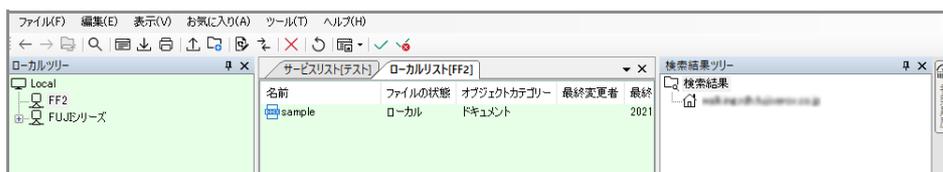
3.  (ドキュメント作成) をクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

補足 操作メニューの [ファイル] から [新規作成] > [ドキュメント]、またはショートカットメニューの [新規作成] から [ドキュメント] を選択しても、[開く] ダイアログボックスが表示されます。

4. ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

[ローカルリスト] に、登録したドキュメントが表示されます。



1.4 ローカルのオブジェクトをサービスに登録する

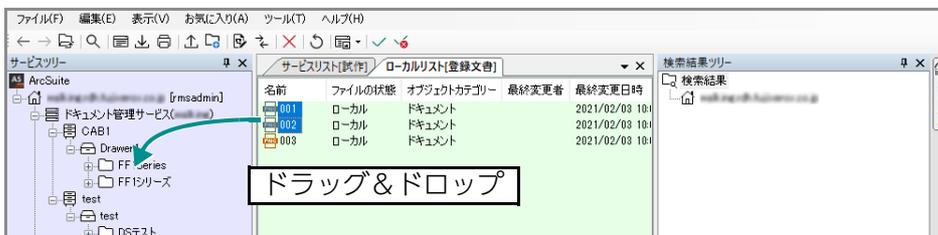
ローカルのフォルダーやドキュメントを、サービスのドロワーまたはフォルダーに登録できます。登録方法には、フォルダーやドキュメントを、ローカルからサービスにドラッグ&ドロップする方法と、メニューを使う方法があります。

- 補足**
- ・一度に登録できるサイズの制限は、500 MB 以下です。
 - ・フォルダーを登録すると、フォルダー内のすべてのフォルダーとファイルが、サービスに登録されます。
 - ・ローカルからサービスへの登録時、セカンダリコンテンツの状態によっては、登録が中断されることがあります。中断になるセカンダリコンテンツの条件は、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると確認できます。

1.4.1 ドラッグ&ドロップで登録する

フォルダーまたはドキュメントを、ローカルからサービスにドラッグ&ドロップして、サービスに登録できます。

1. 登録する [ローカルリスト] のフォルダーやドキュメントを、[サービスツリー] の登録先 (ドロワー、フォルダー) にドラッグ&ドロップします。



[登録] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足**
- ・複数のフォルダーやドキュメントをドラッグ&ドロップできます。
 - ・[サービスリスト] のドロワーまたはフォルダーにドラッグ&ドロップしても、登録できます。
 - ・右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [登録] を選択しても、登録できます。

2. 各ドキュメントで、[上書き]、[改版]、[新規] のどこにチェックマークが付いているかを確認します。



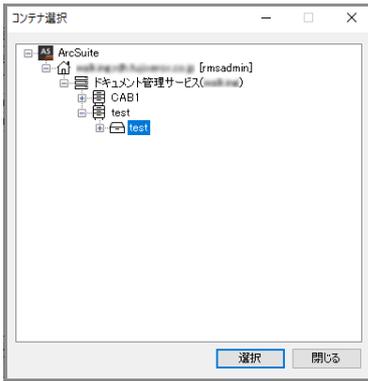
項目	説明
上書き	アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従って、ドキュメントを更新します。 参照 上書き登録モード⇒第3部 [5.2.10 [登録振舞] タブ] (P.218)
改版	すでに登録済みのドキュメントに対して、新しい版として登録します。
新規	新しいドキュメントとして登録します。

- 補足** 登録先に、登録するオブジェクトと同じ版管理属性値が設定されているオブジェクトがある場合は、[上書き] か [改版] を選択できます。

3. 登録先を変更する場合は、次のように操作します。

- (1) [登録先] をクリックします。
[コンテナ選択] ダイアログボックスが表示されます。

(2) ドロワーまたはフォルダーを選択します。



(3) [選択] をクリックします。
[登録] ダイアログボックスに戻ります。

4. 登録するドキュメントを選択します。ドキュメント名の左のチェックボックスにチェックマークを付けます。



補足 複数のドキュメントを選択できます。

5. 登録に成功したローカルのオブジェクトを削除する場合は、[登録に成功したローカルオブジェクトは削除する] にチェックマークを付けます。

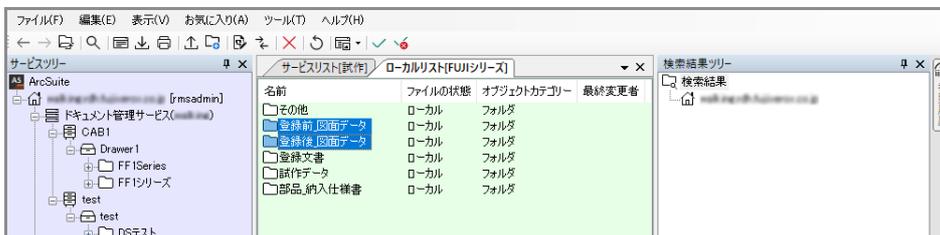
6. [登録] をクリックします。
フォルダーまたはドキュメントが登録されます。
[登録に成功したローカルオブジェクトは削除する] にチェックマークを付けた場合は、[ローカルリスト] から対象のフォルダーまたはドキュメントが、削除されます。



1.4.2 メニューで登録する

ショートカットメニューで、ローカルのフォルダーまたはドキュメントをサービスに登録できます。

1. [ローカルリスト] で、サービスに登録するフォルダーまたはドキュメントを選択します。



補足 複数のフォルダーやドキュメントを選択できます。

2. ショートカットメニューの [登録] をクリックします。

[登録] ダイアログボックスが表示されます。

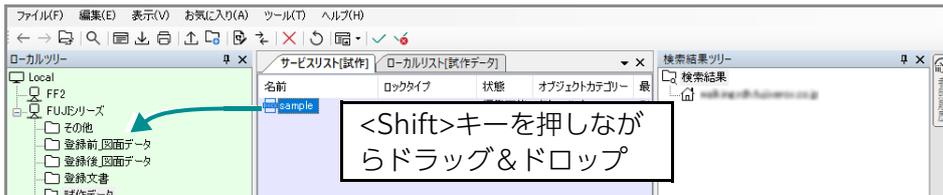
[\[1.4.1 ドラッグ&ドロップで登録する\] \(P.171\)](#) の手順 2 ~ 6 の操作をしてください。

1.5 サービスからローカルに取り出して編集する

サービスのオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）をローカルに取り出して、ドキュメントを編集できます。この操作では、編集前のドキュメントは削除され、編集後のドキュメントが新しいドキュメントとして登録されます。

- 補足**
- ・コンテンツ印刷権がないオブジェクトは、ローカルに取り出して編集できません。
 - ・アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は、[編集取り出し] は選択できません。

1. [サービスリスト] で、取り出すオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、取り出し先の [ローカルツリー] のフォルダーに、<Shift> キーを押しながらドラッグ&ドロップします。



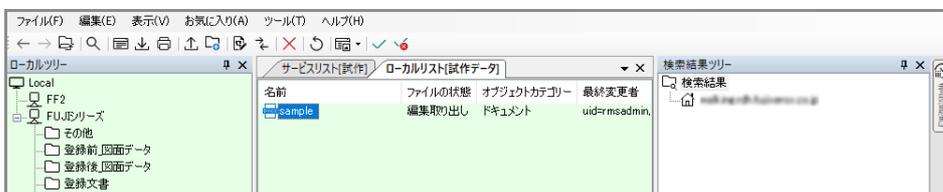
確認メッセージが表示されます。

- 補足**
- ・複数のオブジェクトをドラッグ&ドロップできます。
 - ・取り出し先の [ローカルリスト] に、<Shift> キーを押しながらドラッグ&ドロップしても取り出せます。
 - ・[サービスツリー] で取り出すオブジェクトを選択し、ショートカットメニューの [編集取り出し] を選択しても、取り出せます。
 - ・<Shift> キーを押さずにドラッグ&ドロップしても取り出せます。この場合、取り出したオブジェクトはロックされません。
 - ・取り出しを中止する場合は、[サービスツリー] で取り出しを中止するオブジェクトを選択し、ショートカットメニューの [アンロック] を選択します。
 - ・アプリケーション設定によっては、確認メッセージは表示されません。
 - ・右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [編集取り出し] または [取り出し] を選択しても、取り出せます。
 - ・[お気に入りリスト] または検索結果リストのオブジェクトも、ローカルに取り出せます。

2. [OK] をクリックします。

取り出したオブジェクトが [ローカルリスト] に表示されます。
[サービスリスト] では、取り出したオブジェクトは、ロックされます。

3. [ローカルリスト] で、編集するドキュメントをダブルクリックします。



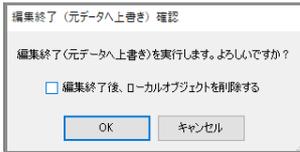
ドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションでドキュメントが表示されます。

4. アプリケーションで、ドキュメントを編集し、上書き保存します。
5. [ローカルリスト] で、編集が完了したドキュメントのフォルダーまたはドキュメントを選択します。

- 補足** 複数のオブジェクトを選択できます。

6. ショートカットメニューの [編集終了 (元データに上書き)] を選択します。
[編集終了 (元データへ上書き) 確認] ダイアログボックスが表示されます。

7. 編集終了後、ローカルのオブジェクトを削除する場合は、[編集終了後、ローカルオブジェクトを削除する] にチェックマークを付けます。



8. [OK] をクリックします。

アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従って、サービスのオブジェクトが更新されます。

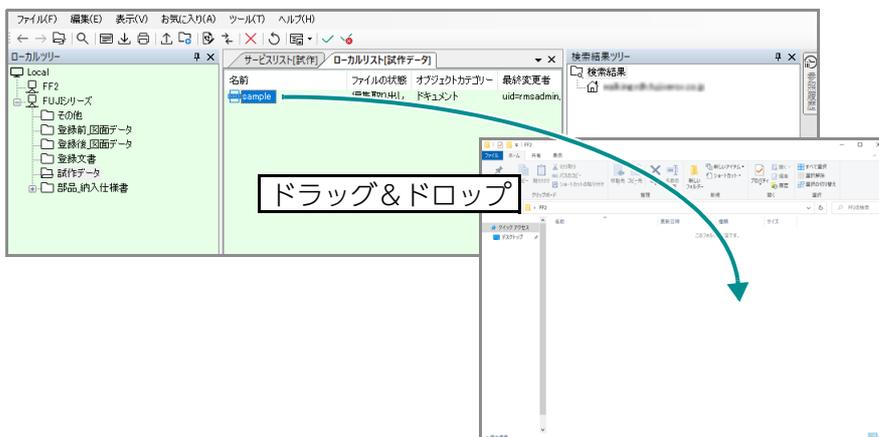
[編集終了後、ローカルオブジェクトを削除する] にチェックマークを付けた場合は、[ローカルリスト] から対象のオブジェクトが削除されます。

参照 上書き登録モード ⇒ 第3部 [\[5.2.10 \[登録振舞\] タブ\] \(P.218\)](#)

1.6 ローカルから Windows のエクスプローラーにコピーする

ローカルのオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を、Windowsのエクスプローラーにコピーできます。

1. [ローカルリスト] で、コピーするオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を Windows のエクスプローラーにドラッグ&ドロップします。

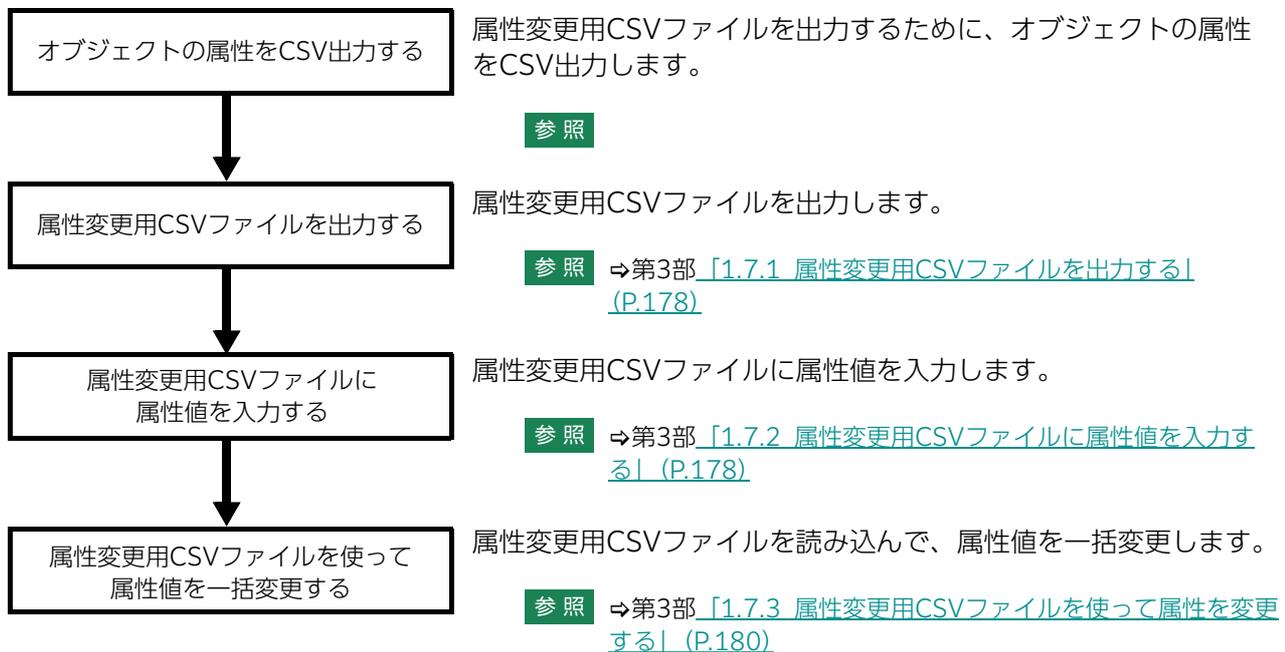


選択したオブジェクトが、Windows のエクスプローラーにコピーされます。

補足 複数のオブジェクトをドラッグ&ドロップできます。

1.7 属性を一括で変更する

属性変更用CSVファイルを使って、ローカルのオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）の属性を、一括で変更できます。属性変更用CSVファイルを使って、オブジェクトの属性を一括変更する操作の流れは、次のとおりです。



属性を一括変更する前の設定

CSVファイルを使って属性を一括変更する前に、[設定] ダイアログボックスで、次の設定をする必要があります。

参照 [設定] ダイアログボックスの操作 ⇒ 第3部 [\[5.1 アプリケーション設定を変更する\]](#) (P.201)

■ [名前 CSV] タブ

[関連付け用CSVファイルの格納先ディレクトリパス] に、属性変更用CSVファイルの出力先を設定します。

参照 [名前 CSV] タブの操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.7 \[名前 CSV\] タブ\]](#) (P.215)

■ [スキャナ連携] タブ

[「属性変更用CSV出力」の機能を使用する] で、[はい] を設定します。

参照 [スキャナ連携] タブの操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.6 \[スキャナ連携\] タブ\]](#) (P.214)

■ [属性一括変更] タブ

- 属性変更用 CSV ファイルの出力先を変更する場合は、[ファイル名による関連付け用 CSV ファイル格納先フォルダパス] または [リスト順による関連付け用 CSV ファイル格納先フォルダパス] を設定します。
- 属性の一括変更後に、使用した属性変更用 CSV ファイルを自動的に削除する場合は、[属性一括変更 (ファイル名による関連付け) を行ったあとに CSV ファイルを削除する] または [属性一括変更 (リスト順による関連付け) を行ったあとに CSV ファイルを削除する] で、[はい] を設定します。

参照 [属性一括変更] タブの操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.9 \[属性一括変更\] タブ\]](#) (P.217)

1.7.1 属性変更用 CSV ファイルを出力する

属性が出力されたCSVファイルから、属性一括変更用のCSVファイルを作成します。

1. オブジェクトの属性が出力された CSV ファイルを [ローカルリスト] に登録します。

- 参照**
- ・オブジェクトの属性を CSV 出力する操作 ⇒ 第2部 [\[4.5 属性を CSV ファイルに出力する\]](#) (P.154)
 - ・ローカルにドキュメントを登録する操作 ⇒ 第3部 [\[1.3 ローカルにドキュメントを作成する\]](#) (P.169)

2. 手順1で登録した CSV ファイルを選択します。



3. 操作メニューの [ツール] から [属性変更用 CSV 出力] を選択します。

確認メッセージが表示されます。

4. [OK] をクリックします。

属性変更用 CSV ファイルが、[設定] ダイアログボックスの [名前 CSV] タブの、[関連付け用 CSV ファイルの格納先ディレクトリパス] に設定されたフォルダーに出力されます。

補足 属性変更用 CSV 出力を実行すると、スキャン用 CSV ファイルと関連付け用 CSV ファイルの2つが出力されます。出力先は、それぞれ次のとおりです。

- ・スキャン用 CSV ファイル：[設定] ダイアログボックスの [スキャン CSV] タブで、[スキャン CSV ファイルの格納先ディレクトリのパス] に設定された格納先
- ・関連付け用 CSV ファイル：[設定] ダイアログボックスの [名前 CSV] タブで、[関連付け用 CSV ファイルの格納先ディレクトリパス] に設定された格納先

1.7.2 属性変更用 CSV ファイルに属性値を入力する

属性変更用 CSV ファイルへの属性値の入力のしかたについて、見積01、見積02、見積03という3つのドキュメントの属性を変更する場合を例に説明します。

補足 属性変更用 CSV ファイルの最大列数は 50、最大行数は 1,000 です。

・関連付け前の [ローカルリスト]

名前	ファイルの状態	オブジェクトカテゴリ	最終変更者	最終
見積01	ローカル	ドキュメント		2021
見積02	ローカル	ドキュメント		2021
見積03	ローカル	ドキュメント		2021

・属性値を入力する前の属性変更用 CSV ファイル (Excel で表示した例)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	system:name	StatusOfFile	system:locktype	user:customer	system:objectcategory	system:modifiedby	system:modifiedon	
2	見積01			富士A子	system:document		2021/2/5 15:22	
3	見積02			富士A子	system:document		2021/2/5 15:22	
4	見積03			富士A子	system:document		2021/2/5 15:22	

ファイル名による関連付けで属性を一括変更する場合

ファイル名以外の属性を変更する場合は、ファイル名による関連付けで属性を一括変更します。

1. 属性変更用 CSV ファイルで、ファイル名以外の属性項目の属性値を、変更または新規に入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	system:na	StatusOffFile	system:locktype	user:customer	system:objectcategory	system:modifiedby	system:modifiedon	
2	見種01			富士B子	system:document		2021/2/5 15:22	
3	見種02			富士B子	system:document		2021/2/5 15:22	
4	見種03			富士B子	system:document		2021/2/5 15:22	

- 補足**
- ・上の画面は、属性変更用 CSV ファイルを Excel で表示した例です。
 - ・上の CSV ファイルを使用して、属性を一括変更すると、CSV ファイルに記述されたファイル名に関連付けられて属性が割り当てられ、[ローカルリスト] の表示は次のようになります。

名前	ファイルの状態	ロックタイプ	顧客名	オブジェクトカテゴリ	最終変更
見種01	ローカル		富士B子	ドキュメント	
見種02	ローカル		富士B子	ドキュメント	
見種03	ローカル		富士B子	ドキュメント	

◆ 属性ドキュメント

属性変更用 CSV ファイルにファイル名が一致しない行がある場合は、属性ドキュメントとして登録されます。

名前	ファイルの状態	ロックタイプ	顧客名	オブジェクトカテゴリ	最終変更
見種01	ローカル		富士B子	ドキュメント	
見種01	ローカル		富士B子	ドキュメント	
見種02	ローカル		富士B子	ドキュメント	
見種03	ローカル		富士B子	ドキュメント	

属性ドキュメント

- 補足** 属性変更用 CSV ファイル内の空行は、無視されます。

リスト順による関連付けで属性を一括変更する場合

ファイル名も変更する場合は、リスト順による関連付けで、属性を一括変更します。

1. 属性変更用 CSV ファイルで、ファイル名、およびその他の属性項目の属性値を、変更または新規に入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	関連付け用ファイル名	system:name	StatusOffFile	system:locktype	user:customer	system:objectcategory	system:modifiedby	system:modifiedon
2	請求01	請求01			富士B子	system:document		2021/2/5 15:22
3	請求02	請求02			富士B子	system:document		2021/2/5 15:22
4	請求03	請求03			富士B子	system:document		2021/2/5 15:22

- 補足**
- ・上の画面は、属性変更用 CSV ファイルを Excel で表示した例です。
 - ・上の CSV ファイルを使用して、属性を一括変更すると、CSV ファイルに記述されたリスト順で属性が割り当てられ、[ローカルリスト] の表示は次のようになります。

名前	ファイルの状態	ロックタイプ	顧客名	オブジェクトカテゴリ	最終変更
請求01	ローカル		富士B子	ドキュメント	
請求02	ローカル		富士B子	ドキュメント	
請求03	ローカル		富士B子	ドキュメント	

◆ 属性ドキュメント

CSV ファイルの行数がドキュメントよりも多い場合、残りの行は、属性ドキュメントとして登録されます。

名前	ファイルの状態	ロックタイプ	顧客名	オブジェクトカテゴリ	最終変更
属性01	ローカル		富士B子		
請求01	ローカル		富士B子	ドキュメント	
請求02	ローカル		富士B子	ドキュメント	
請求03	ローカル		富士B子	ドキュメント	

属性ドキュメント

- 補足**
- ・属性変更用 CSV ファイルに [関連付け用ファイル名] が存在している場合、その列は、無視されます。
 - ・属性変更用 CSV ファイルの行数が、選択したドキュメントよりも少ない場合、行数分だけ属性が設定されます。

・属性変更用 CSV ファイル内の空行は、無視されます。

1.7.3 属性変更用 CSV ファイルを使って属性を変更する

属性変更用 CSV ファイルを使って、属性を一括変更できます。

1. [ローカルリスト] で、属性を変更するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント）を選択します。



補足 複数のオブジェクトを選択できます。

2. 操作メニューの [ツール] から [属性一括変更] > [ファイル名による割当] または [リスト順による割当] を選択します。

◆ 属性変更用 CSV ファイルが、出力先に 2 つ以上格納されている場合

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

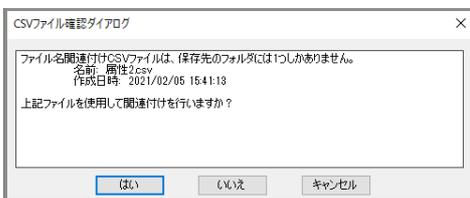
(1) [OK] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

◆ 属性変更用 CSV ファイルが、出力先に 1 つだけ格納されている場合

[CSV ファイル確認ダイアログ] ダイアログボックスが表示されます。

(1) [はい] をクリックします。



確認メッセージが表示されます。

補足 属性変更用 CSV ファイルの出力先は、[設定] ダイアログボックスの [属性一括変更] タブで、[ファイル名による関連付け用 CSV ファイル格納先フォルダパス] または [リスト順による関連付け用 CSV ファイル格納先フォルダパス] に設定された格納先です。

3. [OK] をクリックします。

◆ 手順 2 で [ファイル名による割当] を選択した場合

CSV ファイルに記述されたファイル名に関連付けられて属性が割り当てられます。

◆ 手順 2 で [リスト順による割当] を選択した場合

CSV ファイルに記述されたリスト順で属性が割り当てられます。

補足 1 行めに [ローカルリスト] に登録されていない属性名が設定されている場合は、エラーメッセージが表示され、処理が中断されます。

1.8 属性をマージする

コンテンツが登録されたドキュメントと、属性ドキュメントを統合できます。統合されると、コンテンツが登録されたドキュメントに属性が登録され、属性ドキュメントは削除されます。

補足 属性ドキュメントは、CSV ファイルを使って属性を一括変更するとき、登録できます。

参照 CSV ファイルを使って属性を一括変更する操作 ⇒ 第 3 部 [\[1.7 属性を一括で変更する\] \(P.177\)](#)

1.8.1 ドラッグ&ドロップでマージする

属性ドキュメントを、コンテンツが登録されたドキュメントにドラッグ&ドロップして統合できます。

1. [ローカルリスト] で、操作メニューの [表示] から [マージ対象のみ表示] を選択します。
[ローカルリスト] にマージ対象のドキュメントだけ表示されます。

補足 元の表示に戻す場合は、再度操作メニューの [表示] から [マージ対象のみ表示] を選択します。

2. [ローカルリスト] で、属性ドキュメントを、コンテンツが登録されたドキュメントにドラッグ&ドロップします。



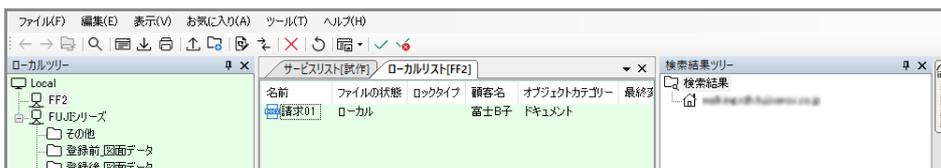
[確認] ダイアログボックスが表示されます。

補足 ・属性ドキュメントのアイコンは、 です。

・右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから [マージ] を選択しても、オブジェクトをマージできます。

3. [OK] をクリックします。

コンテンツが登録されたドキュメントに、属性ドキュメントの属性が登録されます。



補足 コンテンツが登録されたドキュメントを、属性ドキュメントにドラッグ&ドロップ、または右ドラッグ&ドロップしてもマージできます。

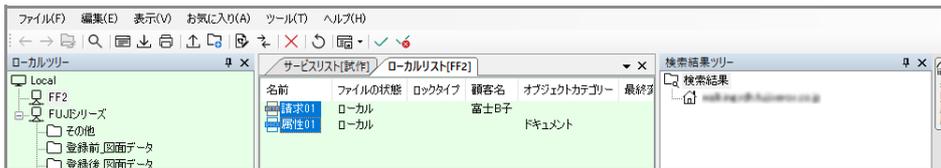
1.8.2 メニューでマージする

操作メニューやショートカットメニューで、コンテンツが登録されたドキュメントと属性ドキュメントを統合できます。

1. [ローカルリスト] で、操作メニューの [表示] から [マージ対象のみ表示] を選択します。
[ローカルリスト] にマージ対象のドキュメントだけ表示されます。

補足 元の表示に戻す場合は、再度操作メニューの [表示] から [マージ対象のみ表示] を選択します。

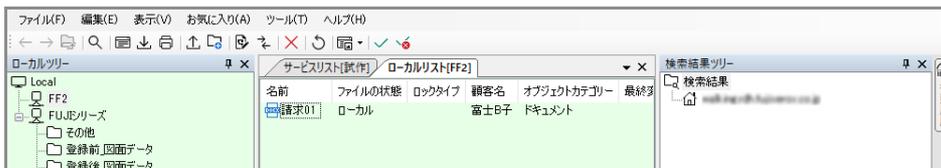
2. コンテンツが登録されたドキュメントと属性ドキュメントを選択します。



補足

- ・ 選択したドキュメントが 1 つのとき、または 3 つ以上のときはエラーになります。
- ・ コンテンツが登録されたドキュメント同士、または属性ドキュメント同士を選択した場合は、エラーになります。

3. 操作メニューの [編集] から [マージ] を選択します。
コンテンツが登録されたドキュメントに、属性ドキュメントの属性が登録されます。



補足 ショートカットメニューの [マージ] を選択しても、マージできます。

2 版を管理する

この章では、版管理の開始と終了、改版の操作について説明します。

2.1 版管理を開始する

キャビネットにエディションキーが設定されている場合、エディションキーとして定義されているユーザー属性（版管理属性）によって、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を版管理できます。版管理属性に属性値を入力することによって、オブジェクトの版管理を開始できます。

参照 版管理の詳細 ⇒ 第1部 [「1.3.6 履歴管理と版管理」](#) (P.24)

1. [サービスリスト] で、版管理を開始するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。

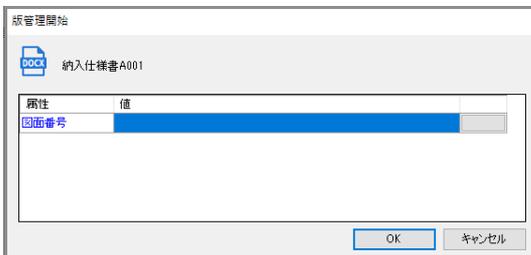


2. 操作メニューの [編集] から [版管理] > [版管理開始] を選択します。
[版管理] ダイアログボックスが表示されます。

補足

- ・ショートカットメニューの [編集] から [版管理開始] を選択しても、[版管理] ダイアログボックスが表示されます。
- ・セル形式の場合は、版管理属性のセルに直接属性値を入力して、ショートカットメニューの [属性反映] を選択しても、版管理を開始できます。

3. [値] に、版管理属性の属性値を入力します。



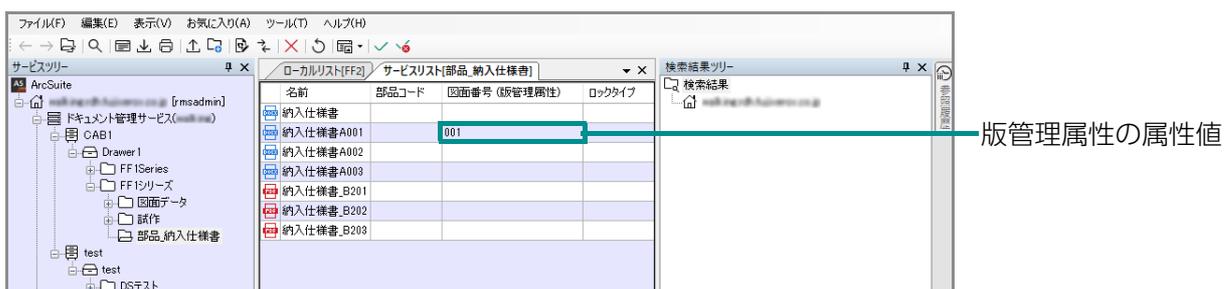
補足

- ・画面は、版管理属性として [図面番号] が設定されている例です。
- ・日時型の属性の場合は [入力] をクリックして日付をカレンダーから入力できます。
- ・入力補助機能を設定している場合は、ヒントメニューから属性値を選択したり、属性値に対応する表示名を入力したりすることでも属性値を設定できます。

参照

- ・属性の入力のしかた ⇒ 第1部 [「3.6 属性値を入力する」](#) (P.54)
- ・入力補助機能 ⇒ 第3部 [「6 入力補助機能を使用する」](#) (P.224)

4. [OK] をクリックします。
版管理が開始されます。

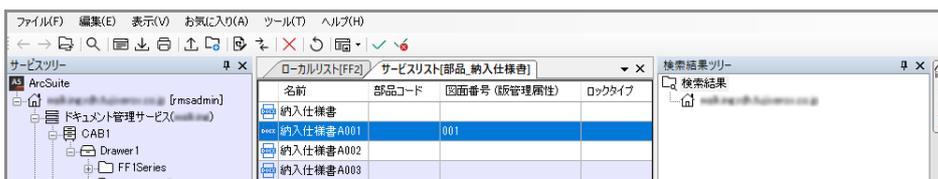


2.2 改版する

版管理属性の属性値が設定されているオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を改版できます。改版すると、版番号が1つ上がったオブジェクトが作成されます。

補足 フォルダーを改版する場合、改版によって作成されるフォルダーには、フォルダー内のドキュメントのリファレンスが登録されます。このため、フォルダーの改版手順では、フォルダー内にどのようなリファレンスを登録するかを指定する必要があります。

1. [サービスリスト] で、改版するオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



補足 上の画面は、版管理属性として [図面番号] が設定されている例です。

2. 操作メニューの [編集] から [版管理] > [改版] を選択します。

補足 ショートカットメニューの [編集] から [改版] を選択しても、改版できます。

◆ ドキュメントの場合

改版され、版番号が1つ上がったドキュメントが作成されます。



補足 版番号は、ドキュメントの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

◆ フォルダーの場合

[改版設定] ダイアログボックスが表示されます。手順 3 に進んでください。

3. フォルダー内に作成するリファレンスの種別を選択し、[OK] をクリックします。



フォルダー内のドキュメントが改版され、版番号が1つ上がったドキュメントが作成されます。

2.3 版管理を取り消す

版管理属性の属性値を削除することによって、オブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）の版管理を取り消すことができます。

1. [サービスリスト] で、版管理を取り消すオブジェクト（フォルダー、ドキュメント、リファレンス）を選択します。



補足 上の画面は、版管理属性として [図面番号] が設定されている例です。

2. 操作メニューの [編集] から [版管理] > [版管理取り消し] を選択します。
版管理属性の属性値が削除され、版管理が取り消されます。



- 補足**
- ・ ショートカットメニューの [編集] から [版管理取り消し] を選択しても、版管理を取り消すことができます。
 - ・ セル形式の場合は、版管理属性の属性値を削除しても、版管理を取り消すことができます。

3 スキャナソフトを起動する

この章では、スキャナソフトを起動する操作について説明します。

3.1 スキャナソフトの起動について

スキャナソフトを起動する操作には、ファイル名が記述されたCSVファイルからファイル名を読み込んで起動する操作とCSVファイルを使用しないで起動する操作があります。

- 補足**
- ・デスクトップクライアントからスキャナソフトを起動するには、クライアント PC に、次のスキャナソフトのどれかがインストールされている必要があります。
 - DW-Scan II 1.3.00
 - DW-Scan III 1.1.03
 - DW-Scan IV 1.0.0
 - ・日本語版 OS 以外を使用している場合は、スキャナソフトを起動する操作はできません。

3.1.1 CSV ファイルの準備

CSVファイルを使用してスキャナソフトを起動する場合は、次のCSVファイルを準備します。

■ 属性 CSV ファイル

オブジェクトの属性をCSVファイルに出力したCSVファイルに、スキャナソフトに読み込むファイル名に対応する、属性値を入力したファイルです。

■ スキャン用 CSV ファイル

属性CSVファイルを指定して、操作メニューの [ツール] から [属性変更用CSV出力] を実行すると出力できるファイルです。[設定] ダイアログボックスの [名前CSV] タブと [スキャンCSV] タブの設定に従って出力されます。スキャン用CSVファイルをローカルに登録し、スキャナソフトを起動するときに選択します。

- 補足**
- ・操作メニューの [ツール] から [属性変更用 CSV 出力] を実行すると、属性変更用 CSV ファイル、名前 CSV ファイル、および関連付け用 CSV ファイルも出力されます。
 - ・スキャン用 CSV ファイルでは、名前列に入力するファイル名は、スキャナソフトが利用可能なファイル名の文字数以下になるようにしてください。

3.1.2 スキャナソフトを起動する前の設定

スキャナソフトを起動する前に、[設定] ダイアログボックスで、次の設定をする必要があります。

参照 [設定] ダイアログボックスの操作 ⇒ 第3部 [\[5.1 アプリケーション設定を変更する\] \(P.201\)](#)

■ [スキャナ連携] タブ

スキャナソフトに関する設定をします。

参照 [スキャン CSV] タブの操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.6 \[スキャナ連携\] タブ\] \(P.214\)](#)

■ [名前 CSV] タブ

CSVファイルを使用してスキャナソフトを起動する場合は、名前CSVファイルに関する設定をします。

参照 [名前 CSV] タブの操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.7 \[名前 CSV\] タブ\] \(P.215\)](#)

■ [スキャン CSV] タブ

CSVファイルを使用してスキャナソフトを起動する場合は、スキャン用CSVファイルに関する設定をします。

参照 [スキャン CSV] タブの操作 ⇒ 第3部 [\[5.2.8 \[スキャン CSV\] タブ\] \(P.216\)](#)

3.2 スキャナソフトを起動する

スキャナソフトを起動する操作には、CSVファイルを使用して起動する操作とCSVファイルを使用しないで起動する操作の2つの方法があります。

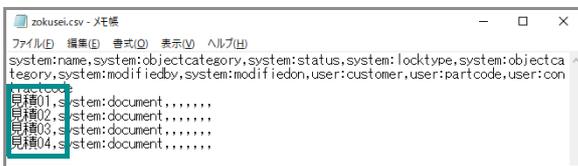
3.2.1 CSV ファイルを使ってスキャナソフトを起動する

スキャン用CSVファイルからファイル名を読み込んで、スキャナソフトを起動できます。

1. オブジェクトの属性を CSV ファイルに出力します。

参照 属性を CSV ファイルに出力する操作 ⇒ 第 2 部 [\[4.5 属性を CSV ファイルに出力する\]](#) (P.154)

2. [設定] ダイアログボックスの [名前 CSV] タブの [名前列に使用する列番号] に設定されている列に、スキャナソフトに読み込むファイル名が出力されていることを確認し、必要に応じて変更します。



補足 名前列に入力するファイル名は、スキャナソフトが利用可能なファイル名の文字数以下になるようにしてください。

参照 [名前 CSV] タブの操作 ⇒ 第 3 部 [\[5.2.7 「名前 CSV」タブ\]](#) (P.215)

3. 属性 CSV ファイルをローカルに登録します。

参照 ローカルに登録する操作 ⇒ 第 3 部 [\[1.3 ローカルにドキュメントを作成する\]](#) (P.169)

4. スキャン用 CSV ファイルを出力します。

(1) [ローカルリスト] で、手順 3 で登録した CSV ファイルを選択します。

(2) 操作メニューの [ツール] から [属性変更用 CSV 出力] を選択します。

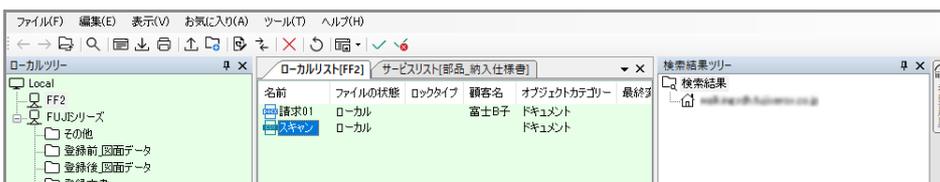
[設定] ダイアログボックスの [スキャン CSV] タブの、[スキャン CSV ファイルの格納先のディレクトリパス] に設定された格納先に、スキャン用 CSV ファイルが出力されます。

補足 [属性変更用出力] を実行すると、属性変更用 CSV ファイル、スキャン用 CSV ファイル、および関連付け用 CSV ファイルが出力されます。

5. スキャン用 CSV ファイルを [ローカルリスト] に登録します。

参照 ローカルに登録する操作 ⇒ 第 3 部 [\[1.3 ローカルにドキュメントを作成する\]](#) (P.169)

6. [ローカルリスト] で、手順 5 で登録したスキャン用 CSV ファイルを選択します。



7. 操作メニューの [ツール] から [スキャナソフト起動] > [CSV ファイルあり] を選択します。確認メッセージが表示されます。

8. [OK] をクリックします。

[ファイル名列指定] ダイアログボックスが表示されます。

9. 必要に応じて、[読み込み開始行] で読み込みを開始する行を変更します。

10. [OK] をクリックします。

スキャン用 CSV ファイルに記述された行以降は、連番でファイル名を生成することを示す確認メッセージが表示されます。

11. [OK] をクリックします。

スキャン用 CSV ファイルに記述されたファイル名を読み込んで、スキャナソフトが起動します。

3.2.2 CSV ファイルを使用しないでスキャナソフトを起動する

CSVファイルを使用しないでスキャナソフトを起動できます。

- 1.** 操作メニューの [ツール] から [スキャナソフト起動] > [CSV ファイルなし] を選択します。
スキャナソフトが起動します。



4 ArcEPSを使用して印刷する

この章では、ArcEPSを使用して印刷する操作について説明します。

4.1 ドキュメントを印刷する

ArcEPSを使用してドキュメントを印刷できます。

- 補足**
- ・ドキュメントを印刷するためには、お使いの PC に ArcEPS SDK Ver.4.0 がインストールされている必要があります。
 - ・印刷できるドキュメントのファイル形式は、次のとおりです。
 - 画像データ
 - DocuWorks 9、9.1 (拡張子: xdw)
 - Microsoft Word for Office 365、Microsoft Word 2016、2019 (拡張子: doc、rtf、docx、docm)
 - Microsoft Excel for Office 365、Microsoft Excel 2016、2019 (拡張子: xls、xlsx、xlsm)
 - Microsoft PowerPoint for Office 365、Microsoft PowerPoint 2016、2019 (拡張子: ppt、pptx、pptm)
 - PDF
 - txt
 - ・ロックしたユーザー以外も、ロックされたドキュメントを印刷できるかどうかは、操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択すると、確認できます。初期設定では、ロックしたユーザーだけが印刷できます。
 - ・日本語版 OS 以外を使用している場合は、印刷の操作はできません。

1. リスト表示エリアで、印刷するドキュメントを選択します。

- 補足**
- ・複数のドキュメントを選択した場合は、一括で印刷されます。
 - ・リファレンスを選択した場合は、参照先のドキュメントが印刷されます。

2. (印刷) をクリックします。

[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

- 補足** 操作メニューまたはショートカットメニューの [印刷] を選択しても、[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

3. 必要に応じて、各タブで印刷方法を設定します。

参照 各タブの詳細 ⇒ 第3部 [「4.2 印刷パターンを追加、変更、削除する」\(P.193\)](#)

4. 印刷パターンから印刷設定を選択する場合は、[印刷パターン選択] を選択します。

5. 必要に応じて、印刷設定を印刷パターンとして追加します。

参照 印刷パターンを追加、変更する操作 ⇒ 第3部 [「4.2 印刷パターンを追加、変更、削除する」\(P.193\)](#)

6. 印刷後、[印刷] ダイアログボックスを閉じる場合は、[印刷後、終了する] にチェックマークを付けます。

7. [印刷] をクリックします。

ドキュメントが印刷されます。

4.2 印刷パターンを追加、変更、削除する

よく使う印刷設定を、印刷パターンとして登録できます。登録した印刷パターンは、設定を変更したり、削除したりできます。

1. [印刷] ダイアログボックスを表示します。

参照 [印刷] ダイアログボックスを表示する操作 ⇒ 第3部 [\[4.1 ドキュメントを印刷する\]](#) (P.192)

2. 印刷パターンを追加する場合は、次のように操作します。

(1) 各タブで印刷方法を設定します。

参照 各タブの詳細 ⇒ 第3部 [\[4.3 \[印刷\] ダイアログボックスの詳細\]](#) (P.194)

(2) [印刷パターン追加・変更] をクリックします。

[パターン名入力] ダイアログボックスが表示されます。

(3) パターン名を入力します。

(4) [OK] をクリックします。

印刷パターンが追加されます。

3. 印刷パターンを変更する場合は、次のように操作します。

(1) [印刷パターン選択] で、変更する印刷パターンを選択します。

(2) 各タブで印刷方法を変更します。

参照 各タブの詳細 ⇒ 第3部 [\[4.3 \[印刷\] ダイアログボックスの詳細\]](#) (P.194)

(3) [印刷パターン追加・変更] をクリックします。

[パターン名入力] ダイアログボックスが表示されます。

(4) パターン名を変更します。

(5) [OK] をクリックします。

印刷パターンが変更されます。

4. 印刷パターンを削除する場合は、次のように操作します。

(1) [印刷パターン選択] で、削除する印刷パターンを選択します。

(2) [削除] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

(3) [はい] をクリックします。

印刷パターンが削除されます。

4.3 [印刷] ダイアログボックスの詳細

[印刷] ダイアログボックスの各タブで設定できる内容について説明します。

4.3.1 [用紙 / ジョブ] タブ

[用紙/ジョブ] タブでは、プリンター、用紙トレイ、部数などを設定できます。

項目		説明
プリンタ	プリンタ名	設定されているプリンターの中から、印刷先のプリンターを選択できます。 補足 ・プリンターは、システム管理者が設定します。 ・選択したプリンターによっては、設定できない項目があります。
	編集	[プリンタ編集] ダイアログボックスが表示され、プリンターのURLを変更できます。
用紙	用紙選択	用紙の選択方法を指定できます。 ・自動用紙選択 印刷データのサイズに合わせて、用紙サイズが自動的に選択されます。 ・最大用紙選択 選択できる最大用紙サイズを指定すると、印刷データのサイズに合わせて、用紙サイズが自動的に選択されます。 ・マップ用紙選択 [マップ名] で指定したマップ（用紙サイズの変更方法を記述した表）に従って、用紙サイズが選択されます。 ・全て指定 ユーザーが [サイズ] で用紙サイズを指定します。 補足 ・指定した最大用紙サイズが、印刷データのデータサイズよりも小さい場合は、データサイズの用紙サイズで出力されます。たとえば、データサイズがA2の場合、最大用紙サイズでA1を指定すると、A2で印刷されます。この場合、[スケール] で [減少] を指定すると、指定された最大用紙サイズに合わせて縮小して印刷されます。 ・この項目を選択すると、[スケール] の [フィット] は指定できません。
	タイプ	用紙のタイプを指定できます。
用紙	マップ名	マップ名を指定できます。 [用紙選択] で [マップ用紙選択] を選択しているときに指定できます。
	サイズ	[用紙選択] で [全て指定] を選択しているときは、出力する用紙サイズを指定できます。 [用紙選択] で [最大用紙選択] を選択しているときは、選択できる最大用紙サイズを指定できます。
	長尺	長尺を指定できます。 ・ロールを指定 指定した長さ（ミリ）で印刷されます。「0」を入力すると、データの長さに合わせてカットされます。 ・カット紙を指定 定型×n（個数）の大きさを印刷されます。
	紙質	紙質を選択できます。
部数	印刷部数を設定できます。	

項目		説明
スケール	オフ	原稿サイズのまま印刷されます。
	フィット	指定した用紙サイズの大きさに合わせて、自動的に拡大または縮小されて印刷されます。
	減少	指定した用紙サイズよりも大きなサイズのデータの場合、指定サイズに合わせて印刷されます。
	選択	[スケール値] に入力した倍率で印刷されます。
	スケール値	
ページ	ページを指定する	チェックマークを付けると、開始ページと終了ページを指定して印刷できます。
	開始ページ	
	終了ページ	
ジョブの優先度	低	優先順位が高いほど、ほかの印刷依頼よりも、早い順番で印刷されます。
	中	
	高	

4.3.2 [レイアウト] タブ

[レイアウト] タブでは、オフセット、マージン（余白）、ソートを設定できます。

項目		説明
オフセット	オフセットを指定する	チェックマークを付けると、オフセット位置を指定できます。
	位置	オフセット位置を、中央、左上、右上、左下、右下から選択できます。
	X方向	オフセット位置として、用紙の縦方向の位置を-1,000~1,000の数値（ミリ）で指定できます。
	Y方向	オフセット位置として、用紙の横方向の位置を-1,000~1,000の数値（ミリ）で指定できます。
マージン	マージンを指定する	チェックマークを付けると、マージン（余白）を指定できます。
	上	上側のマージンを0~1,000の数値（ミリ）で指定できます。
	下	下側のマージンを0~1,000の数値（ミリ）で指定できます。
	左	左側のマージンを0~1,000の数値（ミリ）で指定できます。
	右	右側のマージンを0~1,000の数値（ミリ）で指定できます。
ソート	スタック	オブジェクトごとに印刷されます。たとえば、A、B、Cのオブジェクトを2部印刷する場合、AA、BB、CCの順に印刷されます。
	ソート	部ごとに印刷されます。たとえば、A、B、Cのオブジェクトを2部印刷する場合、ABC、ABCの順に印刷されます。
	適用しない	データ変換が終了した順に印刷されます。

4.3.3 [フォーム] タブ

[フォーム] タブでは、フォームを設定できます。

項目		説明
フォーム	フォームを印刷する	チェックマークを付けると、フォームを指定できます。
	フォーム名	設定されているフォームの中から選択できます。
	コメント	入力したコメントが、フォームとして印刷されます。
スケール	オフ	原稿サイズのまま印刷されます。
	スケール	指定したデータの大きさに合わせて、自動的に拡大または縮小されて印刷されます。
	フィット	指定した用紙サイズの大きさに合わせて、自動的に拡大または縮小されて印刷されます。
	減少	指定した用紙サイズよりも大きなサイズのデータの場合、指定サイズに合わせて印刷されます。
	選択	[スケール値] に入力した倍率で印刷されます。
	スケール値	
オフセット		参照 ⇨第3部 [4.3.2 [レイアウト] タブ] (P.195)
ページ		参照 ⇨第3部 [4.3.1 [用紙/ジョブ] タブ] (P.194)

4.3.4 [スタンプ] タブ

[スタンプ] タブでは、スタンプを設定できます。

項目		説明
スタンプ	スタンプを印刷する	チェックマークを付けると、スタンプを指定できます。
	スタンプ名	設定されているスタンプの中から選択できます。
	位置	スタンプが印刷される基準位置を、左上、中央上、右上、左中間、中央、右中間、左下、中央下、右下から選択できます。
	コメント	入力したコメントが、スタンプとして印刷されます。
スケール	オフ	原稿サイズのまま印刷されます。
	スケール	指定したデータの大きさに合わせて、自動的に拡大または縮小されて印刷されます。
	選択	[スケール値] に入力した倍率で印刷されます。
	スケール値	
ページ指定		参照 ⇨第3部 [4.3.1 [用紙/ジョブ] タブ] (P.194)

4.3.5 [バナー] タブ

[バナー] タブでは、スタートバナー、コピーバナー、エンドバナーを設定できます。

- 補足**
- ・スタートバナーとは、印刷の最初のシートとして印刷されるバナーシートです。
 - ・コピーバナーとは、2 つ以上のオブジェクトまたは 2 部以上印刷する場合に、オブジェクト間または部間に印刷されるバナーシートです。
 - ・エンドバナーとは、印刷の最後のシートとして印刷されるバナーシートです。

項目		説明
スタートバナー	スタートバナーを印刷する	チェックマークを付けると、スタートバナーを指定できます。
	バナー名	設定されているスタートバナーの中から選択できます。
	コメント	入力したコメントが、スタートバナーとして印刷されます。
コピーバナー	コピーバナーを印刷する	チェックマークを付けると、コピーバナーを指定できます。
	バナー名	設定されているコピーバナーの中から選択できます。
	コメント	入力したコメントが、バナーとして印刷されます。
エンドバナー	エンドバナーを印刷する	チェックマークを付けると、エンドバナーを指定できます。
	バナー名	設定されているエンドバナーの中から選択できます。
	コメント	入力したコメントが、エンドバナーとして印刷されます。

4.3.6 [デバイス] タブ

[デバイス] タブでは、片面/両面、ステープル、穴あけを設定できます。

項目		説明
片面 / 両面	片面	用紙の片面に印刷されます。
	長辺とじ両面	用紙の両面に長辺とじで、印刷されます。
	短辺とじ両面	用紙の両面に短辺とじで、印刷されます。
ステープル	ステープルとめする	チェックマークを付けると、ステープルとめして印刷されます。
	位置	ステープルの位置を、左上、中央上、右上、左中間、右中間、左下、中央下、右下から選択できます。
穴あけ	穴あけする	チェックマークを付けると、穴あけして印刷されます。
	位置	穴あけの位置を、中央上、左中間、右中間、中央下から選択できます。

4.3.7 [BT スタンプ] タブ

[BTスタンプ] タブでは、FUJI XEROX DocuWide[®]シリーズのプリンターのスタンプを設定できます。

項目		説明
スタンプ	スタンプを印刷する	チェックマークを付けると、プリンターのスタンプを指定できます。
	スタンプ番号	設定されているスタンプ番号の中から選択できます。 補足 スタンプ番号は、システム管理者が設定します。
	カラー	スタンプのカラーを黒、赤、グレーから選択できます。
	コメント	入力したコメントが、スタンプとして印刷されます。
	スタンプに日付を含める	チェックマークを付けると、スタンプに印刷を実行した日付が含まれます。
	位置指定モード	スタンプが印刷される位置の基準を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・用紙に対して位置指定 用紙に対してスタンプの位置を設定できます。[X座標]、[Y座標] で設定できます。 ・自動位置指定 スタンプの位置は、自動的に設定されます。 ・データに対して位置指定 印刷データに対してスタンプの位置を設定できます。[位置] で設定できます。
位置	スタンプが印刷されるデータに対する基準位置を、左上、中央上、右上、左中間、中央、右中間、左下、中央下、右下から選択できます。 [位置指定モード] で [データに対して位置指定] が選択されている場合に設定できます。	
スタンプ	X 座標	スタンプ位置として、用紙の縦方向の位置を-1,000~1,000の数値（ミリ）で指定できます。 [位置指定モード] で [用紙に対して位置指定] が選択されている場合に設定できます。
	Y 座標	スタンプ位置として、用紙の横方向の位置を-1,000~1,000の数値（ミリ）で指定できます。 [位置指定モード] で [用紙に対して位置指定] が選択されている場合に設定できます。
	スタンプを回転して印刷する	スタンプが90度回転して印刷されます。 [位置指定モード] で [用紙に対して位置指定] が選択されている場合に設定できます。
ページ指定	参照 ⇨第3部 [4.3.1 [用紙/ジョブ] タブ] (P.194)	

4.3.8 [BT フォルダー] タブ

[BTフォルダー] タブでは、DocuWideシリーズのプリンターの出力トレイ、紙折り、ソートを設定できません。

項目		説明
出力トレイ	デフォルト	標準設定された位置のトレイに印刷されます。
	上	トレイ上段に印刷されます。
	中	トレイ中段に印刷されます。
紙折り	モード	紙折りの種類を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オフ 紙折りされずに印刷されます。 ・ ローカル あらかじめ設定した折り方で印刷されます。 ・ ファン ファン折りで用紙を折って印刷されます。 ・ クロス クロス折りで印刷されます。 ・ 特殊 A1特殊折りまたはSD折りで印刷されます。
	タイプ	紙折りの方向を、単方向、両方向から選択できます。 [モード] で [ファン]、[クロス]、または [特殊] が選択されている場合に設定できます。
	マージン	紙折りのマージン (余白) を0、10、20、25、30、50から選択できます。
	幅モード	紙折りの幅を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常 A4サイズの大きさの折り幅で印刷されます。 ・ 広い A4サイズよりやや大きい折り幅で印刷されます。 ・ 狭い A4サイズよりやや小さい折り幅で印刷されます。
	耳折りする	チェックマークを付けると、A2サイズ、横方向折りする場合、耳折りされます。[モード] で [ファン] または [特殊] が選択されている場合に設定できます。
	折り幅を補正する	チェックマークを付けると、折り幅がずれているときに、あらかじめ設定された調整幅に基づいて、折り幅が調整されます。[モード] で [ファン] または [特殊] が選択されている場合に設定できます。
	スタック	スタック時の回転モードを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常 スタック時に回転処理されません。 ・ 回転 90度回転してスタックされます。 ・ クロス 1部ごとに90度回転してスタックされます。 [モード] で [ファン]、[クロス]、または [特殊] が選択されている場合に設定できます。
	デバイスソート	デバイスソートを指定する この項目は使用できません。 設定しても無効です。

5 設定を変更、管理する

この章では、デスクトップクライアントの設定を変更、管理する操作について説明します。

5.1 アプリケーション設定を変更する

アプリケーション設定を変更する操作について説明します。

1. 操作メニューの [ファイル] から [アプリケーション設定] を選択します。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。



2. 設定を変更します。

参照 [設定] ダイアログボックスの詳細 ⇒ 第3部 [5.2 [設定] ダイアログボックスの詳細] (P.202)

3. [OK] または [適用] をクリックします。

◆ [OK] をクリックした場合

設定が変更され、[設定] ダイアログボックスが閉じます。

◆ [適用] をクリックした場合

[設定] ダイアログボックスが表示された状態で、設定が変更されます。

◆ [キャンセル] をクリックした場合

設定は変更されず、[設定] ダイアログボックスが閉じます。

5.2 [設定] ダイアログボックスの詳細

[設定] ダイアログボックスで設定できる内容について説明します。

5.2.1 [全般] タブ

[全般] タブでは、リスト表示エリアの最大表示件数、非同期一括リストの取得件数、ドラッグ&ドロップの操作、背景色などを設定できます。



項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
リスト最大表示件数	1～1,000,000の整数	300	[サービスリスト] の最大表示件数を指定します。
非同期一括リスト取得件数	1～1,000の整数	500	リスト表示と検索で、取得する件数を指定します。
サービス環境へのダウンロード／アップロード最大サイズ	1～1,000の整数	20	サービスにダウンロード、アップロードできるファイルの最大サイズを指定します。
ログ保持世代数	1～2,147,483,647の整数	90	ログを保持するファイル数を指定します。
直接編集中のファイル状態を確認する間隔	1～60の整数	3	直接編集しているファイルの状態を確認する間隔（秒）を指定します。

項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
ドラッグ&ドロップ時の操作とダイアログ表示			
デスクトップクライアント内でのデフォルトのドラッグ&ドロップ操作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動 ・ コピー 	移動	サービスからサービス、またはローカルからローカルに、ドラッグ&ドロップしたときの操作を選択します。
デスクトップクライアント内でのドロップ時に確認ダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	はい	サービスからサービス、サービスからローカル、またはローカルからローカルへのドラッグ&ドロップでの操作時に、確認メッセージを表示するかどうかを選択します。
デスクトップからデスクトップクライアントへのドロップ時に登録ダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	はい	Windowsのエクスプローラーからサービスまたはローカルへのドラッグ&ドロップでの操作時に、[登録確認]ダイアログボックスまたは確認メッセージを表示するかどうかを選択します。 補足 すでにインストールされているデスクトップクライアントに上書きインストールした場合は、設定されていた値が初期値になります。
リクエストタイムアウト時間	30～86,400の整数	600	デスクトップクライアントからサーバーに、リクエストしてからタイムアウトするまでの時間を指定します。 補足 設定を反映するには、デスクトップクライアントを終了し、再び起動する必要があります。
一時ファイル格納先	Windowsのパスとして利用可能な文字列		一時ファイルの格納先を初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして指定します。
状態の変更を許可する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	はい	[サービスリスト]、[お気に入りリスト]、検索結果リスト、および [ローカルリスト] で、[状態] のセルに入力して、属性値を変更できるようにするかを選択します。
版管理属性の変更を許可する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	はい	[サービスリスト]、[お気に入りリスト]、検索結果リストで、版管理属性のセルに入力して、属性値を変更できるようにするかを選択します。
編集取り出しを許可する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	はい	編集取り出しを行うかどうかを選択します。
外部コマンド定義ファイル格納先	Windowsのパスとして利用可能な文字列		外部コマンド定義ファイルの格納先を、初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして指定します。
ローカル環境でごみ箱を利用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	ローカルでごみ箱を利用するかを選択します。

項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
存在確認検索結果格納先	Windowsのパスとして利用可能な文字列		存在確認の検索結果の格納先を、初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして指定します。 補足 初期状態では、[C:¥Users¥{Windowsサインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ArcSuiteDesktop Client¥2.5.0.0¥Data¥ExistSearchResult] に格納されます。
ローカル環境からサービスへの登録時の中断条件	<ul style="list-style-type: none"> ・セカンダリが存在しない場合は中断する ・セカンダリが古い場合は中断する ・セカンダリが古い、または、存在しない場合は中断する ・中断しない 	中断しない	ローカルからサービスに登録するときの中断条件となる、セカンダリコンテンツの状態を選択します。
他人にロックされたファイルを印刷対象とする	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	ロックしたファイルを、ほかのユーザーが印刷できるようにするかどうかを指定します。 補足 日本語版OS以外のはきは、印刷機能が利用できないため、設定の変更ができません。
非表示キャビネットの ObjectID (複数定義する場合は、[,] 区切りで指定)	オブジェクトID		[サービスツリー] と [サービスリスト] で非表示にするキャビネットのオブジェクトIDを指定します。 補足 <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数設定する場合は、[,] で区切って設定します。 ・ オブジェクトIDは、キャビネットの [プロパティ] ダイアログボックスで確認できます。

項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
ローカル環境からサービスへの改版登録時に旧版に設定する状態属性の値			<p>状態のATOM名を、「{ネームスペース名} : {ATOM名}」の形式で設定できます。設定できるATOM名は1つだけです。</p> <p>サービスで共通の設定です。</p> <p>システム定義の状態を指定する場合、 [編集可能] は「system:editable」、 [固定] は「system:fixed」、 [廃棄] は「system:obsolete」を指定します。</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー定義の状態（ユーザーATOM）を指定することもできます。たとえば、ユーザーATOMを作成したときのネームスペース名が「user」でATOM名が「approval」のときは、「user:approval」を指定します。ただし、設定したキャビネットに設定されていない場合は、そのキャビネットで改版の操作をすると、エラーになります。 ・状態定義および状態遷移定義は、ドキュメント管理サービスの管理者が設定します。 ・ネームスペース名およびATOM名は、リソース管理アプリケーションで検索したATOMの[プロパティ]ダイアログボックスで確認できます。たとえば、 [cn=approval,ou=user] と表示された場合、{ネームスペース名} は「user」、 {ATOM名} は「approval」 になります。

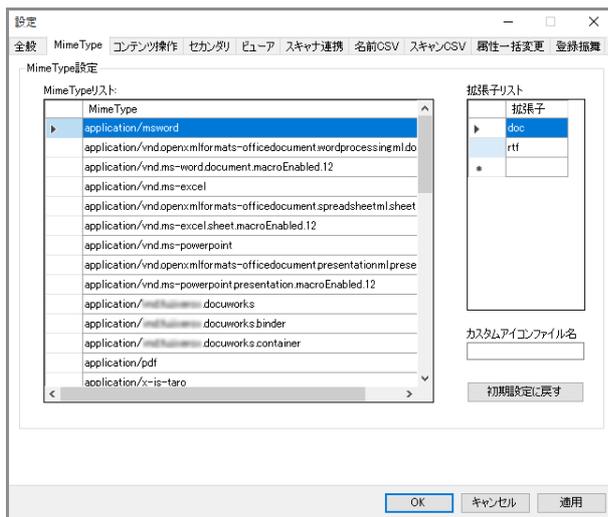
項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
ウィンドウの配色			
サービス画面の背景色		 RGB (230,230,255)	[サービスツリー] および [サービスリスト] の背景色を、初期状態から変更する場合は、[選択] をクリックして指定します。 初期状態に戻す場合は、[デフォルト] をクリックします。
ローカル画面の背景色		 RGB (230,255,230)	[ローカルツリー] および [ローカルリスト] の背景色を、初期状態から変更する場合は、[選択] をクリックして指定します。 初期状態に戻す場合は、[デフォルト] をクリックします。
検索結果画面の背景色		 RGB (255,255,255)	[検索結果ツリー] および検索結果リストの背景色を、初期状態から変更する場合は、[選択] をクリックして指定します。 初期状態に戻す場合は、[デフォルト] をクリックします。
リスト画面（セル）の行背景色を交互に変える	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	はい	リスト表示エリアの表示形式がセル形式のときに、行の背景色を交互にするかどうかを指定します。
サービス画面の交互に変える背景色		 RGB (230,255,230)	セル形式の [サービスリスト] で、背景色と交互になる行の色を、初期状態から変更する場合は、[選択] をクリックして指定します。 初期状態に戻す場合は、[デフォルト] をクリックします。
ローカル画面の交互に変える背景色		 RGB (255,255,255)	セル形式の [ローカルリスト] で、背景色と交互になる行の色を、初期状態から変更する場合は、[選択] をクリックして指定します。 初期状態に戻す場合は、[デフォルト] をクリックします。
検索結果画面の交互に変える背景色		 RGB (255,203,207)	セル形式の検索結果リストで、背景色と交互になる行の色を、初期状態から変更する場合は、[選択] をクリックして指定します。 初期状態に戻す場合は、[デフォルト] をクリックします。
新規リスト画面を表示する際のデフォルト表示形式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細 ・ アイコン ・ 一覧 ・ セル 	詳細	新規にリストを表示するときの表示形式を選択します。

項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
新規リスト画面を表示する際の表示位置	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブなリスト画面のタブとして表示 ・アクティブなリスト画面の上に表示 ・アクティブなリスト画面の下に表示 ・アクティブなリスト画面の左に表示 ・アクティブなリスト画面の右に表示 	アクティブなリスト画面のタブとして表示	新規にリストを表示するとき、リスト表示エリアのどこに表示するかを選択します。
サービス上のドキュメントを読み取り専用で開く	<ul style="list-style-type: none"> ・はい ・いいえ 	はい	サービス上のドキュメントを開くときに、読み取り専用で開くかどうかを選択します。
終了時に開いていたリストを保持する	<ul style="list-style-type: none"> ・はい ・いいえ 	いいえ	デスクトップクライアントを起動したときに、サービスツリー、サービスリスト、ローカルツリー、およびローカルリストを前回終了時の状態に表示するかどうかを選択します。
参照履歴の記録			
最大記録数	0~100の範囲内の整数値	40	<p>オブジェクトを参照した履歴の記録として、保持する件数を指定します。履歴を記録しない場合は、「0」を指定します。</p> <p>補足 履歴が記録されている状態で「0」を指定した場合は、次にオブジェクトを参照したときに、それまで記録されていた履歴が削除されます。</p>
記録するオブジェクトタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・キャビネット ・ドロワー ・フォルダー ・ドキュメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォルダー ・ドキュメント 	参照した履歴を記録するオブジェクトを選択します。
直接編集後の保存の種類 のデフォルト設定	<ul style="list-style-type: none"> ・リビジョンアップ ・コンテンツ差し替え ・一時保存 	リビジョンアップ	<p>[直接編集後の保存] ダイアログボックスの [保存の種類] の初期値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リビジョンアップ チェックインして、ドキュメントを改訂します。 ・コンテンツ差し替え ドキュメントのコンテンツを差し替えます。チェックアウトが解除されます。 ・一時保存 ドキュメントを一時保存します。チェックアウトが継続されます。
「ダウンロード」、「閲覧」、「ビュー」、「直接編集」操作時のファイル名	<ul style="list-style-type: none"> ・「名前」属性値と拡張子 ・「ファイル名」属性値 	「ファイル名」属性値	[ダウンロード]、[閲覧]、[ビュー]、または [直接編集] の操作時の、ドキュメントのファイル名を、「{名前属性値} . {拡張子}」とするか、「{ファイル名属性値}」とするかを選択します。

項目	入力範囲／選択項目	初期値	説明
フォルダに付与できないアクセス権の初期値を選択状態にする	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ 	いいえ	<p>フォルダの [プロパティ] ダイアログボックスの [アクセス権] タブでの初期値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> はい コンテンツ取得権、コンテンツ設定権、コンテンツ表示権、コンテンツ印刷権、改訂権、履歴削除権にチェックマークを付けた状態を初期値とします。 いいえ コンテンツ取得権、コンテンツ設定権、コンテンツ表示権、コンテンツ印刷権、改訂権、履歴削除権のチェックマークを外した状態を初期値とします。

5.2.2 [MimeType] タブ

[MimeType] タブでは、デスクトップクライアントで管理するドキュメントの、MimeType、拡張子、およびアイコンを設定できます。

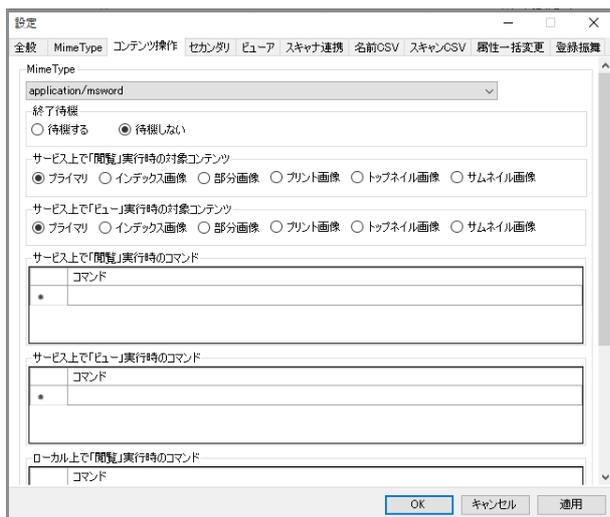


項目	説明
MimeType リスト	<p>MimeTypeを指定します。</p> <p>MimeTypeを追加する場合は、「*」が付いた行にMimeTypeを入力します。</p> <p>MimeTypeを削除する場合は、削除する行の一番左のカラムをクリックして、行を選択し、<Delete>キーを押します。</p>
拡張子リスト	<p>MimeTypeリストで選択されているMimeTypeに対応する拡張子を指定します。</p> <p>拡張子を追加する場合は、「*」が付いた行に拡張子を入力します。</p> <p>拡張子を削除する場合は、削除する行の一番左のカラムをクリックして、行を選択し、<Delete>キーを押します。</p>

項目	説明
カスタムアイコンファイル名	<p>MimeTypeリストで選択されているMimeTypeに対応するアイコンを初期設定から変更する場合に、アイコンイメージのファイル名（拡張子は「ico」）を入力します。</p> <p>初期設定のアイコンに戻す場合は、入力したアイコンイメージのファイル名を選択し、<Delete>キーを押します。</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定するアイコンイメージのファイルは、あらかじめ「C:¥Users¥{Windowsサインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Conf¥Icon」フォルダーに格納しておく必要があります。 「Icon」フォルダーには、複数のアイコンイメージのファイルを格納できます。 設定できるアイコンイメージは、拡張子が「ico」のファイルだけです。
初期設定に戻す	MimeTypeリスト、拡張子リスト、およびカスタムアイコンファイル名の内容が、インストールしたときの初期設定に戻ります。

5.2.3 [コンテンツ操作] タブ

[コンテンツ操作] タブでは、[閲覧] および [ビュー] を実行したときに表示されるコンテンツの種類とアプリケーションを設定できます。

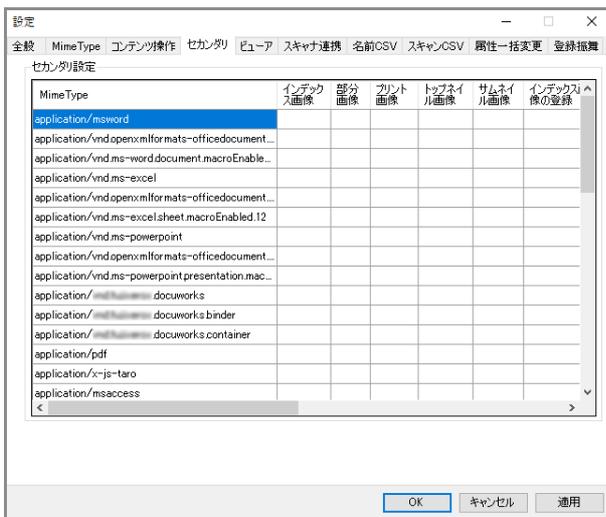


項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
MimeType			[MimeType] タブで設定されている MimeTypeが表示されます。選択したMimeTypeについて設定できます。
終了待機	<ul style="list-style-type: none"> 待機する 待機しない 	待機しない	[閲覧] または [ビュー] の設定を変更した場合、設定が終了するまで待機するかしないかを選択します。
サービス上で「閲覧」実行時の対象コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> プライマリ インデックス画像 部分画像 プリント画像 トップネイル画像 サムネイル画像 	プライマリ	サービスのドキュメントで [閲覧] を実行したときに表示されるコンテンツを選択します。

項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
サービス上で「ビュー」実行時の対象コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・プライマリ ・インデックス画像 ・部分画像 ・プリント画像 ・トップネイル画像 ・サムネイル画像 	プライマリ	サービスのドキュメントで「ビュー」を実行したときに表示されるコンテンツを選択します。
サービス上で「閲覧」実行時のコマンド	文字列		サービスのドキュメントで「閲覧」を実行したときに起動するコマンドを指定します。 コマンドを追加する場合は、「*」が付いた行にコマンドを入力します。 コマンドを削除する場合は、削除する行の一番左のカラムをクリックして、行を選択し、<Delete>キーを押します。
サービス上で「ビュー」実行時のコマンド	文字列		サービスのドキュメントで「ビュー」を実行したときに起動するコマンドを指定します。 コマンドを追加する場合は、「*」が付いた行にコマンドを入力します。 コマンドを削除する場合は、削除する行の一番左のカラムをクリックして、行を選択し、<Delete>キーを押します。
ローカル上で「閲覧」実行時のコマンド	文字列		ローカルのドキュメントで「閲覧」を実行したときに起動するコマンドを指定します。 コマンドを追加する場合は、「*」が付いた行にコマンドを入力します。 コマンドを削除する場合は、削除する行の一番左のカラムをクリックして、行を選択し、<Delete>キーを押します。
ローカル上で「ビュー」実行時のコマンド	文字列		ローカルのドキュメントで「ビュー」を実行したときに起動するコマンドを指定します。 コマンドを追加する場合は、「*」が付いた行にコマンドを入力します。 コマンドを削除する場合は、削除する行の一番左のカラムをクリックして、行を選択し、<Delete>キーを押します。

5.2.4 [セカンダリ] タブ

[セカンダリ] タブでは、セカンダリコンテンツについて設定できます。



項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
MimeType			登録されているMimeTypeが表示されます。
インデックス画像	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 		チェックマークを付けた場合、MimeTypeに対応するドキュメントで、[ドキュメント情報更新]が実行されるときに、プライマリコンテンツから各画像が自動生成されます。 また、サービスにドキュメントが登録されるときに、プライマリコンテンツから各画像が自動生成されます。
部分画像			
プリント画像			
トップネイル画像			
サムネイル画像			
インデックス画像の登録	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 		チェックマークを付けた場合、ローカルからサービスに登録するときに、ローカルに登録されているインデックス画像も登録します。
インデックス画像の取得	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 		チェックマークを付けた場合、サービスからローカルにドキュメントを取得するときに、サービスに登録されているドキュメントのインデックス画像も一緒に取得します。
プリント画像の登録	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 		チェックマークを付けた場合、ローカルからサービスに登録するときに、ローカルに登録されているプリント画像も登録します。
プリント画像の取得	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 		チェックマークを付けた場合、サービスからローカルにドキュメントを取得するときに、サービスに登録されているドキュメントのプリント画像も一緒に取得します。

項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
印刷対象	<ul style="list-style-type: none"> • Primary • Print • Index 	Primary	印刷の対象となるコンテンツを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Primary プライマリコンテンツが印刷の対象になります。 • Print 実画像が印刷の対象になります。 • Index インデックス画像が印刷の対象になります。 <p>補足 日本語版OS以外のはきは、印刷機能が利用できないため、設定の変更ができません。</p>
印刷モード	<ul style="list-style-type: none"> • fixed • auto • none 	auto	印刷対象コンテンツが存在しない場合の印刷モードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • fixed エラーメッセージが表示されます。 • auto プライマリコンテンツが印刷されます。 • none 印刷されません。 <p>補足 日本語版OS以外のはきは、印刷機能が利用できないため、設定の変更ができません。</p>

- 補足** 同じ MimeType に、画像の更新（[インデックス画像]、[部分画像]、[プリント画像]、[トップネイル画像]、[サムネイル画像] のどれか）と、画像の登録（[インデックス画像の登録]、[プリント画像の登録] のどれか）の両方にチェックマークを付けた場合は、次のように動作します。
- デスクトップからサービスへの登録では、登録時にセカンダリコンテンツの実体ファイルが 1 つでも指定されている場合は、[ドキュメント情報更新] は実行されません。
 - 実体ファイルの指定がない場合は、[ドキュメント情報更新] が実行されます。
 - ローカルからサービスへの登録では、ローカルに保持している実体データをセカンダリコンテンツとして登録します。ドキュメント情報は更新されません。

5.2.5 [ビューア] タブ

[ビューア] タブでは、[実体画像表示] 画面と [インデックス画像表示] 画面について、設定できます。

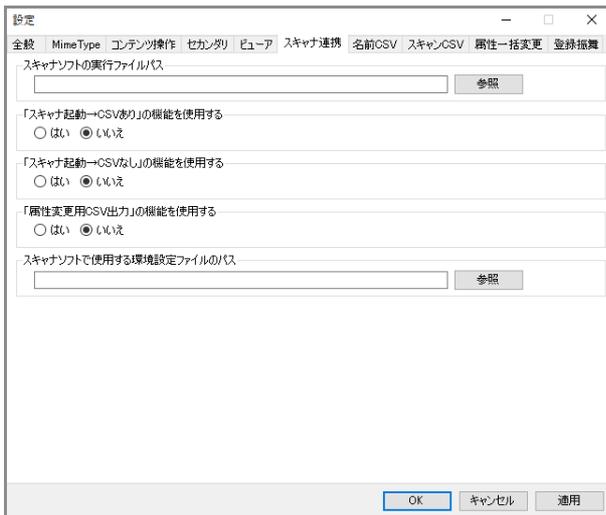


項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
共通設定			[実体画像表示] 画面と [インデックス画像表示] 画面を設定する項目です。
最前面表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ する ・ しない 	しない	最前面に表示するかどうかを選択します。
実体画像表示設定			[実体画像表示] 画面について設定する項目です。
初期表示モード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体表示 ・ 表題表示 	全体表示	初期表示を選択します。
表題表示設定			表題表示を設定する項目です。
初期表示拡大率	0.1~1.0	1.0	初期表示の拡大率を指定します。
初期表示位置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左上基準 ・ 右上基準 ・ 左下基準 ・ 右下基準 	左上基準	初期表示の位置を選択します。
基準位置からとばす幅	0~100の整数	0	基準位置からとばす幅を指定します。
基準位置からとばす高さ	0~100の整数	0	基準位置からとばす高さを指定します。

項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
インデックス画像表示設定			[インデックス画像表示] 画面を設定する項目です。
表示位置・拡大率の引き継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・表示位置・拡大率を引き継ぐ (左上基準) ・表示位置・拡大率を引き継ぐ (右上基準) ・全体表示に戻す ・表示位置・拡大率を引き継ぐ (左下基準) ・表示位置・拡大率を引き継ぐ (右下基準) 	表示位置・拡大率を引き継ぐ (左上基準)	表示位置、拡大率の引き継ぎモードを選択します。

5.2.6 【スキャナ連携】 タブ

【スキャナ連携】 タブでは、スキャナソフトの起動について設定できます。



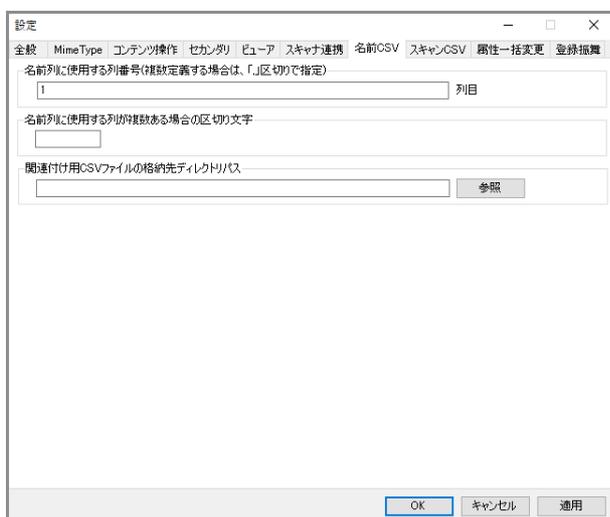
項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
スキャナソフトの実行ファイルパス	文字列		[参照] をクリックして、スキャナソフトの実行ファイルのパスを指定します。
「スキャナ起動→ CSV あり」の機能を使用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	操作メニューの [ツール] から [スキャナ] > [CSVあり] の機能を使用するかどうかを指定します。
「スキャナ起動→ CSV なし」の機能を使用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	操作メニューの [ツール] から [スキャナ] > [CSVなし] の機能を使用するかどうかを指定します。
「属性変更用 CSV 出力」の機能を使用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	操作メニューの [ツール] から [属性変更用 CSV出力] の機能を使用するかどうかを指定します。

項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
スキャナソフトで使用する環境設定ファイルのパス	文字列		<p>[参照] をクリックして、スキャナソフトの環境設定ファイルのパスを指定します。</p> <p>補足 「スキャナソフトの環境設定ファイル」とは、スキャナソフトを起動し、スキャナソフトの設定内容を保存したファイルのことです。</p> <p>参照 スキャナソフトの環境設定ファイルを保存する操作⇒スキャナソフトの操作説明書</p>

補足 日本語版 OS 以外を使用している場合は、[[属性変更用 CSV 出力] の機能を使用する] の項目だけが設定できます。

5.2.7 [名前 CSV] タブ

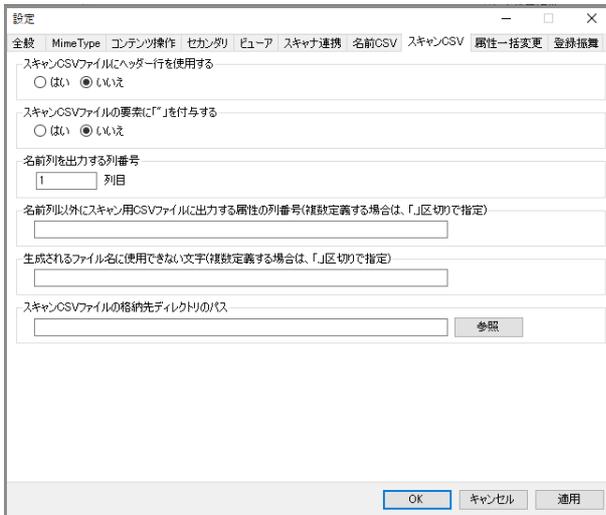
[名前 CSV] タブでは、属性変更用 CSV ファイルを出力すると生成される、名前 CSV ファイルと関連付け用 CSV ファイルについて設定できます。



項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
名前列に使用する列番号 (複数定義する場合は、「,」区切りで指定)	1以上の整数		[名前] の列に使用する列番号を指定します。複数設定する場合は、[名前列に使用する列が複数ある場合の区切り文字] で設定した文字で区切って、設定します。
名前列に使用する列が複数ある場合の区切り文字	文字列		[名前] の列に使用する列が複数ある場合の区切り文字を設定します。
関連付け用 CSV ファイルの格納先ディレクトリパス	文字列		<p>関連付け用 CSV ファイルの格納先を、初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして、関連付け用 CSV ファイルのパスを指定します。</p> <p>補足 初期状態では、「C:¥Users¥ {Windowsサインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Data¥Csv¥Relate」に格納されます。</p>

5.2.8 [スキャン CSV] タブ

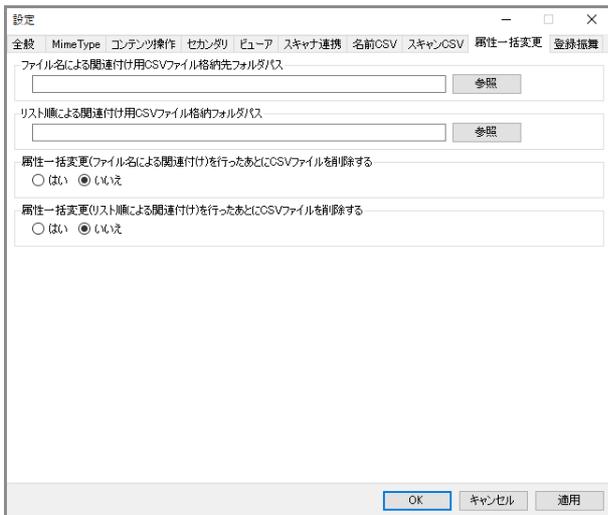
[スキャンCSV] タブでは、名前CSVファイルから生成されるスキャンCSVファイルについて設定できます。



項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
スキャン CSV ファイルにヘッダ一行を使用する	・ はい ・ いいえ	いいえ	CSVファイルにヘッダ一行を使用するかどうかを指定します。
スキャン CSV ファイルの要素に「\"	・ はい ・ いいえ	いいえ	CSVファイルの要素に「\"
名前列を出力する列番号	1以上の整数	1	[名前] の列に使用する列番号を指定します。
名前列以外にスキャン用 CSV ファイルに出力する属性の列番号 (複数定義する場合は、「,」区切りで指定)	1以上の整数		[名前] 列以外にスキャンCSVファイルに出力する属性の列番号を指定します。 補足 複数設定する場合は、「,」で区切って設定します。
生成されるファイル名に使用できない文字 (複数定義する場合は、「,」区切りで指定)	文字列		生成されるファイル名に使用できない文字を指定します。 補足 ・ 複数設定する場合は、「,」で区切って設定します。 ・ 「_」と「,」は指定できません。
スキャン CSV ファイルの格納先ディレクトリのパス	文字列		スキャンCSVファイルの格納先を初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして指定します。 補足 初期状態では、「C:¥Users¥{WindowsサインインユーザーID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Data¥Csv¥Scan」に格納されます。

5.2.9 [属性一括変更] タブ

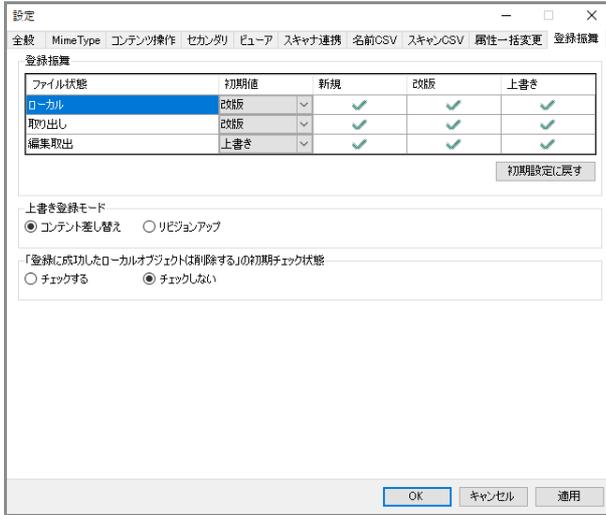
[属性一括変更] タブでは、属性一括変更について設定できます。



項目	入力範囲/選択項目	初期値	説明
ファイル名による関連付け用 CSV ファイル格納先フォルダパス	文字列		<p>ファイル名による関連付け用 CSV ファイルのパスを、初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして指定します。</p> <p>補足 初期状態では、「C:¥Users¥{WindowsサインインユーザーID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥Arc SuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Data¥Csv¥Relate」に格納されます。</p>
リスト順による関連付け用 CSV ファイル格納フォルダパス	文字列		<p>リスト順による関連付け用 CSV ファイルのパスを、初期状態から変更する場合は、[参照] をクリックして指定します。</p> <p>補足 初期状態では、「C:¥Users¥{WindowsサインインユーザーID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥Arc SuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Data¥Csv¥Relate」に格納されます。</p>
属性一括変更（ファイル名による関連付け）を行ったあとに CSV ファイルを削除する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	<p>ファイル名による関連付けで属性を一括変更したあとに、関連付け用 CSV ファイルを削除するかどうかを指定します。</p>
属性一括変更（リスト順による関連付け）を行ったあとに CSV ファイルを削除する	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ いいえ 	いいえ	<p>リスト順による関連付けで属性を一括変更したあとに、関連付け用 CSV ファイルを削除するかどうかを指定します。</p>

5.2.10 [登録振舞] タブ

[登録振舞] タブでは、[登録] ダイアログボックスの初期値などについて設定できます。



項目	選択項目	初期値	説明
ファイル状態	ローカル		ローカルに新規登録されたドキュメント、またはローカル内でコピーされたドキュメントを、サービスへ登録するときの動きについて設定します。
	初期値	・ 新規 ・ 改版 ・ 上書き	改版 [登録] ダイアログボックスでの初期値を選択します。
	新規	・ チェックマーク ・ — (チェックマークなし)	チェックマーク チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
	改版	・ チェックマーク ・ — (チェックマークなし)	チェックマーク チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
	上書き	・ チェックマーク ・ — (チェックマークなし)	チェックマーク チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
ファイル状態	取り出し		[編集取り出し] 以外の方法でサービスからローカルに登録されたドキュメントを、サービスへ登録するときの動きについて設定します。
	初期値	・ 新規 ・ 改版 ・ 上書き	改版 [登録] ダイアログボックスでの初期値を選択します。
	新規	・ チェックマーク ・ — (チェックマークなし)	チェックマーク チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
	改版	・ チェックマーク ・ — (チェックマークなし)	チェックマーク チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。

項目		選択項目	初期値	説明	
ファイル状態	取り出し	上書き	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 	チェックマーク	チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
	編集取出				[編集取り出し] でサービスからローカルに登録されたドキュメントを、サービスに登録するときの動きについて設定します。
		初期値	<ul style="list-style-type: none"> ・新規 ・改版 ・上書き 	上書き	[登録] ダイアログボックスでの初期値を選択します。
		新規	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 	チェックマーク	チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
		改版	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 	チェックマーク	チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
		上書き	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックマーク ・— (チェックマークなし) 	チェックマーク	チェックマークを外すと、[登録] ダイアログボックスで選択できなくなります。
初期設定に戻す					初期設定に戻ります。
上書き登録モード		<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ差し替え ・リビジョンアップ 	コンテンツ差し替え		ローカルからサービスに、ドキュメントを上書き登録するときの動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ差し替え ドキュメントのコンテンツを差し替えます。 ・リビジョンアップ ドキュメントを改訂します。
「登録に成功したローカルオブジェクトは削除する」の初期チェック状態		<ul style="list-style-type: none"> ・チェックする ・チェックしない 	チェックしない		[登録]ダイアログボックスの「登録に成功したローカルオブジェクトは削除する」の初期値を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・チェックする 登録に成功したらドキュメントをローカルから削除する動作を初期値として設定します。 ・チェックしない 登録に成功してもドキュメントをローカルから削除しない動作を初期値として設定します。

5.3 設定情報をエクスポートする

デスクトップクライアントの設定情報をエクスポートできます。すべての設定情報をエクスポートする方法と特定のサーバーの設定情報をエクスポートする方法があります。

5.3.1 すべての設定情報をエクスポートする

デスクトップクライアントのすべての設定情報をエクスポートできます。

1. 操作メニューの [ファイル] から [エクスポート/インポート] > [全設定エクスポート] を選択します。
[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。
2. 設定情報の保存先を指定します。
3. [OK] をクリックします。
指定した保存先に、すべての設定情報が保存されます。

補足 すべての設定情報が、サーバー単位でフォルダーに保存されます。フォルダー名は、{サーバー名} です。

5.3.2 特定のサーバーの設定情報をエクスポートする

特定のサーバーの設定情報をエクスポートできます。

1. [サービスツリー] で、設定情報をエクスポートするサーバーを選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [エクスポート/インポート] > [サーバー設定エクスポート] を選択します。
[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。
3. 設定情報の保存先を指定します。
4. [OK] をクリックします。
指定した保存先に、選択したサーバーの設定情報が保存されます。

補足 設定情報がフォルダーに保存されます。フォルダー名は、{サーバー名} です。

5.4 設定情報をインポートする

デスクトップクライアントの設定情報をインポートできます。すべての設定情報をインポートする方法と特定のサーバーの設定情報をインポートする方法があります。

5.4.1 すべての設定情報をインポートする

デスクトップクライアントのすべての設定情報をインポートできます。

1. 操作メニューの [ファイル] から [エクスポート/インポート] > [全設定インポート] を選択します。
[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。
2. インポートするファイルを指定します。
補足 エクスポートしたファイルを指定してください。
3. [OK] をクリックします。
確認メッセージが表示されます。
4. [OK] をクリックします。
すべての設定情報がインポートされます。

5.4.2 特定のサーバーの設定情報をインポートする

特定のサーバーの設定情報をインポートできます。

1. [サービスツリー] で、設定情報をインポートするサーバーを選択します。
2. 操作メニューの [ファイル] から [エクスポート/インポート] > [サーバー設定インポート] を選択します。
[サーバー設定インポート] ダイアログボックスが表示されます。
3. [参照] をクリックします。



[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。

4. インポートするファイルを指定します。
[サーバー設定インポート] ダイアログボックスに戻り、指定したファイルのパスが表示されます。
補足 エクスポートしたファイルを指定してください。
5. [OK] をクリックします。
確認メッセージが表示されます。
6. [OK] をクリックします。
選択したサーバーに設定情報がインポートされます。

5.5 共有設定の操作をする

配布された共有設定を適用することで、複数のクライアントPCにインストールされているデスクトップクライアントを、同じ設定で使用できます。

共有設定に関する操作について説明します。

補足 共有設定ファイルを配布できるのは、Active Directory を使用している場合だけです。

5.5.1 共有設定を適用する

共有設定ファイルが配布された場合に、共有設定を適用します。

1. 操作メニューの [ファイル] から [共有設定] > [共有設定を適用] を選択します。

[共有設定適用確認] 画面が表示されます。

補足 適用していない共有設定がある場合は、デスクトップクライアントを起動したときにも [共有設定適用確認] 画面が表示されます。

参照 [共有設定適用確認] 画面 ⇨ 第1部 [「2.1 デスクトップクライアントを起動する」\(P.28\)](#)

2. [適用する] ラジオボタンを選択し、適用する設定のチェックボックスにチェックマークを付けます。

補足 操作メニューの [ファイル] から [共有設定適用確認] 画面を表示した場合、次の項目は選択できません。

- ・現在のバージョンの共有設定適用を90日間確認しない
- ・現在のバージョンの共有設定適用をスキップする

3. [実行] をクリックします。

選択した共有設定が適用され、[共有設定適用確認] 画面が閉じます。

補足 [キャンセル] をクリックすると、共有設定が適用されずに [共有設定適用確認] 画面が閉じます。

5.5.2 適用した共有設定を削除する

デスクトップクライアントにすでに適用した共有設定を削除します。

補足 適用した共有設定を削除した場合、配布された共有設定ファイルも削除されます。

1. 操作メニューの [ファイル] から [共有設定] > [共有設定をクリア] を選択します。
共有設定が削除されます。また、次のフォルダーにある共有設定ファイル「AseClientShare.conf」が削除されます。
[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥ShareConf] フォルダー

5.5.3 共有設定ファイルを作成する

複数のクライアントPCに配布するための、共有設定ファイルを作成します。共有設定ファイルを作成するには、デスクトップクライアントを共有設定作成モードで起動します。

補足 共有設定作成モードへの切り替えの操作ができるのは、Administrator 権限を持つユーザーで、デスクトップクライアントを「管理者として実行」で起動した場合だけです。

参照 共有設定ファイルの作成 ⇨ 『デスクトップクライアントセットアップガイド』



6 入力補助機能を使用する

この章では、入力補助機能を使用して属性値を入力する操作について説明します。

6.1 入力補助機能について

属性値を入力するときに、入力補助機能を使用できます。
入力補助機能を使用するには、設定ファイルを作成する必要があります。

入力補助機能には、次の機能があります。

■ ヒントメニュー

メニューから選択することで、簡単に属性値を入力できる機能です。
セル形式のリスト表示エリアや、[プロパティ] ダイアログボックスの [属性] タブなどで属性値を入力する場合に、あらかじめ定義した属性値の項目のリスト (ヒントメニュー) を右クリックで表示し、リストから選択することで属性値を入力します。

ヒントメニューは、次の画面で使用できます。

- ・セル形式のリスト表示エリア
- ・ [プロパティ] ダイアログボックスの [属性] タブ
- ・ [検索画面] ダイアログボックス
- ・ [属性設定] ダイアログボックス
- ・ [版管理開始] ダイアログボックス

■ 属性値変換

サーバーに登録される属性値とは別の文字列で、属性値を入力したり表示したりできる機能です。
たとえば、属性値が複雑な値のときに、略称のような表示用の文字列 (表示名) をあらかじめ定義しておく
と、その文字列で入力および表示ができます。

補足 入力補助機能を使用するには、次の設定ファイルを作成する必要があります。

- ・ 入力補助機能設定ファイル
- ・ ヒントメニュー定義ファイル (ヒントメニューを使用する場合)
- ・ 属性値変換定義ファイル (属性値変換を使用する場合)

参照 入力補助機能の設定 ⇨ [「付録 E 入力補助機能の設定」 \(P.268\)](#)

6.2 ヒントメニューを使用する

ヒントメニューを選択して、属性値を入力できます。
ここでは、セル形式のリスト表示エリアを例に説明します。

1. セル形式のリスト表示エリアで、属性値を入力するオブジェクトの行を選択します。

2. 属性値を入力するセルを右クリックします。
ヒントメニューが表示されます。

3. ヒントメニューを選択します。
選択したヒントメニューに対応する属性値が入力されます。

4. 属性値を確定させる行を選択します。

補足 複数の行を選択できます。

5. ショートカットメニューの「属性反映」を選択します。
属性値が登録されます。

補足 属性値が属性値変換でも使用されている場合は、属性値変換で定義された表示名で表示されます。

参照 属性値変換の設定 ⇒ [\[付録 E 入力補助機能の設定\] \(P.268\)](#)

6.3 属性値変換を使用する

属性値の表示用の文字列（表示名）を属性値入力欄に入力できます。
ここでは、セル形式のリスト表示エリアを例に説明します。

1. セル形式のリスト表示エリアで、属性値を入力するセルをダブルクリックします。
属性値のセルが入力できる状態になります。
2. 属性値を表示名で入力し、<Enter> キーを押します。
3. 属性値を確定させる行を選択します。
補足 複数の行を選択できます。
4. ショートカットメニューの [属性反映] を選択します。
表示名に対応する属性値が登録され、属性値入力欄には、入力した表示名が表示されます。
参照 ヒントメニューの設定 ⇨ [\[付録 E 入力補助機能の設定\] \(P.268\)](#)

7 ログを管理する

この章では、ログを管理する操作について説明します。

7.1 ログを収集する

次のログを一括で収集できます。

項目	説明
システムログ	指定された期間内のログが収集され、CSV形式で出力されます。
操作ログ	
トレースログ	
イベントログ	クライアントPCの、システムイベントログとアプリケーションイベントログが収集され、CSV形式で出力されます。
ホスト情報	システム情報の「システムの概要」と「インターネットの設定」の情報が収集され、テキストファイルで出力されます。
ローカル管理ファイル	ローカル管理しているすべてのフォルダーの、フォルダー階層およびローカル管理ファイルが出力されます。ローカル管理フォルダー内のファイルは出力されません。

収集されたログの出力先フォルダー名は、「desktopClient_ {実行年月日}」です。たとえば、2021年1月1日に出力した場合の出力先フォルダー名は、「desktopClient_20210101」です。

1. 操作メニューの [ツール] から [ログ一括収集] を選択します。

[ログ一括収集] ダイアログボックスが表示されます。



2. [取得する情報] で、取得するログを選択します。

3. [取得開始日] で、取得するログの開始日を選択します。

4. [取得終了日] で、取得するログの終了日を選択します。

5. 保存先を変更する場合は、[参照] をクリックして、ログの保存先を変更します。

6. [OK] をクリックします。

ログが収集され、設定した保存先に出力されます。



付録

付録 A 操作メニュー

操作メニューの内容について説明します。ツリー表示エリア（サービス、ローカル）、ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果）、またはリスト表示エリアで選択しているオブジェクトによって、操作できるサブメニューが異なります。

メニュー	サブメニュー	説明	
ファイル	新規タブで開く	リスト表示エリアのオブジェクト（ドキュメント以外）内に登録されているオブジェクトを、新規タブに表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.1 ドキュメントを表示する」(P.85)	
	格納先を開く	[チェックアウト一覧] または検索結果リストのドキュメントが格納されている、ドロワーまたはフォルダーを [サービスリスト] に表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.9 ドキュメントの格納先を開く」(P.111)	
	閲覧	ドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションで、選択したドキュメントを表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.1 ドキュメントを表示する」(P.85)	
	ビュー	ドキュメントのファイル形式に応じたアプリケーションで、選択したドキュメントを表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.1 ドキュメントを表示する」(P.85)	
	ブラウザーで開く	オブジェクト表示	ドキュメントスペースで、オブジェクトを表示できます。ドキュメントの場合は、[基本情報表示] 画面が表示されます。 参照 ⇒第2部 「2.1 ドキュメントを表示する」(P.85)
		コンテンツ表示	ドキュメントスペースで、ドキュメントのコンテンツを表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.5.2 ドキュメントのコンテンツを表示する」(P.106)
		インデックス画像表示	ドキュメントスペースで、フォルダーまたはドキュメントのインデックス画像を表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.5.3 ドキュメントのインデックス画像を表示する」(P.107)
	実体画像表示	ドキュメントの実体画像を [実体画像表示] 画面に表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.2.1 ドキュメントの実体画像を表示する」(P.87)	
	インデックス画像表示	ドキュメントの実体画像を [インデックス画像表示] 画面に表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.2.2 ドキュメントのインデックス画像を表示する」(P.89)	
	ダウンロード (↓)	フォルダーまたはドキュメントをダウンロードできます。 参照 ⇒第2部 「3.1 オブジェクトをダウンロードする」(P.114)	

メニュー	サブメニュー	説明	
ファイル	印刷 (🖨)	フォルダーまたはドキュメントがArcEPSプリントサービスで印刷されます。 参照 ⇒第3部 「4 ArcEPSを使用して印刷する」 (P.191)	
	検索 (🔍)	属性に検索条件を指定して、オブジェクトを検索できます。コンテンツ内の文字列から検索する全文検索もできます。 参照 ⇒第2部 「2.3 オブジェクトを検索する」 (P.90)	
	存在確認検索	指定した属性のオブジェクトがサービス内に1つだけ存在するかどうかを確認できます。 参照 ⇒第2部 「2.4 オブジェクトがサービス内に存在するかを確認する」 (P.99)	
	送る	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)	
	新規作成	ドキュメント (📄)	ドロワーまたはフォルダー内にドキュメントを登録できます。 参照 ⇒第2部 「3.3 ドキュメントを登録する」 (P.117) 、 第3部 「1.3 ローカルにドキュメントを作成する」 (P.169)
		フォルダ (📁)	ドロワーまたはフォルダー内にフォルダーを作成できます。 参照 ⇒第2部 「3.2 サービスにフォルダーを作成する」 (P.116) 、 第3部 「1.2 ローカルにフォルダーを作成する」 (P.168)
	リファレンス	リファレンス作成	オブジェクトのリファレンスを作成できます。 参照 ⇒第2部 「3.4 オブジェクトのリファレンスを作成する」 (P.121)
		リファレンス実体化	リファレンスの参照関係を解除して、リファレンスを参照先オブジェクトのコピーに置き換えることができます。 参照 ⇒第2部 「3.5 リファレンスを実体化する」 (P.123)
		リファレンス属性更新	リファレンスの属性が更新されます。 参照 ⇒第2部 「4.3 リファレンスの属性を更新する」 (P.149)
		参照先を新規タブで開く	リファレンスの参照先オブジェクトが格納されているキャビネット、ドロワー、またはフォルダーを表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.10 リファレンスの参照先を開く」 (P.112)
名前の変更	フォルダーまたはドキュメントの名前を変更できます。 参照 ⇒第2部 「3.6 オブジェクトの名前を変更する」 (P.124)		
削除 (✖)	フォルダーまたはドキュメントを削除できます。ごみ箱が設定されている場合、削除されたオブジェクトは、ごみ箱に保存されます。 参照 ⇒第2部 「3.8 オブジェクトを削除する」 (P.127)		

メニュー	サブメニュー		説明
ファイル	ごみ箱	削除	ごみ箱内のオブジェクトが完全に削除されます。
		復元	ごみ箱内のオブジェクトが以前に登録されていた場所に戻ります。
		ごみ箱を空にする	ごみ箱内のすべてのオブジェクトが削除されます。 参照 ⇒第2部 「3.9 ごみ箱を操作する」 (P.128)
	プロパティ (📄)		オブジェクトの属性、クラス、アクセス権、履歴を表示できません。フォルダーは、属性、クラス、アクセス権を変更できます。ドキュメントは、属性、クラス、アクセス権、履歴を変更できません。 参照 ・属性を変更する操作⇒第2部 「4.1 プロパティで属性を表示、変更する」 (P.141) ・クラスを変更する操作⇒第2部 「3.13 クラスを変更する」 (P.136) ・アクセス権を変更する操作⇒第2部 「4.4 アクセス権設定を管理する」 (P.150) ・履歴を変更する操作⇒第2部 「5.5 ドキュメントの履歴を管理する」 (P.164)
	エクスポート/インポート	全設定エクスポート	デスクトップクライアントのすべての設定情報をエクスポートできます。 参照 ⇒第3部 「5.3.1 すべての設定情報をエクスポートする」 (P.220)
全設定インポート		デスクトップクライアントのすべての設定情報をインポートできます。 参照 ⇒第3部 「5.4.1 すべての設定情報をインポートする」 (P.221)	
サーバー設定エクスポート		特定のサーバーの設定情報をエクスポートできます。 参照 ⇒第3部 「5.3.2 特定のサーバーの設定情報をエクスポートする」 (P.220)	
サーバー設定インポート		特定のサーバーの設定情報をインポートできます。 参照 ⇒第3部 「5.4.2 特定のサーバーの設定情報をインポートする」 (P.221)	

メニュー	サブメニュー		説明
ファイル	共有設定	共有設定を適用	[共有設定適用確認] 画面が表示され、共有設定を適用するかどうかを指定できます。また、適用する場合にどの設定を適用するかを指定できます。 参照 ⇒第1部 [2 起動と終了] (P.27)
		共有設定をクリア	適用した共有設定（表示設定、お気に入り設定、検索設定）を削除し、共有設定ファイルを削除します。 補足 次のフォルダーにある共有設定ファイル「AseClientShare.conf」が削除されます。 「C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥ Local¥FUJIFILM¥ArcSuiteDesktopClient¥ 2.5.0.0¥ShareConf」フォルダー
		共有設定作成モード	共有設定を作成できるモードに切り替えます。 補足 Administrator権限を持つユーザーで、デスクトップクライアントを「管理者として実行」で起動した場合に表示されません。 参照 共有設定ファイルの作成⇒『デスクトップクライアントセットアップガイド』
	アプリケーション設定		デスクトップクライアントの設定を変更できます。 参照 ⇒第3部 [5.1 アプリケーション設定を変更する] (P.201)、 [5.2 「設定」ダイアログボックスの詳細] (P.202)
	メニュー設定		操作メニュー（[ファイル]、[編集]、[表示]）から選択できる項目を表示、または非表示に設定できます。 参照 ⇒第1部 [3.2 メニューの表示項目を設定する] (P.43)
	閉じる		デスクトップクライアントを終了できます。 参照 ⇒第1部 [2.2 デスクトップクライアントを終了する] (P.30)
編集	切り取り		移動するために、フォルダーまたはドキュメントの情報を、クリップボードに保存できます。フォルダーを選択した場合は、フォルダー内のすべてのオブジェクトの情報が、クリップボードに保存されます。 参照 ⇒第2部 [3.10 オブジェクトを移動する] (P.130)
	コピー		コピーするために、フォルダーまたはドキュメントの情報を、クリップボードに保存できます。フォルダーを選択した場合は、フォルダー内のすべてのオブジェクトの情報が、クリップボードに保存されます。 参照 ⇒第2部 [3.11 オブジェクトをコピーする] (P.132)
	貼り付け		[コピー] または [切り取り] を選択したあとに表示されます。クリップボードに保存されたオブジェクト情報を、選択したドローまたはフォルダー内に登録できます。 参照 ⇒第2部 [3.10 オブジェクトを移動する] (P.130)、 [3.11 オブジェクトをコピーする] (P.132)

メニュー	サブメニュー	説明	
編集	リファレンスの貼り付け	リファレンスを作成できます。 参照 ⇒第2部 [3.4 オブジェクトのリファレンスを作成する] (P.121)	
	指定先へ移動	指定先へ移動	フォルダーまたはドキュメントの情報を、選択した移動先に移動できます。 参照 ⇒第2部 [3.10 オブジェクトを移動する] (P.130)
		指定先へコピー	フォルダーまたはドキュメントの情報を、選択した移動先にコピーできます。 参照 ⇒第2部 [3.11 オブジェクトをコピーする] (P.132)
	直接編集 (📄)	サーバーにあるドキュメントを、ファイル形式に応じたアプリケーションを起動して、コンテンツを編集できます。編集中は、ドキュメントは自動的にチェックアウトされます。編集後アプリケーションを終了すると、リビジョンアップ、コンテンツ差し替え、または一時保存を選択できます。 参照 ⇒第2部 [5.1 ドキュメントを直接編集する] (P.156)	
	コンテンツ差し替え (↔)	ドキュメントのコンテンツを差し替えることができます。 参照 ⇒第2部 [5.3 ドキュメントのコンテンツを差し替える] (P.161)	
	チェックイン	ドキュメントをチェックインできます。チェックインすると、改訂 (リビジョンアップ) されます。 参照 ⇒第2部 [5.2.3 メニューでドキュメントを改訂する] (P.159)	
	チェックアウト	ドキュメントをチェックアウトできます。 参照 ⇒第2部 [5.2.1 チェックアウトする] (P.158)	
	チェックアウト取り消し	チェックアウトを取り消すことができます。 参照 ⇒第2部 [5.2.2 チェックアウトを取り消す] (P.158)	
	ロック	フォルダーまたはドキュメントをロックできます。 参照 ⇒第2部 [3.7.1 オブジェクトをロックする] (P.125)	
	アンロック	フォルダーまたはドキュメントのロックを解除できます。 参照 ⇒第2部 [3.7.2 オブジェクトのロックを解除する] (P.126)	
アクセス権変更	フォルダーまたはドキュメントのアクセス権を変更できます。 参照 ⇒第2部 [4.4.1 フォルダー、ドキュメントのアクセス権を設定する] (P.150)		

メニュー	サブメニュー	説明	
編集	デフォルトアクセス権変更	フォルダーのデフォルトアクセス権を変更できます。 参照 ⇒ 第2部 「4.4.2 フォルダーのデフォルトアクセス権を設定する」 (P.152)	
	クラス変更	フォルダーまたはドキュメントの、クラスを変更できます。 参照 ⇒ 第2部 「3.13 クラスを変更する」 (P.136)	
	スタンプ	ドキュメントのプライマリコンテンツに、スタンプを設定できます。 参照 ⇒ 第2部 「3.14 スタンプを設定する」 (P.138)	
	状態変更	フォルダーまたはドキュメントの、状態を変更できます。変更できる状態は設定によって異なります。 参照 ⇒ 第2部 「3.12 オブジェクトの状態を変更する」 (P.134)	
	版管理	版管理開始	版管理を開始できます。 参照 ⇒ 第3部 「2.1 版管理を開始する」 (P.184)
		版管理取り消し	版管理されているオブジェクトの、版管理属性の値を削除することによって、版管理を取り消すことができます。 参照 ⇒ 第3部 「2.3 版管理を取り消す」 (P.186)
		改版	オブジェクトを改版できます。改版すると、版番号が1つ上がります。 参照 ⇒ 第3部 「2.2 改版する」 (P.185)
	ドキュメント情報更新		ドキュメント情報を更新できます。 参照 ⇒ 第2部 「5.4 ドキュメント情報を更新する」 (P.163)
	公開 URL	基本情報表示 URL をコピー	[サービスリスト] で選択しているオブジェクトの、基本情報の公開URLを、クリップボードにコピーできます。
		リモート編集 URL のコピー	[サービスリスト] で選択しているドキュメントを、リモートで編集するための公開URLを、クリップボードにコピーできます。 参照 ⇒ 第2部 「2.7 公開URLを使用する」 (P.109)
すべて選択 (✓)		リスト内のすべてのオブジェクトを選択できます。 参照 ⇒ 第1部 「3.1.4 リスト表示エリア」 (P.39)	
選択解除 (✗)		リスト内のすべてのオブジェクトの選択を解除できます。 参照 ⇒ 第1部 「3.1.4 リスト表示エリア」 (P.39)	
選択の切り替え		リスト内のすべてのオブジェクトの、選択と解除を切り替えることができます。 参照 ⇒ 第1部 「3.1.4 リスト表示エリア」 (P.39)	

メニュー	サブメニュー	説明	
表示	ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えることができます。	
	ツリー ビュー	サービスツリー	[サービスツリー] の表示、非表示を切り替えることができます。
		ローカルツリー	[ローカルツリー] の表示、非表示を切り替えることができます。
		お気に入り ツリー	[お気に入りツリー] の表示、非表示を切り替えることができます。
		検索結果ツリー	[検索結果ツリー] の表示、非表示を切り替えることができます。
		履歴ツリー	[参照履歴] の表示、非表示を切り替えることができます。
		参照 ⇒第1部 [3.1.1 ツリー表示エリア (サービス、ローカル)] (P.34) 、 [3.1.2 ツリー表示エリア (お気に入り、検索結果)] (P.36) 、 [3.1.5 ステータスバー] (P.42)	
	表示設定	リスト表示エリアの属性項目の表示を設定できます。 参照 ⇒第1部 [3.3 属性項目の表示を設定する] (P.44)	
	表示形式 ()	詳細	リスト表示エリアに、オブジェクトの属性をリスト形式で表示できます。
		アイコン	リスト表示エリアに、オブジェクトの大きいアイコンと名前を表示できます。
		一覧	リスト表示エリアに、オブジェクトの小さいアイコンと名前を表示できます。
		セル	リスト表示エリアに、オブジェクトの属性をセル形式で表示できます。
	参照 ⇒第1部 [3.4 表示形式を切り替える] (P.46)		
移動	戻る ()	1つ前に表示していた一覧を表示できます。履歴に1つ前の情報がある場合に表示されます。	
	進む ()	1つ先に表示していた一覧を表示できます。履歴に1つ先の情報がある場合に表示されます。	
	上へ ()	現在のオブジェクトの、1つ上の階層の一覧を表示できます。	
	参照 ⇒第1部 [3.1.4 リスト表示エリア] (P.39)		
最新の情報に更新 ()	デスクトップクライアントの表示を、最新の情報に更新できません。 参照 ⇒第1部 [3.7 表示を最新に更新する] (P.63)		
標準レイアウトに戻す	メイン画面のレイアウトを、標準レイアウトに戻すことができます。 参照 ⇒第1部 [3.5 メイン画面のレイアウトを変更する] (P.47)		
マージ対象のみ表示	[ローカルリスト] に、マージ対象のドキュメントだけ表示できます。 参照 ⇒第3部 [1.8 属性をマージする] (P.181)		

メニュー	サブメニュー	説明	
お気に入り	お気に入りに追加	[サービスツリー] および [サービスリスト] で選択しているオブジェクトを、お気に入りに追加できます。 参照 ⇒第1部 「3.8.1 お気に入りを追加する」 (P.64)	
	お気に入りの整理	お気に入りに追加されたオブジェクトの削除、表示順の変更、および名前の変更ができます。 参照 ⇒第1部 「3.8.2 お気に入りを整理する」 (P.65)	
ツール	URL を指定して表示	ドキュメントスペースの公開URLから、対応するオブジェクトを [サービスツリー] と [サービスリスト] に表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.7.2 公開URLからオブジェクトを表示する」 (P.109)	
	CSV 出力	リスト表示エリアで選択したオブジェクトの属性を、CSVファイルに出力できます。 参照 ⇒第2部 「4.5 属性をCSVファイルに出力する」 (P.154)	
	属性変更用 CSV 出力	一括属性変更で使用する属性変更用CSVファイルを出力できません。 参照 ⇒第3部 「1.7.1 属性変更用CSVファイルを出力する」 (P.178)	
	一括出図用 CSV 出力	ArcEPSプリントサービスなどで一括出力するための、一括出図用CSVファイルを出力できます。 参照 ⇒第2部 「3.15 一括出図用CSVファイルを出力する」 (P.139)	
	スキャナソフト起動	CSV ファイルあり	CSVファイルに入力されたファイル名を読み込んで、スキャナソフトを起動できます。
		CSV ファイルなし	CSVファイルを読み込まずに、スキャナソフトを起動できます。
			参照 ⇒第3部 「3.2 スキャナソフトを起動する」 (P.189)
	属性一括変更	ファイル名による割当	CSVファイルを使って、[ローカルリスト] の複数のオブジェクトの属性を、一括で変更できます。ファイル名で関連付けられます。
リスト順による割当		CSVファイルを使って、[ローカルリスト] の複数のオブジェクトの属性を、一括で変更できます。リスト順で関連付けられます。	
		参照 ⇒第2部 「1.7.2 属性変更用CSVファイルに属性値を入力する」 (P.178)	
格納先の表示		検索結果一覧やチェックアウト一覧に表示される、オブジェクトの格納先を表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.8 オブジェクトの格納先のパスを表示する」 (P.110)	

メニュー	サブメニュー	説明
ツール	ログ一括収集	ログを収集できます。 参照 ⇒第3部 「7.1 ログを収集する」(P.229)
ヘルプ	ヘルプ	デスクトップクライアントのヘルプを表示できます。
	バージョン情報	デスクトップクライアントのバージョン情報を表示できます。

付録 B ショートカットメニュー

ツリー表示エリア（サービス、ローカル）、ツリー表示エリア（お気に入り、検索結果、参照履歴）、およびリスト表示エリアで、階層やオブジェクトを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。

付録 B.1 [サービスツリー] の階層のショートカットメニュー

[サービスツリー] で、オブジェクト以外の階層のショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

階層	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
 (サービスルート)	サーバーの追加	デスクトップクライアントからアクセスするサーバーを追加できます。 参照 ⇨第2部 「1.1 サーバーを管理する」 (P.79)
 (接続サーバー)	ログアウト	デスクトップクライアントからアクセスしているサーバーからログアウトできます。 参照 ⇨第2部 「1.3 サーバーからログアウトする」 (P.83)
	プロパティ	ログインするユーザーの、ユーザー IDとパスワードを変更できます。 参照 ⇨第2部 「1.1.2 サーバーの設定を変更する」 (P.80)
	サーバーの削除	デスクトップクライアントからアクセスするサーバーを削除できます。 参照 ⇨第2部 「1.1.3 サーバーの接続を解除する」 (P.80)
 (ドキュメント管理サービス)	開く ・新規タブで開く	ファイル>新規タブで開く
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	プロパティ	ファイル>プロパティ
 (チェックアウト一覧)	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
 (ごみ箱)	ごみ箱を空にする	ファイル>ごみ箱>ごみ箱を空にする
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新

付録 B.2 サービスのオブジェクトのショートカットメニュー

[サービスツリー]、[サービスリスト]、[チェックアウト一覧]、およびごみ箱リストで、オブジェクトを選択したときに表示されるショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

補足 表の*は、次のオブジェクト選択時の制限を表しています。

- * 1: [サービスツリー] では操作できないメニュー
- * 2: リファレンスを選択したときに操作できないメニュー
- * 3: リファレンスを選択したときに操作できるメニュー
- * 4: セル形式のときは操作できないメニュー
- * 5: セル形式だけで操作できるメニュー
- * 6: チェックアウトを実行したユーザーだけが操作できるメニュー
- * 7: ごみ箱リストだけで操作できるメニュー

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
キャビネット	開く <ul style="list-style-type: none"> ・新規タブで開く ・ブラウザーで開く (オブジェクト表示) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル>新規タブで開く ・ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示
	検索	ファイル>検索
	送る <ul style="list-style-type: none"> ・ {ユーザー定義操作} 	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	編集 <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報表示 URL をコピー 	<ul style="list-style-type: none"> ・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式*1 <ul style="list-style-type: none"> ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル 	<ul style="list-style-type: none"> ・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	セル表示の固定*5 <ul style="list-style-type: none"> ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除 	セル、列、または行を固定してスクロールできません。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加*2	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドロワー	開く ・新規タブで開く ・ブラウザーで開く（オブジェクト表示）	・ファイル>新規タブで開く ・ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	新規作成 ・ドキュメント ・フォルダ	・ファイル>新規作成>ドキュメント ・ファイル>新規作成>フォルダ
ドロワー	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	貼り付け	編集>貼り付け
	リファレンスの貼り付け	編集>リファレンスの貼り付け
	編集 ・基本情報表示 URL をコピー	・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式*1 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	表示設定を保存	リスト表示エリアの表示設定を変更した場合、変更後の表示設定を保存できます。
	セル表示の固定*5 ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできません。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加*2	お気に入り>お気に入りに追加
プロパティ	ファイル>プロパティ	
フォルダー	開く ・新規タブで開く ・ブラウザーで開く（オブジェクト表示） ・ブラウザーで開く（インデックス画像表示）	・ファイル>新規タブで開く ・ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示 ・ファイル>ブラウザーで開く>インデックス画像表示
	ダウンロード	ファイル>ダウンロード
	印刷*1	ファイル>印刷
	検索	ファイル>検索

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	新規作成 ・ ドキュメント ・ フォルダ	・ ファイル>新規作成>ドキュメント ・ ファイル>新規作成>フォルダ
	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	リファレンス実体化*3	ファイル>リファレンス>リファレンス実体化
	リファレンス属性更新*3	ファイル>リファレンス>リファレンス属性更新
	名前の変更	ファイル>名前の変更
	削除	ファイル>削除
	切り取り	編集>切り取り
	コピー*5	編集>コピー
	貼り付け*4	編集>貼り付け
	リファレンスの貼り付け	編集>リファレンスの貼り付け
	クリップボードから貼り付け*5	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇒第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」 (P.147)
	複製*5	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇒第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」 (P.132)
	同様*5	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇒第2部 「4.2.3 同様機能を使用する」 (P.148)
	属性反映*5	セルに入力した属性値を確定させます。 参照 ⇒第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
ロック*1	編集>ロック	
アンロック*1	編集>アンロック	
編集取り出し	編集するために、サービスのドキュメントをローカルに取り出すことができます。 補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は選択できません。 参照 ⇒第3部 「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」 (P.174)	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	編集 <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス権変更 ・デフォルトアクセス権変更 ・クラス変更 ・状態変更 ・版管理開始 ・版管理取り消し ・改版 ・基本情報表示 URL をコピー 	<ul style="list-style-type: none"> ・編集>アクセス権変更 ・編集>デフォルトアクセス権変更 ・編集>クラス変更 ・編集>状態変更 ・編集>版管理>版管理開始 ・編集>版管理>版管理取り消し ・編集>版管理>改版 ・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式* ¹ <ul style="list-style-type: none"> ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル 	<ul style="list-style-type: none"> ・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	表示設定の保存	リスト表示エリアの表示設定を変更した場合、変更後の表示設定を保存できます。
	セル表示の固定* ¹ <ul style="list-style-type: none"> ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除 	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」(P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加* ²	お気に入りに>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
	復元* ⁷	ファイル>ごみ箱>復元
	削除* ⁷	ファイル>ごみ箱>削除
ドキュメント	開く <ul style="list-style-type: none"> ・格納先を開く ・閲覧 ・ビュー ・ブラウザで開く (オブジェクト表示) ・ブラウザで開く (コンテンツ表示) ・ブラウザで開く (インデックス画像表示) ・実体画像表示 ・インデックス画像表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル>格納先を開く ・ファイル>閲覧 ・ファイル>ビュー ・ファイル>ブラウザで開く>オブジェクト表示 ・ファイル>ブラウザで開く>コンテンツ表示 ・ファイル>ブラウザで開く>インデックス画像表示 ・ファイル>実体画像表示 ・ファイル>インデックス画像表示
	ダウンロード	ファイル>ダウンロード
	印刷	ファイル>印刷
	送る <ul style="list-style-type: none"> ・ {ユーザー定義操作} 	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」(P.108)

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	リファレンス実体化*3	ファイル>リファレンス>リファレンス実体化
	リファレンス属性更新*3	ファイル>リファレンス>リファレンス属性更新
	参照先を新規タブで開く*3	ファイル>リファレンス>参照先を新規タブで開く
	名前の変更	ファイル>名前の変更
	削除	ファイル>削除
	切り取り	編集>切り取り
	コピー	編集>コピー
	クリップボードから貼り付け*5	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇒第2部 [4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける] (P.147)
	複製*5	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇒第2部 [3.11 オブジェクトをコピーする] (P.132)
	同様*5	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇒第2部 [4.2.3 同様機能を使用する] (P.148)
	属性反映*5	セルに入力した属性値を確定させます。 参照 ⇒第2部 [4.2 セル形式で属性値を直接入力する] (P.145)
	直接編集	編集>直接編集
	コンテンツ差し替え	編集>コンテンツ差し替え
	チェックイン	編集>チェックイン
	チェックアウト	編集>チェックアウト
	チェックアウト取り消し*6	編集>チェックアウト取り消し
	ロック	編集>ロック
アンロック	編集>アンロック	
編集取り出し	編集するために、サービスのドキュメントを、ローカルに取り出すことができます。 補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は選択できません。 参照 ⇒第3部 [1.5 サービスからローカルに取り出して編集する] (P.174)	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	編集 <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス権変更 ・デフォルトアクセス権変更 ・クラス変更 ・スタンプ ・状態変更 ・版管理開始 ・版管理取り消し ・改版 ・ドキュメント情報更新 ・基本情報表示 URL をコピー ・リモート編集 URL をコピー 	<ul style="list-style-type: none"> ・編集>アクセス権変更 ・編集>デフォルトアクセス権変更 ・編集>クラス変更 ・編集>スタンプ ・編集>状態変更 ・編集>版管理>版管理開始 ・編集>版管理>版管理取り消し ・編集>版管理>改版 ・編集>ドキュメント情報更新 ・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー ・編集>公開 URL >リモート編集 URL をコピー
	表示形式 <ul style="list-style-type: none"> ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル 	<ul style="list-style-type: none"> ・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	表示設定の保存	リスト表示エリアの表示設定を変更した場合、変更後の表示設定を保存できます。
	セル表示の固定* ⁵ <ul style="list-style-type: none"> ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除 	セル、列、または行を固定してスクロールできません。 参照 ⇒第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」(P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入り追加* ²	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
	ごみ箱* ⁷ <ul style="list-style-type: none"> ・削除 ・復元 ・ごみ箱を空にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル>ごみ箱>削除 ・ファイル>ごみ箱>復元 ・ファイル>ごみ箱>ごみ箱を空にする
	削除* ⁷	ファイル>ごみ箱>削除

付録 B.3 [ローカルツリー] の階層のショートカットメニュー

[ローカルツリー] で、オブジェクト以外の階層のショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

補足 初期設定では、ローカルにごみ箱が設定されていません。

参照 ローカルにごみ箱を設定する操作 ⇒ 第 3 部 [\[5.1 アプリケーション設定を変更する\]](#) (P.201)、[\[5.2.1 \[全般\] タブ\]](#) (P.202)

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
 (ローカルルート)	フォルダをマップに追加	デスクトップクライアントからアクセスするローカルフォルダーを追加できます。 参照 ⇒ 第3部 [1.1.1 ローカルルートフォルダーを設定する] (P.166)
 (ローカルルートフォルダー)	フォルダをマッピングから削除	デスクトップクライアントからアクセスするローカルフォルダーの設定を、解除できます。 参照 ⇒ 第3部 [1.1.2 ローカルルートフォルダーの設定を解除する] (P.167)
 (ごみ箱)	ごみ箱を空にする	ファイル > ごみ箱 > ごみ箱を空にする

付録 B.4 ローカルのオブジェクトのショートカットメニュー

[ローカルツリー]、[ローカルリスト]、およびごみ箱リストで、オブジェクトを選択したときに表示されるショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

補足 表の*は、次のオブジェクト選択時の制限を表しています。

- * 1：[ローカルリスト] では操作できないメニュー
- * 2：[ローカルツリー] だけで操作できるメニュー
- * 3：セル形式のときは操作できないメニュー
- * 4：セル形式だけで操作できるメニュー
- * 5：ごみ箱リストだけで操作できるメニュー

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	開く > 新規タブで開く *1	ファイル > 新規タブで開く
	新規タブで開く *2	ファイル > 新規タブで開く
	登録 *1	ファイル > 新規作成 > フォルダ
	名前の変更 *1	ファイル > 名前の変更
	編集終了 (元データに上書き)	サービスからローカルに取り出したフォルダー内のドキュメントを編集し、アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従って、サービスのドキュメントを更新します。 参照 ⇒ 第3部 「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」 (P.174)
	印刷 *1	ファイル > 印刷
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒ 第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	新規作成 ・ ドキュメント ・ フォルダ	・ ファイル > 新規作成 > ドキュメント ・ ファイル > 新規作成 > フォルダ
	切り取り	編集 > 切り取り
	コピー	編集 > コピー
	貼り付け	編集 > 貼り付け
	クリップボードから貼り付け *4	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇒ 第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」 (P.147)
	削除 *1	ファイル > 削除
移動 *1	ローカルのフォルダーを、ローカル内のほかのフォルダーに移動できます。 参照 ⇒ 第2部 「3.10 オブジェクトを移動する」 (P.130)	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	複製*1、*4	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇨第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」 (P.132)
	同様*4	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.3 同様機能を使用する」 (P.148)
	表示形式*1 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	最新の情報に更新*1	表示>最新の情報に更新
	プロパティ	ファイル>プロパティ
	復元*5	ファイル>ごみ箱>復元
	削除*5	ファイル>ごみ箱>削除
	ドキュメント	開く ・新規タブで開く ・閲覧 ・ビュー ・実体画像表示 ・インデックス画像表示
登録		ファイル>新規作成>ドキュメント
名前の変更		ファイル>名前の変更
編集終了 (元データに上書き)		サービスからローカルに取り出したドキュメントを編集し、アプリケーション設定の [上書き登録モード] の設定に従って、サービスのドキュメントを更新します。 参照 ⇨第3部 「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」 (P.174)
印刷		ファイル>印刷
送る ・ {ユーザー定義操作}		選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
切り取り		編集>切り取り
コピー		編集>コピー
クリップボードから貼り付け*4		クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」 (P.147)

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	削除	ファイル>削除
	移動	ローカルのドキュメントを、ローカル内のほかのフォルダーに移動できます。 参照 ⇨第2部 「3.10 オブジェクトを移動する」 (P.130)
	複製*4	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇨第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」 (P.132)
	同様*4	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.3 同様機能を使用する」 (P.148)
	マージ	コンテンツだけ登録されたドキュメントと、属性だけ登録されたドキュメントを統合できます。 参照 ⇨第3部 「1.8 属性をマージする」 (P.181)
	セル表示の固定*4 ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	ごみ箱*5 ・削除 ・復元 ・ごみ箱を空にする	・ファイル>ごみ箱>削除 ・ファイル>ごみ箱>復元 ・ファイル>ごみ箱>ごみ箱を空にする
	表示形式 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	プロパティ	ファイル>プロパティ

付録 B.5 [お気に入りツリー] の階層のショートカットメニュー

[お気に入りツリー] で、[お気に入りのオブジェクト] または [お気に入りの検索結果] のショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

階層	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
☆ (お気に入りのオブジェクト)	開く	[お気に入りリスト] を表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.3 オブジェクトを検索する」 (P.90)
	名前変更	[お気に入りの名前変更] ダイアログボックスが表示され、お気に入りの名前を変更できます。
	項目の編集	[表示設定] ダイアログボックスが表示され、項目を編集できます。
	削除	お気に入りを削除できます。
🔍 (お気に入りの検索条件)	検索画面を開く	[検索画面] ダイアログボックスを表示できます。 参照 ⇒第2部 「2.3.2 再検索する」 (P.94)
	検索実行	検索を実行できます。
	名前変更	[お気に入りの名前変更] ダイアログボックスが表示され、お気に入りの名前を変更できます。
	項目の編集	[検索画面] ダイアログボックスが表示され、項目を編集できます。
	削除	お気に入りの検索条件を削除できます。 参照 ⇒第2部 「2.3 オブジェクトを検索する」 (P.90)

付録 B.6 お気に入りのオブジェクトのショートカットメニュー

「お気に入りリスト」で、オブジェクトを選択したときに表示されるショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

補足 表の*は、次のオブジェクト選択時の制限を表しています。

- * 1：リファレンスを選択したときに操作できないメニュー
- * 2：リファレンスを選択したときに操作できるメニュー
- * 3：セル形式のときは操作できないメニュー
- * 4：セル形式だけで操作できるメニュー
- * 5：チェックアウトを実行したユーザーだけが操作できるメニュー

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
キャビネット	開く ・ 新規タブで開く ・ ブラウザーで開く (オブジェクト表示)	・ ファイル>新規タブで開く ・ ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	リファレンス作成* ¹	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	編集 ・ 基本情報表示 URL をコピー	・ 編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式 ・ 詳細 ・ アイコン ・ 一覧 ・ セル	・ 表示>表示形式>詳細 ・ 表示>表示形式>アイコン ・ 表示>表示形式>一覧 ・ 表示>表示形式>セル
	セル表示の固定* ⁴ ・ セルで固定 ・ 列で固定 ・ 行で固定 ・ 固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇒第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加* ¹	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
ドロー	開く ・ 新規タブで開く ・ ブラウザーで開く (オブジェクト表示)	・ ファイル>新規タブで開く ・ ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドロワー	新規作成 ・ドキュメント ・フォルダ	・ファイル>新規作成>ドキュメント ・ファイル>新規作成>フォルダ
	リファレンス作成* ¹	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	貼り付け	編集>貼り付け
	リファレンスの貼り付け	編集>リファレンスの貼り付け
	編集 ・基本情報表示 URL をコピー	・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	セル表示の固定* ⁴ ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加* ¹	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
フォルダー	開く ・新規タブで開く ・ブラウザで開く (オブジェクト表示) ・ブラウザで開く (インデックス画像表示)	・ファイル>新規タブで開く ・ファイル>ブラウザで開く>オブジェクト表示 ・ファイル>ブラウザで開く>インデックス画像表示
	ダウンロード	ファイル>ダウンロード
	印刷	ファイル>印刷
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	新規作成 ・ドキュメント ・フォルダ	・ファイル>新規作成>ドキュメント ・ファイル>新規作成>フォルダ
	リファレンス作成* ¹	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	リファレンス実体化* ²	ファイル>リファレンス>リファレンス実体化
	リファレンス属性更新* ²	ファイル>リファレンス>リファレンス属性更新
	名前の変更	ファイル>名前の変更

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	削除	ファイル>削除
	切り取り	編集>切り取り
	コピー*4	編集>コピー
	貼り付け*3	編集>貼り付け
	リファレンスの貼り付け	編集>リファレンスの貼り付け
	クリップボードから貼り付け*4	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」 (P.147)
	複製*4	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇨第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」 (P.132)
	同様*4	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.3 同様機能を使用する」 (P.148)
	属性反映*4	セルに入力した属性値を確定させます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	ロック	編集>ロック
	アンロック	編集>アンロック
	編集取り出し	編集するために、サービスのドキュメントをローカルに取り出すことができます。 補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は選択できません。 参照 ⇨第3部 「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」 (P.174)
	編集 ・アクセス権変更 ・デフォルトアクセス権変更 ・クラス変更 ・状態変更 ・版管理開始 ・版管理取り消し ・改版 ・基本情報表示 URL をコピー	<ul style="list-style-type: none"> ・編集>アクセス権変更 ・編集>デフォルトアクセス権変更 ・編集>クラス変更 ・編集>状態変更 ・編集>版管理>版管理開始 ・編集>版管理>版管理取り消し ・編集>版管理>改版 ・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
表示形式 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	<ul style="list-style-type: none"> ・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル 	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	セル表示の固定* ⁴ ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできません。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加* ⁴	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
ドキュメント	開く ・閲覧 ・ビュー ・ブラウザーで開く (オブジェクト表示) ・ブラウザーで開く (コンテンツ表示) ・ブラウザーで開く (インデックス画像表示) ・実体画像表示 ・インデックス画像表示	・ファイル>閲覧 ・ファイル>ビュー ・ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示 ・ファイル>ブラウザーで開く>コンテンツ表示 ・ファイル>ブラウザーで開く>インデックス画像表示 ・ファイル>実体画像表示 ・ファイル>インデックス画像表示
	ダウンロード	ファイル>ダウンロード
	印刷	ファイル>印刷
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	リファレンス作成* ¹	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	リファレンス実体化* ²	ファイル>リファレンス>リファレンス実体化
	リファレンス属性更新* ²	ファイル>リファレンス>リファレンス属性更新
	名前の変更	ファイル>名前の変更
	削除	ファイル>削除
	切り取り	編集>切り取り
	コピー	編集>コピー
	クリップボードから貼り付け* ⁴	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」 (P.147)
	複製* ⁴	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇨第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」 (P.132)

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	同様*4	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇒第2部 [4.2.3 同様機能を使用する] (P.148)
	属性反映*4	セルに入力した属性値を確定させます。 参照 ⇒第2部 [4.2 セル形式で属性値を直接入力する] (P.145)
	直接編集	編集>直接編集
	コンテンツ差し替え	編集>コンテンツ差し替え
	チェックイン	編集>チェックイン
	チェックアウト	編集>チェックアウト
	チェックアウト取り消し*5	編集>チェックアウト取り消し
	ロック	編集>ロック
	アンロック	編集>アンロック
	編集取り出し	編集するために、サービスのドキュメントを、ローカルに取り出すことができます。 補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は選択できません。 参照 ⇒第3部 [1.5 サービスからローカルに取り出して編集する] (P.174)
	編集 ・アクセス権変更 ・デフォルトアクセス権変更 ・クラス変更 ・スタンプ ・状態変更 ・版管理開始 ・版管理取り消し ・改版 ・ドキュメント情報更新 ・基本情報表示 URL をコピー ・リモート編集 URL をコピー	・編集>アクセス権変更 ・編集>デフォルトアクセス権変更 ・編集>クラス変更 ・編集>スタンプ ・編集>状態変更 ・編集>版管理>版管理開始 ・編集>版管理>版管理取り消し ・編集>版管理>改版 ・編集>ドキュメント情報更新 ・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー ・編集>公開 URL >リモート編集 URL をコピー
	表示形式 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	セル表示の固定*4 ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできません。 参照 ⇒第2部 [4.2 セル形式で属性値を直接入力する] (P.145)
最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	お気に入り追加* ¹	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ

付録 B.7 [検索結果ツリー] の階層のショートカットメニュー

[検索結果ツリー] で、[ドキュメント管理サービス] または [検索結果] のショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

階層	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
 (ドキュメント管理サービス)	全て閉じる	ドキュメント管理サービス内のすべての検索結果および検索結果リストを削除できます。
 (検索結果 [{YYYYMMDDhhmmss 形式の日時}])	再検索	検索結果から、再度検索条件を設定して、オブジェクトを検索できます。 参照 ⇨ 第2部 [2.3.2 再検索する] (P.94)
	お気に入り追加	検索条件をお気に入りに追加できます。 参照 ⇨ 第2部 [2.6 外部コマンドを実行する] (P.108)
	閉じる	ファイル>閉じる

付録 B.8 検索結果のオブジェクトのショートカットメニュー

[検索結果ツリー] および検索結果リストで、オブジェクトを選択したときに表示されるショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

補足 表の*は、次のオブジェクト選択時の制限を表しています。

- * 1：[検索結果ツリー] では操作できないメニュー
- * 2：リファレンスを選択したときに操作できないメニュー
- * 3：リファレンスを選択したときに操作できるメニュー
- * 4：セル形式のときは操作できないメニュー
- * 5：セル形式だけで操作できるメニュー
- * 6：チェックアウトを実行したユーザーだけが操作できるメニュー

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
キャビネット	開く ・新規タブで開く ・ブラウザで開く (オブジェクト表示)	・ファイル>新規タブで開く ・ファイル>ブラウザで開く>オブジェクト表示
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇨第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	編集 ・基本情報表示 URL をコピー	・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式*1 ・詳細 ・アイコン ・一覧 ・セル	・表示>表示形式>詳細 ・表示>表示形式>アイコン ・表示>表示形式>一覧 ・表示>表示形式>セル
	セル表示の固定*5 ・セルで固定 ・列で固定 ・行で固定 ・固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加*2	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
ドロワー	開く ・新規タブで開く ・ブラウザで開く (オブジェクト表示)	・ファイル>新規タブで開く ・ファイル>ブラウザで開く>オブジェクト表示
	検索	ファイル>検索

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドロー	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
	新規作成 ・ ドキュメント ・ フォルダ	・ ファイル>新規作成>ドキュメント ・ ファイル>新規作成>フォルダ
	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	貼り付け	編集>貼り付け
	リファレンスの貼り付け	編集>リファレンスの貼り付け
	編集 ・ 基本情報表示 URL をコピー	・ 編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー
	表示形式*1 ・ 詳細 ・ アイコン ・ 一覧 ・ セル	・ 表示>表示形式>詳細 ・ 表示>表示形式>アイコン ・ 表示>表示形式>一覧 ・ 表示>表示形式>セル
	セル表示の固定*5 ・ セルで固定 ・ 列で固定 ・ 行で固定 ・ 固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇒第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入り追加*2	お気に入り>お気に入り追加
プロパティ	ファイル>プロパティ	
フォルダー	開く ・ 新規タブで開く ・ ブラウザーで開く (オブジェクト表示) ・ ブラウザーで開く (インデックス画像表示)	・ ファイル>新規タブで開く*8 ・ ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示*8 ・ ファイル>ブラウザーで開く>インデックス画像表示*8
	ダウンロード	ファイル>ダウンロード*8
	印刷*1	ファイル>印刷
	検索	ファイル>検索
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 「2.6 外部コマンドを実行する」 (P.108)
新規作成 ・ ドキュメント ・ フォルダ	・ ファイル>新規作成>ドキュメント ・ ファイル>新規作成>フォルダ	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	リファレンス作成*1、*2	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	リファレンス実体化*3	ファイル>リファレンス>リファレンス実体化
	リファレンス属性更新*3	ファイル>リファレンス>リファレンス属性更新
	名前の変更	ファイル>名前の変更
	削除	ファイル>削除
	切り取り	編集>切り取り
	コピー*5	編集>コピー
	貼り付け*4	編集>貼り付け
	リファレンスの貼り付け	編集>リファレンスの貼り付け
	クリップボードから貼り付け*5	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」(P.147)
	複製*5	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇨第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」(P.132)
	同様*5	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇨第2部 「4.2.3 同様機能を使用する」(P.148)
	属性反映*5	セルに入力した属性値を確定させます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」(P.145)
	ロック*1	編集>ロック
アンロック*1	編集>アンロック	
編集取り出し	編集するために、サービスのドキュメントをローカルに取り出すことができます。 補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は選択できません。 参照 ⇨第3部 「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」(P.174)	
編集	<ul style="list-style-type: none"> ・編集>アクセス権変更 ・編集>デフォルトアクセス権変更 ・編集>クラス変更 ・編集>状態変更 ・編集>版管理開始 ・編集>版管理取り消し ・編集>改版 ・編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー 	

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
フォルダー	表示形式* ¹ ・ 詳細 ・ アイコン ・ 一覧 ・ セル	・ 表示>表示形式>詳細 ・ 表示>表示形式>アイコン ・ 表示>表示形式>一覧 ・ 表示>表示形式>セル
	セル表示の固定* ⁵ ・ セルで固定 ・ 列で固定 ・ 行で固定 ・ 固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇒第2部 [4.2 セル形式で属性値を直接入力する] (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入りに追加* ²	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ
ドキュメント	開く ・ 格納先を開く ・ 閲覧 ・ ビュー ・ ブラウザーで開く (オブジェクト表示) ・ ブラウザーで開く (コンテンツ表示) ・ ブラウザーで開く (インデックス画像表示) ・ 実体画像表示 ・ インデックス画像表示	・ ファイル>格納先を開く ・ ファイル>閲覧 ・ ファイル>ビュー ・ ファイル>ブラウザーで開く>オブジェクト表示 ・ ファイル>ブラウザーで開く>コンテンツ表示 ・ ファイル>ブラウザーで開く>インデックス画像表示 ・ ファイル>実体画像表示 ・ ファイル>インデックス画像表示
	ダウンロード	ファイル>ダウンロード
	印刷	ファイル>印刷
	送る ・ {ユーザー定義操作}	選択したオブジェクトを、外部コマンドまたはユーザー定義操作に送ることができます。 参照 ⇒第2部 [2.6 外部コマンドを実行する] (P.108)
	リファレンス作成* ¹ 、* ²	ファイル>リファレンス>リファレンス作成
	リファレンス実体化* ³	ファイル>リファレンス>リファレンス実体化
	リファレンス属性更新* ³	ファイル>リファレンス>リファレンス属性更新
	参照先を新規タブで開く* ³	ファイル>リファレンス>参照先を新規タブで開く
	名前の変更	ファイル>名前の変更
	削除	ファイル>削除
	切り取り	編集>切り取り
	コピー	編集>コピー

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	クリップボードから貼り付け*5	クリップボードの値をセルに貼り付けて、属性値を入力できます。 参照 ⇒第2部 「4.2.2 クリップボードの値を貼り付ける」 (P.147)
	複製*5	同じフォルダー内に、選択したフォルダーをコピーできます。 参照 ⇒第2部 「3.11 オブジェクトをコピーする」 (P.132)
	同様*5	同じ列にある複数のセルに、同じ値を同時に入力できます。 参照 ⇒第2部 「4.2.3 同様機能を使用する」 (P.148)
	属性反映*5	セルに入力した属性値を確定させます。 参照 ⇒第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	直接編集	編集>直接編集
	コンテンツ差し替え	編集>コンテンツ差し替え
	チェックイン	編集>チェックイン
	チェックアウト	編集>チェックアウト
	チェックアウト取り消し*6	編集>チェックアウト取り消し
	ロック	編集>ロック
	アンロック	編集>アンロック
	編集取り出し	編集するために、サービスのドキュメントを、ローカルに取り出すことができます。 補足 アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は選択できません。 参照 ⇒第3部 「1.5 サービスからローカルに取り出して編集する」 (P.174)
	編集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 編集>アクセス権変更 ・ 編集>デフォルトアクセス権変更 ・ 編集>クラス変更 ・ 編集>スタンプ ・ 編集>状態変更 ・ 編集>版管理開始 ・ 編集>版管理取り消し ・ 編集>改版 ・ 編集>ドキュメント情報更新 ・ 編集>公開 URL >基本情報表示 URL をコピー ・ 編集>公開 URL >リモート編集 URL をコピー

オブジェクト	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
ドキュメント	表示形式 ・ 詳細 ・ アイコン ・ 一覧 ・ セル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表示>表示形式>詳細 ・ 表示>表示形式>アイコン ・ 表示>表示形式>一覧 ・ 表示>表示形式>セル
	セル表示の固定* ⁵ ・ セルで固定 ・ 列で固定 ・ 行で固定 ・ 固定の解除	セル、列、または行を固定してスクロールできます。 参照 ⇨第2部 「4.2 セル形式で属性値を直接入力する」 (P.145)
	最新の情報に更新	表示>最新の情報に更新
	お気に入り追加* ²	お気に入り>お気に入りに追加
	プロパティ	ファイル>プロパティ

付録 B.9 [参照履歴] の階層のショートカットメニュー

[参照履歴] のショートカットメニューから実行できる機能は、次のとおりです。

階層	ショートカットメニュー	説明/操作メニュー
すべての階層	履歴を全て削除する	表示されている履歴をすべて削除できます。

付録 C サービスとローカルの機能比較

操作メニューとショートカットメニューについて、サービスからだけ実行できる機能とローカルからだけ実行できる機能を比較して説明します。

付録 C.1 操作メニュー

サービスからだけ、またはローカルからだけ実行できる機能は、次のとおりです。

メニュー	サブメニュー	サービスからの実行	ローカルからの実行	対象オブジェクト	
ファイル	格納先を開く	○	×	ドキュメント	
	ブラウザーで開く	オブジェクト表示	○	×	すべてのオブジェクト
		コンテンツ表示	○	×	ドキュメント
		インデックス画像表示	○	×	・フォルダー ・ドキュメント
	ダウンロード	○	×	・フォルダー ・ドキュメント	
	検索	○	×	・キャビネット ・ドロワー ・フォルダー	
	存在確認検索	○	×	・キャビネット ・ドロワー ・フォルダー	
	リファレンス	リファレンス作成	○	×	すべてのオブジェクト
		リファレンス実体化	○	×	・フォルダー ・ドキュメント (リファレンスのみ)
		リファレンス属性更新			
参照先を新規タブで開く		○	×	ドキュメント (リファレンスのみ)	
編集	リファレンスの貼り付け	○	×	・ドロワー ・フォルダー	
	直接編集	○	×	ドキュメント	
	コンテンツ差し替え	○	×	ドキュメント	
	チェックイン	○	×	ドキュメント	
	チェックアウト	○	×	ドキュメント	
	チェックアウト取り消し	○	×	ドキュメント	
	ロック	○	×	・フォルダー ・ドキュメント	
	アンロック	○	×	・フォルダー ・ドキュメント	
	アクセス権変更	○	×	・フォルダー ・ドキュメント	

メニュー	サブメニュー		サービスからの実行	ローカルからの実行	対象オブジェクト	
編集	デフォルトアクセス権変更		○	×	フォルダー	
	クラス変更		○	×	・フォルダー ・ドキュメント	
	スタンプ		○	×	ドキュメント	
	状態変更		○	×	・フォルダー ・ドキュメント	
	版管理	版管理開始		○	×	・フォルダー ・ドキュメント (版管理キャビネットの場合)
		版管理取り消し		○	×	・フォルダー ・ドキュメント (版管理を開始したオブジェクト)
		改版				
	ドキュメント情報更新		○	×	ドキュメント	
	公開 URL	基本情報表示 URL をコピー		○	×	・キャビネット ・ドロワー ・フォルダー ・ドキュメント
リモート編集 URL をコピー		○	×	ドキュメント		
表示	マージ対象のみ表示		×	○	[ローカルリスト] のオブジェクト	
お気に入り	お気に入りに追加		○	×	[サービスリスト] のオブジェクト	
ツール	属性変更用 CSV 出力		×	○	ドキュメント (CSVファイルのみ)	
	スキャナソフト起動	CSV ファイルあり	×	○	ドキュメント (CSVファイルのみ)	
	属性一括変更	ファイル名による割当	×	○	[ローカルリスト] のオブジェクト	
		リスト順による割当				
格納先の表示		○	×	[サービスリスト] のオブジェクト		

付録 C.2 ショートカットメニュー

サービスからだけ、またはローカルからだけ実行できる機能は、次のとおりです。

ショートカットメニュー	サービスからの実行	ローカルからの実行	対象オブジェクト
編集終了 (元データに上書き)	×	○	フォルダー、ドキュメント
属性反映	○	×	フォルダー、ドキュメント
マージ	×	○	ドキュメント
編集取り出し* 1	○	×	フォルダー、ドキュメント
再検索	○	×	[検索結果ルート] 内の [検索結果 [{YYYYMMDDhhmmss形式の 日時}]]

* 1 : アプリケーション設定の [全般] タブにある [編集取り出しを許可する] が [いいえ] に設定されている場合は、
[編集取り出し] は選択できません。

付録 D ドラッグ&ドロップの操作

ドラッグ&ドロップでできる操作は、アプリケーション設定の [デスクトップクライアント内でのデフォルトのドラッグ&ドロップ操作] の設定内容によって、異なります。

[デスクトップクライアント内でのデフォルトのドラッグ&ドロップ操作] の初期値は、[移動] です。

ここでは、[デスクトップクライアント内でのデフォルトのドラッグ&ドロップ操作] が初期値の場合の、ドラッグ&ドロップの操作について、説明します。

		クライアントPC	ローカル	サービス	
		フォルダー	フォルダー	ドローワー、 フォルダー ドラッグ対象	ドロップ対象 ドキュメント
クライアントPC	フォルダー	—	登録	登録	—
	ファイル	—	登録	登録	・リビジョンアップ ・コンテンツ差し替え
ローカル	フォルダー	コピー	・移動 ・コピー*1	登録	—
	ドキュメント	コピー	・移動 ・コピー*1	登録	—
サービス	フォルダー	ダウンロード	・取り出し ・編集取り出し*2	・移動 ・コピー*1 ・リファレンス作成*3	—
	ドキュメント	ダウンロード	・取り出し ・編集取り出し*2	・移動 ・コピー*1 ・リファレンス作成*3	—
	リファレンス	ダウンロード	—	・移動 ・コピー*1	—

* 1 :<Ctrl> キーを押しながらドラッグ&ドロップした場合

* 2 :<Shift> キーを押しながらドラッグ&ドロップした場合

* 3 :<Alt> キーを押しながらドラッグ&ドロップした場合

- 補足**
- ・アプリケーション設定の [デスクトップクライアント内でのデフォルトのドラッグ&ドロップ操作] が [コピー] に設定されている場合、ドラッグ&ドロップするとコピーの操作になります。移動の操作をするには、<Shift> キーを押しながらドラッグ&ドロップします。
 - ・アプリケーション設定で、[全般] タブの [編集取り出しを許可する] に [いいえ] が設定されているときは、[編集取り出し] ではなく [取り出し] の動作になります。
 - ・右ドラッグ&ドロップでできる操作も、ドラッグ&ドロップでできる操作と同じです。キーボードのキーを押さずに右ドラッグ&ドロップし、表示されたメニューから操作する項目を選択して操作します。

- 参照**
- ・ダウンロードの操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.1 オブジェクトをダウンロードする\]](#) (P.114)
 - ・登録の操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.3 ドキュメントを登録する\]](#) (P.117)
 - ・リファレンス作成の操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.4 オブジェクトのリファレンスを作成する\]](#) (P.121)
 - ・移動の操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.10 オブジェクトを移動する\]](#) (P.130)
 - ・コピーの操作 ⇒ 第 2 部 [\[3.11 オブジェクトをコピーする\]](#) (P.132)
 - ・リビジョンアップの操作 ⇒ 第 2 部 [\[5.2 ドキュメントを改訂する\]](#) (P.158)
 - ・コンテンツ差し替えの操作 ⇒ 第 2 部 [\[5.3 ドキュメントのコンテンツを差し替える\]](#) (P.161)
 - ・取り出し、編集取り出しの操作 ⇒ 第 3 部 [\[1.5 サービスからローカルに取り出して編集する\]](#) (P.174)
 - ・アプリケーションの設定 ⇒ 第 3 部 [\[5.1 アプリケーション設定を変更する\]](#) (P.201)

付録 E 入力補助機能の設定

属性値の入力補助機能の設定方法について説明します。

入力補助機能を使用するためには、次の設定ファイル、およびフォルダーを作成する必要があります。

- ・入力補助機能設定ファイル (AttributeSupport.xml)
- ・「AttributeSupport」フォルダー
入力補助機能設定ファイルで指定したファイルを作成するフォルダーです。

また、用途に合わせて、次の設定ファイルを作成する必要があります。

- ・ヒントメニュー定義ファイル
ヒントメニューを使用する場合に作成します。
- ・属性値変換定義ファイル
属性値変換を使用する場合に作成します。

- 補足**
- ・ここでは、XML の知識を習得されていることを前提に説明しています。
 - ・入力補助機能の設定を反映させるためには、デスクトップクライアントを終了し、再び起動する必要があります。

付録 E.1 入力補助機能設定ファイル

入力補助機能を使用するために、必ず設定するファイルです。

ファイル名は、「AttributeSupport.xml」です。

ヒントメニューまたは属性値変換を使用するとき、属性のATOM名、およびそれぞれの設定ファイルのファイル名を設定します。

1. 次のフォルダーを開きます。

[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Conf¥Servers¥ {ServerID}] フォルダー

- 補足**
- ・ {Windows サインインユーザー ID} は、Windows にサインインしているユーザーのアカウント名です。
 - ・ {ServerID} は、入力補助機能を使用して、属性値を入力する属性が登録されているサーバーのフルコンピュータ名です。
例：arcsuite.example.com
 - ・ 次のフォルダーは、隠しフォルダーです。表示されない場合は、[フォルダーオプション] で隠しフォルダーを表示する設定に変更してください。
[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData] フォルダー

2. テキストエディターを使用して、入力補助機能設定ファイル (XML ファイル) を作成します。

◆ ファイル名

ファイル名は、必ず「AttributeSupport.xml」にします。

- 補足** 文字コードは、「UTF-8」を指定してください。

◆ 設定項目

タグ名	説明
AttributeSupportSettings	ルートのタグ名です。必ず記述します。
AttributeSupportSettingList	「AttributeSupportSettings」の下の要素として、1つだけ記述できます。
AttributeSupportSetting	「AttributeSupportSettingList」の下の要素として、複数記述できます。
AttributeId	ヒントメニューまたは属性値変換を使用する属性のATOM名を記述します。 「AttributeSupportSetting」の下の要素として、1つだけ記述できます。
HintMenuDefFile	ヒントメニューを使用する場合、ヒントメニュー定義ファイルを作成し、そのファイル名を記述します。 「AttributeSupportSetting」の下の要素として、1つだけ記述できます。 補足 ・ヒントメニュー定義ファイルは、必ず「AttributeSupport」フォルダーに作成します。 ・ファイル名は、大文字、小文字を区別して記述します。 参照 ヒントメニュー定義ファイル⇒ 「付録E.2 ヒントメニュー定義ファイル」(P.270)
HintInputContinues	ヒントメニューを使用する場合、すでに属性値が入力されていたときに、ヒントメニューから属性値を入力する方法を指定します。小文字で記述します。 「AttributeSupportSetting」の下の要素として、1つだけ記述できます。 ・ true 属性値の後ろに、ヒントメニューで選択した属性値が追加されます。 ・ false ヒントメニューで選択した属性値に置き換えられます。 補足 省略した場合は、自動で「false」が設定されます。
ConvertAttrValDefFile	属性値変換を使用する場合、属性値変換定義ファイルを作成し、そのファイル名を記述します。 「AttributeSupportSetting」の下の要素として、1つだけ記述できます。 補足 ・属性値変換定義ファイルは、必ず「AttributeSupport」フォルダーに作成します。 ・ファイル名は、大文字、小文字を区別して記述します。 参照 属性値変換定義ファイル⇒ 「付録E.3 属性値変換定義ファイル」(P.272)

◆ 設定例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<AttributeSupportSettings>
  <AttributeSupportSettingList>
    <AttributeSupportSetting>
      <AttributeId>user:PartsCode</AttributeId>
      <HintMenuDefFile>PartsCode_hint.xml</HintMenuDefFile>
      <HintInputContinues>true</HintInputContinues>
      <ConvertAttrValDefFile>PartsCode_convert.csv</ConvertAttrValDefFile>
    </AttributeSupportSetting>
    <AttributeSupportSetting>
      <AttributeId>user:ProductGroup</AttributeId>
      <HintMenuDefFile>ProductGroup_hint.xml</HintMenuDefFile>
      <HintInputContinues>false</HintInputContinues>
      <ConvertAttrValDefFile>ProductGroup_convert.csv</
ConvertAttrValDefFile>
    </AttributeSupportSetting>
  </AttributeSupportSettingList>
</AttributeSupportSettings>
```

3. 手順 1 のフォルダーに、作成した入力補助機能設定ファイル (AttributeSupport.xml) を保存します。

補足 文字コードを「UTF-8」に指定して保存してください。

付録 E.2 ヒントメニュー定義ファイル

ヒントメニューを使用するためには、ヒントメニュー定義ファイル (XMLファイル) を作成する必要があります。

1. 次のフォルダーを作成します。

すでにフォルダーが作成されている場合は、手順 2 に進みます。

[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥

ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Conf¥Servers¥ {ServerID} ¥AttributeSupport] フォルダー

- 補足**
- ・ {Windows サインインユーザー ID} は、Windows にサインインしているユーザーのアカウント名です。
 - ・ {ServerID} は、入力補助機能を使用して、属性値を入力する属性が登録されているサーバーのフルコンピュータ名です。
例：arcsuite.example.com
 - ・ 次のフォルダーは、隠しフォルダーです。表示されない場合は、[フォルダーオプション] で隠しフォルダーを表示する設定に変更してください。
[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData] フォルダー

2. テキストエディターを使用して、ヒントメニュー定義ファイル (XML ファイル) を作成します。

◆ ファイル名

入力補助機能設定ファイルの「HintMenuDefFile」に指定したファイル名です。

拡張子は「xml」です。

補足 文字コードは、「UTF-8」を指定してください。

参照 入力補助機能設定ファイル ⇒ [\[付録 E.1 入力補助機能設定ファイル\] \(P.268\)](#)

◆ 設定項目

タグ名	説明
sections	ルートのタグ名です。必ず記述します。
section	「sections」の下要素として、1つだけ記述できます。
name	ヒントメニューの名前です。英数字で記述します。 「section」の下要素として、1つだけ記述できます。 補足 「name」で設定した名前は、ヒントメニューに表示されません。
menu	「section」および「menu」の下要素として、複数記述できます。
separator	複数の「menu」要素がある場合、ヒントメニューに区切り線を入れたいときに、記述します。「section」および「menu」の下要素として、複数記述できます。
label	ヒントメニューで表示する文字列です。 「menu」の下要素として、1つだけ記述できます。 補足 次の文字を使うときは、それぞれ文字を置き換えて記述します。 ・ < (小なり記号) 「<」と記述します。 ・ > (大なり記号) 「>」と記述します。 ・ & (アンパサンド) 「&」と記述します。 ・ " (ダブルクォーテーション) 「"」と記述します。 ・ ' (シングルクォーテーション) 「'」と記述します。
value	「label」に記述した文字列を選択したときに入力される属性値です。 「menu」の下要素として、1つだけ記述できます。 補足 次の文字を使うときは、それぞれ文字を置き換えて記述します。 ・ < (小なり記号) 「<」と記述します。 ・ > (大なり記号) 「>」と記述します。 ・ & (アンパサンド) 「&」と記述します。 ・ " (ダブルクォーテーション) 「"」と記述します。 ・ ' (シングルクォーテーション) 「'」と記述します。

◆ 設定例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<sections>
  <section>
    <name>Default</name>
    <menu>
      <label>性能試験</label>
      <menu>
        <label>振動評価試験</label>
        <value>A8304-015</value>
      </menu>
    </menu>
    <separator/>
    <menu>
      <label>耐久試験</label>
      <menu>
        <label>往復動作試験</label>
        <value>B7919-13</value>
      </menu>
    <separator/>
    <menu>
      <label>環境試験</label>
      <value>En7185</value>
    </menu>
  </section>
</sections>
```

3. 手順 1 のフォルダーに、作成したヒントメニュー定義ファイルを保存します。

補足 文字コードを「UTF-8」に指定して保存してください。

付録 E.3 属性値変換定義ファイル

属性値変換の機能を使用するためには、属性値変換定義ファイル（CSVファイル）を作成する必要があります。

1. 次のフォルダーを作成します。

すでにフォルダーが作成されている場合は、手順 2 に進みます。

[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥ ArcSuiteDesktopClient¥2.5.0.0¥Conf¥Servers¥ {ServerID} ¥AttributeSupport] フォルダー

- 補足**
- ・ {Windows サインインユーザー ID} は、Windows にサインインしているユーザーのアカウント名です。
 - ・ {ServerID} は、入力補助機能を使用して、属性値を入力する属性が登録されているサーバーのフルコンピュータ名です。
例：arcsuite.example.com
 - ・ 次のフォルダーは、隠しフォルダーです。表示されない場合は、[フォルダーオプション] で隠しフォルダーを表示する設定に変更してください。
[C:¥Users¥ {Windows サインインユーザー ID} ¥AppData]

2. 属性値変換定義ファイル（CSV ファイル）を作成します。

◆ ファイル名

入力補助機能設定ファイルの「ConvertAttrValDefFile」に指定したファイル名です。
拡張子は「csv」です。

参照 入力補助機能設定ファイル ⇨ [「付録 E.1 入力補助機能設定ファイル」\(P.268\)](#)

◆ 設定項目

<code>attrValue,displayValue</code>	必須の文字列
{属性値 (attrValue) } , {表示名 (displayValue) }	

- ・ {属性値 (attrValue)}
- サーバーに登録する属性値を、属性の型に応じて、決められた書式で記述します。
属性の型ごとの {属性値 (attrValue)} の記述形式は、次のとおりです。

属性型	記述形式
文字列型	[,] (カンマ) が含まれる場合は、文字列を ["] (ダブルクォート) で囲んで記述します。
日時型	[yyyy/MM/dd HH:mm:ss] 形式で記述します。 例) 2021/03/03 00:00:00
数値型	半角の数値で記述します。
ブール型	大文字、小文字は区別されません。
プリンシパル型	[,] (カンマ) が含まれる場合は、文字列を ["] (ダブルクォート) で囲んで記述します。
ユーザーロール型	[,] (カンマ) が含まれる場合は、文字列を ["] (ダブルクォート) で囲んで記述します。
アトム型	半角英数字で記述します。
URI 型	[http://]、[https://]、または [ftp://] から始まり、URLの最後は [^ {ラベル名}] で記述します。 例) http://fujifilm.com/fb^FFBI

- ・ {表示名 (displayValue)}
- {属性値 (attrValue)} に対応する表示名を記述します。
[,] (カンマ) が含まれる場合は、表示名を ["] (ダブルクォート) で囲んで記述します。

◆ 設定例

- ・ 文字列型属性の場合

```
attrValue,displayValue
SA1548-221-, 部品 A
SB1530-971-, 部品 B
```

- ・ 日時型属性の場合

```
attrValue,displayValue
2021/03/01 00:00:00,2021 年 3 月 1 日
2021/01/01 00:00:00,2021 年 1 月 1 日
```

- ・ プリンシパル型属性の場合

```
attrValue,displayValue
"uid=user1,ou=users,dc=ArcSuite", 富士 A 男
"uid=user2,ou=users,dc=ArcSuite", 富士 B 男
```

3. 手順 1 のフォルダーに、作成した属性値変換定義ファイルを保存します。

補足 文字コードを「UTF-8」に指定して保存してください。

付録 F エラーメッセージ一覧

次のエラーメッセージが表示された場合は、記載に従って対処してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000001	外部コマンドの名前が指定されていません。	外部コマンド定義ファイルのフォーマットが正しくありません。	外部コマンドを定義しているファイルのフォーマットを、正しいフォーマットに設定し直してください。
DC_MAIN-55000002	外部コマンド定義に必要な情報が指定されていません。	外部コマンド定義ファイルのフォーマットが正しくありません。	外部コマンドを定義しているファイルのフォーマットを、正しいフォーマットに設定し直してください。
DC_MAIN-55000003	外部コマンド [{0}] の設定項目 [{1}] に不正な値 [{2}] が指定されています。	外部コマンド定義ファイルのフォーマットが正しくありません。	外部コマンドを定義しているファイルのフォーマットを、正しいフォーマットに設定し直してください。
DC_MAIN-55000004	外部コマンド [{0}] の設定項目 [{1}] に値が指定されていません。	外部コマンド定義ファイルのフォーマットが正しくありません。	外部コマンドを定義しているファイルのフォーマットを、正しいフォーマットに設定し直してください。
DC_MAIN-55000005	外部コマンド定義のロード中にエラーが発生しました。 [ファイル:{0}]	外部コマンド定義ファイルのフォーマットが正しくありません。	外部コマンドを定義しているファイルのフォーマットを、正しいフォーマットに設定し直してください。
DC_MAIN-55000007	設定の読み込みに失敗しました。[{0}]	指定した設定ファイルが存在しない、またはアクセスできません。	ファイルが存在するかどうか、アクセスできるかどうかを確認してください。アクセスできない場合は、管理者に連絡してください。
DC_MAIN-55000008	設定の保存に失敗しました。[{0}]	指定した設定ファイルへの書き込みができません。	ファイルにアクセスできるかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000012	不正な外部コマンドが指定されました。[{0}]	外部コマンドの設定が間違っています。	外部コマンドの設定を見直してください。
DC_MAIN-55000013	外部コマンドのプロセスの作成に失敗しました。 (外部コマンド名 [{0}]、コマンドタイプ [{1}]、コマンド [{2}])	外部コマンドの実行に失敗しました。	外部コマンド定義のコマンドの内容が正しいかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000015	外部コマンドのマクロ [{0}] の展開時に一時ファイル [{1}] の作成に失敗しました。	外部コマンドの <%FILELIST%>マクロなどの一時ファイル作成に失敗しました。	一時ファイル格納先にファイルの書き込みができるか、ドライブの容量が十分かどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000017	マクロ [{0}] 展開の結果、処理対象が 0 件です。	外部コマンドで実行するマクロを展開した結果、処理対象オブジェクトがありません。	外部コマンドの処理対象となるオブジェクトを選択してから、外部コマンドを実行してください。
DC_MAIN-55000026	印刷対象のコンテンツがありません。 (コンテンツのパス :{0}、PrintTarget:{1}、PrintMode:{2})	アプリケーション設定で、[セカンダリ] タブの [印刷対象] に指定したコンテンツが存在しません。	アプリケーション設定の [セカンダリ] タブで、印刷するオブジェクトの [印刷対象] を確認し、指定したコンテンツが存在するかどうかを確認してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000048	既に設定されているフォルダは指定できません。	ローカルルートを追加するとき、すでにローカルルートとして登録されているフォルダは選択できません。	すでに登録されているローカルルート以外のフォルダを選択してください。
DC_MAIN-55000049	既に設定されているフォルダの子フォルダは指定できません。	ローカルルートを追加するとき、すでにローカルルートとして登録されているフォルダの子フォルダは選択できません。	すでに登録されているローカルルートの子フォルダ以外のフォルダを選択してください。
DC_MAIN-55000050	既に設定されているフォルダの親フォルダは指定できません。	ローカルルートを追加するとき、すでにローカルルートとして登録されているフォルダの親フォルダは選択できません。	すでに登録されているローカルルートの親フォルダ以外のフォルダを選択してください。
DC_MAIN-55000056	格納先表示対象のオブジェクトが指定されていません。	オブジェクトを選択しないで、[格納先の表示] は実行できません。	[サービスリスト] でオブジェクトを選択してから、[格納先の表示] を実行してください。
DC_MAIN-55000065	スキャナ起動の設定が不正です。 (スキャナソフトの実行ファイルパス [{0}]、スキャナソフトで使用する環境設定ファイルのパス [{1}])	スキャナ連携が設定されていないか、設定が不適切です。	アプリケーション設定の [スキャナ連携] タブで正しく設定してから、[スキャナソフト起動] を実行してください。
DC_MAIN-55000070	ドキュメントスペースのライセンスがありません。	ドキュメントスペースのライセンスが割り当てられていません。	ドキュメントスペースのライセンスを割り当ててからアクセスしてください。
DC_MAIN-55000080	CSV 出力でファイル書き込み時にエラーが発生しました。 (CSV ファイル :{0})	CSV出力のファイルの書き込み処理でエラーが発生しました。	出力先にファイルの書き込みができるか、ドライブの容量が十分かどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000092	登録ファイル ({0}) のインデックス画像が存在しません。	ローカル環境からサービスへの登録処理で、インデックス画像が存在しないため、登録処理を中断しました。	アプリケーション設定で、[全般] タブの [ローカル環境からサービスへの登録時の中断条件] と、[セカンダリ] タブの [インデックス画像の登録] の設定を確認してください。また、登録対象ファイルのインデックス画像ファイルが、ローカル環境のフォルダにあるかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000093	インデックス画像の最終更新日時が、登録ファイル ({0}) よりも古いです。	ローカル環境からサービスへの登録処理で、インデックス画像が登録対象のドキュメントよりも古いため、登録処理を中断しました。	アプリケーション設定で、[全般] タブの [ローカル環境からサービスへの登録時の中断条件] と、[セカンダリ] タブの [インデックス画像の登録] の設定を確認してください。また、登録対象ファイルのインデックス画像ファイルが古くないかどうかを確認してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000094	登録ファイル ({0}) のプリント画像が存在しません。	ローカル環境からサービスへの登録処理で、プリント画像が存在しないため、登録処理を中断しました。	アプリケーション設定で、[全般] タブの [ローカル環境からサービスへの登録時の中断条件] と、[セカンダリ] タブの [プリント画像の登録] の設定を確認してください。 また、登録対象ファイルのプリント画像ファイルが、ローカル環境のフォルダーにあるかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000095	プリント画像の最終更新日時が、登録ファイル ({0}) よりも古いです。	ローカル環境からサービスへの登録処理で、プリント画像が登録対象のドキュメントよりも古いため、登録処理を中断しました。	アプリケーション設定で、[全般] タブの [ローカル環境からサービスへの登録時の中断条件] と、[セカンダリ] タブの [インデックス画像の登録] の設定を確認してください。 また、登録対象ファイルのインデックス画像ファイルが古くないかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000111	送り側と受け側のフォルダが同じです。	コピーまたは移動先に、コピーまたは移動元と同一のフォルダーを指定しました。	コピーまたは移動先には、同一でないフォルダーを指定してください。
DC_MAIN-55000112	フォルダが選択されていません。	コピーまたは移動先のフォルダーが選択されていません。	コピーまたは移動先のフォルダーを選択してください。
DC_MAIN-55000114	名前 CSV の項目 [{0}] に使用できない文字が指定されました。[{1}]	アプリケーション設定の、[スキャンCSV] タブの [生成されるファイル名に使用できない文字列] に設定された文字列が、属性 CSV ファイルに含まれています。	アプリケーション設定で、[スキャン CSV] タブの [生成されるファイル名に使用できない文字列] に含まれる文字列を削除して、属性 CSV ファイルを作成し直してください。
DC_MAIN-55000115	{0} の設定値は、スキャン CSV ファイルの列数が名前列を含めて {1} 列以下となる設定にしてください。	スキャン CSV ファイルで設定できる列数を超過しています。	スキャン CSV ファイルで設定できる列数以下の CSV ファイルを指定してください。
DC_MAIN-55000120	保存先が存在しません。	[ログ一括収集] ダイアログボックスの [保存先] に指定したフォルダーが存在しません。	保存先が存在するかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000125	確認条件に空白行が含まれています。空白行は削除して下さい。	存在確認検索の確認条件のうち、条件が指定されていない行があります。	確認条件の空白行を削除してから、実行してください。
DC_MAIN-55000128	論理式を利用するには属性条件が 2 つ以上必要です。	[属性条件] の [属性結合条件] に [論理式] を選択した場合、条件式の入力が必要です。	条件式を入力してから、検索してください。
DC_MAIN-55000141	属性一括変更の対象となる [ローカルリスト] がありません。	属性一括変更の対象となる [ローカルリスト] が表示されていません。	[ローカルリスト] を表示してから、実行してください。
DC_MAIN-55000151	キャビネット ({0}) にはスタンプが設定されていません。	選択したオブジェクトが格納されているキャビネットに、スタンプ定義が設定されていません。	キャビネットにスタンプ定義を設定してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000163	複数指定できません。	1つのオブジェクトを選択したときにだけ実行できる操作に対して、複数のオブジェクトを選択して操作が実行されました。	オブジェクトを1つ選択してから、実行してください。
DC_MAIN-55000168	URL 一覧でアイテムが選択されていません。	[URL型属性入力] ダイアログボックスで [削除] をクリックしたときに、URL 一覧で項目が1つも選択されていません。	URL 一覧で項目を選択してから、[削除] をクリックしてください。
DC_MAIN-55000174	{0} は [tif/tiff] ファイルのみ指定可能です。	コンテンツを登録するときに、インデックス画像または部分画像に、ファイルの拡張子が [tif] または [tiff] 以外のファイルが指定されました。	ファイルの拡張子が [tif] または [tiff] のファイルを指定してください。
DC_MAIN-55000176	ファイルが指定されていません。実行しますか？	チェックインする対象の文書が選択されていません。	チェックインする文書を選択してから、実行してください。
DC_MAIN-55000179	キャビネットに版管理属性が設定されていません。	版管理されていないキャビネットにあるオブジェクトが選択されました。	版管理されているキャビネットの文書で実行してください。
DC_MAIN-55000186	編集終了 (元データに上書き) は適用できません。	選択した文書は、「編集取り出し」によってローカル環境に保存された文書ではありません。	[編集終了] は、サービスから [編集取り出し] を実行してローカルに保存された文書で実行してください。
DC_MAIN-55000195	ユーザー {0} は存在しません。	プリンシパル型またはユーザーロール型のユーザー属性に、存在しないユーザーのDNが指定されたオブジェクトを、[ローカルリスト] からサービスに登録しようとした。	プリンシパル型またはユーザーロール型のユーザー属性の値に、存在するユーザーのDNを指定して、登録し直してください。
DC_MAIN-55000215	選択されたオブジェクトに版管理属性が設定されていません。	版管理属性が設定されていないオブジェクトを改版しようとした。	版管理を開始しているオブジェクトを選択してください。
DC_MAIN-55000220	貼り付け対象エリアに編集不可の属性、またはオブジェクトが含まれるか、対象範囲の不一致により反映されない属性が存在します。	[サービスリスト] または [ローカルリスト] の表示形式が [セル] のときに、セル上のデータ領域よりも大きなデータをクリップボードから貼り付けようとした。	無視して更新する場合は、[OK] をクリックしてください。 更新しない場合は、[キャンセル] をクリックし、編集できない属性を含まないように [表示設定] を変更するか、または、セル上に貼り付けた対象データよりも小さいデータをクリップボードにコピーしてから実行してください。
DC_MAIN-55000227	ドロップされたファイル数は上限値「1」を超えています。	複数のオブジェクトをドラッグ&ドロップしてコンテンツは更新できません。	1つのファイルをドラッグ&ドロップしてください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000255	取り出し先が選択されていません。	サービスで文書を選択し、[編集取り出し] を実行したときに、[ローカルリスト] に取り出し先が表示されていません。	[ローカルリスト] に取り出したい場所を表示してから、実行してください。
DC_MAIN-55000258	CSV出力でファイル書き込み時にエラーが発生しました。 (CSV ファイル :{0})	CSV出力のファイルの書き込み時にエラーが発生しました。	出力先のフォルダーが存在するか、書き込み可能なアクセス権が付与されているかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000273	多値 URL 型属性の文字列として不正です。 ({0})	多値URL型属性の指定方法が間違っています。	多値URL型属性は、値を「 (縦線)」で区切って、「{ URL ^ { ラベル {URL ^ { ラベル }」の文字列になるように指定し直してください。 例：http://example.com/DocSystem^文書フォルダー http://example.com/Link^リンク
DC_MAIN-55000274	単値 URL 型属性の文字列として不正です。 URL、またはラベルを正しく指定してください。 ({0})	単値URL型属性の指定方法が間違っています。	単値URL型属性は、「{ URL ^ { ラベル }」の文字列になるように指定し直してください。 例：http://example.com/DocSystem^文書フォルダー
DC_MAIN-55000275	URI 文字列として不正です。 ({0})	URI文字列の指定方法が間違っています。	「http://」、「https://」、または「ftp://」から始まる文字列を指定してください。
DC_MAIN-55000276	サービスに接続できません。 ({0})	ArcSuiteへの接続で失敗しました。	ArcSuiteが正常に稼働しているかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000288	ローカルパスが {0} バイト以内になるように指定してください。	パスを含めたローカルオブジェクトのファイル名がパスの最大値を超えています。	ローカルにあるオブジェクトのファイル名 (パスを含む) がパスの最大値以内になるように、ローカルのオブジェクト名を変更してください。
DC_MAIN-55000294	名前をデフォルトには変更できません。	「デフォルト」という文字列を名前に設定しました。	名前には「デフォルト」以外の文字列を設定してください。
DC_MAIN-55000300	受け側のフォルダは、送り側フォルダのサブフォルダです。	親フォルダーを、子フォルダーにコピー、または移動しようとした。	フォルダーを、子フォルダーにコピーしたり移動したりすることはできません。 親子関係のない別のフォルダーにコピー、または移動してください。
DC_MAIN-55000308	デスクトップクライアントのオブジェクト以外のデータを貼り付けることはできません。	クリップボードにあるデータがデスクトップクライアントのオブジェクトではないときに、[貼り付け] を実行しようとした。	デスクトップクライアント内でオブジェクトを [コピー]、または [切り取り] を実行してから、[貼り付け] を実行してください。 貼り付けできるオブジェクトは、デスクトップクライアント内でコピーまたは切り取りを実行したオブジェクトだけです。
DC_MAIN-55000310	オブジェクトの名前属性は (空) にできません。	オブジェクトの [名前] に、属性値が入力されていません。	オブジェクトの [名前] を空白にすることはできません。[名前] に任意の文字列を設定してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000314	コンテンツ表示権限がありません。	対象となるオブジェクトにコンテンツ表示権がありません。	オブジェクトのアクセス権に「コンテンツ表示権」を追加してください。
DC_MAIN-55000321	サーバーの URL が不正です。	URLのフォーマットが正しくありません。	[http://] または [https://] から始まり、[/ArcSuite/] で終わる文字列を指定してください。
DC_MAIN-55000327	属性変更用 CSV 出力は、ローカルリストにて CSV ファイルを 1 つ選択した状態で実行してください。	CSVファイルが未選択、または複数選択されています。	[ローカルリスト] で、CSVファイルを 1 つ選択してください。
DC_MAIN-55000334	指定されたヒントメニュー定義ファイルは存在しません。[{0}]	入力補助機能設定ファイルに記載されているヒントメニュー定義ファイルが存在しません。	[AttributeSupport.xml] ファイルに記載されているヒントメニュー定義ファイルが正しいかどうかを確認してください。 また、[AttributeSupport] フォルダ内にヒントメニュー定義ファイルが存在するかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000335	指定された属性値変換定義ファイルは存在しません。[{0}]	入力補助機能設定ファイルに記載されている属性値変換定義ファイルが存在しません。	[AttributeSupport.xml] ファイルに記載されている属性値変換定義ファイルが正しいかどうかを確認してください。 また、[AttributeSupport] フォルダ内に属性値変換定義ファイルが存在するかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000338	表示属性から「ファイルの状態」は削除できません。	[表示設定] ダイアログボックスの [表示属性] で、[ファイルの状態] を削除しようとした。	ローカルフォルダの表示属性から [ファイルの状態] は削除できません。
DC_MAIN-55000339	属性値変換設定に重複する属性値、または表示値があります。[{0}]	属性値変換定義に、属性値、または表示値に重複する値が存在しています。	入力補助機能設定ファイル (AttributeSupport.xml) に記載されている属性値変換定義ファイルに、同じ属性値、または同じ表示値が存在しないかどうかを確認してください。
DC_MAIN-55000345	上書き対象オブジェクトのオブジェクトタイプが異なります。	フォルダーをドキュメントで上書きしようとした。または、ドキュメントをフォルダーで上書きしようとした。	属性値の一致、またはユニークキー属性によってサービスのオブジェクトを上書きするときに、フォルダーをドキュメントで、またはドキュメントをフォルダーで上書きすることはできません。
DC_MAIN-55000357	サービス ({0}) に紐づくローカル管理フォルダはありません。	サービスに関連付けられているローカルフォルダーが登録されていません。	任意のフォルダーをローカルフォルダーとして登録してください。
DC_MAIN-55000358	サービスに紐づくローカル管理フォルダ以外には編集取り出しできません。	対象オブジェクトがあるサーバーに関連付けられていないローカル環境のフォルダーに、[編集取り出し] を実行しようとした。	[編集取り出し] は、対象オブジェクトがあるサーバーに関連付けられているローカル環境のフォルダーに実行してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000363	お気に入り名は 1 文字以上、100 文字以下に設定して下さい。	お気に入りの [名前] に設定した文字列が、設定できる文字列の上限を超えています。	[名前] を100文字以下に変更してください。
DC_MAIN-55000365	同じ名前のお気に入り が既に存在しています。	すでに登録されている名前と同じ名前で、お気に入りを追加することはできません。	別の名前で、お気に入りを追加してください。
DC_MAIN-55000385	ごみ箱内のオブジェクトをごみ箱へコピー/移動することはできません。	ごみ箱内のオブジェクトをコピーしようとした。または、ごみ箱内のフォルダー内に移動しようとした。	ごみ箱内のオブジェクトをコピーしたり、ごみ箱内のフォルダーに移動したりすることはできません。
DC_MAIN-55000391	サービス環境へのダウンロード/アップロード最大サイズ」の設定値を超えています。 ({0} : {1} byte)	アプリケーション設定で設定している最大サイズを超えるオブジェクトをダウンロードしたり、アップロードしたりすることはできません。	アプリケーション設定で、[全般] タブの [サービス環境へのダウンロード/アップロード最大サイズ] を変更してください。
DC_MAIN-55000411	入力文字列 ({0}) 中の文字のエスケープが不正です。	エスケープ対象の文字が正しくエスケープされていないため。	エスケープ対象の文字の前に「¥」を付けてください。
DC_MAIN-55000412	文字列 ({0}) 中の文字のエスケープが不正です。	エスケープ対象の文字が正しくエスケープされていないため。	エスケープ対象の文字の前に「¥」を付けてください。
DC_MAIN-55000413	文字列 ({0}) 中の文字 ({1}) がエスケープされていません。	エスケープ対象の文字が正しくエスケープされていないため。	エスケープ対象の文字の前に「¥」を付けてください。
DC_MAIN-55000414	文字列 ({0}) の最後がエスケープ文字 (¥) です。	入力文字列の最後にエスケープされていない「¥」が入力されているため。	「¥」は「¥¥」のようにエスケープしてください。
DC_MAIN-55000415	削除できないオブジェクトが含まれています。	削除できないオブジェクトを選択しているため。	削除できるオブジェクトだけを対象にして、操作し直してください。
DC_MAIN-55000416	HTTP リクエストに失敗しました。詳細はログを参照ください。	サーバーの接続に失敗したため。	サーバーが起動しているかどうか確認してください。
DC_MAIN-55000417	共有設定ファイルにエクスポートする設定が選択されていません。	出力する共有設定に含める設定が1つも選択されていないため。	1つ以上の設定を含めて、共有設定ファイルを出力してください。
DC_MAIN-55000418	共有設定ファイルが配布されていないか、読み込み時に失敗しました。	共有設定を適用する際に、共有設定ファイルが読み込めないため。	共有設定ファイルが存在するか確認してください。
DC_MAIN-55000420	名前が変更されていない設定があります。	共有設定を適用する際に、重複する設定名の変更をしなければならぬが、変更がされていない状態で [OK] ボタンをクリックしたため。	お気に入り設定のサーバー直下に ""[""から始まり""]"で終わるお気に入りフォルダーの名前を変更してください。または、検索設定に共有設定で配布された検索設定名と重複する設定名を変更してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000421	入力された設定名は既に存在します。	共有設定を適用する際に、重複する設定名の変更をしなければならぬが、変更した名前が既に使用されているため。	別の設定名に変更してください。
DC_MAIN-55000422	パスワードの保存時にエラーが発生しました。	ArcSuiteサーバーへのログインパスワードを記憶させるときにエラーが発生したため。	再度、実行してください。
DC_MAIN-55000423	パスワードの取得時にエラーが発生しました。	保存してあるログインパスワードの複合に失敗したため。	手動でパスワードを入力してください。
DC_MAIN-55000424	適切なお気に入りアイテム名ではありません。	お気に入り名に使用できない名前を入力したため。	利用可能なお気に入り名に変更してください。
DC_MAIN-55000426	共有の検索設定 ({0}) は削除できません。	共有設定を削除するときに、検索設定が削除できないため。	個別に設定を削除してください。
DC_MAIN-55000427	共有の検索設定名を変更することはできません。	共有設定で配布された検索設定名を変更しようとしたため。	共有設定で配布された検索設定名は変更できません。
DC_MAIN-55000429	共有設定を保存する処理中にエラーが発生しました。	共有設定を保存する処理中にエラーが発生したため。	再度、共有設定作成モードで起動して共有設定を保存し直してください。
DC_MAIN-55000430	入力されたお気に入り名は使用できません。	不正なお気に入り名を入力したため。	適切なお気に入り名を入力してください。
DC_MAIN-55000431	共有設定保存画面の初期化でエラーが発生しました。	共有設定保存画面のロードに失敗したため。	再度、共有設定作成モードを終了してください。
DC_MAIN-55000432	重複する検索設定名が存在します。	共有設定とユーザーの検索設定に同じ名前の検索設定が存在するため。	ユーザーの検索設定名を別名に変更してください。
DC_MAIN-55000433	「Conf_backup」という名前のフォルダが既に存在します。	Confフォルダが存在するパスに既に「Conf_backup」フォルダが存在するため。	既存の「Conf_backup」フォルダを別の場所に移動して共有設定を適用してください。
DC_MAIN-55000434	バックアップ設定フォルダ (Conf_backup) が存在しません。	Confフォルダが存在するパスに「Conf_backup」フォルダが存在しないため。	再度、共有設定を適用してください。
DC_MAIN-55000435	共有設定ファイルのロード時にエラーが発生しました。	共有設定ファイルのロード時にエラーが発生したため。	再度、共有設定を適用してください。
DC_MAIN-55000436	一時フォルダ ({0}) は削除できませんでした。	一時フォルダの削除に失敗したため。	一時フォルダをエクスプローラーで開き、手動で対象フォルダを削除してください。
DC_MAIN-55000437	リストの列並び替え処理でエラーが発生しました。	リストの列移動を実行したときにエラーが発生したため。	リストを更新して再度実行するか、表示設定画面で列の表示順を指定してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000438	リストの列並び替え処理でエラーが発生しました。	リストの列移動を実行したときにエラーが発生したため。	リストを更新して再度実行するか、表示設定画面で列の表示順を指定してください。
DC_MAIN-55000439	[共有] フォルダはお気に入りフォルダ以下に移動できません。	共有設定で配布されたお気に入り設定 ([共有] フォルダー) を別のお気に入りフォルダ以下に移動しようとしたため。	共有設定で配布されたお気に入り設定 ([共有] フォルダー) はサーバー直下での並び替えしかできません。
DC_MAIN-55000440	ドラッグ中オブジェクトの親コンテナにドロップすることはできません。	お気に入りフォルダーを親フォルダーにドロップしようとしたため。	お気に入りフォルダーは親フォルダーにドロップできません。
DC_MAIN-55000441	お気に入り設定から共有設定をクリアするときにエラーが発生しました。	共有設定をクリアするときに、お気に入り設定を削除することができなかったため。	再度、共有設定のクリアを実行してください。
DC_MAIN-55000442	検索設定から共有設定をクリアするときにエラーが発生しました。	共有設定をクリアするときに、検索設定を削除することができなかったため。	再度、共有設定のクリアを実行してください。
DC_MAIN-55000443	ドラッグ中のお気に入り ({0}) はサーバーノード直下に移動できません。	サーバー直下に作成できないお気に入りオブジェクトを、サーバー直下にドラッグ&ドロップで移動しようとしたため。	対象のお気に入りオブジェクトを別のコンテナ以下に移動してください。
DC_MAIN-55000444	対象オブジェクトはごみ箱ではありません。	「ごみ箱を空にする」メニューを実行したとき、対象オブジェクトがごみ箱オブジェクトではないため。	ごみ箱をオブジェクトを選択して、「ごみ箱を空にする」を実行してください。
DC_MAIN-55000445	同じ名前 ({0}) の共有検索設定があります。別の名前に変更して下さい。	検索設定を保存するときに、同じ名前の検索設定が既に存在するため。	検索設定名を変更して保存してください。
DC_MAIN-55000446	同じ名前のファイルまたはディレクトリが存在するため、「{0}」を作成できません。	サービスからドキュメントをローカル管理に取り出すときに、同じファイル名のファイルまたはフォルダーが存在するため。	別フォルダ以下に取り出すか、取り出し先のフォルダー名を変更して再度取り出しを行ってください。
DC_MAIN-55000447	変更後の設定名を入力してください。	共有設定と重複する検索設定名の値が空になっているため。	ユーザーの変更対象検索設定名を入力してください。
DC_MAIN-55000448	{0} の設定名を変更してください。	共有設定と重複する検索設定名が存在するため。	共有設定と重複するユーザーの検索設定名を変更してください。
DC_MAIN-55000449	変更後の設定名に不正な値があります。	変更した検索設定名に、設定名に使用できない文字が入力されているため。	再度、検索設定名を入力し直してください。
DC_MAIN-55000450	属性一括変更は、ゴミ箱に対して実行できません。	ごみ箱のオブジェクトを対象に属性一括変更をしようとしたため。	—

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_MAIN-55000451	オフラインモードで必要な属性情報が存在しません ({0})。一度サービスに接続して属性情報を取得してから再度実施してください。	属性スキーマがサービスから取得されていないため。	サービスにログインしてください。
DC_MAIN-55000452	ブックの共有がされている Excel ファイルは直接編集できません。	直接編集対象のExcelファイルに「ブックの共有」設定がされているため。	—
DC_MAIN-55000453	属性変更処理でエラーが発生しました。	サービスリスト更新などにより編集中の属性値を反映しようとしたときに内部でエラーが発生したため。	—
DC_MAIN-55000454	対象オブジェクトはリファレンスではありません。({0})	[参照先を新規フォルダで開く] を実行したオブジェクトがリファレンスではないため。	—
DC_MAIN-55000455	Error occurred in registering object.	クラス指定付きでドキュメントを新規登録する際にエラーが発生したため。	—
DC_MAIN-55000456	The operation is aborted because re-login was canceled.	ログイン処理中に何らかのエラーが発生したため。	—
DC_MAIN-55000457	Failed to re-login.	ログイン処理中に何らかのエラーが発生したため。	—
DC_MAIN-55000458	{1} is not available for "{0}".	属性に_(アンダーバー)を含む文字列を設定しようとしています。	—
DC_PRINTO PTION- 55110007	< 定義オプション名 > を定義できませんでした。	定義ファイルで、同じ値が設定されている可能性があります。	システム管理者に連絡してください。
DC_PRINTO PTION- 55110008	プリンター最大登録数以上のプリンターが登録されています。	プリンターの登録数が上限数を超えているため、[印刷] ダイアログボックスが起動できません。	システム管理者に連絡してください。
DC_PRINTO PTION- 55110088	印刷画面は既に起動されています。	[印刷] ダイアログボックスを起動している場合、新しい [印刷] ダイアログボックスは起動できません。	システム管理者に連絡してください。
DC_PRINTO PTION- 55110116	プリンタ URL は次の形式で入力してください。 http://<ArcEPS の設置されているサーバーの FQDN>/eps/<論理プリンター名> 例：arc.domain.co.jp/eps/SamplePrinter	入力したプリンターのURLが間違っています。	表示された形式で、プリンターのURLを入力してください。
DC_PRINTO PTION- 55110117	選択した印刷パターンはすでに削除されています。	使用できない印刷パターンが選択されました。	ほかの印刷パターンを選択するか、新しく印刷パターンを作成してください。

エラー番号	メッセージ内容	原因	対処
DC_PRINTO PTION- 55110125	印刷対象のファイル数 が 0 件です。 処理を中止します。	印刷できるファイルがあり ませんでした。	印刷するファイルを選択し直して、 印刷してください。
DC_PRINTO PTION- 55110126	拡張子が < 拡張子 > 以 外のファイルが含まれ ています。上記以外の ファイルは、印刷処理 は行われません。	印刷できない拡張子のファ イルがあります。	印刷可能な拡張子のファイルだけ を選択して、印刷してください。
DC_PRINTO PTION- 55110127	中止印刷対象数以上の 印刷対象が選択されて います。 印刷対象数：< 対象数 > 中止印刷対象数：< 対象 数 > 処理を中断します。	印刷対象の数が多すぎます。	印刷対象の数が、[中止印刷対象数] 以下になるようにオブジェクトを選 択してから、[印刷] ダイアログボッ クスを起動してください。